

50
224ハ

50-224ハ
1200501263595



始





日本藥局方



內閣印刷局內

朝陽會發行

50-224ハ

序 言

明治十三年十月内務省衛生局長長與專齋氏の建議により、初めて制定せられたる日本薬局方は大約十年毎に改正を行ふ方針との事であるが、今回も大正九年十二月第四改正日本薬局方の公布實施後既に十年を閲し、時代の進運と學術の進歩に伴ひ新藥、新製劑の製出せられたるものも頗る多きを加へたるにより大改正を施し、茲に第五改正日本薬局方の公布を見るに至つた。本改正に依り日本薬局方は前回に比し著しく變更せられ、即ち凡例に次で一般試験法を掲げ、藥品の名稱は殆んど資源局標準用語に基き、其の性状、實性、反應、試験法、貯藏法等に種々なる修正を行ひ國産品及び新藥、新製劑を收載し、常備藥、劇毒藥、普通藥等の取扱、極量及索引等の改められたるもの亦尠からず。其上新に收載せられたる藥品四十六品、削除せられたる藥品八十五品を算し尙ほ實驗調査の結果九百有餘に涉り加除改正が行はれた。是に於て本會は衛生局と協議し第五改正日本薬局方を發行し併せて附録として關係法規を網羅且又内務省衛生局囑託齋藤木靜夫氏の編纂に係る第五改正日本薬局方藥品應用一覽を登載することとし面目を一新して大方の利便に供することとした。而して特に今回定價の改正値下を斷行したるは、本會が廣く世上に貢獻せんとする微意に外ならぬのである。

昭和七年六月

朝陽會長

杉

精

三

第五改正日本藥局方

昭和七年六月二十五日
內務省令第二十一號

大正九年內務省令第四十四號第四改正日本藥局方左ノ通改正ス

附 則

本令ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製造又ハ輸入若ハ移入セラレタル藥品ニシテ本令ノ所定ニ適合セザルモノハ當該藥品ガ第四

改正日本藥局方ニ記載ノモノナル場合ニ於テハ其所定ニ適合シ且ツ其藥品ノ容器又ハ被包ニ「第四改正

日本藥局方」ノ九字ヲ明記シタルモノ其他ノ場合ニ於テハ外國藥局方ノ所定又ハ明治四十四年內務省令

第十八號ノ規定ニ適合シ且ツ衛生上危害ヲ生ズルノ虞ナキモノニ限り昭和八年十二月三十一日迄ハ本令

ノ所定ニ適合スルモノト看做ス

第五改正日本藥局方

日本藥局方沿革略記

日本藥局方ノ制定ハ明治十二年十月衛生局長與專齊ノ建議ニ基キ內務卿松方正義ノ太政官ニ具狀セルニ依ル其大要ニ曰ク第一本邦未タ藥方ノ律書アララス處方製劑ニ一定ノ標準ナク英局方ノ用量ニ從テ獨局方ノ製劑ヲ與フルカ如キ危險ノ誤謬ヲ生シ易シ第二製藥ヲナス者各國各異ノ藥局方ニ據リテ便宜製煉スルヨリ其名均シクシテ其質同シカラス其性同シケレトモ其稱異ナル者市場ニ紛糞スルノ弊害ヲ續出セリ第三輸入藥品ノ検査ニ際シ我ニ其良否ヲ判決スヘキ一定ノ憑據ナキヲ以テ各輸出國ノ局方ニ據リテ特別ノ試験ヲ要スルカ如キ當事者其煩雜ニ堪ヘス加之近今製劑業者我藥局方ノ制ナキニ乘シ外國局方中原質廉價ノ者ヲ撰ミテ調製ノ用ニ充テ名實紊亂射利相競フノ風日ヲ逐テ滋々甚シトス而シテ此等ノ諸弊ヲ防遏スルノ途一ニ日本藥局方ノ制ヲ定ムルニ在ルノミ因テ之カ選定編纂ノ事ヲ舉テ中央衛生會ニ委任アランコトヲ請フト十一月太政官ヨリ中央衛生會ニ日本藥局方ノ選定ヲ委任シ十四年一月日本藥局方編纂總裁及委員ノ任命アリ總裁ハ元老院幹事細川潤次郎、委員ハ陸軍軍醫總監松本順、同軍醫監林紀、海軍

日本藥局方沿革略記

軍醫總監巨塚文海、一等侍醫ドクトル池田謙齋、內務省衛生局長與專齋、東京大學醫學部教授三宅秀、海軍中醫監高木兼寬、陸軍二等藥劑正兼二等軍醫正永松東海及柴田承桂並東京司藥場教師和蘭人ドクトルエーキマン、橫濱司藥場教師和蘭人ドクトルゲールツ、東京大學醫學部教師獨逸人ドクトルベルツ及ドクトルランガルト、和蘭人ドクトルブツケマン」トス
十四年一月日本藥局方編纂委員會ヲ開始シ其第一會ニ於テ先ツ藥局方ノ體例及詳略ノ程度ヲ定ムルノ件及明治十年中內務省ヨリ司藥場教師ゲールツ及ドワルス」ニ囑シテ假ニ編述セラル和蘭文及邦文藥局方稿本ヲ以テ原案ニ供スルノ件ヲ議決シタリ嗣後更ニ十年編述ノ舊稿ニ據ラス別ニ獨逸文ヲ以テ日本藥局方稿本ヲ起草スルコトニ決シ先ツ收載スヘキ藥品及附表ノ目ヲ定メ續キテ明治十五年以後ニ涉リ藥局方稿本ノ編纂及其成案ニ對スル審議ヲ進行セリ
明治十六年七月陸軍軍醫監石黑忠憲、陸軍軍醫監兼藥劑監緒方維準日本藥局方編纂委員ヲ命セラレ十七年四月元老院幹事細川潤次郎日本藥局方編纂總裁ヲ解カレ內務大輔土方久元代リ命セラレ九月東京大學醫學部教師獨逸人ドクトルスクリバ、十月和蘭人ドクトルファンデルヘーデン」ヲ委員トナス十八年七月參事院議官子爵土方久元日本藥局方編纂總裁ヲ解

カレ内務大輔芳川顯正之ニ代レリ
 明治十八年十月十三日日本藥局方全部竣成ス總裁之ヲ内務卿ニ具申シ十二月總裁委員盡ク其任ヲ解カル而シテ十九年六月二十五日内務省令ヲ以テ始メテ日本藥局方ヲ發布シ二十年七月一日ヨリ之ヲ施行セリ
 此初度(第一版)日本藥局方ニ收載セル所ノ藥品ハ其數四百七十、終リニ製劑ノ通則、試藥、定規液及常貯藥以下ノ六表ヲ附シ又全部羅旬語ノ譯本ヲ作りテ内務省ヨリ發行セリ而シテ藥局方ノ基礎タリシ獨逸語稿本ノ起草ハ最初ゲールツ及ラシガルト之ヲ分擔シ爾後エーキマン主トシテ之ヲ擔當セリ後明治二十三年ニ至リ内務省衛生局ハ「エーキマン」ノ起稿ニ係ル第一版日本藥局方註釋ヲ發行セリ又委員ノ外藥局方編纂ノ事ニ參與セシハ横濱司藥場長辻岡精輔、東京大學醫學部助教山下順一郎、同丹波敬三、同丹羽藤吉郎、内務省御用掛林洞海、内務一等技手中大太一郎トス
 明治二十一年四月第一版日本藥局方ヲ改正セシメンカ爲メ帝國大學醫科大學教授ドクトル長井長義、同高橋順太郎、同ドクトル下山順一郎、同ドクトル丹波敬三、同櫻村清徳、内務三等技師辻岡精輔、同四等技師田原良純、同五等技師櫻井小平太、内務一等技手島田耕一及柴田承桂ヲ日本藥局方編纂委員トナシ五月内務省衛生局長與專齋ヲ日本藥局方調査委員

長、海軍軍醫大監實吉安純ヲ同委員トナス
 日本藥局方調査委員ハ先ツ當時ノ藥局方ニ追加スヘキ藥品ノ目ヲ議シ塩酸古加乙涅及安知敬貌林ノ二品ヲ採リテ其稿案ヲ議定シ二十一年九月内務省令ヲ以テ之ヲ發布セリ爾後委員ハ改正スヘキ急用ノ廉ニ就テ調査セシニ其條項繁多ニシテ增刪却テ通覽ヲ案スノ不便アリ寧ロ全篇ヲ修正シ改正藥局方ヲ以テ現行藥局方ニ換代セシムルノ優レルコトヲ認メ速ニ改正ノ業ヲ竣成スヘキニ決セリ依テ二十一年九月ヨリ改正藥局方稿案ノ起草ニ著手シ二十三年十月ニ至ル迄逐次ノ成案ニ就テ審議シ明治二十四年三月全部ノ改正稿案ヲ終結シテ之ヲ内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ中央衛生會ニ諮詢シテ後同年五月内務省令ヲ以テ改正日本藥局方ヲ發布シ二十五年一月一日ヨリ之ヲ施行セリ
 第二版日本藥局方ノ發行セラレテヨリ殆ト十年醫藥二學ノ進歩ニ伴フヘキ再度ノ改正ヲ要スルノ機漸ク逼リ明治三十三年勅令第八十號ヲ以テ日本藥局方調査會官制ヲ發布セラレ同四年四月内務省衛生局長長谷川泰ヲ日本藥局方調査會長ニ、東京帝國大學醫科大學教授理學博士藥學博士長井長義、同藥學博士下山順一郎、同藥學博士丹波敬三、同醫學博士高橋順太郎、同醫學博士青山胤通、衛生試驗所技師藥學博士田原良純、同辻岡精輔、同島田耕一、宮内省藥劑師長山田董、陸軍軍醫監

醫學博士小池正直、同藥劑監平山増之助、海軍軍醫大監木村壯介、同藥劑監高橋秀松、警視廳技師池口慶三、醫學博士櫻村清徳ヲ同委員ニ内務技師宮入慶之助ヲ同幹事ニ、六月陸軍三等軍醫正平井政道ヲ同委員ニ任命セラル三十四年五月醫學博士青山胤通委員ヲ解カレ東京帝國大學助教醫學博士入澤達吉代リ命セラル三十五年三月幹事宮入慶之助退官ノ爲内務技師栗本庸勝之ニ代ル七月長谷川泰會長ヲ解カレ陸軍軍醫總監男爵石黒忠憲代リ命セラル同月委員醫學博士櫻村清徳死去シ十月佐藤佐代リ命セラレ十二月幹事栗本庸勝轉任ノ爲内務省參事官小原新三之ニ代ル三十六年四月幹事小原新三轉任シ内務省衛生局長森田茂吉代リ命セラレ九月幹事森田茂吉轉任シ後任衛生局長窪田靜太郎代リ命セラレ十二月醫學博士小池正直委員ヲ解カレ三十七年二月東京帝國大學醫科大學助教醫學博士丹羽藤吉郎代リ命セラレ六月委員辻岡精輔卒去シ七月衛生試驗所技師齋藤寬猛代リ命セラレ
 委員ハ明治三十三年五月内務省ニ於テ初度ノ會議ヲ開キ調査ノ順序ヲ定メ且現行藥局方ハ其收載ノ藥品目比較的少數ニシテ實際上不便尠ナカラサルヲ以テ其範圍ヲ擴張スルコトニ決セリ然レトモ如上ノ大改正ハ長時日ヲ要スルヲ以テ全部ノ改正ニ先チ新藥其他藥品ニシテ當時汎ク使用セラルルモノ即チ没食子酸外三十二品、次ニ「デフテリア血清外二品、次ニ

消毒用石炭酸水外一品ヲ現行藥局方ニ追加スルコトニ決シ逐次其稿本ヲ議定ス即チ明治三十三年^{十一月}内務省令第四十八號、三十六年^{八月}内務省令第三號、三十七年^{五月}内務省令第八號是レナリ而シテ明治三十九年三月ニ至リ全篇ノ改正ヲ完了シ之内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ三十九年^{七月}内務省令第二十一號ヲ以テ之ヲ發布シ四十年一月一日ヨリ之ヲ施行セリ第三改正日本藥局即チ是レナリ
 日本藥局方ノ調査ハ之ヲ繼續スルノ必要アルニ由リ茲ニ日本藥局方調査會ヲ常設スルコトトシ明治三十九年^{三月}勅令第五十三號ヲ以テ左ノ官制ヲ發布セラレ
日本藥局方調査會官制(明治三十九年三月勅令第五十三號)
 第一條 日本藥局方調査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ日本藥局方改正ニ關スル事項ヲ調査ス
 第二條 日本藥局方調査會ハ會長一人委員十六人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
 臨時必要ノ場合ニ於テハ前項定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得
 第三條 會長、委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 會長及委員ノ任期ハ四箇年トス但シ必要アル場合ニ於テハ任期中解任スルコトヲ妨ケス(削除)

第四條 日本藥局方調査會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 日本藥局方調査會ニ主査委員ヲ置クコトヲ得

第六條 主査委員ハ内務大臣委員中ヨリ之ヲ命ス

第七條 會長ハ會務及議事ヲ整理シ其決議ヲ内務大臣ニ具申ス

第八條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指定シタル委員共事務ヲ代理ス

第九條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 日本藥局方調査會ハ議事規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 會長、委員及幹事ハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十二條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十三條 書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十四條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十六條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十七條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十九條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第二十一條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十二條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十三條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第二十四條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十五條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十六條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第二十七條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十八條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十九條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第三十條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十一條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第三十二條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第三十三條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十四條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第三十五條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第三十六條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十七條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第三十八條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第三十九條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第四十一條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第四十二條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十三條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第四十四條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第四十五條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十六條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第四十七條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第四十八條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十九條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五十條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第五十一條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十二條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五十三條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第五十四條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十五條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五十六條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十八條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五十九條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第六十條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十一條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第六十二條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第六十三條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十四條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第六十五條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第六十六條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十七條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第六十八條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第六十九條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第七十一條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第七十二條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十三條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第七十四條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第七十五條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十六條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第七十七條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第七十八條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十九條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第八十條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第八十一條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十二條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第八十三條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第八十四條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十五條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第八十六條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第八十七條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十八條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第八十九條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第九十條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十一條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第九十二條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第九十三條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十四條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第九十五條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第九十六條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十七條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第九十八條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第九十九條 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第一百條 日本藥局方調査會ハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ會長、委員、幹事及書記タル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒス其任ヲ解カレタルモノトス

明治三十九年職員ノ任命アリ爾來調査ヲ續行シ其結果トシテ左記諸令ノ發布ヲ見タリ

明治四十年内務省令第十八號防疫用石炭酸追加ノ件外四件、明治四十一年内務省令第二十一號バクチ水ノ條項改正ノ件外四件、明治四十二年内務省令第二十二號硼酸ノ條中改正ノ件外三十四件、明治四十三年内務省令第二十一號阿片ノ條中改正ノ件、明治四十四年内務省令第二十號タンニン酸ノ條項改正ノ件外十一件、明治四十五年内務省令第四號ヨードフォルム綿ノ條中改正ノ件外五件、大正二年内務省令第二號「アセトアニリド」ノ條中改正ノ件外三十三件、大正二年内務省令第二十號含水ラノリン」ノ條項改正ノ件外八件

第三改正日本藥局方ノ發行セラレテヨリ其間數次ノ改正ヲ行ヒタリト雖モ醫學藥學ノ進歩ニ伴ヒ殊ニ歐洲戰亂ノ影響ニ鑑ミ大改正ノ必要ヲ認メ大正四年日本藥局方第四次改正ヲ議決シ四月ヨリ調査ニ著手シ全部ノ終了ヲ見ルニハ長時日ヲ要スルヲ以テ急ヲ要スルモノハ其都度之ヲ發布ヲ具申セリ即チ大正四年内務省令第十一號デフテリア血清ノ條項改正ノ件外一件、大正五年内務省令第一號乳酸ノ條中改正ノ件是レ

附則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

ナリ而シテ大正九年五月全部ノ調査ヲ完了シ新タニ收載セラレタルモノ七十三品、刪除セラレタルモノ九十四品其間五年二箇月ヲ費セリ大正九年内務省令第四十四號ヲ以テ發布セラレタル第四改正日本藥局方即チ是レナリ其調査ニ從事セシ職員氏名ハ會長藥學博士長井長義、委員ニハ醫學博士文學博士森林太郎、藥學博士丹波敬三、木村壯介、醫學博士高橋順太郎、醫學博士本多忠夫、醫學博士三浦謙之助、藥學博士田原良純、藥學博士池口慶三、鶴田禎次郎、藥學博士高橋三郎、藥學博士丹羽藤吉郎、藥學博士山田董、醫學博士林春雄、醫學博士宇野朝、藥學博士海邊又治郎、藥學博士磯野周平、醫學博士朝比奈泰彦、佐藤佐、臨時委員藥學博士西崎弘太郎、高橋増次郎、理學博士柴田桂太、幹事内務書記官山田準次郎、内務書記官温澤三千男トス

藥局方調査會官制中第三條第二項、第十條、第十二條ハ大正十年勅令第百號ヲ以テ削除セラレタリ

第四改正日本藥局方發布後改正セラレタルモノ次ノ如シ

大正十二年内務省令第四十三號クレゾール石鹼液ノ貯法改正ノ件、大正十四年内務省令第二十七號凡例中改正ノ件「放アセトアニリド」ノ條中改正ノ件外七十二件及試藥燐酸ノ外二件追加ノ件、昭和二年内務省令第二十九號コパイバルサム」ノ條中外一件改正ノ件及試藥メチルロート溶液追

加ノ件、昭和三年内務省令第四十一號阿片越幾斯ノ條項改正ノ件外三件條中改正ノ件

第四改正日本藥局方ノ發行セラレテヨリ茲ニ年ヲ閱スルコト十年其間前後五回ニ互リ百餘種數十項ニ涉リ之ヲ改正ヲ爲シタリト雖モ學術ノ進歩ニ伴ヒ新藥新製劑ノ製出セラレシモノ益々多キヲ加ヘ藥局方ノ根本的改正ヲ促スコト急ナルニ依リ時代ノ進運ニ伴フ藥局方大改正ヲ施スコトナリ之ヲ調査ニ著手セリ其結果トシテ第五改正日本藥局方ノ發布ヲ見ルニ至レリ調査ニ從事セシ職員氏名ハ之ヲ緒言ニ掲ク

昭和四年四月日本藥局方第五次改正ヲ行フコトナリ同年九月第一回本會議ヲ開キ大改正ノ調査ニ關スル全般ノ方針ヲ定メ同年十月ヨリ主査委員各擔當ノ科目ニ就テ調査ニ著手シ全部ノ改正ニ先チ緊急ヲ要スルモノハ其都度之ヲ發布ヲ具申セリ昭和五年内務省令第三十一號クレゾール石鹼液ノ條中改正ノ件及外一件條項改正ノ件並海人草外三件追加ノ件、昭和五年内務省令第三十五號バクチ水刪除ノ件外杏仁水ノ條中改正ノ件及葡萄糖外六件追加ノ件是レナリ又昭和六年十二月ヨリ委員中特ニ編纂委員ヲ選定セリ而シテ昭和四年九月改版ニ著手セシヨリ昭和六年十二月ニ至ル二年三箇月間ニ

緒言

於テ主査委員會ヲ開クコト六十四回本會議ヲ開クコト二十八回以テ全編ノ改正ヲ完了シ之ヲ内務大臣ニ具申セリ此改正ニ於テ新タニ收載セシ藥品四十六點、刪除セシ藥品八十五點、實驗及調査ニ因リテ改正加除ヲナセシモノ九百有餘件其他字句文章ノ修正ハ各條殆ト皆之ヲ行ヘリ茲ニ全般ニ關スル改正ノ項目ヲ擧クレハ左ノ如シ

- (一) 汎ク使用スル藥品殊ニ本邦產藥品ハ成ルヘク之ヲ收載セリ
- (二) 新タニ收載シタル品目左ノ如シ
 アミノ安息香酸エチル、阿片アルカロイド、塩酸塩、米澱粉、小麥澱粉、塩酸加石炭酸水、アルゼノベンゾール、アルゼノベンゾールナトリウム、溶性バルビタール、硫酸バリウム、プロムヂエチルアセチル尿素、プロムワレリル尿素、グリセロ磷酸石灰、藥用炭、四塩化炭素、カゼイン、クロラミン、塩化コタルニン、クエン酸銅、デキストリン、塩酸エフ、ドリン、酵母エキス、藥用酵母、キササゲ實、乾燥甲狀腺、オキシシアン水銀、塩化カルシウム液、塩酸エビレナミン液、グリセリンカリ液、ロツク液、塩酸ロベリン、粉末藥、亞硝酸ソーダ、ネオアルゼノベンゾール、強ネオアルゼノベンゾール、シトロネラ油、亞鉛華オレフ油、壓縮酸素、フェノバルビタール、溶性フェノバルビタール、

キノフェン、半夏、純スカレット、脱脂芥子、アミノピリン錠、オキシシアン水銀錠、イヒチオールスルホン酸アンモン軟膏

- (三) 從來收載セル藥品ニシテ使用少ナキモノハ之ヲ刪除セリ其品目左ノ如シ
 粗製木醋、稀靑酸、粗製硝酸、稀硝酸、稀磷酸、粗製硫酸、アムモニウム、安息香酸アムモニウム、苦扁桃、カタクリ澱粉、クロロフォルム水、コバイバ膠囊、骨炭末、鯨蠟、引赤紙、臙脂蟲、魚膠、カスカリラ皮、枸櫞皮、フランダガラ皮、キラヤ皮、精製白堊、複方センナ酏劑、英方絆創膏、カンタリス硬膏、複鉛硬膏、コロシント越幾斯、コロムボ越幾斯、華澄茄越幾斯、ハマメリス流動越幾斯、蒲公英越幾斯、稠厚牛膽、次炭酸鐵、粗製硫酸亞酸化鐵、コソ花、ラヘンデル花、ハマメリス葉、ヤボランチ葉、サルフィア葉、未孰橙實、コロシント實、杜松實、ワニルラ、ガルバヌム、グツタベルカ、苦艾、ロベリア草、水蛭、複方センナ浸、粗製炭酸カリウム、イスラント苔、サツフラス木、マンナ、硫酸モルヒネ、麝香、粗製炭酸ナトリウム、扁桃油、カンタリス油、タンニン酸錠、樺木タール、叶松木タール、アルテア根、蒲公英、ボドフィラム脂、サツカリン、コルヒクム子、カラバル豆、アルテア舍利別、マン

- ナ舍利別、金硫黃、アコニット丁幾、酸性芳香丁幾、カスカリラ丁幾、複方クロロフォルムモルヒネ丁幾、コルヒクム丁幾、コロシント丁幾、エーテル性鐵丁幾、複方ゲンチアナ丁幾、ロベリア丁幾、アコニット根、カンタリス軟膏、コルヒクム酒、吐根酒、芳香阿片酒、スルフオ石炭酸亞鉛
- (四) 藥品名ハ努メテ資源局標準用語ニ改メタリ
- (五) 生藥ノ「ラテン名ハ凡テ單數ヲ用ヒタリ
- (六) 條文各項目ニ番號ヲ付セリ
- (七) 主要成分ノ含量ニ關シ試驗法ノ規定アルモノハ其含量性狀ノ次ニ掲ケタリ
- (八) 生藥ノ基本植物及動物ノ名稱ハ條文ノ初項ニ掲ケタリ植物ノ「ラテン名ハ主トシテ「キユー」植物目録(Index Kew crisis)ニ據レリ
- (九) 度量衡ハ略標ヲ使用セリ
- (一〇) 滴量ニ關スル規定ヲ設ケタリ
- (一一) 百分率ニ略符ヲ使用セリ
- (一二) アルカリ性及酸性反應ニ關スル規定ヲ改正セリ
- (一三) 比重ニ關スル規定ヲ設ケタリ
- (一四) 縮眼ニ關スル規定ヲ改メタリ
- (一五) 滅菌法ヲ規定セリ

- (一六) 乾燥減失量檢定ニ關スル規定ヲ設ケタリ
 - (一七) 燃化又ハ灰化ニヨル固性物ノ檢定ニ關スル規定ヲ設ケタリ
 - (一八) 溷濁度ニ關スル規定ヲ設ケタリ
 - (一九) 生藥ノ揮發油定量法ヲ規定セリ
 - (二〇) 不鹼化物ノ檢定法ヲ規定セリ
 - (二一) ヨード數ノ檢定法ヲ改正セリ
 - (二二) 精密ピユレットニ關スル規定ヲ設ケタリ
 - (二三) カシア礮ニ關スル規定ヲ設ケタリ
 - (二四) アルコール數ノ檢定法ヲ規定セリ
 - (二五) アルコール及アルコール含有製劑中メチルアルコール及アセトンノ檢出法ヲ規定セリ
 - (二六) 注射用硝子容器試驗法ヲ規定セリ
- 第五改正日本藥局方ノ調査ニ從事セシ職員ノ氏名左ノ如シ
 (昭和七年一月十五日調)
- | | | |
|----|------------|--------|
| 會長 | 正四位勳三等藥學博士 | 池口 慶三 |
| 委員 | 正三位勳一等醫學博士 | 三浦 謹之助 |
| 同 | 從三位勳一等功四級 | 鶴田 禎次郎 |
| 同 | 從三位勳二等 | 栗本 庸勝 |
| 同 | 從三位勳二等醫學博士 | 林 春雄 |
| 同 | 從三位勳二等藥學博士 | 西崎 弘太郎 |

同	正四位勳二等藥學博士	近藤 平三郎
同	正四位勳二等功五級藥學博士	渡邊 又治郎
同	正四位勳二等醫學博士	島蘭 順次郎
同	從四位勳三等功四級藥學博士	高橋 三郎
同	從四位勳三等藥學博士	慶松勝左衛門
同	從四位勳三等藥學博士	朝比奈 泰彦
同	從四位勳三等藥學博士	磯野 周平
同	從四位勳四等醫學博士	北島 多一
同	從四位勳四等醫學博士	西野 忠次郎
同	從五位勳四等醫學博士	服部 健三
同	從五位勳四等醫學博士	緒方 章
同	從五位勳三等理學博士	柴田 桂太
同	從五位勳六等藥學博士	刈米 達夫
同	從五位勳六等	今野 運治
同	從五位勳六等	杉井 善雄
同	藥學博士	瀧野 勇
同	內務書記官	白松 喜久代
同	從三位勳二等醫學博士	林 春雄
同	從三位勳二等藥學博士	西崎 弘太郎
同	正四位勳二等藥學博士	近藤 平三郎

同	正四位勳二等功五級藥學博士	渡邊 又治郎
同	從四位勳三等功四級藥學博士	高橋 三郎
同	從四位勳三等藥學博士	慶松勝左衛門
同	從四位勳三等藥學博士	朝比奈 泰彦
同	從四位勳三等藥學博士	磯野 周平
同	從五位勳四等醫學博士	服部 健三
同	從五位勳四等醫學博士	緒方 章

凡例

- 一 藥品ノ順序ハ「ラテン名」「アルファベット」ニ從フ
- 二 藥品各條ノ首ニハ「ラテン名及日本名ヲ掲クルノ外通用ノ別名アルモノハ之ヲ附記ス
- 三 化學藥品ニハ成ルヘク化學名ヲ記ス
- 四 藥品各條ノ記載ハ(一)製法(二)形狀(三)性質(四)主要成分ノ含量(五)實性反應(六)試驗法(七)貯法ノ順序ニ據ル但此諸項中必要ナキモノハ之ヲ掲ケス
- 五 製法ノ藥品ノ集成ヲ一定スルカ爲メ必要トスル場合ニ之ヲ掲ク
- 六 化學集成ノ確定セル藥品ニハ記號及原子量若ハ分子量ヲ掲ク
- 七 原子量ハ別表ニ據ル

八 度量衡ハ次ノ略標ヲ用フ

メートル	m	デシメートル	dm
センチメートル	cm	ミリメートル	mm
ミクロン	μ	平方センチメートル	cm ²
リットル	l	立方センチメートル	cc
グラム	g	キログラム	kg

九 滴數ヲ量ルニハ15。ニ於ケル蒸溜水1gヲ二十滴ニ滴下スル器ヲ用フ

- 一〇 溫度ハ「セルシウス氏度目」ニ據リ「アラビヤ數字」ノ右肩ニ。ヲ附記ス(例15。) 定規溫度ヲ 15。トシ、15。~20。ヲ常溫、30。~40。ヲ微溫トス
- 一一 溫湯ハ 60。~70。熱湯ハ約 100。ノ水トス
- 一二 藥品ノ比重ハ水ト藥品ト各 1g。ニ於ケル同容積ノ重量ノ比ヲ以テ示ス
- 一三 分極試驗ニハ「ナトリウム光」ヲ用ヒ特ニ記載セル外 50。ノ溫ニ於テ施行シ其成績ハ 100 mm ノ層長ニ於ケル旋光度 (α_D)。ヲ以テ示ス
- 一四 右旋ニハ +、左旋ニハ - ノ符號ヲ用ヒ角度ヲ表ハスニハ數字ノ右肩ニ。ヲ附ス
- 一五 藥品ノ適否ハ形狀・性質・實性反應及物理學的・化學的・生物學的試驗等ニ由テ判定ス

- 一五 藥品各條ノ下若干分ト記スルハ總テ重量ヲ指ス
- 一六 溶液ノ濃度ヲ掲ケテ (1+9)。(60+40) 等ト記スルモノハ藥品一分ヲ溶劑九分・藥品六十分ヲ溶劑四十分等ニ溶解スルノ記號ニシテ總テ概數ヲ示ス
- 一七 百分率ヲ示スニ % ノ略標ヲ用フ 溶液 100cc 中ノ藥品含有容量 (cc) ヲ示スニ % ノ略標ヲ用フ
- 一八 藥品各條ノ下性質及試驗法ノ諸項又ハ試藥及定規液ノ部ニ於テ單ニ水ト記スルモノハ總テ蒸溜水ヲ指ス
- 一九 藥品ノ定性試驗ハ特ニ記載スルモノノ外其溶液約 1cc ヲ取り内徑約 1.5 cm ノ試験管中ニ於テ之ヲ行フ
- 二〇 單ニ溶液ト稱シテニ其溶解藥ヲ示ササルモノハ總テ水溶液ヲ指ス
- 二一 冷浸ハ 15。~25。ニ於テ行ヒ溫浸ハ 35。~45。ニ於テ行フ
- 二二 重湯煎ノ溫度ハ特別ニ記載セル外約 100。トス
- 二三 蒸氣浴ハ重湯煎ニ代用スルコトヲ得
- 二四 生藥ハ特別ニ記載セル外總テ乾燥品ヲ供用ス但乾燥ハ特別ニ規定スル外。ヲ超エサル溫ヲ以テ之ヲ行フ
- 二五 峻烈ナル生藥及其製劑ニ於テハ成ルヘク主成分ノ試驗法ヲ記ス
- 二六 極量ハ之ヲ藥品各條ノ末尾ニ掲ク特ニ用法ヲ指示セザ

ルモノハ大人内用ノ極量ヲ示ス
 二六 光ヲ遮リ貯フヘシト記載セル藥品ヲ壞ニ容ルルニハ黒色或ハ黃褐色ノモノヲ選用ス
 二七 藥品各條中秤定シ得ヘキ量トハ0.001g以上ノモノトス
 二八 標示藥ハ之ヲ使用スヘキ藥品各條ノ下ニ指定ス
 二九 溶液ノ酸性・アルカリ性又ハ中性ヲ檢スルニハ特別ニ規定セル場合ノ外青色又ハ赤色リトマス紙ヲ用フ
 三〇 剉切及粉末藥品ヲ製スルニ使用スヘキ篩ハ左ノ六種トス
 第一號 内徑4mmノ篩眼ヲ有スルモノ
 第二號 内徑3mmノ篩眼ヲ有スルモノ
 第三號 内徑2mmノ篩眼ヲ有スルモノ
 第四號 内徑0.75mmノ篩眼ヲ有スルモノ
 第五號 内徑約0.3mmノ篩眼ヲ有スルモノ
 第六號 内徑約0.15mmノ篩眼ヲ有スルモノ
 三一 藥品ノ剉切及粉末ノ等差ハ左ノ如シ
 粗剉切藥 第一號篩ヲ以テ篩過シタルモノ
 中剉切藥 第二號篩ヲ以テ篩過シタルモノ
 細剉切藥 第三號篩ヲ以テ篩過シタルモノ
 粉末藥 第四號篩ヲ以テ篩過シタルモノ

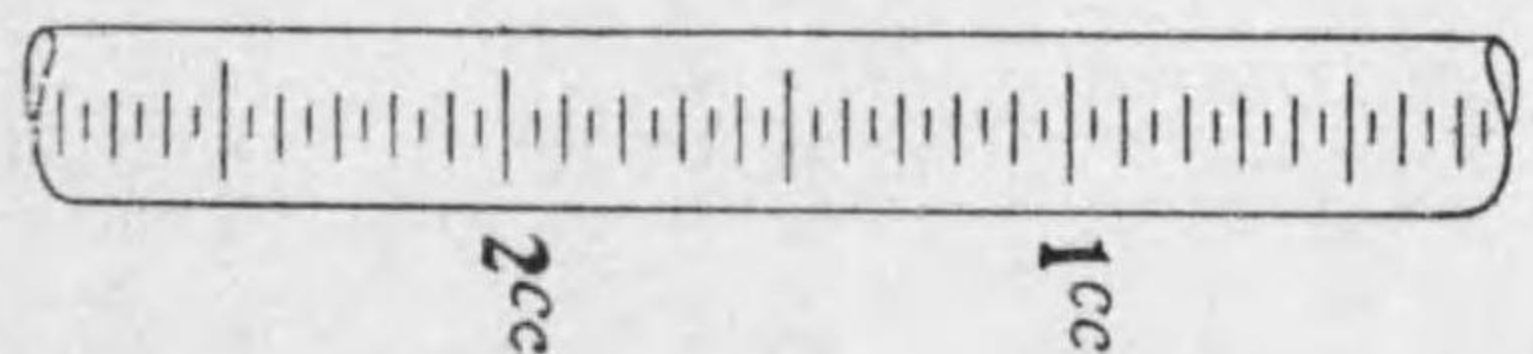
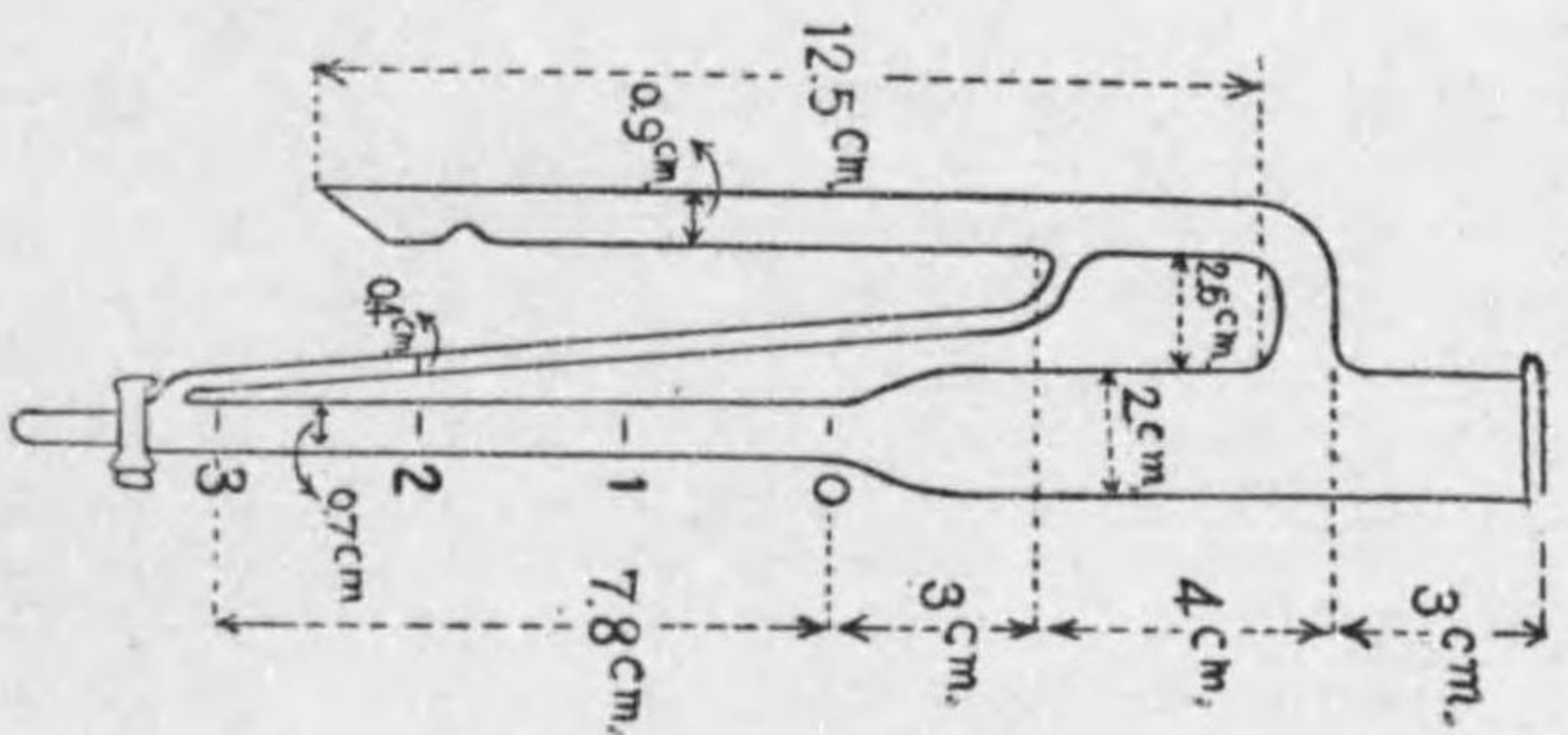
中末藥 第五號篩ヲ以テ篩過シタルモノ
 細末藥 第六號篩ヲ以テ篩過シタルモノ
 粗・中・細剉切藥及粗末藥ヲ製スルニ當リ第五號篩ヲ通過スル部分ヲ除去スヘシ但剉切藥ヲ浸出シテ製劑ヲ製スルニハ特別ニ記載セル外微細ノ部分ヲ除去スヘカラス
 三一 硝子製品・陶製・金屬製品器具等ノ滅菌ヲ行フニハ乾燥器中ニ於テ約160°ニ二時間或ハ100°ノ流通蒸氣中ニ三十分間或ハ約115°ノ加壓蒸氣中ニ於テ十五分間加熱スヘシ
 三二 濾紙・繃帶材料等ノ滅菌ヲ行フニハ100°ノ流通蒸氣中ニ於テ物品ノ内部カ同溫度ニ達シテヨリ三十分間或ハ約115°ノ加壓蒸氣中ニ於テ同様十五分間加熱スヘシ
 三四 ゴム製及角製品器具等ノ滅菌ヲ行フニハ水ト共ニ三十分間煮沸スヘシ
 三五 加熱ニ由テ變化セサル粉末藥品ノ滅菌ヲ行フニハ乾燥器中ニ於テ熱シ粉末ノ内部カ約160°ニ達シテヨリ二時間持續スヘシ
 三六 加熱ニ由テ變化スル粉末藥品ノ滅菌ヲ行フニハ「アルコール」ヲ以テ藥品ヲ充分濡ホシタル後60°ヲ超エサル溫度ニ於テ乾燥スヘシ
 三七 グリセリン・流動パラフィン・脂肪油等ノ滅菌ヲ行フ

ニハ120°ニ於テ二時間加熱スヘシ
 三八 加熱ニ由テ變化セサル藥液又ハ水ノ滅菌ヲ行フニハ三十分間煮沸スヘシ或ハ100°ノ流通蒸氣中ニ於テ三十分間或ハ加壓蒸氣中ニ於テ115°ニ十五分間加熱スヘシ
 三九 前項ノ操作ニ由テ變化スル藥液ノ滅菌ヲ行フニハ100°ノ流通蒸氣中ニ於テ二十四時間毎ニ十五分間ツツ三回加熱スヘシ
 四〇 前項ノ操作ニ由ルモ尙變化スル藥液ノ滅菌ヲ行フニハ60°~70°ノ溫度ニ於テ二十四時間毎ニ三十分間ツツ三回加熱スヘシ
 四一 60°ノ溫度ニ由テ變化スル藥液ノ滅菌ヲ行フニハ細菌濾過器ヲ用ヒテ濾過スヘシ
 四二 前各項ノ操作ヲ適用シ得サル製劑ニアリテハ器具及各藥品ヲ各別ニ適宜滅菌ヲ行ヒタル後調製スヘシ
 四三 藥局方ノ末尾ニハ試藥及定規液ヲ掲ケ定規液ノ各條ニハ各之ニ對應スル物質ノ量ヲ記ス
 四四 藥局方ニハ次ノ諸表ヲ附ス
 第一表 常備藥表
 此種ノ藥品ハ藥局ニ於テ常ニ貯藏スヘキモノニシテ各條日本主名ノ上ニ〇標ヲ附ス
 第二表 毒藥表

此種ノ藥品ハ黒地ニ白梓白字ヲ表ハセル藥名ヲ附シ他藥ト區別シ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯フヘキモノニシテ各條貯法ノ項ニ「最モ注意シテ貯フヘシ」ト記ス
 第三表 劇藥表
 此種ノ藥品ハ白地ニ赤梓赤字ヲ表ハセル藥名ヲ附シ他藥ト區別シテ貯フヘキモノニシテ各條貯法ノ項ニ「注意シテ貯フヘシ」ト記ス
 第四表 極量表
 大人ニ對スル藥品内服一回及一日ノ極量ヲ掲ケ
 第五表 重要ナル原素ノ記號及原子量表
 四五 藥局方ノ巻尾ニハ次ノ索引ヲ附ス
 藥品及試藥日本名索引
 藥品及試藥ラテン名索引
 一般試驗法
 一 乾燥減失量ノ檢定ハ特ニ記載セル外檢體1gヲ以テ100°ノ溫度ニ於テ行フ
 二 燃化又ハ灰化ニ據リ生スル固性物ノ檢定ハ特ニ記載セル外檢體1gヲ以テ行フ
 三 藥品ノ試驗法中微蛋白石濁ヲ起スニ過キス又ハ微蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシトアル場合ハ百分定規塩酸1.5cc・水98.5ccノ混液5ccニ十分定規硝酸銀液0.5ccヲ和シタル

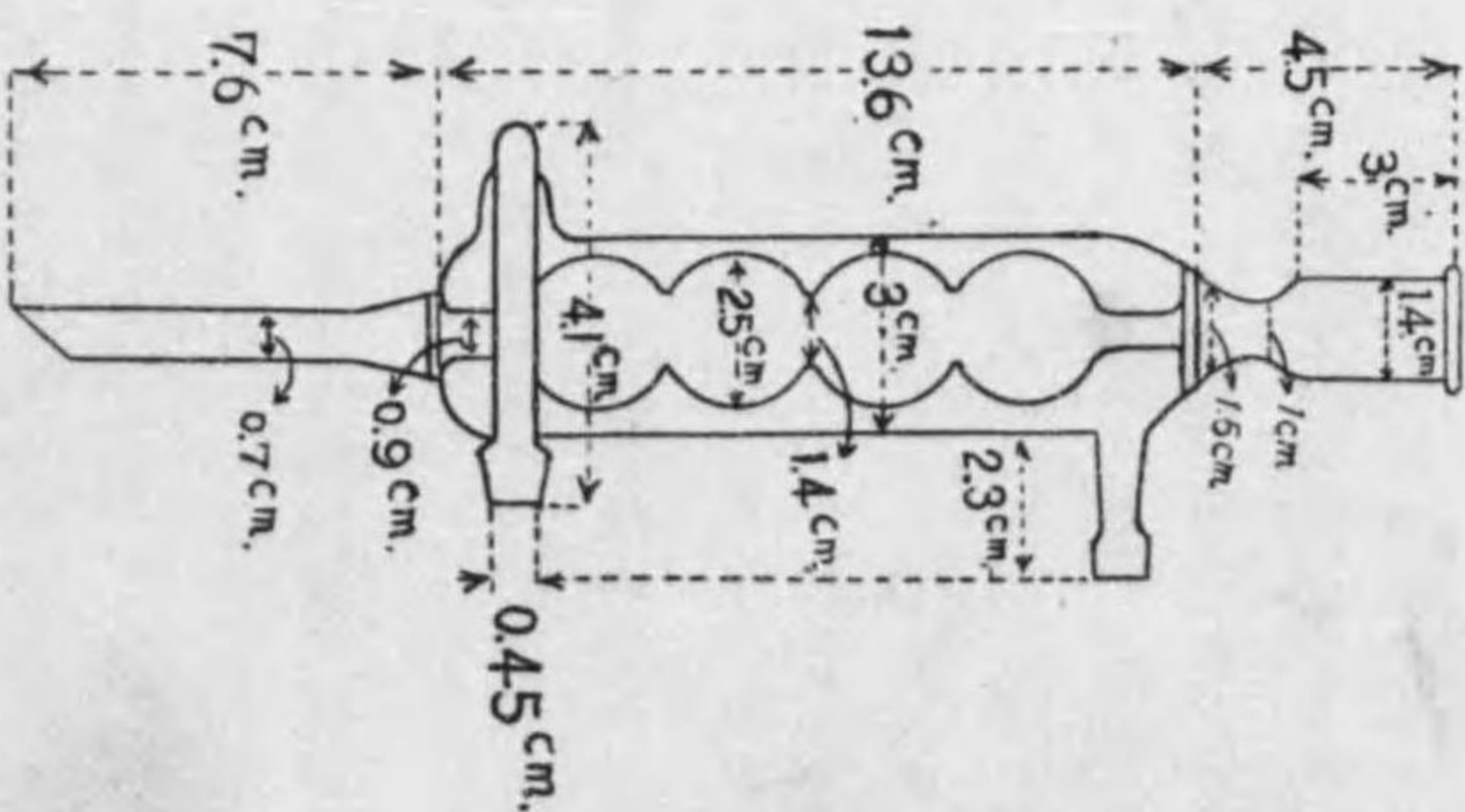
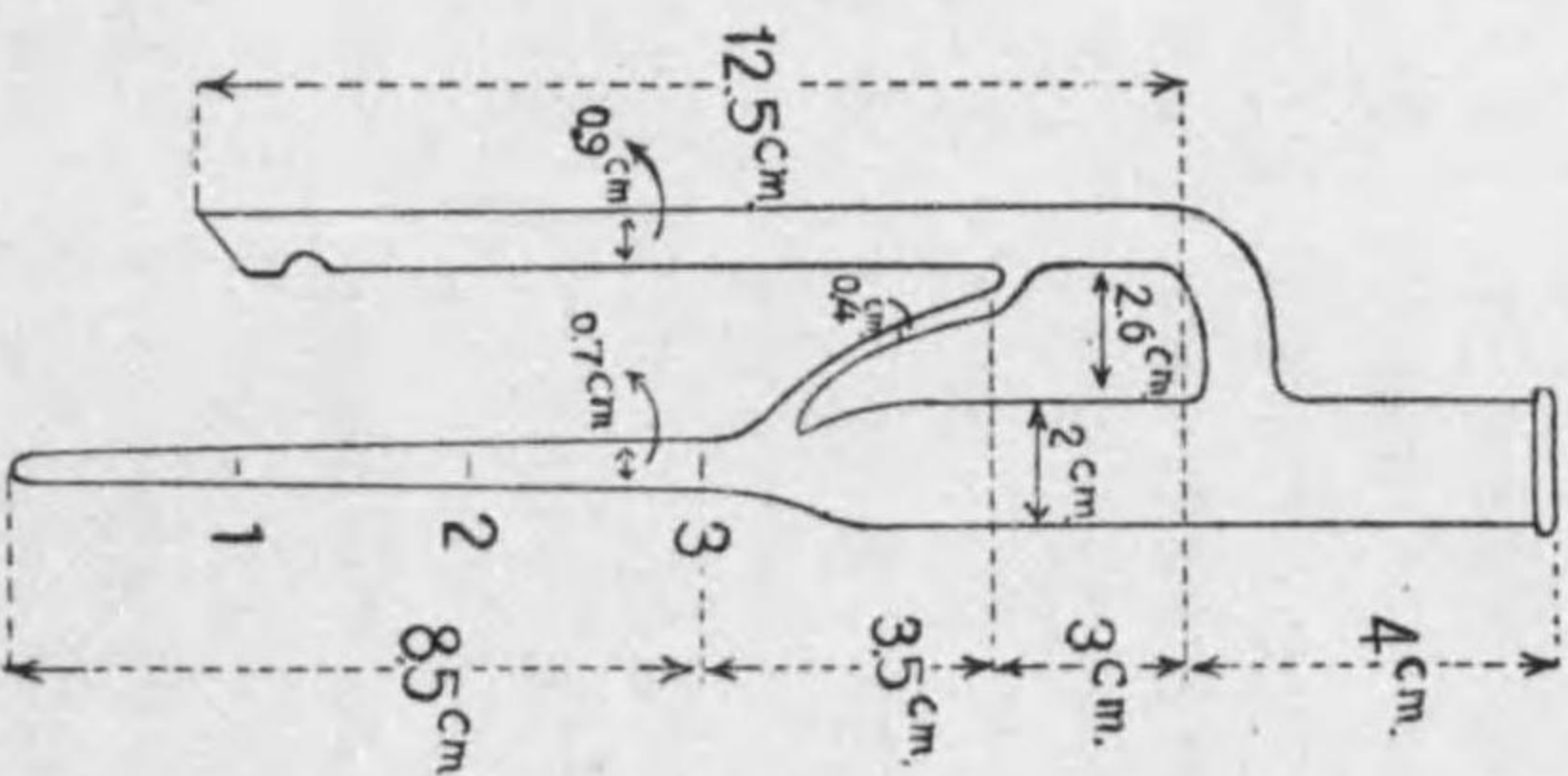
第一圖

測度管實物大圖



第二圖

第三圖



(管ノ直徑ハ内徑ヲ以テ示ス)

ルコイル性二分定規カリ液ノ效力ヲ檢定スヘシ

一三 不鹼化物ノ檢定ニハ檢體 10ccヲ取り鹼化數檢定ノ條項ニ準據シ苛性カリ 0.5g 及アルコイル 0.5gニ由テ鹼化ヲ結了セシメ水 60ccヲ加ヘテ稀釋シ之ニ毎回 3)ccノ石油エーテルヲ注加シ振盪スルコト三回ニシテ石油エーテル溶液ヲ合シ水ヲ以テ洗滌シタル後石油エーテルヲ揮散セシメ殘留物ニ更ニ苛性カリ 0.5g 及アルコイル 10ccヲ加ヘテ再ヒ鹼化シ水ヲ以テ稀釋シ石油エーテルヲ加ヘテ振盪スルコト至ク前回ノ如クシ其石油エーテル溶液ヲ合シ水ヲ以テ洗ヒタル後尙一回硫酸カルシウム溶液ヲ以テ洗滌シ終ニ石油エーテルヲ揮散セシメ殘留物ヲ乾燥シ秤量スヘシ

一四 エステル數トハ揮發油又ハ蠟 1g 中エステルノ鹼化ニ要スル苛性カリノ mg 數ヲ云フ其檢定法ハ藥品ノ各條ニ掲ク

一五 ヨード數トハ脂肪又ハ脂肪油百分中ノ不飽和化合物ト結合スヘキ「ヨード量」ヲ云フ其檢定ニハ熔融セル脂肪又ハ脂肪油ノ一定量即チ 生油 0.5g、豚脂 0.5g、落花油 0.5g、杏仁油 0.5g、胡麻油 0.5g、大風子油 0.15g、亞麻仁油 0.15g、硝子栓ヲ有スル内容約 250ccノ壘中ニ取り「クロホルム 10cc」ニ溶解シ「ブロムヨード溶液 25cc」ヲ和シ冷暗處ニ三十分間(亞麻仁油ハ一時間)放置スヘシ其際溶液ハ尙褐色ヲ呈スル程度ニ於テ存セサルヘ

カラス然ラサルトキハ更ニ少量ノ檢體ヲ以テ試験ヲ行フヘシ次テ其混液ニ「ヨードカリ溶液 50cc」ヲ加ヘ搖動シタル後水 100ccヲ注加シ屢々振盪シツツ十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ滴加シ水液及クロホルム層微ニ著色スルニ至リ澱粉溶液ヲ加ヘ更ニ十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ滴加シ脱色スルニ至ルヘシ

前上ノ試験ニハ毎回檢體ヲ用ヒスニテ對照試験ヲ行ヒ次ノ式ニヨリ「ヨード數」ヲ計算スヘシ

$$\text{ヨード數} = \frac{(a-d) \cdot 1.2659}{f}$$

但シハ檢體ヲ用ヒサルトキハ檢體ヲ用ヒタルトキノ十分定規チオ硫酸ソーダ液ノ消費量 (cc)「ハ檢體ノ量 (g)トス

一六 液體ノ滴定ニ際シ 0.1cc 以内ノ正確度ヲ必要トスル場合ニハ精密ピュレット」ヲ使用スヘシ

精密ピュレット」ハ長サ約 60 cm ニシテ 1/50 cc ツツノ劃度ヲ有シ全容 10 cc ニ達ス又其流出口ハ水約四十滴ニテ 1 cc ニ相當スル如ク製作セラレタルモノナリ

一七 カシア壘ハ内容 100 cc、頸部ノ内徑 0.8~1.0 cm ノ共栓平底壘ニシテ頸部ノ下端ヨリ稍々上部ニ零ノ標線ヲ附シ之ヨリ上方ニ 0.8 迄 0.1 cc 毎ニ正確ナル劃度ヲ附シタルモノ

ナリ之ヲ用ユルニハ特ニ規定セル場合ノ他檢スヘキ油 10cc
 ヲ「ビベット」ニテ「カシア」壺中ニ取り溶劑約 10cc ヲ加
 ヘ三分間劇シク振盪シタル後時々輕ク搖動シツツ放置シ油
 層ノ澄明ニ分離スルヲ俟テ徐々ニ溶劑ヲ加ヘ油層ヲ割度部
 ニ浮上セシメ其容量ヲ讀ミ取ルヘシ

一八 アルコール數トハ「チンキ」若クハ其他ノ「アルコール」
 含有製劑ヲ 10cc 次ノ方法ニ據リ蒸溜シテ得ラルル「アルコ
 ール」ノ數ヲ云フ其檢定ニハ檢體 10cc ヲ内容約 50cc ノ
 壺ニ取り水 5cc ヲ加ヘ枹杓ヲ施シ之ニ硝子管ヲ裝シ石綿板
 上ニ於テ徐々ニ熱シ内容 25cc ノ割度硝子圓筒(割度 0.1cc)
 中ニ蒸溜スヘシ此硝子管ハ内徑 5~6mm 長サ約 6cm ニ
 シテ其一端ヨリ 15cm 毎ニ二回略々直角ニ屈曲シ中部ハ受
 器ニ向テ稍々傾斜セシメ長部ニハ外套管ヲ裝シ水ヲ通シテ
 冷却シ其先端ヲ受器中ニ挿入セシムヘシ溜取量ハ「アルコ
 ール」ヲ以テ製造セル製劑ニ在リテハ 10cc、大黃チンキニ在リ
 テハ 9cc、阿片チンキニ在リテハ 1cc トシ之ニ炭酸カリ
 4~5g ヲ加ヘ充分振盪シテ炭酸カリノ過剰ニヨリ水液ノ白
 濁スルヲ度トシ 15cc ノ水中ニ三十分間靜置シ浮上セル「ア
 ルコール」ノ量ヲ讀ミ取ルヘシ若シ二液層ノ境界明瞭ナラ
 サル場合ニハ水ヲ滴加シ更ニ振盪後靜置スヘシ「アルコ

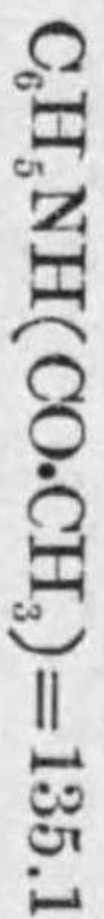
ル數ニ 240g ヲ乘スレハ檢體中アルコール含量(%)ノ
 概數ヲ得ヘシ

一九 アルコール及アルコール含有製劑中メチルアルコール
 及アセトン」ヲ檢出スルニハ檢體 10cc ヲ内容約 50cc ノ
 壺ニ取り水 10cc ヲ加ヘ前條ト全ク同様ノ方法ニ據リ蒸溜
 シ初溜液 2cc ヲ溜取シ其 0.5cc ヲ試験管ニ取り水 5cc 過
 マンガン酸カリ溶液(1+30) 5cc 及同容量ノ水ヲ以テ稀釋
 セル硫酸 0.4cc ヲ和シ二分間ノ後修酸溶液(1+11) 1cc
 ヲ以テ脱色シ善ク冷却シツツ徐々ニ硫酸 1cc ヲ添加シ次ニ
 「フクシン」亞硫酸溶液 5cc ヲ加ヘ試験管ヲ栓塞シ輕ク搖動
 シタル後放置スヘシ茲ニ二時間以内ニ持續スル藍紫色、紫
 色或ハ紅紫色ヲ呈スルハ「メチルアルコール」ヲ含有スルノ
 徵ナリ又殘餘ノ初溜液 1cc ニ「ナトロン」滴液 1cc 及ニトロ
 プルシッドソーダ溶液五滴ヲ和スルニ赤色ヲ呈シ醋酸 1cc
 ニ由テ紫色ニ變スルハ「アセトン」ヲ含有スルノ徵ナリ
 二〇 注射硝子容器ノ「アルカリ度」ヲ檢スルニハ十分定規
 塩酸 1cc ニ水及メチルロート溶液 0.5cc ヲ加ヘテ「ヘトナ
 シタル」混液ヲ硝子容器ニ注入シテ其四分ノ三容量ヲ充シ熔
 閉シタル後 100cc ノ温ニ於テ一時間加熱スルニ其赤色減褪
 スルコトアルモ全ク消失スヘカラス

第五改正日本藥局方

Acetanilidum Antifebrinum

〇アセトアニリド アンチフェブリン



一 アセトアニリド「ハ光輝アル白色無臭ノ葉狀結晶又ハ結
 晶性粉末ニシテ味微ニ辛ク 113°~114°ニ於テ熔融シ二百
 三十分ノ水竝約二十二分ノ熱湯ニ溶解シ中性ノ反應ヲ微
 シ「アルコール」竝ク「クロロホルム」ニ容易ニ又「エーテル」ニ溶
 解ス

二 本品 0.1g ニ「カリ」滴液 5cc ヲ加ヘテ熱スレハ「アニリ
 シ」ノ臭氣ヲ發シ之ニ「クロロホルム」二三滴ヲ點加シタル後
 更ニ熱スレハ「イソニトリル」ノ惡臭ヲ放ツ

三 本品 0.2g ニ塩酸 2cc ヲ加ヘ煮沸シテ溶解シタル後石炭
 酸溶液 4cc ヲ和シ晒粉溶液ヲ加フレハ汚紫藍色ヲ呈シ之
 ヲ「アンモニア」水ヲ以テ過飽スレハ永ク藍色ヲ呈ス

四 本品一分ニ水二十分ヲ和シ約一分間振盪シ濾過シテ得タ
 ル液ハ稀塩化第二鉄溶液ニ由テ變化スヘカラス

五 前項ノ本品水溶液ハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘ

カラス硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液竝硝酸バリ
 ウム溶液ニ由テ亦然リ

六 本品 0.1g ハ硫酸 1cc ニ染色セスシテ溶解スヘシ又本品
 0.1g ヲ硝酸 1cc ニ和シ振盪スルニ染色スヘカラス

七 本品ヲ燃化スルニ 0.1% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

八 注意シテ貯フヘシ
 一回ノ極量 0.3g
 一日ノ極量 1.0g

Acetonum

アセトン



一 アセトン「ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ特異ノ臭氣ヲ有
 シ點火スレハ光輝アル火焰ヲ放テ燃燒ス水・アルコール・
 エーテル又ク「クロロホルム」ニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ比重
 0.795~0.798 ニシテ 55°~57°ニ於テ殆ト全ク蒸溜ス

二 本品ノ水溶液ニ新タニ製シタル「ニトロ」プルシッドソー
 ダ溶液(1+99) 二三滴及カリ滴液少量ヲ和スレハ赤褐色ヲ
 呈シ醋酸ヲ以テ酸性トナセハ紫紅色ニ變ス

三 本品 10cc ヲ重湯煎上ニ蒸發スルニ秤定シ得ヘキ固性物
 ヲ遺スヘカラス

- 四 本品 10cc ニ「フェノールフタレイン溶液」二三滴ヲ和シ之ニ定規カリ液一滴ヲ加フルニ持續スル紅色ヲ呈セサルヘカラス
- 五 本品 20cc ニ十分定規過マンガン酸カリ液三滴ヲ加ヘタルモノハ十五分以内ニ其紅色消失スヘカラス

Acidum aceticum

醋酸

- 一 醋酸ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ酸性ノ臭味ヲ有ス
比重 1.041 ナリ
- 二 本品ハ 30% ノ純醋酸 (CH₃·CO₂H = 60.0) ヲ含有ス
- 三 本品 1cc ニ水 5cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ「ナトロン」滴液ヲ以テ中和シタル後塩化第二鉄溶液ニ由テ赤色ヲ呈ス
- 四 本品ハ「ナトロン」滴液ヲ以テ中和スルニ焦臭ヲ放ツヘカラス又同容量ノ硫酸ヲ混和スルニ染色セス冷後之ニ半容量ノ硫酸鉄溶液ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス
- 五 本品 1cc ニ塩化第一錫溶液 3cc ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品 1cc ニ水 15cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴・硝酸バリウム溶液・硝酸銀溶液又アンモンニア

- 水ニ由テ變化スヘカラス
- 七 本品 20cc ニ過マンガン酸カリ溶液 1cc ヲ和スルニ三十分以内ニ其ノ紅色ヲ消失スヘカラス
- 八 本品 15cc ヲ中和スルニハ定規カリ液 25cc ヲ費スヘシ (標示藥フェノールフタレイン溶液)

Acidum aceticum dilutum

稀醋酸

- 一 稀醋酸ハ
醋酸 一分
蒸溜水 四分
ヲ取り混和シ製スヘシ
- 二 本品ハ無色澄明ノ液ニシテ酸性ノ臭味ヲ有ス
- 三 本品ハ 6% ノ純醋酸 (CH₃·CO₂H = 60.0) ヲ含有ス
- 四 本品ノ試験ハ醋酸ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ
- 五 本品 10cc ヲ中和スルニハ定規カリ液 10cc ヲ費スヘシ (標示藥フェノールフタレイン溶液)

Acidum aceticum glaciale

氷醋酸

- 一 氷醋酸ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ刺スカ如キ酸臭及強

キ酸味ヲ有シ寒冷ニ逢ヘハ凝結シテ結晶塊トナリ水・アルコール又エーテルニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス比重約 1.026 ~ 1.034・凝固點 9° 以上ナリ

- 一 本品ハ 96% 以上ノ純醋酸 (CH₃·CO₂H = 60.0) ヲ含有ス
- 二 本品 1cc ニ水 20cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ「ナトロン」滴液ヲ以テ中和シタル後塩化第二鉄溶液ニ由テ赤色ヲ呈ス
- 三 本品 1cc ニ水 20cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ「ナトロン」滴液ヲ以テ中和シタル後塩化第二鉄溶液ニ由テ赤色ヲ呈ス
- 四 本品 1cc ニ水 2cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ「ナトロン」滴液ヲ以テ中和スルニ焦臭ヲ放ツヘカラス又同容量ノ硫酸ヲ混和スルニ染色セス冷後之ニ 3cc ノ硫酸鉄溶液ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス
- 五 本品 1cc ニ水 2cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ 1cc ニ塩化第一錫溶液 3cc ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品 1cc ニ水 20cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴・硝酸バリウム溶液・硝酸銀溶液又アンモンニア水ニ由テ變化スヘカラス
- 七 本品 5cc ニ水 15cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノニ過マンガン酸カリ溶液 1cc ヲ和スルニ三十分以内ニ其紅色ヲ消失スヘカラス
- 八 本品 5cc ニ水ヲ加ヘテ 15cc ニ稀釋シタル液 10cc ヲ中和

スルニハ定規カリ液少クモ 15cc ヲ費ササルヘカラス (標示藥フェノールフタレイン溶液)
九 壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

Acidum arsenicosum

亞砒酸



- 一 亞砒酸ハ白色瓷質様或ハ硝子様ノ塊片或ハ白色ノ粉末ニシテ臭味ナク十五分ノ熱湯ニ徐々ニ全ク溶解ス試験管内ニ於テ注意シテ熱スレハ昇華シテ硝子様ノ光澤ヲ有スル八面體或ハ四面體ノ結晶ヲ生シ木炭上ニ熱スレハ蒜臭ヲ放テ揮散ス
- 二 本品ハ 99% 以上ノ純亞砒酸ヲ含有ス
- 三 本品ノ水溶液ニ稀鹽酸數滴ヲ和シタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ「アンモンニア」水ニ溶解スヘキ黄色ノ沈渣ヲ生ス
- 四 本品一分ニ十分ノ「アンモンニア」水ヲ加ヘテ温ムレハ澄明ニ溶解スヘシ此溶液十分ニ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ過剩ノ鹽酸ニ由テ黄色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品ヲ硝子管内ニ熱スルニ昇華シテ固性物ヲ殘留スヘカラス或ハ之アルモノ 0.1% ニ過クヘカラス

- 六 本品 0.5g ヲ重炭酸ソーダ 3g ト共ニ熱湯ニ溶解シ冷後水ヲ加ヘテ 100cc トナシタルモノ 10cc ハ十分定規ヨード液少クモ 10cc ヲ脱色セサルヘカラス(標示藥澱粉溶液)
- 七 最モ注意シテ貯フヘシ
 - 一回ノ極量 0.005g
 - 一日ノ極量 0.015g

安息香酸



- 一 安息香酸ハ白色或ハ類黄色ノ小葉結晶若クハ針狀結晶ニシテ 120°~122° ニ於テ熔融シ「アルコール・エーテル又クロロホルム」ニ溶解シ水ニ僅少ニ・熱湯ニ多量ニ溶解ス
- 二 本品 0.2g ニ水 20cc 及定規カリ液 1cc ヲ注加シ屢々振盪シ十五分間ノ後之ヲ濾過シ其濾液ニ塩化第二鉄溶液一滴ヲ加フルニ淡赤褐色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品ヲ熱スレハ先ツ熔融シテ殆ト無色或ハ類黄色ノ液トナリ次テ全ク揮散スヘシ或ハ固性物ヲ残留スルコトアルモ 0.1% ニ過クヘカラス
- 四 本品 1g ハ「ナトロン」滴液 10cc ニ殆ト染色セスシテ澄明ニ溶解スヘシ

- 五 本品及過マンガン酸カリ各一分ヲ十分ノ水ト共ニ試験管中ニ取り寛ク栓塞シテ數分間微温ヲ與ヘテ冷後之ヲ開クニ「ベンズアルデヒド」ニ類スル香氣ヲ放ツヘカラス
- 六 本品 0.2g ニ炭酸石灰 0.2g 及少許ノ水ヲ加ヘテ混和シ蒸發乾涸シ熱灼シ其残留物ヲ硝酸ニ溶解シ之ニ水ヲ加ヘテ 10cc トナシタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 七 光ヲ遮リ貯フヘシ

硼酸



- 一 硼酸ハ眞珠様ノ光澤ヲ有スル無色鱗片狀結晶或ハ白色結晶性粉末ニシテ二十五分ノ水竝アルコール」ニ溶解シ又熱湯竝グリセリン」ニ容易ニ溶解ス熱スレハ膨起シ次ニ熔融シ冷後固結シテ無色透明硝子様ノ物質ニ變ス
- 二 本品ノ水溶液ニ塩酸ヲ和シタルモノヲ以テ「グルクマ紙」ヲ濡ホシ乾燥スレハ褐赤色ヲ呈シ更ニ少量ノ「アンモニウム」ヲ注ケハ緑黑色ニ變ス又本品ノ「アルコール」溶液ハ之ニ點火スレハ綠色ノ邊縁ヲ有スル火焰ヲ放テ燃焼ス
- 三 本品ノ水溶液(1+49)ハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化

セス硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過キス硝酸バリウム溶液竝蔞酸アンモン溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス又塩化アンモン溶液及炭酸アンモン溶液ヲ加ヘテ温メ心要アラハ濾過シ之ニ磷酸ソーダ溶液ヲ和スルニ變化スヘカラス又塩酸二滴ヲ加ヘタルモノハ黄血塩溶液 0.5cc ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス

Acidum camphoricum

カンフル酸 樟腦酸



- 一 カンフル酸ハ白色殆ト無臭ノ小葉狀結晶ニシテ約百五十分ノ水竝二十分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徴シ「アルコール」竝「エーテル」ニ溶ケ易ク「クロロホルム」ニ較々溶ケ難シ 186° ニ於テ熔融ス
- 二 本品 1.5g ヲ純アルコール」ニ溶解シ常温ニ於テ 50cc トナシタルモノハ旋光度約 +1° ナリ
- 三 本品ニ生石灰ヲ混和シテ熱スレハ薄荷様ノ香氣ヲ放ツ
- 四 本品 1g ヲ炭酸ソーダ溶液 10cc ニ溶解スルニ「カンフル」様ノ臭氣ヲ發セス又溷濁或ハ染色スヘカラス
- 五 本品 1g ニ水 20cc ヲ和シ約一分間振盪シ濾過シテ得タル液ハ硝酸銀溶液竝硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラ

ス又其水溶液 1cc ニ硫酸 1cc ヲ混和シ冷後硫酸鉄溶液 1cc ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス

六 本品ヲ熱スルニ刺戟性ノ臭氣ヲ有スル白色ノ蒸氣ヲ放チ全ク揮散スヘシ或ハ固性物ヲ残留スルコトアルモ 0.1% ニ過クヘカラス

七 本品ノ乾燥セルモノ 0.4g ヲ「アルコール」 20cc 溶解シタルモノヲ中和スルニ十分定規カリ液 40cc ヲ費ササルヘカラス(標示藥フェノールフタレイン溶液)

Acidum chromicum

無水クロム酸



- 一 無水クロム酸ハ暗褐赤色鋼様ノ光澤アル結晶ニシテ氣中ニ於テ潮解シ水ニ溶解シ易シ「アルコール」其他酸化シ易キ物質ニ混和スレハ爆發シ又ハ火ヲ發スルコトアリ
- 二 本品ヲ熱スレハ熔融シテ酸素ヲ發シ暗綠色ニ變ス又塩酸ヲ和シテ熱スレハ塩素ヲ發生ス
- 三 本品ノ水溶液(1+99)ニ塩酸ヲ和シタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス
- 四 本品 1.5g ヲ熱灼シテ得タル固性物ニ水 15cc ヲ加ヘ浸出

シ其濾液 10ccヲ蒸發スルニ殘留物アルモ 0.01gニ過クヘカラス

五 塚中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密栓シ注意シテ貯フヘシ

Acidum citricum

クエン酸



- 一 クエン酸ハ無色透映ノ結晶ニシテ熱スレハ熔融シ次ニ刺戟性ノ臭氣ヲ有スル蒸氣ヲ發シテ炭化ス○六分ノ水・一五分ノ「アルコール又約五十分ノ「エーテル」ニ溶解ス
- 二 本品ノ水溶液(1+9)1ccニ石灰水 40~50ccヲ加フルニ澄明ヲ失セス一分間煮沸スレハ白色絮狀ノ沈澱ヲ生シ冷後三時間以内ニ其白色ノ沈澱復タ溶解ス
- 三 本品ノ粉末トナシタルモノ1gヲ硫酸 10ccニ和シ35°ノ温ニ於テ一時間之ヲ温ムルニ黄色ヲ呈スルニ止マリ褐色ヲ呈スベカラス又本品1gヲ水 2ccニ溶解シ十滴ノ醋酸カリ溶液ヲ和シ次テ「アルコール」ヲ注加スルニ濁濁スヘカラス
- 四 本品ノ水溶液(1+9)ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス「アンモニア水ヲ加ヘテ殆ト中和シタル後」修酸アンモン溶液ヲ加フルモ亦然リ

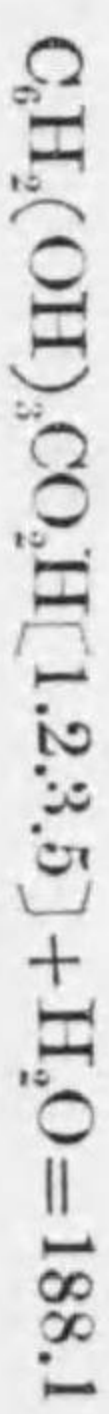
五 本品 5gヲ水 10ccニ溶解シ之ニ「アンモニア水 12ccヲ和シタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ染色スルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ

六 本品 1gヲ水 10ccニ溶解シ之ニ塩化カルシウム溶液 5ccヲ和スルニ一時間以内ニ變化スヘカラス

七 本品ヲ燃化スルニ0.1%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
八 塚中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Acidum gallicum

没食子酸



- 一 没食子酸ハ絹絲様ノ光澤アル白色或ハ微ニ類黄色ヲ帶フル針狀結晶ニシテ臭氣ナク味澁ク微ニ酸味ヲ帶フ百分ノ水竝三分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微シ六分ノ「アルコール」竝十二分ノ「グリセン」ニ溶解シ「エーテル」ニ溶解シ難シ
- 二 本品一分ニ水二十分ヲ和シ約一分間振盪シ濾過シテ得タル液ハ「アンモニア性硝酸銀溶液ヲ還元シ又塩化第二鉄溶液ニ由テ藍黑色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 前項ノ本品水溶液ハ「ゼラチン溶液竝蛋白溶液ニ由テ沈澱ヲ生スヘカラス又塩酸ヲ和シタル後硝酸バリウム溶液ニ

由テ變化スヘカラス

四 本品ノ熱水溶液(1+19)ハ無色ナルヘシ或ハ黄色ヲ呈スルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ

五 本品 0.2gヲ 100'ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 0.02gニ過クヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

六 光ヲ遮リ密閉シ貯フヘシ

Acidum hydrochloricum

塩酸

- 一 塩酸ハ無色澄明ノ液ニシテ刺戟性ノ臭氣ヲ有シ熱スレハ全ク揮散ス比重 1.152 ナリ
- 二 本品ハ 30%ノ純塩化水素(HCl=36.5)ヲ含有ス
- 三 本品ハ硝酸銀溶液ニ由テ「アンモニア水ニ全溶スヘキ白色乾酪様ノ沈澱ヲ生ス又本品ヲ二酸化マンガン」ト共ニ温ムレハ塩素ヲ發生ス
- 四 本品 1ccニ塩化第一錫溶液 3ccヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品一容量ニ水六容量ヲ加ヘテ稀釋シ「アンモニア水ヲ以テ中和シタルモノ5ccハ醋酸三滴ヲ加ヘタル後ヨード亞鉛澱粉溶液ニ由テ直チニ藍色ヲ呈セス又硫化ソーダ溶液三

滴ニ由テ直チニ又硝酸バリウム溶液ニ由テ五分以内ニ變化スヘカラス「ヨード溶液ヲ加ヘテ淡黄色トナシタル後モ亦然リ

六 本品 1ccニ水 9ccヲ和シタルモノハ黄血塩溶液 0.5ccニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス

七 本品 3ccニ水 15ccヲ加ヘテ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液 28.4ccヲ費ササルヘカラス(標示藥メチルオレンジ溶液)

八 塚中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

Acidum hydrochloricum dilutum

○稀塩酸

- 一 稀塩酸ハ
塩酸 一分
蒸溜水 二分
ヲ取り混和シ製スヘシ
- 二 本品ハ無色澄明ノ液ニシテ比重 1.05 ナリ
- 三 本品ハ 10%ノ純塩化水素(HCl=36.5)ヲ含有ス
- 四 本品ノ試験ハ塩酸ノ條ニ掲タル所ニ準據スヘシ
- 五 本品 10ccニ同容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液 28.8ccヲ費スヘシ(標示藥メチルオレ

ンジ溶液)

六 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

Acidum lacticum

乳 酸

一 乳酸ハ無色澄明或ハ微ニ類黄色ヲ帶フル「シロップ稠ノ液ニシテ殆ト臭氣ナク酸味ヲ有シ水並アルコール」ニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ又「エーテル」ニ容易ニ混和ス比重 1.21 ~ 1.22 ナリ

二 本品ハ約 75% ノ純乳酸 (CH₃CH(OH)CO₂H = 90.0) ヲ含有ス

三 本品ハ過マンガン酸カリ溶液ト共ニ温ムレハ「アセトアルデヒド」ノ臭氣ヲ放ツ又本品ハ強ク熱スレハ炭化シ光輝アル火焰ヲ放テ燃焼ス

四 本品ヲ温ムルニ脂肪酸ニ類スル臭氣ヲ發スヘカラス又本品ノ約 5% ニ冷却セルモノニ同温度同容量ノ硫酸ヲ加ヘテ二液層トナシ約 5% ニ於テ十五分間放置スルニ其接界ニ於テ染色セル輪帶ヲ生スヘカラス或ハ生スルコトアルモ類黄色ヲ呈スルニ止マルヘシ

五 本品一分ニ水九分ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴・硝酸バリウム溶液又醋酸アンモン溶液ニ由テ變

化セス又其溶液ニ硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス

六 本品一分ニ水九分ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ石灰水ノ過剩ヲ和スルニ變化スヘカラス熱スルモ亦然リ

七 本品 1g ヲ「エーテル」ニ混和スルニ澄明ニ止マルヘシ

八 本品ヲ燃化スルニ 0.1% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

九 本品 5g ニ水ヲ加ヘテ 50g トナシタルモノ 20g ヲ中和スルニハ定規カリ液約 16.6cc ヲ費ササルヘカラス(標示藥フェノールフタレイン溶液)

Acidum nitricum

硝 酸

一 硝酸ハ無色澄明ノ液ニシテ熱スレハ揮散ス比重 1.53 ナリ

二 本品ハ 25% ノ純硝酸 (HNO₃ = 63.0) ヲ含有ス

三 本品ニ銅屑ヲ投シ温ムレハ黄赤色ノ蒸氣ヲ發シテ溶解シ其液ハ藍色ヲ呈ス

四 本品一容量ニ水五容量ヲ加ヘテ稀釋シ「アンモニア水ヲ以テ中和シタルモノ 5cc ハ醋酸三滴ヲ加ヘタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ直チニ又硝酸バリウム溶液ニ由テ三分以内ニ變化スヘカラス

五 本品 1cc ニ水 5cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス

六 本品 1cc ニ水 2cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノニ純亞鉛少許ヲ加ヘタル後少量ノ「クロロホルム」ト共ニ振盪スルニ之ヲ紫色ニ染ムヘカラス

七 本品 1cc ニ水 9cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ黃血塩溶液 0.5cc ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス

八 本品 5cc ニ水 25cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液 22.9 cc ヲ費スヘシ(標示藥メチルオレンジ溶液)

九 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

Acidum nitricum fumans

發煙硝酸

一 發煙硝酸ハ赤褐色澄明ノ液ニシテ氣中ニ於テ窒息性ノ黄赤色蒸氣ヲ放テ熱スレハ全ク揮散ス比重 1.48 以上ナリ

二 本品ハ少クモ 86% ノ純硝酸 (HNO₃ = 63.0) ヲ含有ス

三 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ冷處ニ貯フヘシ

Acidum oleinicum

オレイン酸



發煙煙酸・オレイン酸・磷酸

一 オレイン酸ハ淡黄色或ハ帶褐黄色油狀ノ液ニシテ微ニ特異ノ臭味ヲ有シ氣中ニ於テ酸素ヲ吸收シ漸次暗色ニ變ス比重約 0.9 ナリ水ニ溶解セス「アルコール」ニ溶解シ弱酸性ノ反應ヲ徴シ「エーテル」・「クロロホルム」・脂肪油又揮發油ニ溶解ス約 4% ニ冷却スレハ半流動體トナリ更ニ冷却スレハ遂ニ凝結シテ白色ノ固塊トナル

二 本品ハ之ヲ約 5% ニ熱スレハ刺激性ノ蒸氣ヲ發シ更ニ高度ノ熱ニ逢ヘハ全ク分解ス

三 本品ニ等分ノ「アルコール」ヲ混和スルニ澄明ノ液ヲ生シ其上面ニ油滴ヲ析出スヘカラス

四 本品 1g ニ「アルコール」20cc ヲ加ヘテ熱シタルモノニ「フェノールフタレイン溶液」二滴ヲ添加シ次ニ濃厚ノ「ナトリオン」滴液 (1+3) ヲ滴加シテ持續スル紅色ヲ呈スルニ至リ之ニ醋酸ヲ加ヘテ紅色ノ褪消スルヲ度トシ濾過シテ得タル澄明ノ液 10cc ニ「エーテル」10cc 及醋酸鉛溶液 1cc ヲ混和スルニ濁濁スルコトアルモ沈澱ヲ生スヘカラス

五 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Acidum phosphoricum

磷 酸

一 磷酸ハ無色澄明無臭ノ液ニシテ比重 1.12 ナリ

- 一 本品ハ 20% ノ純磷酸 ($H_3PO_4 = 98.0$) ヲ含有ス
- 三 本品ハ炭酸ソーダ溶液ヲ以テ中和シタル後硝酸銀溶液ニ由テ硝酸竝アンモニア水ニ溶解スヘキ黄色ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 1cc ニ塩化第一錫溶液 3cc ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品ニ硝酸銀溶液ヲ加フルニ變色スヘカラス之ヲ温ムルモ亦然リ本品ノ水溶液 (1+1) ハ黃血塩溶液 0.5cc ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス又水溶液 (1+3) ハ硫化ソーダ溶液三滴・硝酸バリウム溶液又過剰ノ「アンモニア水」ニ由テ變化スヘカラス
- 六 本品一容量ニ四容量ノ「アルコール」ヲ混和スルニ澄明ニ止マルヘシ
- 七 本品 2cc ニ硫酸 2cc ヲ混和シ冷後硫酸鐵溶液 1cc ヲ加ヘテ二液層トナスニ其境界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス
- 八 本品 5cc ニ食塩冷飽和水溶液 10cc ヲ和シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液 22.9cc ヲ費ササルヘカラス (標示藥フェノールフタレイン溶液)
- 九 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

Acidum picrinicum Trinitrophenolum

ピクリン酸 トリニトロフェノール



- 一 ピクリン酸ハ淡黄色ノ光澤アル小葉狀或ハ針狀結晶ニシテ臭氣ナク味甚タ苦ク八十分ノ水ニ溶解シテ鮮黄色ヲ呈シ酸性ノ反應ヲ徴ス熱湯・アルコール又エーテル」ニ較シ溶解シ易ク 1:20。ニ於テ熔融シ尙強ク熱スレハ爆噴シテ燃化ス
- 二 本品ノ「アルコール溶液ハ白色ノ羊毛若クハ絹絲ヲ鮮黄色ニ染ム又本品ノ温飽和水溶液ニ「シアンカリ溶液 (1+1) ヲ加フレハ暗赤色ヲ呈ス
- 三 本品ヲ石油ベンジン」ニ溶解スルニ殆ト無色ノ澄明液ヲ生スヘシ
- 四 本品ノ水溶液 (1+99) 10cc ニ塩化バリウム溶液二滴ヲ和スルニ直チニ變化スヘカラス
- 五 本品 0.2g ヲ注意シテ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 六 注意シテ貯フヘシ

Acidum salicylicum

○サリチル酸



- 一 サリチル酸ハ白色針狀ノ結晶或ハ白色輕鬆ノ結晶性粉末ニシテ臭氣ナク味甘酸ニシテ稍々苛辣ナリ約五百分ノ水並十五分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徴シ「アルコール・エーテル・熱クロロホルム又脂肪油」ニ容易ニ溶解ス
- 二 本品ハ約 157°。ニ於テ熔融シ注意シテ熱スレハ分解セスシテ昇華シ急ニ之ヲ熱スレハ石炭酸ノ臭氣ヲ放テ揮散ス
- 三 本品ノ水溶液ハ塩化第二鉄溶液ニ由テ持續スル藍紫色ヲ現ハシ甚シク稀釋スルトキハ紫紅色ヲ呈ス
- 四 本品 1g 11 5cc ノ硫酸ヲ和スルニ微ニ黄色ヲ呈スルニ止マルヘシ
- 五 本品 0.5g ハ常温ニ於テ炭酸ソーダ溶液 (1+9) 10cc ニ澄明ニ溶解スヘシ此溶液ニ「エーテル」ヲ和シテ振盪シタル後其エーテル液ヲ揮散セシムルニ殘留物アルモ僅微ニ止マリ其殘留物ハ石炭酸ノ臭氣ヲ有スヘカラス又本品一分ヲ九分ノ「アルコール」ニ溶解シタルモノハ常温ニ於テ「アルコール」ヲ揮散セシムルニ純白色ノ殘留物ヲ遺ササルヘカラス又少量ノ硝酸ヲ加ヘタル後硝酸銀溶液ニ由テ蛋白質濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 六 本品ヲ燃化スルニ 0.1% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Acidum stearinicum

ステアリン酸



- 一 ステアリン酸ハ脂肪様ノ感覺アル白色結晶性ノ粉末或ハ顆粒狀結晶性ノ破折面ヲ有スル固塊ニシテ殆ト臭味ナク水ニ溶解セス熱アルコール竝エーテル」ニ溶解ス熔融點 60° ~ 65° ナリ
 - 二 本品ヲ熱アルコール」ニ溶解シ「ナトロン滴液ヲ以テ中和シ蒸發スルニ其殘留物ハ石油ベンジン」ニ溶解セス或ハ溶解スルモノアルモ痕跡ニ止マルヘシ
 - 三 本品 1g ヲ炭酸ソーダ 1g 及水 30cc ト共ニ潤大ナル壘中ニ於テ煮沸スルニ殆ト澄明ノ溶液ヲ生スヘシ
 - 四 本品ヲ燃化スルニ 0.1% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- Acidum sulfuricum*
- 硫 酸
- 一 硫酸ハ無色無臭澄明油稠ノ液ニシテ熱スレハ全ク揮散シ比重 1.836 ~ 1.840 ナリ
 - 二 本品ハ 91 ~ 98% ノ純硫酸 ($H_2SO_4 = 98.1$) ヲ含有ス
 - 三 本品ノ水ヲ以テ稀釋シタルモノニ硝酸バリウム溶液ヲ加

- フレハ稀酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 1cc 及水 2cc ノ冷混液 1cc ニ塩化第一錫溶液 3cc ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品 1cc ニ「アルコール 5cc」ヲ和スルニ久シキヲ經ルモ濁濁スヘカラス又本品 2cc ニ水 10cc」ヲ加ヘテ稀釋シタル冷液ニ過マンガン酸カリ溶液三滴ヲ和スルニ直チニ脱色スヘカラス
- 六 本品 1cc ニ水 19cc」ヲ加ヘテ稀釋シタルモノ 10cc ニ黄血塩溶液 0.5cc」ヲ加フルニ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス又其稀釋液ハ硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 七 本品 1cc ニ水 19cc」ヲ加ヘテ稀釋シ「アンモニア水ヲ以テ中和シタルモノハ醋酸三滴ヲ和シタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ直チニ變化スヘカラス
- 八 本品 2cc ニ硫酸鉄溶液 1cc」ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス
- 九 本品 2cc ニ亞硫酸ソーダ一二小片ヲ溶解セル塩酸 2cc」ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類赤色ノ輪帶ヲ生スヘカラス又之ヲ温ムルニ赤色ノ沈澱ヲ生スヘカラス
- 一〇 本品 5g ニ水ヲ加ヘテ 50cc ニ稀釋シタル冷液 10cc」ヲ中和スルニ定規カリ液 192~200cc」ヲ費ササルヘカラス
(標示藥メチルオレンジ溶液)

- 一 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ
Acidum sulfuricum dilutum
稀硫酸
- 一 稀硫酸ハ
硫酸 一分
ヲ取り之ヲ
蒸溜水 八分
中ニ漸次注加シ冷後更ニ蒸溜水ヲ和シ稀釋シ比重 1.06)ト
ナシ製スヘシ
- 二 本品ハ無色澄明ノ液ニシテ 10% ノ純硫酸(H₂SO₄ = 98.1)ヲ含有ス
- 三 本品ノ試験ハ硫酸ノ條ニ據ル所ニ準據スヘシ
- 四 本品 10cc ニ同容量ノ水ヲ和シテ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液 218cc」ヲ費ササルヘカラス(標示藥メチルオレンヂ液溶)
- 五 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ
Acidum tannicum
〇タンニン酸
- 一 タンニン酸ハ白色或ハ類黄色ノ輕キ無晶形ノ粉末或ハ殆

- ト無色光輝アル鬆疎ノ鱗屑片ニシテ微ニ特異ノ臭氣ヲ有シ味甚タ澁ク水・アルコール又グリセリン」ニ容易ニ溶解シ水溶液ハ酸性ノ反應ヲ徵ス「クロロホルム並ベンゾール」ニ殆ト溶解セス
- 二 本品ノ水溶液(1+4)ニ硫酸或ハ食塩飽和溶液ヲ加フレハ沈澱ヲ生シ塩化第二鉄溶液ヲ和スレハ硫酸ニ由テ再ヒ溶解スヘキ藍黑色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品ノ水溶液(1+4) 2cc ニ「アルコール 2cc」ヲ和スルニ澄明ニ止マリ更ニ「エーテル 1cc」ヲ加フルニ微蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 四 本品ヲ 100° ニ於テ乾燥スルニ 12% 以上ノ重量ヲ減失スヘカラス
- 五 本品ヲ燃化スルニ 0.3% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 六 光ヲ遮リ密閉シ貯フヘシ
Acidum tartaricum
〇酒石酸
C2H2(OH)2(COOH)2 = 150.0
- 一 酒石酸ハ無色透映柱狀ノ結晶或ハ白色ノ結晶性粉末ニシテ一分ノ水・四分ノ「アルコール又二百五十分ノ「エーテル」ニ溶解シ「クロロホルム並ベンゾール」ニ殆ト溶解セス

- 熱灼スレハ砂糖ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ放ツ
- 二 本品ノ水溶液(1+2)ニ醋酸カリ溶液ヲ加フレハ結晶性ノ沈澱ヲ生シ又過剩ノ石灰水ヲ加フレハ初メ絮狀ニシテ後結晶性ニ變スル沈澱ヲ生ス此沈澱ハ塩化アンモン溶液並ナトロン瀉液ニ溶解シ其ナトロン瀉液ヲ煮沸スレハ凝膠様ノ沈澱ヲ生シ冷ユレハ復タ溶解ス
- 三 本品ノ水溶液(1+9)ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス又アンモニア水ヲ加ヘテ殆ト中和シタルモノハ稀酸アンモン溶液並硫酸カルシウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 四 本品 5g」ヲ水 10cc ニ溶解シ之ニ「アンモニア水 13cc」ヲ和シタルモノハ醋酸 2cc」ヲ加ヘタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ染色スルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ
- 五 本品ヲ燃化スルニ 0.1% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 六 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ
Acidum trichloroaceticum
トリクロル醋酸
CCl3CO2H = 163.4
- 一 トリクロル醋酸ハ無色潮解性ノ結晶ニシテ微弱ノ刺戟性臭氣ヲ有シ水ニ溶解シ強酸性ノ反應ヲ徵ス「アルコール並

- エーテル」ニ容易ニ溶解シ約55°ニ於テ熔融シ約195°ニ於テ沸騰ス熱スレハ殆ト全ク揮散ス
- 二 本品1gニ「カリ滴液3ccヲ加ヘテ熱スレハ「クロロホルム」ノ臭氣ヲ發ス
- 三 本品ノ水溶液(1+9)10ccニ十分定規硝酸銀液二滴ヲ加フルニ微蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 四 本品ノ除濕器内ニ於テ乾燥セルモノ0.5gヲ水20ccニ溶解シタルモノヲ中和スルニハ十分定規カリ液30.5ccヲ費スニ過クヘカラス(標示藥フェノールフタレイン溶液)
- 五 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

Adeps benzoatus

安息香豚脂

- 一 安息香豚脂ハ
豚脂 五十分
ヲ取り之ニ
安息香細末 一分
乾燥硫酸ソーダ 三分
ノ密ニ研和セルモノヲ加ヘ重湯煎上ニ於テ熔和シ屢々攪拌シツツ一時間温メ濾過シ製スヘシ

Adeps Lanae anhydricus

脱水ラノリン

- 一 脱水ラノリン」ハ羊毛ヨリ採集シ精製シタル無水ノ脂肪ナリ
- 二 本品ハ淡黄色軟膏様ノ塊ニシテ殆ト臭氣ナク約40°ニ於テ熔融ス「エーテル・クロロホルム・石油ベンジン又熱純アルコール」ニ溶解シ水ニ溶解セス又水ニ倍量ヲ混和スルモ尙軟膏様ノ稠度ヲ失ハス
- 三 本品ノ「クロロホルム溶液(1+4)1ccヲ注意シテ硫酸2cc上ニ注キ二液層トナスニ其接界ニ於テ褐赤色ノ輪帶ヲ生シ硫酸ハ綠色ノ螢石彩ヲ現ハス
- 四 本品2gニ「アルコール5ccヲ加ヘ脂肪ノ溶解スルニ至ル迄温メ之ニ「エーテル10ccヲ加ヘテ溶解シ「フェノールフタレイン溶液二滴ヲ和スルニ其溶液無色ニ止マリ之ニ十分定規カリ滴0.3ccヲ加フルニ紅色ヲ呈セサルヘカラス
- 五 本品10gニ水50ccヲ和シ重湯煎上ニ於テ絶ヘス攪拌シツツ熔融セシメタル後冷却スルニ淡黄色ノ脂肪層ヲ析出シ其下層ノ水液ハ澄明ニシテ中性ノ反應ヲ徴シ其10ccヲ蒸發スルニ甘味ヲ有スル残留物ヲ遺スヘカラス又其10ccニ十滴ノ「ナトロン滴液ヲ加ヘテ熱スルニ赤色リトマス紙ヲ

- 青變スル蒸氣ヲ發生スヘカラス又其水液ノ濾過シタルモノ10ccニ過マガリン酸カリ溶液二滴ヲ加フルニ其赤色少クモ十分間持續セサルヘカラス

- 六 本品1gニ純アルコール30ccヲ加ヘテ煮沸シ冷後濾過シテ得タル液ニ硝酸銀ノ「アルコール溶液(1+19)ヲ注クニ濁濁スルコトアルモ温ムレハ復々澄明トナリ或ハ微ニ蛋白石濁ヲ遺スニ過クヘカラス
- 七 本品ヲ100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコトアルモ0.5%ニ過クヘカラス
- 八 本品ヲ熱灼スルニ固性物ヲ残留スルコトアルモ0.1%ニ過クヘカラス此残留物ハ水ヲ以テ濡ホセル赤色リトマス紙ヲ青變スヘカラス

Adeps Lanae Cum Aqua

ラノリン

- 一 ラノリン」ハ
脱水ラノリン 七十五分
蒸溜水 二十五分
ヲ取り混和シ製スヘシ
- 二 本品ハ帶黄白色軟膏様ノ塊ニシテ殆ト臭氣ナク重湯煎上ニ温ムレハ熔融シテ澄明ナル水液及油層ニ分離ス

- 三 本品ヲ攪拌シツツ重湯煎上ニ乾燥シテ得タル脂肪ノ試験ハ脱水ラノリン」ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ
- 四 本品ヲ100°ニ於テ乾燥スルニ其減失量2.5%ニ過クヘカラス

Adeps sullus

豚脂

- 一 豚脂ハ豚ノ新鮮ニシテ洗淨セル脂肪組織ヨリ熔出シ水分ヲ除去シテ得タル脂肪ナリ
- 二 本品ハ白色柔軟全質均等ノ塊ヲナシ臭氣ハ微弱特異ニシテ敗油性ナラス43°~49°ニ於テ熔融シテ澄明ノ液トナリ其液ハ厚サ1cm以下ノ層ニ於テハ無色ナリ「ヨード數50~80・酸度2以下ナリ
- 三 本品2gニ「カリ滴液3cc及アルコール2gヲ加ヘ其混液ノ澄明トナルニ至ル迄煮沸シ之ニ水30cc及アルコール10gヲ和スルニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 四 本品5gヲ試験管ニ取り之ニ硝酸銀0.05gヲ「エーテル3cc・アルコール12cc及稀硝酸二滴ニ溶解シテ得タル溶液ヲ和シ十五分間重湯煎中ニ熱スルニ褐色或ハ黑色ヲ呈スヘカラス

Aether

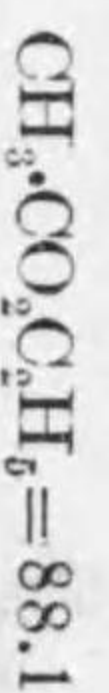
エーテル



- 一 エーテル」ハ無色透明揮散シ易キ液ニシテ点火シ易ク中性ノ反應ヲ微シ特異ノ氣味ヲ有ス水ニ僅ニ溶解シ「アルコール並脂肪油ニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ35°ニ於テ沸騰ス比重 0.720~0.722 ナリ
- 二 本品ヲ濾紙上ニ點滴シテ揮散セシムルニ臭氣ヲ遺スヘカラス又本品 10ccヲ重湯煎上ニ蒸發スルニ殘留物ヲ遺スヘカラス
- 三 本品 5ccヲ皿上ニ取り自然ニ揮散セシメ濕潤セル内面ニ青色リトマス紙ヲ接スルニ赤變又ハ褪色スヘカラス
- 四 本品 20ccヲ新タニ破碎セル豌豆大ノ苛性カリ約 5g上ニ撒注シ密閉シ光ヲ遮リ放置スルニ三十分以内ニ其苛性カリ並エーテル染色スヘカラス
- 五 本品 10ccヲ壘ニ取り之ニ「ヨードカリ溶液 1ccヲ加ヘ殆ト全滿密閉シ屢々振盪シ光ヲ遮リ放置スルニ一時間以内ニ染色スヘカラス
- 六 壘中ニ容レ密栓シ冷暗處ニ貯フヘシ

Aether aceticus

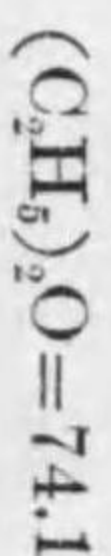
醋酸エチル



- 一 醋酸エチル」ハ無色透明揮發性ノ液ニシテ特異爽快清涼ノ香氣ヲ有シ「アルコール・エーテル又クロロホルム」ニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ74°~77°ニ於テ沸騰ス比重 0.900~0.906 ナリ
- 二 本品ハ濕潤セル青色リトマス紙ヲ直チニ赤變スヘカラス
- 三 本品ヲ濾紙上ニ點滴シテ揮散セシムルニ異種ノ「エーテル臭ヲ放ツヘカラス又重湯煎上ニ蒸發スルニ殘留物ヲ遺スヘカラス
- 四 本品ヲ注意シテ同容量ノ硫酸上ニ注キ二液層トナスニ十分以内ニ其接界ニ於テ染色セル輪帶ヲ生スヘカラス
- 五 本品 10ccニ水同容量ヲ加ヘテ強ク振盪スルニ水ノ容量ヲ増スコト 1ccニ過クヘカラス
- 六 壘中ニ容レ密栓シ冷暗處ニ貯フヘシ

Aether pro narcosi

麻醉用エーテル



- 八 褐色小壘中ニ殆ト全滿シ硝子栓ヲ以テ密閉シ若クハ褐色硝子管中ニ熔閉シ冷暗處ニ貯フヘシ

Aethylum aminobenzoicum

アミノ安息香酸エチル



- 一 アミノ安息香酸エチル」ハ白色細微ノ結晶性粉末ニシテ微ニ苦味ヲ有シ舌上鈍麻ノ感ヲ起ス水ニ溶解シ難ク熱湯ニ較々溶解シ其水溶液ハ中性ノ反應ヲ徵ス「アルコール・エーテル・クロロホルム又ベンゾール」ニ容易ニ溶解シ五十分ノ「オレフ油」ニ溶解ス熔融點 90°~91° ナリ
- 二 本品 0.1gヲ水 2ccニ稀塩酸三滴ヲ添加シタル液ニ溶解シ之ニ亞硝酸ソーダ溶液三滴及ベタナフトール 0.01gヲ二倍量ノ水ヲ以テ稀釋シタル「ナトロン滴液 0.5cc」ニ溶解シタル液ノ二滴ヲ和スレハ橙赤色ヲ呈ス
- 三 本品ノ「アルコール溶液 (1+9)」ハ硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ニ由テ變化セス又本品 0.5gヲ定規塩酸 0.5ccニ溶解シタモノハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス
- 四 本品 0.2gヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

- 一 麻醉用エーテル」ハ無色透明揮散シ易キ液ニシテ点火シ易ク中性ノ反應ヲ微シ特異ノ氣味ヲ有ス水ニ僅ニ溶解シ「アルコール並脂肪油ニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ35°ニ於テ沸騰ス比重 0.720 ナリ
- 二 本品ヲ濾紙上ニ點滴シテ揮散セシムルニ臭氣ヲ遺スヘカラス又本品 2ccヲ重湯煎上ニ蒸發スルニ殘留物ヲ遺スヘカラス
- 三 本品 20ccヲ皿上ニ取り自然ニ揮散セシメ濕潤セル内面ニ青色リトマス紙ヲ接スルニ赤變又ハ褪色スヘカラス
- 四 本品 20ccヲ新タニ破碎セル豌豆大ノ苛性カリ約 5g上ニ撒注シ密閉シ光ヲ遮リ放置スルニ六時間以内ニ其苛性カリ並エーテル染色スヘカラス
- 五 本品 10ccヲ壘ニ取り之ニ「ヨードカリ溶液 1ccヲ加ヘ殆ト全滿密閉シ屢々振盪シ光ヲ遮リ放置スルニ三時間以内ニ染色スヘカラス
- 六 本品 10ccニ「ネスレル試薬 1ccヲ和シ振盪スルニ微蛋白石濁ヲ呈スルニ止マルヘシ
- 七 本品 20ccニ水 5ccヲ加ヘテ強ク振盪シタル後水ヲ分離シ之ニ「ナトロン滴液 1cc及ニトロプルシッドソーダ溶液 五滴ヲ加ヘ直チニ之ニ醋酸 1.5ccヲ加ヘテ酸性トナスニ類赤色或ハ紫色ヲ呈スヘカラス

五 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

Aethylum bromatum

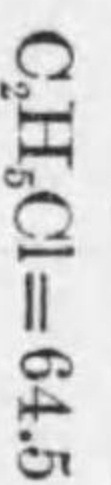
ブロムエチル



- 一 ブロムエチルハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ強ク光線ヲ屈折シ中性ノ反應ヲ微シ佳快エーテル様ノ香氣ヲ有シ水ニ混和セス「アルコール竝エーテル」ニ澄明ニ混和シ 30°ニ於テ沸騰ス比重 1.450~1.454 ナリ
- 二 本品 5ccヲ同容量ノ硫酸ト共ニ内徑 3cmノ共栓硝子圓筒中ニ屢々振盪スルニ其硫酸一時間以内ニ染色スヘカラス
- 三 本品 5ccヲ皿上ニ取り自然ニ揮散セシムルニ蒜臭ヲ放タス又重湯煎上ニ蒸發スルニ殘留物ヲ遺スヘカラス
- 四 本品 5ccヲ水同容量ト共ニ數秒間振盪シタル後迅速ニ水液 25ccヲ分取シ之ニ硝酸銀溶液一滴ヲ加フルニ少クモ五分間澄明ニ止マルヘシ
- 五 褐色小壘中ニ殆ト全滿シ密栓シ冷暗處ニ注意シテ貯フヘシ

Aethylum chloratum

クロルエチル



- 一 クロルエチルハ無色澄明揮散シ易キ液ニシテ特異ノ氣味ヲ有シ水ニ僅微ニ・アルコール竝エーテル」ニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス點火スレバ綠色ノ邊縁ヲ有スル火焰ヲ放テ燃燒ス零度ニ於ケル比重約 0.921・沸騰點 12°~12.5°ナリ
- 二 本品 5ccニ零度ノ水同容量ヲ和シテ振盪スルニ水液ハ青色リトマス紙ヲ赤變セス又之ニ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸銀溶液一滴ヲ和スルニ變化スヘカラス
- 三 本品 5ccヲ皿上ニ取り自然ニ揮散セシムルニ固性物ヲ遺サス其際蒜臭ヲ放ツヘカラス
- 四 硝子器中ニ密閉シ光ヲ遮リ冷暗處ニ注意シテ貯フヘシ

Aethylmorphinum hydrochloricum

塩酸エチルモルヒネ



- 一 塩酸エチルモルヒネハ白色細微ノ針狀結晶或ハ結晶性粉末ニシテ臭氣ナク微ニ苦味ヲ有シ十二分ノ水ニ溶解シ中性ノ反應ヲ微ス又二十五分ノ「アルコール」ニ溶解シ「エーテル」竝ク「ロホルム」ニ殆ト溶解セス本品ハ約 119°ニ於テ軟化シ始メ 122°~123°ニ於テ全ク溶融ス
- 二 本品 0.01gヲ硫酸 10ccニ和スレハ塩酸ガス」ヲ發シテ無色ニ溶解ス之ニ塩化第二鉄溶液一滴ヲ和シ微温ヲ與フレ

ハ綠色ヲ呈シ漸次深藍色トナル更ニ硝酸二三滴ヲ和スレハ深赤色ニ變ス又本品ノ水溶液(1+19)ハ硝酸銀溶液竝カリ滴液ニ由テ沈澱ヲ生ス

- 三 本品ノ水溶液(1+99) 1ccニ赤血塩一小粒ヲ水 10ccニ溶解シ之ニ塩化第二鉄溶液一滴ヲ和シタルモノヲ注加スルニ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 四 本品 0.1gヲ水 2ccニ溶解シ之ニ「アンモニア水一二滴ヲ和スルニ白色ノ沈澱ヲ生シ更ニ「アンモニア水十乃至十五滴ヲ和スルニ溶解セス此沈澱ヲ濾別シ水ヲ以テ洗滌シ乾燥シタルモノハ 89°~90°ニ於テ熔融スヘシ
- 五 本品 0.2gヲ 110°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 0.019gニ過クヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 六 注意シテ貯フヘシ

Agar-Agar

寒 天

一 寒天ハ晒白シタル Gelidium Amansii Yamourou(テングサ)其他 Gelidium 屬若クハ他ノ諸種紅藻類植物ヨリ得タ

寒天・アガリチン

ル粘漿ヲ凍結脱水セシメ乾燥セルモノナリ

- 二 本品ハ類白色透映ニシテ多少光澤ヲ帯ヒ表面皺縮セル四稜柱體若クハ線狀ヲナシ其實輕鬆ニシテ強靱ナリ
- 三 本品 1gヲ 100ccノ水ト共ニ煮沸スレハ僅少ノ不溶物ヲ遺シテ溶解シ多少潤濁セル粘漿ヲ生シ冷後半透明ノ凝膠トナル
- 四 前項ノ本品粘漿ハ青色リトマス紙ヲ赤變スヘカラス又其 3ccニ一滴ノ「ヨード溶液ヲ加フルニ黄色ニ止マリ直チニ脱色セス更ニ 0.5ccノ「ヨード溶液ヲ加フルニ濃紫色ヲ呈セサルヘカラス
- 五 本品ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 20%ニ過クヘカラス
- 六 本品ヲ灰化スルニ 4.5%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Agaricinum

アガリチン



一 アガリチンハ白色結晶性ノ粉末ニシテ臭味ナク水ニ僅微ニ溶解シ温湯ニ膨脹シ熱湯ニ甚シク泡沫ヲ生シテ澄明ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微ス此液ヲ冷却スレハ著シク潤濁ス百八十分ノ「アルコール」竝十分ノ熱アルコール」ニ溶解シ温湯

醋酸並温テレピン油ニ較ミ溶解シ易ク「エーテル」ニ僅微ニ溶解シ「クロロホルム」ニ殆ト溶解セス「カリ滴液並アンモニア水ニ溶解シテ澄明ノ液トナリ之ヲ振盪スレハ甚シク泡沫ヲ生ス

二 本品ノ 100°ニ乾燥シタルモノハ約 140°ニ於テ熔融シ較ミ強ク熱スレハ白霧ヲ發シテ炭化シ脂肪ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ發ス

三 本品 0.1gニ稀硫酸 10ccヲ和シテ熱スレハ溷濁セル溶液ヲ生シ重湯煎中ニ放置スルニ其液中ヨリ油滴ヲ析出シ其油滴ハ冷却ノ際結晶性ニ凝固スヘシ

四 本品 0.2gヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

五 注意シテ貯フヘシ
一回ノ極量 0.1g

Alcaloidum Opii hydrochloricum
阿片アルカロイド塩酸塩

一 阿片アルカロイド塩酸塩ハ阿片ヨリ得タル總アルカロイドノ塩酸塩ナリ

二 本品ハ淡褐色乃至淡紅色ノ粉末ニシテ約十分ノ水ニ溶解シテ赤褐色ノ溶液トナリ味苦ク振盪スレハ泡發シ青色リト

マス紙ヲ赤變ス本品一分ニ「アルコール 50cc」ヲ加ヘテ温ムレハ澄明淡褐色ノ溶液トナル「エーテル並クロロホルム」ニ溶解セス

三 本品ハ 45~50%ノ純モルヒネ (C₁₇H₁₇NO₃ = 285.3)ヲ含有ス

四 本品ノ水溶液ニ醋酸ソーダ溶液ヲ加フレハ絮狀ノ沈澱ヲ生ス又本品ノ微量ヲ硫酸五滴ニ溶解シ重湯煎上ニ加温シ冷後痕跡ノ硝酸ヲ加フレハ血赤色ヲ呈ス又本品ノ水溶液ハ硝酸銀溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス

五 本品ノ水溶液 (1+10) 10ccヲ分液漏斗ニ取り之ニ重炭酸ソーダ 0.2gヲ加ヘタル後クロロホルム四分ニ石炭酸一分ヲ溶解セルモノ 10ccヲ加ヘテ數分間振盪シ沈澱ノ沈定スルヲ俟テ「クロロホルム石炭酸溶液」ヲ流下セシメ水液ニ「エーテル 10cc」ヲ加ヘテ善ク振盪シ靜置後水液 5ccヲ取り塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシ塩化第二鉄溶液一滴ヲ和スルニ赤色ヲ呈スヘカラス

六 本品ノ生石灰上ニ於テ乾燥シタルモノ 0.5gヲ硝子皿ニ取り之ニ水 0.5gヲ加ヘ微ニ加温シテ溶解シ此溶液ヲ豫メ乳棒ト共ニ秤量セル小蒸發皿中ニ於テ生石灰 1.2gニ水 0.5ccヲ注キテ粉末トナセルモノニ注加シ善ク研和シタル後硝子皿ヲ洗滌セル 20ccノ水ヲ以テ稀釋シ三十分間靜置シタル

後更ニ水ヲ加ヘテ内容ノ重量ヲ 31.2gトナシ能ク混和シ直徑 7cmノ乾燥濾紙ヲ以テ濾過シ其濾液 25gヲ内容約 50cc

ノ共栓硝子圓筒中ニ取り之ニ「アルコール 25cc」エーテル 12.5ccヲ加ヘテ振盪シ更ニ塩化アンモン 0.3gヲ加ヘテ十分間強ク振盪シ十二乃至十八時間靜置シタル後先ツ「エーテル層」ヲ直徑 5cmノ濾紙上ニ傾瀉シ圓筒中ノ水液ニ更ニ

「エーテル 10cc」ヲ加ヘテ暫時振盪シタル後エーテル層ヲ再ヒ濾紙上ニ傾瀉シ濾紙ノ乾燥スルヲ俟テ其上ニ圓筒中ノ水液ヲ其壁ニ附著セル結晶ニ顧慮スルコトナク注入シ圓筒ヲ

「エーテル飽和水 12cc」ヲ以テ逐次三回洗滌シ其洗液ハ毎回濾紙上ニ注入シ濾紙及圓筒ヲ初メ微温次ニ 96°~100°ニ於テ乾燥シタル後結晶ヲ十分定規塩酸 10ccニ溶解シ之ニ

濾紙及圓筒ヲ洗滌セル洗液ヲ加ヘ尙水ヲ注加シテ約 50ccトナシ之ニ「メチルロート溶液」二滴ヲ和シ十分定規カリ液ヲ滴加シテ過剩ノ酸ヲ中和スルニ該液ヲ費スコト 1.24~2.12ccナラサルヘカラス

七 本品ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト約 9%ヲ超ユヘカラス

八 本品 0.2gヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

九 壘中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.03g
一日ノ極量 0.10g

Alcohol
アルコール

一 「アルコール」ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ微シ特異竄透性ノ香氣ヲ有シ味灼クカ如ク點火スレハ淡藍色ノ火焰ヲ放テ燃燒ス比重 0.830~0.831ナリ

二 本品ハ 90.09~91.29% 或ハ 85.80~87.35%ノ純エチルアルコール (C₂H₅OH = 46.0)ヲ含有ス

三 本品ハ異臭ヲ有セス又水ニ隨意ノ比例ニ於テ澄明ニ混和スヘシ

四 本品 10ccニ水同容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノニ硝酸銀溶液 1cc及アンモニア水五滴ヲ和シ暗處ニ放置スルニ五分以內ニ變化スヘカラス

五 本品 10ccニ「カリ滴液 0.2cc」ヲ加ヘ蒸散セシメ約 1ccトナルニ至リ稀硫酸ヲ以テ過飽スルニ「フーゼル油」ノ臭氣ヲ發スヘカラス

六 本品 5ccヲ豫メ硫酸 5ccヲ容レタル試験管中ニ注意シテ注キ二液層トナシ放置スルニ十五分以內ニ其境界ニ於テ蔷薇紅色ノ輪帶ヲ生スヘカラス又之ヲ靜ニ混和セシメタル

- 後更ニ十五分間放置スルモ染色スヘカラス
- 七 本品 10ccニ過マンガン酸カリ溶液 1ccヲ加ヘタルモノハ二十分以内ニ黄色ニ變スヘカラス
 - 八 本品ハ「メチルアルコール並アセトン」ヲ含有スヘカラス其檢出ハ一般試験法ニ掲クル方法ニ據ルヘシ
 - 九 本品ハ硫化ソーダ溶液三滴並アンモニア水ニ由テ染色スヘカラス
 - 一〇 本品 10ccニ硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液各二滴ヲ和スルニ五分以内ニ變化スヘカラス
 - 一一 本品 5ccヲ重湯煎上ニ揮散セシムルニ秤定シ得ヘキ殘留物ヲ遺スヘカラス
 - 一二 壺中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Alcohol absolutus

純アルコール



- 一 純アルコールハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ徴シ特異竄透性ノ香氣ヲ有シ味灼クカ如ク 78°~79°ニ於テ沸騰シ水・エーテル・クロロホルム又ベンゾールニ隨意ノ比例ニ於テ澄明ニ混和ス比重 0.796~0.797 ナリ
- 二 本品ハ 99.46~99.66% 或ハ 99.11~99.44%ノ純エチ

ルアルコールヲ含有ス

- 三 本品ハ異臭ヲ有セス又水ニ澄明ニ混和スヘシ又本品 10ccニ水同容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノニ硝酸銀溶液 1ccヲ和シ其混液ニ「アンモニア水ヲ加ヘテ初メ生シタル沈澱ノ溶解スルニ至リ暗處ニ放置スルニ十二時間以内ニ變化スヘカラス
- 四 本品 10ccニ「カリ滴液 0.2ccヲ加ヘ蒸散セシメテ約 1ccトナルニ至リ稀硫酸ヲ以テ過飽スルニ「フーゼル油ノ臭氣ヲ發スヘカラス
- 五 本品 5ccヲ豫メ硫酸 0.5ccヲ容レタル試験管中ニ注意シテ注キ二液層トナシ永ク放置スルモ其境界ニ於テ薔薇紅色ノ輪帶ヲ生スヘカラス
- 六 本品 10ccニ過マンガン酸カリ溶液 1ccヲ加ヘタルモノハ二十分以内ニ黄色ニ變スヘカラス
- 七 本品ハ「メチルアルコール並アセトン」ヲ含有スヘカラス其檢出ハ一般試験法ニ掲クル方法ニ據ルヘシ
- 八 本品 5ccハ「アンモニア水ニ由テ染色セス又水 1ccヲ和シタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス
- 九 本品 10ccヲ重湯煎上ニ蒸散セシムルニ秤定シ得ヘキ殘留物ヲ遺スヘカラス
- 一〇 壺中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Alcohol dilutus

稀アルコール

- 一 稀アルコールハ 七分
- アルコール 三分
- 蒸溜水
- ヲ取り混和シ製スヘシ
- 二 本品ハ無色澄明ノ液ニシテ 60~61%ノ純エチルアルコール (C₂H₅OH = 46.0)ヲ含有ス比重 0.893~0.896 ナリ
- 三 本品ノ試験ハ「アルコール」ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ
- 四 壺中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Aloe

ロカイ

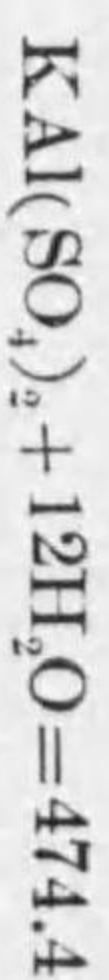
- 一 「ロカイ」ハ「アフリカ」ニ産スル Aloe ferax Miller 其同屬諸種植物ノ葉ヨリ採集セル津液ヲ煎稠シテ得タルモノナリ
- 二 本品ハ暗褐色ノ塊ヲナシ破碎シ易ク其碎片ハ透明ニシテ貝殼狀ヲナシ銳稜ヲ現ハシ硝子様ノ光澤ヲ帶ヒ類赤色乃至淡褐色ヲ有シ顯微鏡下ニ檢スルニ結晶性ヲ呈セス臭氣ハ特

異ニシテ味ハ苦シ

- 三 本品 0.1gニ水 10ccヲ加ヘ煮沸シテ溶解シ硼砂 0.1gヲ加フレハ類綠色ノ螢石彩ヲ現ハシ水 100ccヲ加ヘテ稀釋スルニ益々著シ
- 四 本品 0.5gニ「クロロホルム 10ccヲ加ヘテ煮沸シ或ハ「エーテル 10ccヲ加ヘテ加温スレハ其液ハ微ニ類黄色ヲ呈スルニ止マリ其エーテル液ハ之ヲ蒸散セシムルニ微黄色粘著性ノ殘渣ヲ遺スコト 0.005gニ過クヘカラス
- 五 本品五分ニ水六十分ヲ加ヘテ煮沸スレハ殆ト澄明ノ液ヲ生シ其溶液ヲ冷却セシムルニ約三分ヲ析出スヘシ又本品一分ニ「アルコール五分ヲ和シ加熱シ濾過シテ得タル溶液ハ冷後溷濁ヲ生スヘカラス
- 六 本品ノ碎片ニ硝酸ヲ注ケハ三分以内ニ其周邊ニ微ニ類綠色ヲ生スルニ止マリ赤色ヲ呈スヘカラス
- 七 本品ヲ灰化スルニ 1.5%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 八 本品ノ粉末ヲ製スルニハ充分ニ乾燥セルモノヲ用フヘシ

Alumen

明礬



- 一 明礬ハ無色透映堅硬ナル正整八面晶或ハ白色結晶性粉末

ヲナシ屢ニ表面ニ白色ノ粉霜ヲ帶フ其味微甘ニシテ收斂性ナリ十一分ノ水ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微シ「アルコール」ニ殆ト溶解セス熱スレハ熔融シ次ニ甚シク膨起シ終ニ白色鬆疎ノ塊トナル

二 本品ノ水溶液ニ「ナトロン」滴液ヲ和スレハ凝膠様ノ白色ノ沈澱ヲ生シ其過剩ヲ加フレハ溶解ス更ニ過剩ノ塩化アンモン溶液ヲ和スレハ復タ白色ノ沈澱ヲ生ス又本品ノ飽和溶液ニ酒石酸溶液ヲ加ヘ強ク振盪スレハ三十分以内ニ結晶性ノ沈澱ヲ生シ又硝酸バリウム溶液ヲ加フレハ稀酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス

三 本品ノ水溶液(1+10)ハ無色殆ト澄明ニシテ之ニ同容量ノ十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ和スルニ五分以内ニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス

四 本品ノ水溶液(1+10)5ccハ醋酸三滴ヲ和シタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス又塩酸二滴ヲ加ヘタルモノハ黄血塩溶液0.5ccニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス

五 本品1gニ水1cc及ナトロン滴液5ccヲ和シテ熱スルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス

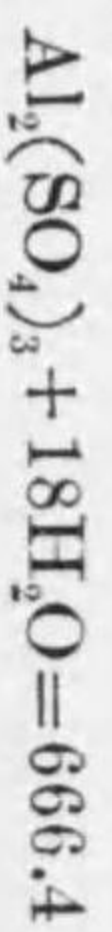
Alumen ustum

燒明礬 枯礬

一 燒明礬ハ白色ノ粉末ニシテ三十分ノ水ニ徐々ニ殆ト全ク溶解ス
二 本品ノ水溶液(1+30)ノ試験ハ明礬ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ
三 本品ヲ弱ク熱灼スルニ其重量ヲ減失スルコト10%ニ過クヘカラス
四 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Aluminium sulfuricum

硫酸アルミニウム



一 硫酸アルミニウムハ白色結晶性ノ塊片ニシテ一・二分ノ水ニ溶解シ熱湯ニ極メテ溶解シ易ク酸性ノ反應ヲ微シ「アルコール」ニ殆ト溶解セス味ハ酸ク且澁シ

二 本品ノ水溶液ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ稀酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス又ナトロン滴液ニ由テ白色凝膠様ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ヲ過剩ノ「ナトロン」滴液ニ溶解シテ得タル液ニ多量ノ鹽化アンモン溶液ヲ和スレハ再ヒ沈澱ヲ析出ス

三 本品ノ水溶液(1+9)ノ濾過セルモノハ無色ニシテ醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ヲ和スルニ變化セス又其水溶液ニ

同容量ノ十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ和スルニ五分以内ニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス

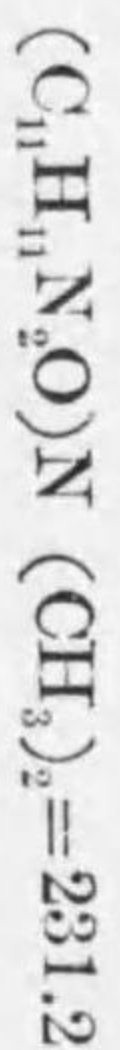
四 本品ノ水溶液(1+10)ニ塩酸二滴ヲ加ヘタルモノハ黄血塩溶液0.5ccニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス

五 本品ノ100°ニ於テ乾燥セル粉末1gニ塩化第一錫溶液3ccヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス

Aminopyrinum Dimethylaminocetylpyrinum

Oアミノピリン

ヂメチルアミノアンチピリン



一 アミノピリンハ白色細小ノ結晶ニシテ微ニ苦味ヲ有シ100°ニ於テ熔融ス二十分ノ水ニ溶解シ微ニ「アルカリ性」ノ反應ヲ微シ「アルコール」ニ容易ニ又エーテルニ溶解ス
二 本品ノ水溶液ハ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後塩化第二鐵溶液ヲ和スレハ藍紫色ヲ呈ス又硝酸銀溶液ニ由テ紫色ヲ呈シ暫時ノ後灰黑色ノ沈澱ヲ生ス
三 本品ノ水溶液(1+20)ハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化セス又稀硫酸1ccヲ加ヘタル後硝酸銀溶液一滴ニ由テ變化スヘカラス
四 本品0.02gヲ水5ccニ溶解シ之ニ硫酸二滴及亞硝酸ソー

ダ溶液二滴ヲ和スルニ藍紫色ヲ呈シ振盪スルニ無色トナラサルヘカラス

五 本品0.02gヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

六 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.3g

一日ノ極量 1.0g

Ammonium bromatum

ブロムアンモン



一 ブロムアンモンハ白色ノ結晶或ハ結晶性粉末ニシテ一・五分ノ水粒約三十分ノ「アルコール」ニ溶解シ熱スレハ全ク揮散ス

二 本品ノ100°ニ於テ乾燥シタルモノハ98.7%以上ノ純ブロムアンモンヲ含有ス

三 本品ノ水溶液ニ少量ノ塩素水及クロロホルムヲ加ヘテ振盪スレハ其クロロホルムハ赤褐色ヲ呈シ又ナトロン滴液ヲ和シテ熱スレハ「アンモニア」ヲ發生ス

四 本品ノ粉末少量ヲ白色ノ磁皿ニ取り之ニ稀硫酸二三滴ヲ注クニ直チニ黄色ヲ呈スヘカラス

- 五 本品ノ水溶液(1+19)ハ無色澄明ニシテ微弱ナル酸性液反應ヲ徴シ硝酸バリウム溶液・稀硫酸又修酸アンモン溶液ニ由テ又醋酸三滴ヲ和シタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化セス又塩酸二滴ヲ加ヘタルモノハ黃血塩溶液0.5%ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品ノ水溶液(1+19)10%ニ塩化第二鉄溶液三滴及少量ノ澱粉溶液ヲ和スルニ十分以内ニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 七 本品ノ100%ニ於テ乾燥シタルモノ3gヲ水500ccニ溶解シ其溶液50ccニ「クロム酸カリ溶液三滴ヲ加ヘ次ニ十分定規硝酸銀液ヲ滴加シテ復タ消失セサル赤色ヲ呈スルニハ其銀液30.2~30.9%ヲ費ササルヘカラス
- 八 本品ヲ100%ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト1%ヲ過クヘカラス又之ヲ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

Ammonium carbonicum

炭酸アンモン

- 一 炭酸アンモンハ無色透映緻密堅硬ナル纖維狀結晶性ノ塊或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ強キ「アンモニア臭ヲ有シ氣中ニ於テ風化シテ不透映白色トナリ熱ニ逢ウテ揮散ス約五分ノ水ニ徐々ニ全ク溶解シ「アルカリ性ノ反應ヲ徴シ稀

- 酸類ニ劇シク泡沸シテ溶解ス
- 二 本品ノ水溶液(1+19)ハ醋酸ヲ和シテ酸性トナシタル後硫化ソーダ溶液三滴・硝酸バリウム溶液又修酸アンモン溶液ニ由テ變化セス又塩酸ヲ以テ過飽シタル後塩化第二鉄溶液ニ由テ赤色ヲ呈セス又硝酸銀溶液ノ數滴ヲ和シタル後硝酸ノ過剩ヲ注クニ褐色ヲ呈セス或ハ二分以内ニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 三 本品1%ニ硝酸ヲ加ヘテ過飽シ重湯煎上ニ蒸發スルニ白色ノ殘留物ヲ得ヘシ此殘留物ハ熱スルニ全ク揮散セサルヘカラス
- 四 塚中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Ammonium chloratum

塩化アンモン 硝砂



- 一 塩化アンモンハ白色結晶性ノ粉末或ハ纖維狀ノ堅キ結晶塊ニシテ臭氣ナク氣中ニ於テ變化セス熱スレハ揮散シ三分ノ水並約等分ノ熱湯ニ溶解シ「アルコール」ニ溶解シ難ク其水溶液ハ微弱ノ酸性反應ヲ徴ス
- 二 本品ノ水溶液ニ硝酸銀溶液ヲ和スレハ「アンモニア水」ニ全溶スヘキ白色乾酪様ノ沈澱ヲ生ス又ナトロン滴液ヲ和シ

- テ熱スレハ「アンモニア」ヲ發生ス
- 三 本品ノ水溶液(1+19)ハ醋酸三滴ヲ添加シタル後硫化ソーダ溶液三滴・硝酸バリウム溶液又修酸アンモン溶液ニ由テ變化セス又其水溶液ハ塩酸一二滴ヲ和シタル後塩化第二鉄溶液ニ由テ赤色ヲ呈スヘカラス
- 四 本品ノ水溶液(1+19)ニ鹽酸二滴ヲ加ヘタルモノハ黃血塩溶液0.5%ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品1%ニ少量ノ硝酸ヲ加ヘ重湯煎上ニ蒸發シテ得タル殘留物ハ白色ナラサルヘカラス又之ヲ熱スルニ全ク揮散スヘシ

Ammonium sulfocithylicum

オイヒチオールスルホン酸アンモン

- 一 イヒチオールスルホン酸アンモンハ帶赤褐色シロツプ稠ノ液ニシテ焦性ノ臭氣ヲ有シ熱スレハ炭化シテ強ク膨起シ熱灼スレハ固性物ヲ殘サシテ燃化ス水ニ澄明ニ混和シ微ニ酸性ノ反應ヲ徴ス「アルコール」ニ著シク・エーテル竝石油ベンジン」ニ僅ニ溶解シ「アルコール及エーテル」各同容量ノ混液約一・五分ニ溶解シ其過剩ニ由テ少量ノ不溶分ヲ析出ス
- 二 本品ニ「カリ滴液ヲ和シテ熱スレハ「アンモニア」ヲ發

- 生シ更ニ此混和物ヲ熱シテ炭化シ之ニ稀塩酸ヲ加フレハ硫化水素ヲ發生ス
- 三 本品ノ水溶液(1+19)ニ塩酸ヲ和スレハ暗色樹脂様ノ物質ヲ沈降ス此沈澱ハ「エーテル」及「アルコール」各同容量ノ混液並水ニ溶解シ其水溶液ニ塩酸或ハ食塩ヲ加フレハ復タ析出ス
- 四 本品ノ水溶液(1+19)ハ重湯煎中ニ五分間熱スルニ變化スヘカラス
- 五 本品ノ水溶液(1+19)ニ稀硫酸ヲ和スルニ三十分以内ニ亞硫酸ノ臭氣ヲ放ツヘカラス
- 六 本品ノ水溶液(1+19)ニ硝酸ヲ加ヘ濾過シテ得タル液ハ硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液ニ由テ濁濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 七 本品ノ100%ニ於テ乾燥セルモノ0.5gニ硝酸カリ2g及乾燥炭酸ソーダ3gヲ混和シ注意シツツ燃化シテ得タル白色ノ熔塊ヲ溫湯ニ溶解シ塩酸ヲ以テ酸性トナシ之ニ塩化バリウム溶液ヲ加ヘテ得タル硫酸バリウム」ノ量ハ0.51~0.62%ナラサルヘカラス
- 八 本品ヲ100%ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト30%ニ過クヘカラス
- 九 本品ヲ燃化スルニ0.3%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Amylum nitrosum

亞硝酸アミル



- 一 亞硝酸アミルハ類黄色澄明揮發性ノ液ニシテ特異ノ香氣ヲ有シ其味芳香性ニシテ灼クカ如ク 97°~99°ニ於テ沸騰ス水ニ殆ト溶解セス「アルコール竝エーテル」ニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス點火スレハ光輝アル黄色ノ火焰ヲ放チ煤煙ヲ發シテ燃焼ス比重 0.87~0.88 ナリ
 - 二 本品ニ過剩ノ「カリ滴液ヲ和シテ煮沸スレハ「アミルアルコール」ノ臭氣ヲ放チ冷後之ニ「ヨードカリ」ヲ加ヘ醋酸ヲ以テ酸性トナセハ「ヨード」ヲ析出ス
 - 三 本品 5ccニ「アンモニア水 0.1cc 及水 1cc」ノ混液ヲ加ヘ振盪シテ得タル液ハ酸性ノ反應ヲ微スヘカラス又本品 1ccニ硝酸銀溶液・純アルコール各 1.5cc 及アンモニア水 2.3 滴ヨリ成レル混液ヲ加ヘテ微温ヲ與フルニ褐色或ハ黑色ヲ呈スヘカラス
 - 四 本品ハ冷却シテ零度ニ至ルモ變化スヘカラス
 - 五 内容 10cc 以内ノ小硝子器中ニ密閉シ木筒ニ納メ注意シテ冷暗處ニ貯フヘシ
- 一回ノ極量 0.2g

一日ノ極量 0.5g

Amylum Oryzae

米澱粉

- 一 米澱粉ハ米ヨリ得タル澱粉ナリ
- 二 本品ハ純白色無味無臭ノ粉末ニシテ冷水竝アルコールニ溶解セス五十分ノ水ニ攪和シ煮沸シテ放冷スレハ溷濁セル中性ノ糊液ヲ生ス
- 三 本品ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ多角形ニシテ直径 3~10μ 多クハ 4~6μ ノ小顆粒ヨリ成リ互ニ集團シテ大顆粒ヲナス核及紋理ヲ認メス
- 四 本品ヲ「グリセリン及ヨード溶液各等分ノ混液ヲ以テ顯微鏡下ニ裝シ檢スルニ顆粒ハ暗藍色ヲ呈ス若シ暗藍色ヲ呈セサル植物碎片ヲ混スルコトアルモ極メテ小數ニ止マルヘシ
- 五 本品ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 15%ニ過クヘカラス又本品ヲ灰化スルニ 1% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Amylum Puerariae

葛澱粉

- 一 葛澱粉ハ *Pueraria hirsuta Makamura* (クズ) ノ根ヨリ得タル澱粉ナリ
 - 二 本品ハ純白色無味無臭ノ粉末ニシテ冷水竝アルコールニ溶解セス五十分ノ水ニ攪和シ煮沸シテ放冷スレハ溷濁セル中性ノ糊液ヲ生ス
 - 三 本品ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ大小不同多クハ數箇ヨリ成レル顆粒ヲナシ直径 2~18μ 多クハ 8~12μ ナリ
 - 四 本品ノ試験ハ米澱粉ノ條ニ掲クル所ニ同シ
- Amylum Solani*
- 馬鈴薯澱粉
- 一 馬鈴薯澱粉ハ馬鈴薯ヨリ得タル澱粉ナリ
 - 二 本品ハ純白色無味無臭ノ粉末ニシテ冷水竝アルコールニ溶解セス五十分ノ水ニ攪和シ煮沸シテ放冷スレハ溷濁セル中性ノ糊液ヲ生ス
 - 三 本品ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ貝殻形或ハ卵圓形ヲナシ直径 70~90μ ニシテ往々 100μ ヲ超ユル顆粒ヲナシ顯著ナル偏心性ノ紋理ヲ現ハシ核ハ通常其狹端ニ存ス又間ニ複合性顆粒ヲ混有スルコトアリ
 - 四 本品ノ試験ハ米澱粉ノ條ニ掲クル所ニ同シ
 - 五 單ニ澱粉ト記載セル場合ニハ本品ヲ用フヘシ

馬鈴薯澱粉・小麥澱粉・亞砒酸解毒劑

Amylum Triticci

小麥澱粉

- 一 小麥澱粉ハ小麥ヨリ得タル澱粉ナリ
- 二 本品ハ純白色無味無臭ノ粉末ニシテ冷水竝アルコールニ溶解セス五十分ノ水ニ攪和シ煮沸シテ放冷スレハ溷濁セル中性ノ糊液ヲ生ス
- 三 本品ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ大小不同球形或ハ「レンズ形」ヲナシ直径 50~60μ 多クハ 25~35μ ノ顆粒ヨリ成リ核及紋理ハ明瞭ナラス
- 四 本品ノ試験ハ米澱粉ノ條ニ掲クル所ニ同シ

Antidotum Arsenici

○亞砒酸解毒劑

- 一 亞砒酸解毒劑ハ
 - 硫酸第二鉄液 百分
 - 蒸溜水 二百五十分
- ヲ取り混和シテ後豫メ
 - 蒸溜水 二百五十分
- ト密ニ研和セル
 - マグネシア 十五分

- 一 ヲ加へ全質均等ノ糜粥トナルニ至ル迄注意シテ振盪シ製スヘシ
- 二 本品ハ用ニ臨ミテ製スヘシ但常ニ硫酸第二鉄液 100g 及マグネシア 15g ヲ各別ニ秤量シ貯フヘシ

Antipyrinum Phenyldimethylpyrazolonum

○アンチピリン

フェニルヂメチルピラゾロン
 $C_{11}H_{12}N_2O = 188.1$

- 一 アンチピリン」ハ無色ノ稜柱狀又ハ小板狀ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ殆ト臭氣ナク味微ニ苦ク 110°~113°ニ於テ熔融シ水・アルコール又クロロホルム約等分ニ溶解シ又約八十分ノ「エーテル」ニ溶解ス
- 二 本品ノ水溶液 (1+99) ニ「タンニン」酸溶液ヲ和スレハ白色ノ沈澱ヲ生ス又其 2% ニ稀硫酸一二滴ヲ添加シタル後亞硝酸ソーダー一小片ヲ加フレハ綠色ヲ呈ス
- 三 本品ノ水溶液 (1+999) 2% ニ塩化第二鉄溶液一滴ヲ和スレハ深紅色ヲ呈シ次テ硫酸十滴ヲ加フレハ淡黃色ニ變ス
- 四 本品ノ水溶液 (1+1) ハ無色ニシテ中性ノ反應ヲ徴セサルヘカラス
- 五 本品ノ水溶液 (1+19) ハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化

スヘカラス硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液ニ由テ亦然リ

- 六 本品 0.1g ハ硫酸 1cc ニ無色ニ溶解スヘシ
- 七 本品 0.2g ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス

注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 1.0g
 一日ノ極量 3.0g

Antipyrinum salicylicum

Phenyldimethylpyrazolonum salicylicum

サリチル酸アンチピリン

サリチル酸フェニルヂメチルピラゾロン
 $(C_{11}H_{12}N_2O) \cdot C_6H_4(OH)CO_2H = 326.2$

- 一 サリチル酸アンチピリン」ハ白色無臭結晶性ノ粉末或ハ六邊形ノ板狀結晶ニシテ微ニ甘味ヲ有シ二百五十分ノ水並四十分ノ熱湯ニ溶解シ「アルコール」並「クロロホルム」ニ容易ニ溶解シ「エーテル」ニ較々溶解シ難シ溶解點 91°~92°ナリ
- 二 本品ノ水溶液 (1+250) ニ「タンニン」酸溶液ヲ加フレハ白色ノ濁濁ヲ生シ又稀硫酸一二滴ヲ添加シタル後亞硝酸ソ

- 一 ダ一小片ヲ加フレハ綠色ヲ呈ス又其溶液 10% ニ塩化第二鉄溶液一滴ヲ加フレハ暗紫色ヲ呈ス更ニ多量ノ水ヲ加ヘテ稀釋スレハ紫紅色ニ變ス
- 三 本品 0.5g ヲ水 15cc 及塩酸 1cc ト共ニ熱スレハ溶解シテ無色澄明ノ液ヲ生シ之ヲ冷却スレハ白色細針狀ノ結晶ヲ析出ス此結晶ハ水ヲ以テ洗滌シ乾燥シタル後約 125°ニ於テ熔融ス又之ヲ 200°ノ熱湯ニ溶解シ其溶液ニ塩化第二鉄溶液五滴ヲ和スレハ濃紫色ヲ呈ス

- 四 本品ノ水溶液 (1+250) ハ硫化ソーダ溶液三滴・硝酸銀溶液又硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 五 本品 0.2g ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス
- 六 注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 1.0g
 一日ノ極量 3.0g

Apomorphinum hydrochloricum

塩酸アポモルヒネ

$C_{17}H_{17}NO_2 \cdot HCl + 1/2 H_2O = 312.6$

- 一 塩酸アポモルヒネ」ハ白色或ハ灰白色ノ結晶ニシテ濕潤セル氣中ニ於テ殊ニ光ニ觸ルレハ漸次綠色ニ變ス約五十分

塩酸アポモルヒネ

- 一 水並約四十分ノ「アルコール」ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴シ「エーテル」並「クロロホルム」ニ殆ト溶解セス
- 二 本品ヲ硝酸ニ溶解スレハ血紅色ヲ呈ス又本品ヲ過剰ノ「ナトロン」滴液ニ溶解シタルモノハ氣中ニ於テ速ニ紅紫色ヲ呈シ終ニ黑色ニ變ス又本品ノ水溶液 (1+99) ニ重炭酸ソーダ溶液ヲ加フレハ白色無晶形ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ハ氣中ニ於テ速ニ綠色ニ變シ「エーテル」ニ紫紅色・クロロホルム」ニ藍紫色ヲ呈シテ溶解ス又本品ノ水溶液 (1+99) ニ「アモンニア」水ヲ加ヘタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ直チニ黒變ス

- 三 本品ノ飽和水溶液ハ無色或ハ殆ト無色ナルヘシ又本品ノ乾燥セルモノニ「エーテル」ヲ和シ振盪スルニ其「エーテル」ハ染色セス或ハ微ニ類紅色ヲ呈スルニ過クヘカラス
- 四 本品 0.1g ヲ乾燥セル小濾紙上ニ取り之ニ 10°ニ冷却セル塩酸 1g 水 4cc ノ混液ヲ注テ得タル濾液ニ「マイエル」試薬一滴ヲ和スルニ蛋白石濁ヲ呈スルニ過クヘカラス
- 五 本品 0.2g ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス
- 六 壺中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.02g

Agua Ammoniac

○アンモニア水

- 一 アンモニア水ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ特異竄透性ノ臭氣ヲ有シ強アルカリ性ノ反應ヲ徴シ稀塩酸ヲ以テ濡ホシタル硝子棒ヲ近クレハ白霧ヲ放ツ比重約 0.96 ナリ
- 二 本品ハ 9.91~10% ノ純アンモニア (NH₃ = 17.0) ヲ含有ス
- 三 本品 50cc ニ石灰水 20cc ヲ混和シ一時間密閉器中ニ放置スルニ蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ又本品 20cc ヲ蒸發シテ約 10cc トナシ蒸溜水 20cc ヲ以テ稀釋シタルモノ各 5cc ハ硫化ソーダ溶液三滴並修酸アンモン溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 四 本品 50cc ヲ重湯煎上ニ蒸發シ殆ト乾涸シ之ニ塩化第一錫溶液 3cc ヲ和シ試験管ニ移シ放置スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品ニ硝酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシタルモノハ無色無臭ニシテ硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス又硝酸銀溶液ニ由テ微蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 六 本品 3cc ニ硝酸ヲ加ヘテ過飽和重湯煎上ニ蒸發シテ得タル殘留物ハ白色ナラサルヘカラス又之ヲ熱スルニ全ク揮

散スヘシ

- 七 本品 50cc ニ定規塩酸 30cc ヲ和シ定規カリ液ヲ以テ過剩ノ酸ヲ中和スルニハ該液 1.0~2.0cc ヲ費ササルヘカラス (標示藥メチルオレンジ溶液)
- 八 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ冷處ニ貯フヘシ

Agua Armeniacae

○杏仁水

- 一 杏仁水ハ豫メ搗碎壓搾シ成ルヘク充分ニ脂肪油ヲ除去セラル杏仁若クハ新鮮ナル「バクチ葉ニ適量ノ水ヲ和シ水蒸氣ヲ通シテ蒸溜シ下ニ掲クル方法ニ據リ溜液中ノ「シアン水素ノ含量ヲ檢定シ其約千分ノ一・四ニ達スルニ至リ蒸溜ヲ中止シ溜液ノ三分ノ一量ノ「アルコール」ヲ加ヘ更ニ「アルコール」一分蒸溜水三分ノ混液ヲ加ヘテ其千分中シアン水素一分ヲ含ムノ度トナルニ至ル迄稀釋シ製スヘシ
- 二 本品ハ澄明或ハ微ニ濁濁シ青色リトマス紙ヲ殆ト赤變セス著シク「ベンズアルデヒド」ノ香氣ヲ有ス硝酸銀溶液ヲ加ヘテ振盪シテ「シアン水素ヲ結合シタル後ト雖モ亦然リ比重 0.97~0.98 ナリ
- 三 本品 10cc ニ十分定規硝酸銀液 0.8cc 及硝酸二三滴ヲ和シ生シタル沈澱ヲ濾過シテ得タル液ニ更ニ硝酸銀液ヲ加フ

ルニ變化スヘカラス

- 四 本品ニ容量ニ「アンモニア水」容量ヲ加フルニ十分以内ニ微ニ濁濁シ二十分以内ニ濁濁スヘシ
- 五 本品 50cc ニ「ナトロン」液一二滴ヲ加ヘテ微ニ「アルカリ性」トナシ蒸發乾涸シ熱灼シ其殘留物ヲ稀硝酸ニ溶解シ水ヲ加ヘテ 100cc トナシタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 六 本品 50cc ヲ蒸發シ殘留物ヲ少量ノ稀塩酸ニ溶解シ水ヲ加ヘ稀釋シテ 20cc トナシ其一半ニハ直チニ他ノ一半ニハ「アンモニア水」ヲ加ヘテ「アルカリ性」トナシタル後硫化ソーダ溶液三滴ヲ加フルニ著色スルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ
- 七 本品 25cc ニ水 100cc ヲ加ヘテ稀釋シ之ニ「ヨード」カリ溶液 2cc 及アンモニア水 1cc ヲ加ヘ絶エス攪拌シツツ十分定規硝酸銀液ヲ滴加シ復タ消失セサル黄色ノ濁濁ヲ生スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト 4.4~4.7cc ナラサルヘカラス
- 八 本品 50cc ヲ蒸發スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 九 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ
- 一回ノ極量 2.0g
- 一日ノ極量 6.0g

Agua Calcariae

石灰水

- 一 石灰水ハ 一分
- 生石灰 一分
- ヲ取り
- 常水 四分
- ヲ加ヘテ消石灰トナシ壘中ニ容レ之ニ
- 常水 五十分
- ヲ注加シ密栓シテ振盪シタル後靜置シテ沈定セシメ上清液ヲ傾瀉シ去リ其重滓ニ
- 常水 五十分
- ヲ混和シ密栓シテ數回劇シク振盪シタル後靜置シテ沈定セシメ用ニ臨ミ上清液ヲ傾瀉シ或ハ濾過スヘシ
- 二 本品ハ無色澄明ノ液ニシテ強アルカリ性ノ反應ヲ徴シ大氣ニ觸レ或ハ煮沸スレハ濁濁ス
- 三 本品ハ約 0.16% ノ純水酸化カルシウム (Ca(OH)₂ = 74.1) ヲ含有ス
- 四 本品ニ炭酸ガス」ノ過剩ヲ通シテ少時之ヲ煮沸シタルモノハ「アルカリ性」ノ反應ヲ徴スヘカラス
- 五 本品 100cc ヲ中和スルニハ定規塩酸 4.0~1.5cc ヲ費サ

桂皮水・常水・クレゾール水・蒸溜水

サルヘカラス (標示薬フェノールフタレイン溶液)

Aqua Cinnamomi

桂皮水

一 桂皮水ハ

桂皮油

微温蒸溜水

ヲ取り混和シ強ク振盪シ冷後湿潤セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ製スヘシ

二 本品ハ澄明或ハ微ニ濁セル液ナリ

Aqua communis

常水

一 常水ハ無色澄明無臭ニシテ味清冽ナリ

二 本品ノ判定及試験ハ別ニ定ムル所ノ常水判定標準及試験方法ニ準據スヘシ

Aqua cresolica

クレゾール水

一 クレゾール水ハ

クレゾール石鹼液

三分

水

四十七分

ヲ取り混和シ必要アラハ濾過シ製スヘシ

二 本品ヲ治療用ニ供スルニハ蒸溜水ヲ用ヒ消毒用ニ供スルニハ常水ヲ用ヒ製スヘシ

三 本品ハ約 3% ノ粗製クレゾールヲ含有ス

四 本品ノ蒸溜水ヲ以テ製シタルモノハ淡黄色澄明ノ液ナリ

五 本品ノ常水ヲ以テ製シタルモノハ少シク濁セル液ヲナスモ油滴ヲ析出スルコトアルヘカラス

Aqua destillata

○蒸溜水

H₂O=18.0

一 蒸溜水ハ無色澄明ノ液ニシテ臭味ナク中性ノ反應ヲ徴ス

二 本品 10cc ハ硫化ソーダ溶液三滴・ネスレル試薬・硝酸銀溶液・硝酸バリウム溶液又稀酸アンモン溶液ニ由テ變化スヘカラス又本品 25ccヲ壘ニ取り之ニ石灰水 50ccヲ和シ密栓シテ放置スルニ一時間以内ニ變化スヘカラス

三 本品 100ccニ稀硫酸 1cc及過マンガン酸カリ溶液 0.3ccヲ加ヘ三分間煮沸スルニ脱色スヘカラス

四 本品 100ccヲ蒸發スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

Aqua Floris Aurantii

橙花水

一 橙花水ハ

橙花油

微温蒸溜水

ヲ取り混和シ強ク振盪シ冷後湿潤セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ製スヘシ

二 本品ハ無色澄明ノ液ナリ

Aqua Foeniculi

茴香水

一 茴香水ハ

茴香油

微温蒸溜水

ヲ取り混和シ強ク振盪シ冷後湿潤セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ製スヘシ

二 本品ハ澄明或ハ殆ト澄明ノ液ナリ

Aqua formalinata

ホルマリン水

橙花水・茴香水・ホルマリン水・薄荷水・石炭酸水

一 ホルマリン水ハ

ホルマリン

常水

ヲ取り混和シ製スヘシ

Aqua Menthae

薄荷水

一 薄荷水ハ

薄荷油

微温蒸溜水

ヲ取り混和シ強ク振盪シ冷後湿潤セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ製スヘシ

二 本品ハ澄明或ハ殆ト澄明ノ液ナリ

Aqua phenolata

○石炭酸水

一 石炭酸水ハ

液状石炭酸

ヲ取り

蒸溜水

ニ混和シ製スヘシ

一 本品ハ無色或ハ殆ト無色ノ澄清液ニシテ2%ノ純フェノール (C₆H₅OH=94.0)ヲ含有ス

Agua phenolata cum Acido hydrochlorico

塩酸加石炭酸水

一 塩酸加石炭酸水ハ

防疫用石炭酸 五分

ヲ取り

常水 九十四分

ニ溶解シ之ニ

塩酸 一分

ヲ加ヘ混和シ製スヘシ

Agua phenolata pro desinfectione

防疫用石炭酸水 防疫用フェノール水

一 防疫用石炭酸水ハ

防疫用石炭酸 三分

ヲ取り

常水 九十七分

ニ溶解シ製スヘシ

Agua Rosae

ローズ水 薔薇水

一 ローズ水ハ

ローズ油 四滴

ヲ取り

微温蒸溜水 1000 cc

ニ混和シ暫時振盪シ冷後濕潤セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ製スヘシ

二 本品ハ佳快ノ香氣ヲ有スル殆ト澄明ノ液ナリ

Argentum colloidal

コロイド銀

一 コロイド銀ハ類縁黒色或ハ類藍黒色ノ小葉片ニシテ金屬

様ノ光澤ヲ有シ水ニ溶解ス

二 本品ハ少クモ70%ノ純銀 (Ag=107.88)ヲ含有ス

三 本品ノ水溶液 (1+49)ハ暗褐色不透明ニシテ之ニ多量ノ

水ヲ加ヘテ稀釋スレハ透射光ニ於テハ澄明トナリ落射光ニ

於テハ微濁様ノ觀ヲ呈ス

四 本品ノ水溶液 (1+49)ニ稀硫酸ヲ和スレハ沈澱ヲ生シ「ナ

トロン滴液ヲ以テ中和スレハ復タ溶解ス

五 本品ヲ熱灼スレハ毛髮ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ放テ燃化シ其殘留物ニ硝酸ヲ注加スレハ少許ノ固性物ヲ遺シテ溶解ス之ヲ濾過シテ得タル液ニ塩酸ヲ和スレハ「アンモニア水ニ溶解スヘキ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス

六 本品ヲ水ニ溶解スルニ1%以上ノ不溶物ヲ殘留スヘカラ

七 本品ノ水溶液 (1+999)5 ccニ食塩溶液 (1+10) 同容量

ヲ加ヘ一分間振盪スルニ澄明ニ止マルヘシ

八 本品 0.1 gヲ水 20 ccニ溶解シ硫酸 10 ccヲ徐々ニ注加

シ次ニ過マンガンリ酸カリ粉末 0.5 gヲ絶エス搖動シツツ少

量ツツ投加シ直火ニテ煮沸スルコト十五分間ニ至リ冷後水

50 ccヲ加ヘ硫酸鉄溶液ヲ以テ過剩ノ過マンガンリ酸カリヲ

脱色セシメ硝酸 10 ccヲ添加シ次ニ十分定規ロダンアンモ

ン液ヲ滴加シテ類赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト

少クモ 6.5 ccナラサヘカラス

九 光ヲ遮リ貯フヘシ

Argentum nitricum

○硝酸銀

AgNO₃=169.9

一 硝酸銀ハ光輝アル無色板狀ノ結晶ニシテ○・六分ノ水竝

約十四分ノ「アルコール」ニ溶解ス

二 本品ノ水溶液ニ塩酸ヲ和スレハ白色乾酪様ノ沈澱ヲ生シ

其沈澱ハ「アンモニア水」ニ全溶シ硝酸ニ溶解セス

三 本品ノ水溶液 (1+4)ハ中性ノ反應ヲ微スヘシ

四 本品一分ヲ「アンモニア水」三分ニ溶解シタルモノハ無色

ニシテ澄明ナラサルヘカラス

五 本品ノ水溶液 (1+19)5 ccニ過剩ノ塩酸ヲ加ヘテ煮沸シ

濾過シテ得タル液ヲ蒸發スルニ秤定シ得ヘキ殘留物ヲ遺ス

ヘカラス

六 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘ

シ

一回ノ極量 0.03 g

一日ノ極量 0.10 g

Argentum nitricum cum Kalio nitrico

硝酸銀加硝石

一 硝酸銀加硝石ハ

硝酸銀 一分

硝石 二分

ヲ取り混和シ注意シテ熔融シ梘子形ニ鑄成シ製スヘシ

二 本品ハ32.3~33.1%ノ純硝酸銀 (AgNO₃=169.9)ヲ含有

- ス
- 三 本品ハ白色或ハ帶灰白色ノ堅キ小梘子ニシテ其破砕面ハ顆粒狀結晶ヲ現ハス
- 四 本品 1gヲ水 10ccニ溶解シ之ニ十分定規食塩液 20cc及クロム酸カリ溶液一二滴ヲ和シ次ニ十分定規硝酸銀液ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト 0.5~1.0ccナラサルヘカラス
- 五 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

Argentum nitricum fusum

熔製硝酸銀

- 一 熔製硝酸銀ハ白色或ハ帶灰白色ノ小梘子ニシテ其破折面ハ放線狀ノ結晶紋理ヲ現ハシ熱スレハ熔融ス
- 二 本品一分ハ水十九分ニ澄明ニ溶解スヘシ或ハ蛋白石濁ヲ呈スルニ過クヘカラス其他ノ試験ハ硝酸銀ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ
- 三 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

Argentum proteicicum

プロテイン銀

- 一 プロテイン銀ハ淡黄色或ハ類褐色細微ノ粉末ニシテ微ニ鑛味ヲ有シ水ニ容易ニ溶解シ中性若クハ微ニ「アルカリ性」ノ反應ヲ徴ス
- 二 本品ハ少クモ 0.001ノ純銀 (Ag=107.36)ヲ含有ス
- 三 本品ヲ熱スレハ毛髪ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ放テ炭化シ更ニ熱灼スレハ帶灰白色ノ殘留物ヲ遺ス之ヲ硝酸ニ溶解シ其溶液ニ塩酸ヲ加フレハ「アンモニア」水ニ溶解スヘキ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品ノ水溶液 (1+49) 5ccニ「ナトロン」滴液 5cc及水 10ccヲ和シ之ニ硫酸銅溶液 (1+49) 2ccヲ加フレハ數分間ノ後紫色ヲ呈ス
- 五 本品ノ水溶液 (1+49)ハ食塩溶液ヲ混和スルニ直チニ濁濁セス又其水溶液 10ccニ「ナトロン」滴液十滴ヲ和シ熱ヲ與ヘ沸騰スルニ至ルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス又本品 0.2gヲ瓷製坩堝内ニ於テ灰化シ殘渣ニ硝酸ヲ和シテ溶解シ水ヲ加ヘテ全量 10ccトナシ之ニ食塩粉末ノ過剩ヲ加ヘ濾過シテ得タル無色澄明ノ液 5ccハ「アンモニア」水ヲ加ヘテ「アルカリ」性トナシタル後硫化ソーダ溶液三滴ヲ加フルニ暗色ヲ呈スルニ過クヘカラス
- 六 本品 1gニ 94%アルコール 10ccヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液ハ稀塩酸ニ由テ變化スヘカラス

- 七 本品 1gヲ水 20ccニ溶解シ之ニ硫酸 10ccヲ徐々ニ注加シ次ニ過マンガン酸カリ粉末 0.2gヲ少量ツツ絶エス搖動シツツ投入シ十五分間靜置シタル後水 50ccヲ和シ硫酸鉄溶液ヲ以テ過剩ノ過マンガン酸カリヲ脱色セシメ硝酸 10ccヲ添加シ次ニ十分定規ロダンアンモン液ヲ滴加シテ類赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト少クモ 1.4ccナラサルヘカラス
- 八 壘中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Arsenobenzolum

アルゼノベンゾール

- 一 アルゼノベンゾール「ハ塩酸メタジアミノパラデオキシアルゼノベンゾール」ニシテ酸素ヲ除去セル無色小壘中ニ熔閉シ分量・砒素含量及検査番號ヲ表記シ光線ニ觸レサル様包装シタルモノナリ
- 二 本品ハ淡黄色ノ粉末ヲナシ水ニ極メテ澄明ニ溶解シ弱酸性ノ反應ヲ徴ス又アルコールニ溶解シ「エーテル」ニ溶解セス
- 三 本品ハ 30~32%ノ純砒素 (As=74.93)ヲ含有ス
- 四 本品ノ水溶液ニ「ナトロン」滴液ヲ加フレハ其過剩ニ溶解スル黄色ノ沈澱ヲ生ス

- 五 本品 0.1gヲ水 5ccニ溶解シ十分定規硝酸銀液 5ccヲ加フレハ深紅色澄明ノ液トナル之ニ發煙硝酸 5ccヲ加フレハ「アンモニア」水ニ溶解スル白色ノ沈澱ヲ生ス之ヲ煮沸シテ其液分ヲ傾取シ塩酸五滴ヲ和シテ濾過シ濾液ニ過剩ノ「アンモニア」水及同容量ノ「マグネシア」混液ヲ加フレハ結晶性ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ヲ「アンモニア」水ヲ加ヘタル水ヲ以テ洗滌シタル後塩酸ニ溶解シタルモノハ塩化第一錫溶液ニ由テ褐色ノ沈澱ヲ生ス
- 六 本品 0.1gヲ分解壘ニ取り之ニ硫酸カリ 10g及塩素酸カリ 1gヲ加ヘ水 10ccヲ用ヒテ壘ノ頸部ヲ洗滌シタル後 23%ノ稀硫酸 40ccヲ加ヘ直火ヲ用ヒテ加熱シ壘ノ全内壁カ凝縮スル硫酸ニ由リテ洗滌セラルルニ至リテ放冷シ冷後 50%ノ葡萄糖溶液 0.5ccヲ壘ノ頸部ニ附著セサル様滴加シ注意シテ再ヒ加熱シ淡黄色ヲ呈スルニ至リテ放冷シ次テ水 50ccヲ加ヘテ稀釋シ「メチルオレンジ」溶液 0.1ccヲ加ヘテ煮沸シ温ニ乗シ屢ニ振盪シツツ十分定規プロム酸カリ液ヲ加ヘテ微紅色ヲ呈スルニ至リ更ニ「メチルオレンジ」溶液 0.1ccヲ追加シ再ヒ煮沸シタル後同上定規液ヲ滴加シテ其紅色全ク消失スルニ至ルニハ該液ヲ費スルコト 16.0~17.1ccナラサルヘカラス
- 七 本品一分ヲ無菌生理食塩水二十分ニ新タニ溶解シ尙注意

シテ「ナトロン滴液 (1+30)」ヲ添加シ茲ニ生スル沈澱ノ再
 ヒ溶解スルヲ度トシ更ニ無菌生理食塩水ヲ加ヘテ全重ヲ三
 百分トナセルモノヲ取り之ヲ體重 15g 内外ノ「シロハツカ
 ネヅミ」六頭ノ尾靜脈内ニ體重 20g ニ對シ該液 1cc ニ相當
 スル液量ヲ徐々ニ注射シ三日間觀察スルニ該動物ノ生存ス
 ルモノ四頭以上ナラサルヘカラス

- 八 本品一分ヲ無菌生理食塩水二十分ニ新タニ溶解シ之ニ注
 意シテ「ナトロン滴液 (1+30)」ヲ添加シ茲ニ生スル沈澱ノ
 再ヒ溶解スルヲ度トシ更ニ無菌生理食塩水ヲ加ヘテ全量ヲ
 五百分トセルモノヲ取り其前日ニ再歸熱スピロヘータ」ヲ
 以テ感染セシメタル體重 15g 内外ノ「シロハツカネヅミ」
 ニシテ其血液ヲ約四百倍ノ擴大度ニ於テ鏡檢スルニ二十視
 野中一乃至三箇ノ病原體ヲ認メ得ルモノ三頭ノ尾靜脈内ニ
 體重 20g ニ對シ該液 1cc ニ相當スル液量ヲ徐々ニ注射シ
 二十四時間後該動物ノ血液ヲ鏡檢スルニ四十視野ニ於テ全
 ク病原體ヲ認ムヘカラス更ニ連續十三日間ニ互リ鏡檢スル
 モ亦然リ本試験ニ於テ再歸熱スピロヘータ」ニ代フルニ病
 原性トリパノゾーマ」ヲ以テスルコトヲ得此場合ニハ本規
 定ニ準シ本品一分ヲ無菌生理食塩水八十分ニ新タニ溶解セ
 ルモノヲ用ヒ同様試験ヲ行フヘシ
- 九 冷暗處ニ最モ注意シテ貯フヘシ

Arsenbenzol-Natrium

アルゼノベンゾールナトリウム

- 一 アルゼノベンゾールナトリウム」ハ「メタヂアミノ」バラ
 チオキシアルゼノベンゾールナトリウム」ニ安定劑ヲ加
 ヘタルモノニシテ酸素ヲ除去セル無色小壘中ニ熔閉シ分
 量・砒素含量及検査番號ヲ表記シ光線ニ觸レサル様包裝シ
 タルモノナリ
- 二 本品ハ黄色ノ粉末ニシテ水ニ極メテ澄明ニ溶解シ赤色リ
 トマス紙ヲ青變ス
- 三 本品ハ 16.5~20.5% ノ純砒素 (As=74.96) ヲ含有ス
- 四 本品 0.05g ヲ水 1cc ニ溶解シ定規塩酸一滴ヲ加フレハ黄
 色ノ沈澱ヲ生シ更ニ二三滴ヲ加フレハ復タ溶解ス之ニ亞硝
 酸ソーダ溶液一滴ヲ和スレハ「ナトロン滴液」ニ深赤色ヲ呈
 シテ溶解スル赤黄色ノ沈澱ヲ生ス
- 五 本品 0.1g ヲ硫酸 1cc ニ溶解シ冷却シツツ發煙硝酸二十
 滴ヲ徐々ニ加ヘ注意シテ加温シ赤色ノ蒸氣ヲ發生セサルニ
 至リ水 5cc ヲ加ヘテ稀釋シ過剩ノ「アンモニア水」ヲ加ヘタ
 ル後同容量ノ「マグネシア混液」ヲ加フレハ結晶性ノ沈澱ヲ
 生ス此沈澱ヲ「アンモニア水」ヲ加ヘタル水ヲ以テ洗滌シタ
 ル後塩酸ニ溶解シタルモノハ塩化第一錫溶液ニ由テ褐色ノ

沈澱ヲ生ス

- 六 本品 0.15g ヲ取り「アルゼノベンゾール」ノ條第六項ニ
 掲クル方法ニ據テ試験スルニ二十分定規プロム酸カリ液ヲ
 費スコト 14.8~16.5g ナラサルヘカラス
- 七 本品一分ヲ無菌生理食塩水百五十分ニ新タニ溶解セルモ
 ノヲ取り「アルゼノベンゾール」ノ條第七項ニ掲クル方法
 ニ據リ試験スルニ同一ノ成績ヲ示ササルヘカラス
- 八 本品一分ヲ無菌生理食塩水三百分ニ新タニ溶解セルモノ
 ヲ取り「アルゼノベンゾール」ノ條第八項ニ掲クル方法ニ據
 リ試験スルニ同一ノ成績ヲ示ササルヘカラス本試験ニ於テ
 再歸熱スピロヘータ」ニ代フルニ病原性トリパノゾーマ」
 ヲ以テスルコトヲ得此場合ニハ本品一分ヲ無菌生理食塩水
 四十分ニ新タニ溶解セルモノヲ用ヒ同様試験ヲ行フヘシ
- 九 冷暗處ニ最モ注意シテ貯フヘシ

Asa foetida

アギ

- 一 「アギ」ハ「アジア」ニ産スル *Ferula* 屬ノ諸種殊ニ *Ferula*
Assa foetida, *Linné*, *Ferula* *Narthex*, *Boissier*, *Ferula foeti-*
da Regel 等ヨリ得タル「ゴム樹脂」ナリ
- 二 本品ハ筒々分離シ或ハ相粘合シ或ハ稍々巨大ノ塊片ヲナ

アギ・アスピリン

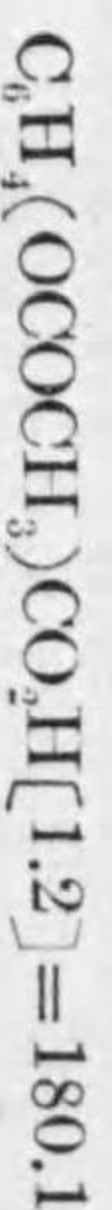
シ外面ハ類黄色・類紫色又ハ類褐色ヲ呈シ其新破砕面ハ白
 色ニシテ漸次紅色ノ虹彩ヲ現ハシ後褐色トナル蒜臭ヲ有シ
 味苦辛ナリ

- 三 本品一分ニ水三分ヲ加ヘテ研磨スレハ類白色ノ乳劑トナ
 リ之ニ少許ノ「アンモニア水」ヲ加フレハ黄色ヲ呈ス
- 四 本品 1g ニ熱アルコール」ヲ加ヘテ充分ニ浸出シ其不溶
 物ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量 0.5g ニ過クヘカラス
 又本品ヲ灰化スルニ 15% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 五 本品ヲ粉末トナスニハ之ヲ除濕器内ニ於テ乾燥シ低度ノ
 温ニ於テ粉碎スヘシ
- 六 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Aspirinum Acidum acetylsalicylicum

アスピリン

アセチルサリチル酸



- 一 「アスピリン」ハ白色ノ針狀或ハ鱗片狀ノ結晶或ハ結晶性
 粉末ニシテ殆ト臭氣ナク水ニ僅微ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微
 ス熱湯並アルコール」ニ容易ニ溶解シ約 135°ニ於テ熔融ス
- 二 本品 0.5g ニ「ナトロン滴液 10cc」ヲ和シ二三分間煮沸
 シ冷後其澄明液ニ過剩ノ稀硫酸ヲ加フレハ白色ノ沈澱ヲ生

ス此沈澱ハ水ヲ以テ洗滌シ乾燥シタル後 156°~157°ニ於テ熔融シ其水溶液ハ塩化第二鉄溶液ニ由テ紫色ヲ呈ス又白色ノ沈澱ヲ濾過シテ得タル液ニ「アルコール及硫酸ヲ加ヘテ煮沸スレハ醋酸エチル」ノ香氣ヲ發ス

- 三 本品 0.1g ハ 硫酸 1cc ニ 殆ト染色セスシテ溶解スヘシ
- 四 本品 0.1g ヲ「アルコール 5cc」ニ溶解シ之ニ水 20cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ稀塩化第二鉄溶液一滴ニ由テ直チニ紫色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品一分ニ水二十分ヲ和シ約一分間振盪シ濾過シテ得タル液ハ硫化ソーダ溶液三滴・硝酸銀溶液又硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 六 本品ヲ燃化スルニ 0.1% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Atropinum sulfuricum

○硫酸アトロピン



- 一 硫酸アトロピン「ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ等分ノ水並三分ノ「アルコール」ニ無色ニ溶解シ「エーテル」並クロロホルム」ニ殆ト溶解セス乾燥氣中ニ於テ結晶水ノ一部ヲ失ヒ 100°ニ於テ其全部ヲ失フ
- 二 本品 0.01g ヲ磁皿ニ取り發煙硝酸五滴ヲ加ヘ重湯煎上

ニ蒸發シテ得タル殘留物ハ微ニ類黃色ヲ有シ冷後之ニ「アルコール」性カリ滴液ヲ滴下スレハ紫色ヲ呈ス又本品ノ水溶液ニ硝酸バリウム溶液ヲ和スレハ稀酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス

- 三 本品ノ水溶液 (1+999) ハ味苛辣ニシテ苦ク之ヲ眼結膜上ニ點滴スレハ瞳孔ヲ散大ス
- 四 本品ノ水溶液 (1+159) ハ青色リトマス紙ヲ直チニ赤變スヘカラス
- 五 本品ノ水溶液 (1+159) ハ「ナトロン」滴液ニ由テ濁濁シ其水溶液 10cc ハ「アンモニア水 4cc」ニ由テ直チニ變化スヘカラス
- 六 本品 0.05g ハ硫酸 1cc ニ由テ殆ト染色セス之ニ一滴ノ硝酸ヲ和スルモ類赤色ヲ呈スヘカラス
- 七 本品ノ水溶液 (1+24) ニ「アンモニア水」ヲ加ヘ二三分間ノ後析出セル結晶ヲ集メ水ヲ以テ洗滌シ硫酸上ニ乾燥シタルモノハ 115° 以上ニ於テ熔融セサルヘカラス
- 八 本品 0.2g ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 0.005g ニ過クヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 九 最モ注意シテ貯フヘシ
- 一回ノ極量 0.001g

一日ノ極量 0.003g

Balsamum Copaivaе

コバイバルサム

- 一 コバイバルサム「ハ Copaifera 屬ノ諸種植物殊ニ Copaifera officinalis Linné, Copaifera guyanensis Desfontaines, Copaifera Coriacea Martius 等ノ幹部ニ附セル切痕ヨリ滲出セル「バルサム」ナリ
- 二 本品ハ帶黃類褐色澄明多少濃稠ノ液ニシテ螢石彩ヲ現ハサス或ハ之アルモ僅微ニ過キス香氣ハ特異・味ハ辛辣ニシテ少シク苦シ「クロロホルム・氷醋酸又純アルコール」ニ全ク或ハ殆ト澄明ニ混和シ同容量ノ石油ベンジン」ニ澄明ニ混和ス比重 0.980~0.993・酸數 75.8~84.2・鹼化數 84.2~92.6 ナリ
- 三 本品二十滴ニ「アルコール」性カリ滴液 1cc ヲ加ヘテ二分間煮沸シ冷後エーテル 10cc ヲ混和スルニ凝膠狀ニ變スヘカラス
- 四 本品三容量ニ「アンモニア水」一容量ヲ攪和スルニ凝膠物ヲ析出スヘカラス
- 五 本品三滴ヲ硫酸一滴ヲ滴加セル氷醋酸 15cc 中ニ和スルニ三十分以内ニ紅色或ハ紫色ヲ呈スヘカラス

コバイバルサム・ペルーバルサム

- 六 本品 1g ヲ磁皿ニ取り重湯煎上ニ四時間熱シ放冷スルニ透明ニシテ破砕シ易キ樹脂ヲ殘留セサルヘカラス
- 七 本品 1g ヲ「アルコール 50cc」ニ溶解シ「フェノール」フタレン溶液 1cc ヲ和シ「アルコール」性二分定規カリ液ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト 2.7~3.0cc ナラサルヘカラス
- 八 本品 1g ヲ「アルコール 50cc」ニ溶解シ之ニ「アルコール」性二分定規カリ液 20cc ヲ注加シ還流冷却器ヲ附シテ重湯煎中ニ三十分間加熱シ「フェノール」フタレン溶液 1cc ヲ和シ二分定規塩酸ヲ用ヒテ剩餘ノ「カリ液」ヲ中和スルニハ該液ヲ費スコト 16.7~17.0cc ナラサルヘカラス

Balsamum peruvianum

ペルーバルサム

- 一 ペルーバルサム「ハ Myroxylon Peruvianum Klotsch」ノ皮部ヨリ得タル「バルサム」ナリ
- 二 本品ハ暗褐色ノ液ニシテ牽絲セス其層薄ケレハ澄明ナリ香氣ハ佳快ニシテ「ワニラ」ニ類シ味ハ辛辣ニシテ稍々苦シ氣中ニ於テ乾燥セス等分ノ「アルコール」ニ澄明ニ混和ス比重 1.140~1.159・鹼化數 221.4 以上・チンナメイン鹼化數 236.5 以上ナリ

- 三 本品ハ少クモ 50.00ノ「チンナメイン」ヲ含有ス
- 四 本品 1gハ抱水クロラー 3.00ヲ水 10.00ニ溶解セル液ニ
 澄明ニ溶解セサルヘカラス
- 五 本品 2gニ石油エーテル 10.00ヲ加ヘ強ク振盪シ濾過シ
 テ得タル澄明液 4.00ヲ取り 60.00ヲ超エサル温ニ於テ蒸發
 スルニ其残留物ハ「ペンズアルデヒド」或ハ「テレピン油」
 香氣ヲ發スヘカラス次テ残留物ノ三滴ヲ無水醋酸十滴ニ溶
 解シタルモノハ硫酸二滴ニ由テ直チニ紫紅色乃至紫藍色ヲ
 呈スヘカラス
- 六 前項ノ本品濾液 4.00ニ醋酸銅溶液 10.00ヲ和シテ振盪ス
 ルニ其石油エーテル液綠色或ハ藍綠色ヲ呈スヘカラス
- 七 本品五滴ヲ試験管ニ取り石油エーテル 5.00ヲ加ヘテ振盪
 スルニ不溶物ハ糊狀ヲ呈シテ試験管壁ニ附著シ粉狀ノ沈滓
 ヲ認ムヘカラス
- 八 本品 1gヲ「アルコール 20.00ニ溶解シ」「アルコール性
 二分定規カリ液 50.00ヲ混和シ還流冷却器ヲ附シ重湯煎中
 ニ三十分間煮沸シ水 100.00ヲ加ヘテ稀釋シ」「フェノールフ
 タレイン溶液 1.00ヲ和シ二分定規鹽酸ヲ用ヒテ剩餘ノ「カ
 リ液ヲ中和スルニハ該液ヲ費スコト 4.20ニ過クヘカラス
- 九 本品 2.5g・水 5.00及ナトロン滴液 5.00ノ混液ニ「エーテ
 ル 50.00ヲ加ヘテ振盪シ澄明ノ「エーテル液 5.00ヲ蒸發シ

テ得タル残留物ヲ 100.00ニ於テ三十分間乾燥スルニ其重量
 少クモ 0.1gナラサルヘカラス此残留物ヲ「アルコール 5.00
 ニ溶解シ之ニ「アルコール性二分定規カリ液 5.00ヲ混和
 シ還流冷却器ヲ附シ三十分間重湯煎中ニ熱シタル後フェノ
 ールフタレイン溶液 1.00ヲ和シ二分定規鹽酸ヲ用ヒテ剩餘
 ノ「カリ液ヲ中和スルニハ該液ヲ費スコト 1.91.00ニ過クヘ
 カラス

Balsamum tolitatum

トルーバルサム

- 一 トルーバルサムハ Myroxylon toluiferum Humboldt, Po-
 nyland et Kunth ヨリ得タル樹脂ナリ
- 二 本品ハ帶褐赤色結晶性ノ塊ヲナシ乾燥セルモノハ類黃色
 ノ粉末トナスコトヲ得・香氣ハ佳快・味ハ芳香性ニシテ酸
 味ヲ帶ヒ少シク苛辣ナリ酸數 103.4~103.3・鹼化數 154.3~
 213.8 ナリ
- 三 本品ノ一小片ニ硫酸一滴ヲ點スレハ葡萄酒赤色ヲ呈シ又
 一小片ヲ「エーテル」ニ溶解シタル後硫酸ヲ注ケハ其硫酸
 赤褐色トナリ次テ冷却シツツ之ヲ搖動スレハ其エーテル藍
 綠色ヲ呈ス
- 四 本品ハ熱アルコール・クロロホルム又カリ滴液ニ全ク或

- ハ殆ト澄明ニ混和シ僅微ノ木屑ヲ遺スニ過クヘカラス
- 五 本品 1gニ水 5.00ヲ加ヘ暫時沸騰シ濾過シテ得タル澄明
 液ハ之ニ過マンガン酸カリ 0.03gヲ加ヘテ煮沸スルニ「ペ
 ンズアルデヒド」ノ香氣ヲ發ス
- 六 本品 5gニ二硫化炭素 25.00ヲ加ヘ還流冷却器ヲ附シ搖
 動シツツ十分間重湯煎上ニ加温シ冷後濾過シテ得タル澄明
 液ヲ注意シテ蒸發シ残留物ニ石油エーテル 8.00ヲ加ヘテ溶
 解シ濾過シ濾液ニ醋酸銅溶液 10.00ヲ和シテ振盪スルニ石
 油エーテル液ハ綠色ヲ呈スヘカラス
- 七 本品 1gヲ「アルコール 50.00ニ溶解シ」「フェノールフ
 タレイン溶液 1.00及水 200.00ヲ和シ」「アルコール性二分定
 規カリ液ヲ滴加シテ紅色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコ
 ト 3.9~6.0.00ナラサルヘカラス
- 八 本品 1gヲ「アルコール 50.00ニ溶解シ之ニ「アルコー
 ル性二分定規カリ液 20.00ヲ混和シタル後三十分間重湯煎
 中ニ熱シ」「フェノールフタレイン溶液 1.00及水 200.00ヲ和
 シ二分定規鹽酸ヲ用ヒテ剩餘ノ「カリ液ヲ中和スルニハ該
 液ヲ費スコト 12.2~14.5.00ナラサルヘカラス

Barbitalum Acidum diethylbarbituricum

バルビタール チエチルバルビツール酸



- 一 バルビタールハ無色小葉狀ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉
 末ニシテ臭氣ナク微ニ苦味ヲ有シ 190.0~191.0ニ於テ熔融
 シ百七十分ノ水並十七分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微ス
 「アルコール」並ナトロン滴液ニ容易ニ又エーテルニ溶解シ
 「クロロホルム」ニ溶解シ難シ
- 二 本品 0.2gニ苛性カリ約 3.0gヲ加ヘ熔融スレハ「アンモ
 ニア」ヲ發生シ冷後其熔融物ヲ水ニ溶解シ稀硫酸ヲ以テ酸
 性トナセハ炭酸ガスヲ發生シ敗油性牛酪様ノ臭氣ヲ放ツ
- 三 本品 1gニ水 20.00ヲ加ヘテ一分間振盪シ濾過シテ得タ
 ル液 2.00ニ硝酸一滴ヲ和シ之ニ黃降汞一分ヲ硝酸二・五分
 ニ溶解シテ得タル液ヲ滴加スレハ白色絮狀ノ沈滓ヲ生ス
- 四 前項ノ本品水溶液ハ「プロム水・硝酸バリウム溶液又硝
 酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 五 本品 0.1gハ硫酸 1.00ニ無色ニ溶解シ又本品ニ硝酸ヲ和
 シテ振盪スルニ染色スヘカラス
- 六 本品 0.2gヲ徐々ニ熱スレハ炭化セスシテ揮散シ秤定シ
 得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス
- 七 注意シテ貯フヘシ

- 一回ノ極量 0.5g
- 一日ノ極量 1.0g

Barbitalum solubile Natrium diethylbarbituricum

溶性バルビタール

デエチルバルビツール酸ソーダ



- 一 溶性バルビタールハ白色結晶性ノ粉末ニシテ其味苦ク且瀟味ヲ有ス四分ノ水ニ溶解シ熱アルコイルニ溶解シ難ク水溶液ハ赤色リトマス紙ヲ青變ス
- 二 本品0.2gニ苛性カリ約3gヲ加ヘテ熔融スレハ「アンモニア」ヲ發生シ冷後其熔融物ヲ水ニ溶解シ稀硫酸ヲ以テ酸性トナセハ泡沸シテ敗油性牛酪様ノ臭氣ヲ放ツ
- 三 本品0.1gヲ熱灼シテ得タル固性物ヲ少許ノ塩酸ヲ以テ濡ホシ無色焰中ニ熱スレハ其火焰ヲ黄色ニ染ム
- 四 本品ノ水溶液(1+4)ニ稀硫酸ヲ加フレハ白色絮狀ノ沈澱ヲ析出ス之ヲ濾別シ少量ノ水ヲ以テ洗滌シタル後アルコイルヲ用ヒテ再結晶シ硫酸上ニ乾燥シタルモノハ190°~191°ニ於テ熔融ス
- 五 本品0.01gヲ水2ccニ溶解シタルモノハ黃降末0.1gヲ硝酸十滴ニ溶解シテ得タル液一滴ニ由テ「アンモニア水」ニ溶解スヘキ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 六 本品ノ水溶液(1+99)2ccニ硝酸二滴ヲ添加シ濾過シテ

得タル液1ccハ硝酸銀溶液一滴並硝酸バリウム溶液一滴ニ由テ變化スヘカラス

- 七 本品0.1gハ硫酸1ccニ染色セスシテ溶解スヘシ
- 八 本品0.2gヲ水100ccニ溶解シ五六滴ノ「メチルオレンジ」溶液ヲ添加シタルモノハ黄色ニシテ十分定規塩酸0.3ccヲ加フルニ變色セス更ニ之ニ十分定規塩酸0.5ccヲ和スルニ赤色ヲ呈セサルヘカラス
- 九 注意シテ貯フヘシ
 - 一回ノ極量 0.5g
 - 一日ノ極量 1.0g

Barium sulfuricum

硫酸バリウム



- 一 硫酸バリウムハ白色粗鬆ノ粉末ニシテ臭味ナク水並稀酸類ニ溶解セス
- 二 本品ニ炭酸ソーダ溶液ヲ加ヘ二三分間煮沸シ濾過シテ得タル液ニ塩酸ヲ加ヘテ飽和シ硝酸バリウム溶液ヲ和スレハ白色ノ沈澱ヲ生ス又濾紙上ノ沈澱ヲ三回少許ノ水ヲ以テ洗滌シタル後稀塩酸ヲ注加シ其濾液ニ稀硫酸ヲ和スレハ白色ノ沈澱ヲ生ス

- 三 本品5gニ氷醋酸5cc及水15ccヲ加ヘ熱シテ沸騰スルニ至リ硫酸バリウムノ沈澱スルヲ俟テ濾過シタル澄明ノ液25ccハ稀硫酸二三滴ニ由テ一時間以内ニ變化スヘカラス
- 四 本品10gヲ塚ニ取り之ニ水30cc及塩酸20ccヲ加ヘ塚口ニ醋酸鉛溶液ヲ以テ濡ホシタル濾紙片ヲ架シ徐々ニ熱シテ沸騰スルニ至ルニ紙片暗色ヲ呈スヘカラス又本品5gニ稀醋酸50ccヲ加ヘテ煮沸シ温時濾過シ「アンモニア水」ヲ和シテ「アルカリ性」トナシタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス

- 五 本品2gニ硝酸10ccヲ加ヘ熱シテ沸騰スルニ至リ冷後濾過シテ得タル液ハ「モリブデン酸アンモン」溶液5ccニ由テ一時間以内ニ黄色ノ沈澱ヲ生スヘカラス又同容量ノ水ヲ以テ稀釋シタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 六 本品1g・水10cc・稀硫酸1cc及過マンガン酸カリ溶液二滴ノ混和液ハ十分以内ニ褪色スヘカラス又本品0.2gニ塩酸50ccヲ加ヘ重湯煎上ニ加熱シタル後濾過シ沈澱ヲ熱湯ヲ以テ洗滌シ濾液全量ヲ15~20ccトナシ重湯煎上ニ於テ蒸發シテ約5ccトナシ之ニ同容量ノ塩化第一錫溶液ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス

ベンズアルデヒド

- 七 本品ノ六號篩ニテ篩過セル粉末5gヲ劃線ヲ附シタル部分ノ長サ約14cmニシテ内容5)ccノ劃度圓筒中ニ取り水ヲ加ヘテ50ccノ標線ニ到ラシメ一分間振盪シタル後靜置スルニ硫酸バリウムノ層十分以内ニ15ccノ標線以下ニ沈降スヘカラス
- 八 塚中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Benzaldehydum

ベンズアルデヒド



- 一 「ベンズアルデヒド」ハ無色或ハ微ニ黄色ヲ帶フル液ニシテ強ク光線ヲ屈折シ特異ノ香氣ヲ有シ三分ノ水ニ溶解シ「アルコール」並「エーテル」ニ隨意ノ比例ニ於テ溶解ス比重1.045~1.055・沸騰點177°~179°ナリ
- 二 本品0.2gヲ疊折セル小濾紙ニ浸潤セシメ磁皿中ニ於テ點火シ豫メ水ヲ以テ濡ホセル内容約1)ノ硝子蓋ヲ以テ覆ヒ燃燒後硝子蓋ノ内面ヲ10ccノ水ヲ以テ洗滌シ濾過シテ得タル濾液ニ硝酸及硝酸銀溶液各三滴ヲ和スルニ蛋白濁ヲ呈スルニ過クヘカラス
- 三 本品0.2gニ水10cc及ナトロン滴液二三滴ヲ和シ振盪シタルモノニ硫酸鉄一小粒及塩化第二鉄溶液一滴ヲ加ヘ微温

- 一 石油ベンジン」ハ石油中低温ニ於テ沸騰スル部分ニシテ無色澄明點火シ易キ揮發性ノ液ナリ螢石彩ヲ現ハサス不快ナラサル特異ノ臭氣ヲ有シ中性ノ反應ヲ徵ス水ニ溶解セス約五分ノ「アルコール」ニ溶解ス比重約 0.60~0.67 ナリ
- 二 本品 100 ccヲ蒸溜スルニ 50°~75°ニ於テ少クモ 80 ccヲ溜出セサルヘカラス
- 三 本品 5 ccニ「アンモニア水 1 cc・純アルコール 5 cc」及硝酸銀溶液十滴ヲ和シ五分間約 60°ニ加温スルニ褐色ヲ呈スヘカラス
- 四 本品ニ同容量ノ硫酸ヲ加ヘテ振盪スルニ其容積ヲ減少セス又發熱或ハ染色スヘカラス
- 五 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Benzinum petrolei

石油ベンジン

- 一 本品 1 ccヲ「アルコール 20 cc」ニ溶解シ水ヲ以テ稀釋シ微ニ濁濁ヲ起スニ至リ之ニ亞鉛末及稀硫酸ヲ加ヘ香氣ノ消失スルヲ俟テ濾過シ其濾液ヲ蒸發シテ「アルコール」ヲ去リ殘液ニ晒粉溶液二三滴ヲ和シテ温ムルニ紅色又ハ紫紅色ヲ呈スヘカラス
- 二 本品 1 ccヲ「アルコール」ニ溶解シ水ニ溶解セス約五分ノ「アルコール」ニ溶解ス比重約 0.60~0.67 ナリ
- 三 本品 100 ccヲ蒸溜スルニ 50°~75°ニ於テ少クモ 80 ccヲ溜出セサルヘカラス
- 四 本品 5 ccニ「アンモニア水 1 cc・純アルコール 5 cc」及硝酸銀溶液十滴ヲ和シ五分間約 60°ニ加温スルニ褐色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品ニ同容量ノ硫酸ヲ加ヘテ振盪スルニ其容積ヲ減少セス又發熱或ハ染色スヘカラス

- 五 本品二分ニ硫酸一分及發煙硝酸四分ヨリ成レル冷混液ヲ加ヘテ振盪スルニ「ベンズアルデヒド」ニ類スル香氣ヲ放ツヘカラス或ハ之アルモ極メテ微弱ニ止マルヘシ
- 六 壘中ニ容レ密栓シ冷處ニ貯フヘシ

Benzoe

安息香

(甲) スマトラ安息香

- 一 スマトラ安息香ハ「スマトラ」ニ産スル *Styrax* 屬諸種植物殊ニ *Styrax Benzoin* *Dryan* *ter* 及 *Styrax sumatranus* J. T. Smith ヨリ得タル樹脂ナリ
- 二 本品ハ不整ノ塊片ヲナシ赤褐色乃至灰褐色ノ實質中ニ多數ノ類白色ノ顆粒ヲ散在ス
- 三 本品ハ常温ニ於テハ堅脆ニシテ佳快ノ香氣ヲ有ス硝子管中ニ熱スレハ軟化シ刺戟性ノ蒸氣ヲ發シ結晶性物質ヲ昇華ス
- 四 本品 0.5 gニ過マンガン酸カリ溶液 10 ccヲ加ヘ約 40°ニ温ムレバ「ベンズアルデヒド」ノ香氣ヲ發ス
- 五 本品 1 ccニ熱アルコールヲ加ヘテ充分ニ浸出シ其不溶物ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量 0.15 ccニ過クヘカラス
- 六 本品ヲ灰化スルニ 5%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

(乙) シヤム安息香

- 七 シヤム安息香ハ「シヤム」ニ産スル *Styrax* 屬諸種植物殊ニ *Styrax tonkinense* Craib 及 *Styrax benzoides* Craib ヨリ得タル樹脂ナリ
- 八 本品ハ扁平或ハ圓形褐色ノ塊片ニシテ内部ハ白色ヲ呈ス重湯煎上ニ熱スレハ甚タ佳快ノ香氣ヲ發シ強ク熱スレハ刺戟性ノ蒸氣ヲ發ス
- 九 本品ニ「アルコール」ヲ加ヘテ熱シ濾過シテ得タル液ハ酸性ノ反應ヲ徵シ水ヲ和スレハ乳狀ヲ呈ス
- 一〇 本品一分ニ二硫化炭素十分ヲ加ヘテ熱スレハ軟化シ其無色ノ液ヲ冷却スレハ安息香酸ノ結晶ヲ析出ス
- 一一 本品 0.5 gニ過マンガン酸カリ溶液 10 ccヲ加ヘテ約 40°ニ温ムルニ「ベンズアルデヒド」ノ香氣ヲ發セス
- 一二 本品 1 gニ熱アルコールヲ加ヘテ充分ニ浸出シ其不溶物ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量 0.05 gニ過クヘカラス
- 一三 本品ヲ灰化スルニ 2%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Benzolum

ベンゾール



- 一 ベンゾール」ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ徵シ特異ノ臭氣ヲ有ス純アルコール・エーテル又クロロホルム」ニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ水ニ溶解セス零度ニ冷却スレハ凝結シテ結晶塊トナリ約 4°ニ於テ熔融シ 79°~82°ニ於テ沸騰ス比重 0.830~0.867 ナリ
- 二 本品ヲ發煙硝酸中ニ注意シテ滴加シ溶解スルニ至リ水ヲ加ヘテ稀釋スレハ「ベンズアルデヒド」様ノ香氣ヲ有スル油滴ヲ析出ス
- 三 本品 20 ccヲ内徑 3 cmノ共栓硝子圓筒中ニ取り硫酸 10 ccヲ加ヘ密栓シテ屢々振盪スルニ十分以内ニ染色スヘカラス又本品 2 ccニ硫酸 0.5 cc及發煙硝酸二滴ヲ加ヘ屢々振盪スルニ十分以内ニ紫色又ハ藍色ヲ呈スヘカラス
- 四 本品 20 ccニ苛性カリ一分ヲ純アルコール九分ニ溶解セラルモノ 20 ccヲ和シ常温ニ於テ一時間放置シタル後水 20 ccヲ加ヘテ振盪シ其水液ヲ分取シ醋酸ヲ以テ中和シ之ニ硫酸銅溶液ヲ加フルニ沈澱ヲ生スヘカラス
- 五 本品 10 ccヲ重湯煎上ニ揮散セシムルニ秤定シ得ヘキ殘留物ヲ遺スヘカラス
- 六 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Beta-Naphtholium

ベタナフトール



- 一 ベタナフトールハ光輝アル無色小葉狀ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ稍ミ石炭酸ニ類スル臭氣及辛烈ノ味ヲ有シ 122°ニ於テ熔融シ 200°ニ於テ沸騰ス水ニ溶解シ難ク約百分ノ熱湯ニ溶解シ殆ト中性ノ反應ヲ徴シ「アルコール・エーテル・クロロホルム又ナトロン滴液ニ容易ニ溶解スル
- 二 本品 0.5g ニ水 100ccヲ加ヘテ二三分間振盪シ濾過シテ得タル液ニ「アンモニア水ヲ加フレハ紫色ノ螢石彩ヲ現ハス又塩素水ヲ和スレハ白濁シ之ニ過剰ノ「アンモニア水ヲ加フレハ復タ澄明トナリ其液初メ綠色ヲ呈スルモ後褐色ニ變ス又同上水溶液ハ塩化第二鉄溶液ニ由テ微ニ類綠色ヲ呈シ暫時ノ後絮狀ノ沈澱ヲ析出ス
- 三 本品一分ハ五十分ノ「アンモニア水ニ殘留物ヲ遺サスニテ溶解シ僅ニ淡黄色ヲ呈スルニ過クヘカラス又本品ノ熱飽和水溶液ハ塩化第二鉄溶液ニ由テ紫色ヲ呈スヘカラス
- 四 本品ヲ燃化スルニ 0.1g 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 五 光ヲ遮リ貯フヘシ

Bismutum oxyiodogallicum

次没食子酸ヨード蒼鉛

- 一 次没食子酸ヨード蒼鉛ハ灰綠色乃至綠灰色殆ト無臭ノ粉末ニシテ水並エーテルニ殆ト溶解セス「アルコール」ト共ニ振盪スレハ「アルコール」ニ赤色ヲ附與ス
- 二 本品ハ少クモ 20%ノ純ヨード(J = 126.93)ヲ含有ス
- 三 本品ハ硝酸ヲ和シテ温ムレハ紫色ノ蒸氣ヲ發シテ溶解ス又本品ニ「ナトロン滴液ヲ和スレハ黄色ノ稠濁液ヲ生シ振盪スレハ赤色ヲ呈ス
- 四 本品 0.1gヲ稀塩酸 0.5ccニ温ヲ與ヘテ溶解シ之ニ多量ノ水ヲ和スレハ初メ綠灰色ニシテ後黄色トナル沈澱ヲ生ス又本品ノ稀塩酸溶液ニ塩化第二鉄溶液ヲ和スレハ暗綠色ヲ呈ス
- 五 本品 0.5gニ「ナトロン滴液 5ccヲ和シ加温スルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス更ニ之ニ亞鉛末及鉄粉各 0.5gヲ加ヘテ熱スルモ亦然リ
- 六 本品 1.5gヲ瓷製坩堝ニ取り注意シテ強硝酸ニ溶解シ熱シテ「ガス」ノ發生熄ムニ至リ蒸發乾燥シタル後熱灼スルニ少クモ 0.5gノ酸化蒼鉛ヲ遺ササルヘカラス此殘留物ヲ二分シ其一半ヲ成ルヘク少量ノ塩酸ニ溶解シ之ニ塩化第一

- 錫溶液ニ倍容量ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス又他ノ一半ヲ硝酸 0.5ccニ溶解シ水ヲ以テ 2)ccニ稀釋シタルモノ各 0.5ccハ稀硫酸ニ倍容量並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス又硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス又アンモニア水ノ過剰ヲ注加シ濾過シテ得タル液ハ全ク無色ニ止マルヘシ
- 七 本品 0.5gヲ「ナトロン滴液 10ccニ温ヲ與ヘテ溶解シ冷後十分定規硝酸銀液及強硝酸各 20ccヲ和シ三四分間煮沸シ水ヲ加ヘ稀釋シテ 100ccトナシ之ニ鉄明礬溶液 1ccヲ和シ十分定規ロダンアンモン液ヲ滴加シテ類赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト 12.1ccニ過クヘカラス
- 八 塚中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Bismutum subcarbonicum

次炭酸蒼鉛

- 一 次炭酸蒼鉛ハ白色或ハ類黄白色無晶形ノ粉末ニシテ臭氣ナク氣中ニ於テ變化セス水並アルコールニ溶解セス
- 二 本品ハ硝酸並塩酸ニ泡沸シテ溶解シ此溶液ハ多量ノ水ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品 0.5gヲ注意シテ硝酸 30ccニ温ヲ與ヘテ溶解シ其0.5ccニ「ナトロン滴液同容量ヲ加ヘ振盪シテ濾過シ醋酸數滴

次炭酸蒼鉛

- ヲ添加シテ酸性トナシタル後蒸發濃縮シテ約 0.5ccトナシ之ニ重クロム酸カリ溶液ヲ加フルニ變化スヘカラス又其溶液 0.5ccニ過剰ノ「アンモニア水ヲ和シタル後濾過スルニ其濾液ハ無色ニ止マルヘシ殘餘ノ硝酸性溶液 1.5ccニ水ヲ混和シテ 50ccトナシ其各 0.5ccニ稀硫酸ニ倍容量並硝酸バリウム溶液ヲ加フルニ變化セス又硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス又其溶液 2ccハ之ニ水 5ccヲ和シテ稀釋シ硫化ソーダ溶液 1.5ccヲ加ヘテ強ク振盪シ濾過シ其濾液ニ「アンモニア水 5ccヲ以テ過飽シタル後修酸アンモン溶液ヲ加フルニ直チニ變化スヘカラス又其溶液 4ccニ水 15ccヲ和シテ稀釋シ之ニ炭酸アンモン 0.5gヲ水 15ccニ溶解シタルモノヲ加ヘ暫時煮沸シ温ニ乘シテ濾過シ其濾液ヲ蒸發乾燥シ殘渣ニ硫酸一滴ヲ添加シタル後熱灼スルニ固性物ヲ殘留スルコトアルモ 0.002gニ過クヘカラス
- 四 本品 1gニ過剰ノ「ナトロン滴液ヲ和シテ熱スルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス
- 五 本品 1gヲ弱ク熱灼スレハ黄色ノ酸化蒼鉛 0.8g以上ヲ殘留スヘシ此殘留物ヲ成ルヘク少量ノ塩酸ニ溶解シ之ニ二倍容量ノ塩化第一錫溶液ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品 0.2gニ硫酸 1ccヲ和シ之ニ硫酸鉄溶液 2ccヲ加ヘ

テ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス

Bismutum subnitricum

○次硝酸蒼鉛

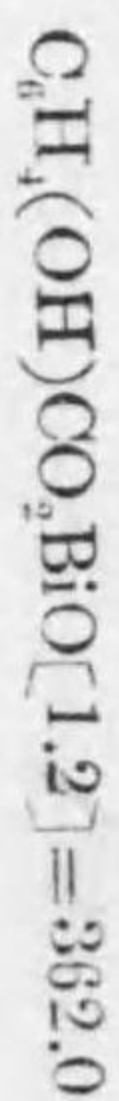
- 一 次硝酸蒼鉛ハ白色細微結晶性ノ重キ粉末ニシテ顯微鏡下ニ檢スレハ略々均等ノ小柱狀結晶ヲナシ濕潤セル青色リトマス紙ヲ赤變ス
- 二 本品 1gヲ熱灼スレハ黃赤色ノ蒸氣ヲ發シ終ニ 0.79gノ酸化蒼鉛ヲ殘留ス此殘留物ヲ成ルヘク少量ノ塩酸ニ溶解シ之ニ塩化第一錫溶液ニ倍容量ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 三 本品 0.5gハ常溫ニ於テ稀硫酸(比重 1.109~1.114) 25ccニ澄明ニ全溶シ炭酸ガスヲ發生スヘカラス此溶液 10ccヲ取り過剩ノアンモニア水ヲ和シタル後濾過スルニ全ク無色ノ液ヲ得ヘシ
- 四 本品 0.4gヲ硝酸 4ccニ溶解シ水ヲ以テ稀釋シテ 40ccトナシタルモノ 10ccハ硫化ソーダ溶液 1.5ccヲ加ヘテ強ク振盪シ濾過シ其濾液ニ「アンモニア水 2ccヲ以テ過飽シタル後修酸アンモン溶液ヲ加フルニ直チニ變化スヘカラス又其溶液 10ccニ炭酸アンモン 1gヲ水 10ccニ溶解シタルモノ

ノヲ加ヘ暫時煮沸シ温ニ乘シテ濾過シ其濾液ヲ蒸發乾燥シ殘渣ニ硫酸一滴ヲ添加シタル後熱灼スルニ固性物ヲ殘留スルコトアルモ 0.002gニ過クヘカラス

- 五 本品 0.5gヲ硝酸 5ccニ溶解シテ得タル澄明液ハ硝酸銀溶液 0.5ccニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過キス又同容量ノ水ヲ以テ稀釋シタル後硝酸バリウム溶液 0.5ccニ由テ變化スヘカラス
- 六 本品 1gヲ水 1cc及ナトロン滴液 3ccニ和シテ熱スルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス

Bismutum subsalicylicum

○次サリチル酸蒼鉛



- 一 次サリチル酸蒼鉛ハ白色或ハ帶黃白色無晶形ノ粉末ニシテ臭味ナク水並アルコールニ殆ト溶解セス熱灼スレハ熔融セスシテ炭化シ終ニ黃色ノ物質ヲ殘留ス
- 二 本品ニ稀塩化第二鉄溶液ヲ注ケハ紫色ヲ呈ス又本品 0.5gニ水 5ccヲ加ヘテ振盪シタル後硫化ソーダ溶液數滴ヲ和スレハ黑褐色ヲ呈ス
- 三 本品 0.5gニ水 5ccヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ青色リトマス紙ヲ直チニ赤變スヘカラス

四 本品 2gヲ瓷製坩堝内ニ於テ灰化シ温ヲ與ヘテ硝酸 15ccニ溶解シ水 25ccヲ和シテ稀釋シタルモノ各 5ccハ硝酸

- バリウム溶液ニ由テ三分以内ニ變化セス又稀硫酸ニ倍容量ヲ加フルニ變化スヘカラス又硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白濁ヲ起スニ過キス又過剩ノ「アンモニア水ヲ和シテ濾過シタル液ハ全ク無色ニ止マルヘシ同上溶液 2ccハ之ニ水 5ccヲ和シテ稀釋シ硫化ソーダ溶液 1ccヲ加ヘテ強ク振盪シ濾過シ其濾液ニ「アンモニア水 2ccヲ以テ過飽シタル後修酸アンモン溶液ヲ加フルニ直チニ變化スヘカラス又同上溶液 5ccニ水 20ccヲ和シテ稀釋シ之ニ炭酸アンモン 2gヲ水 20ccニ溶解シタルモノヲ加ヘ暫時煮沸シ温ニ乘シテ濾過シ其濾液ヲ蒸發乾燥シ殘渣ニ硫酸一滴ヲ添加シタル後熱灼スルニ固性物ヲ殘留スルコトアルモ 0.003gニ過クヘカラス
- 五 本品 1gヲ強硝酸少量ニ溶解シ蒸發乾燥シ更ニ熱灼スルニ少クモ 0.03gノ酸化蒼鉛ヲ遺ササルヘカラス此殘留物ヲ成ルヘク少量ノ塩酸ニ溶解シ之ニ塩化第一錫溶液ニ倍容量ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品 0.05gニ「サリチル酸ソーダ 0.1g及水 5ccヲ和シ次テ硫酸 5ccヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ直チニ淡紅色或ハ類褐赤色ノ輪帶ヲ生スヘカラス
- 七 光ヲ遮リ貯フヘシ

Bolus alba

白陶土

- 一 白陶土ハ主トシテ抱水珪酸アルミニウムヨリ成リ白色或ハ類白色土様ノ磨碎シ易キ塊或ハ粉末ニシテ水ヲ以テ濡ホセハ微ニ特異ノ臭氣ヲ有スル可塑性ノ塊トナリ水中ニ投スレハ潰崩スレトモ溶解セス
- 二 本品ハ之ニ塩酸ヲ注クニ泡沸スヘカラス又淘汰スルモ砂狀ノ殘留物ヲ遺スヘカラス
- 三 本品 1gニ水 25ccヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ中性ノ反應ヲ徴シ硝酸銀溶液ヲ和スルニ微蛋白濁ヲ呈スルニ過クヘカラス
- 四 本品 5gニ水 7.5ccヲ加ヘ善ク攪和シタルモノハ流動性ナルヘカラス

Borax

硼砂

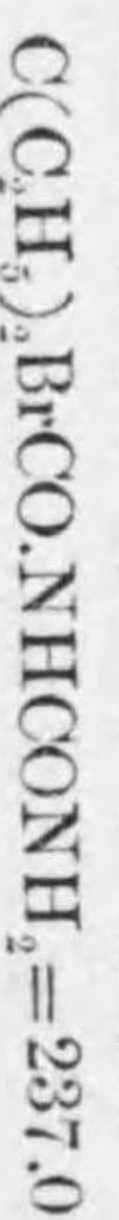


- 一 硼砂ハ白色堅硬ノ結晶或ハ結晶性塊片ニシテ約二十五分ノ水並〇・五分ノ熱湯ニ溶解シ弱アルカリ性ノ反應ヲ徴シ「グリセリン」ニ多量ニ溶解シ「アルコール」ニ殆ト溶解セス熱スレハ初メ其結晶水中ニ溶解シ著シク膨起シ終ニ白色

- 一 鬆疎ノ塊トナリ更ニ強ク熱スレハ熔融シテ無色硝子様ノ物質ニ變ス
- 二 本品ヲ無色焰中ニ熱スレハ其火焰ヲ黃色ニ染ム又本品ノ水溶液ニ塩酸ヲ和シタルモノヲ以テ「クルクマ紙ヲ濡ホシ乾燥スレハ褐赤色ヲ呈シ更ニ少量ノ「アンモニア水ヲ注ケハ綠黑色ニ變ス
- 三 本品ノ水溶液(1+49)ハ醋酸三滴ヲ和シタル後硫化ソーダ溶液三滴並ニ醋酸アンモン溶液ニ由テ變化スヘカラス又硝酸ヲ以テ酸性トナスニ泡沸セス之ニ硝酸バリウム溶液ヲ加フルニ直チニ變化セス又硝酸銀溶液ニ由テ蛋白質濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 四 本品ノ水溶液(1+49)ニ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黃血塩溶液0.5ccニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品ノ水溶液(1+49)ハ「モリブデン酸アンモン溶液」ニ加ヘテ温ムルニ黃色ノ沈澱ヲ生スヘカラス
- 六 本品ノ水溶液(1+49)1ccニ硫酸1ccヲ混和シ冷後之ニ硫酸鉄溶液1ccヲ加ヘテ二液層トナスニ其境界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス

Bromdiethylacetylurea

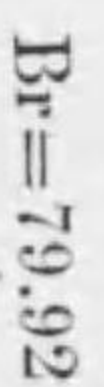
ブロムヂエチルアセチル尿素



- 一 ブロムヂエチルアセチル尿素ハ白色ノ結晶性粉末ニシテ殆ト臭味ナク水蒸氣ト共ニ揮散シ熱シテ(30°-80°)ニ至レハ一部昇華ス水並ニ石油エーテル」ニ溶解シ難ク熱湯ニ稍々容易ニ・アルコール並ニベンゾール」ニ溶解シ16°-118°ニ於テ熔融ス
- 二 本品0.2gニ水5cc及ナトロン滴液十滴ヲ加ヘテ煮沸スレハ「アンモニア」ヲ發生シテ溶解ス冷後濾過シテ得タル液ニ少量ノ塩素水ヲ加ヘ醋酸ヲ以テ過飽シタル後クロホルム」ヲ加ヘ振盪スレハ之ヲ黃褐色ニ染ム
- 三 本品0.2gニ水10ccヲ加ヘテ一分間振盪シ濾過シテ得タル液ハ中性ノ反應ヲ微シ之ニ硝酸バリウム溶液ヲ加フルニ變化スヘカラス
- 四 本品0.2gヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 五 密閉シ注意シテ貯フヘシ

Bromum

ブロム



- 一 「ブロム」ハ暗赤褐色揮發性ノ液ニシテ常温ニ於テ強キ刺激性ノ臭氣ヲ有スル黃赤色ノ蒸氣ヲ發シ約三十分ノ水ニ溶

- 解シ「アルコール・エーテル・二硫化炭素又クロロホルム」ニ容易ニ溶解シテ赤褐色ヲ呈ス比重約 3.0 ナリ
- 二 本品二十滴ハ「ナトロン滴液10cc」ニ溶解シ久シク澄明ニ止マルヘシ又本品ノ飽和水溶液ニ鉄粉ノ過剰ヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液ニ塩化第二鉄溶液及澱粉溶液ヲ加フルニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 三 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ冷處ニ貯フヘシ

Bromvalerylurea

ブロムワレリル尿素



- 一 ブロムワレリル尿素ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ味ハ微ニ苦ク147°-149°ニ於テ熔融シ「アルコール並ニエーテル」ニ容易ニ溶解シ水ニ僅ニ沸湯ニ分解シテ溶解ス
- 二 本品0.1gニ硝酸2cc及硝酸銀溶液三滴ヲ和シテ煮沸スレハ黃白色ノ沈澱ヲ析出ス又本品0.1gニ「ナトロン滴液2cc」ヲ和シテ熱スレハ「アンモニア」ヲ發生シ更ニ稀硫酸ヲ過飽シテ煮沸スレハ吉草酸ノ臭氣ヲ放ツ
- 三 本品ハ33.3°-35.7°ノ純ブロム(Br = 79.92)ヲ含有ス
- 四 本品0.1gハ硫酸5ccニ染色セスシテ溶解スヘシ
- 五 本品0.3gニ「カリ滴液10cc」ヲ加ヘ漏斗ヲ以テ覆タル壘

ブロムワレリル尿素・海葱

- 中ニ於テ二十分間煮沸シ水約50ccヲ和シテ稀釋シ次テ硝酸ヲ過飽シタル後十分定規硝酸銀液20cc・硝酸5cc及鉄明礬溶液0.5gヲ加ヘ之ニ十分定規ロダンアンモン液ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ本液ヲ費スコト0.6g-1.5gナラサルヘカラス
- 六 本品0.2gヲ燃化スルニ秤定シ得キ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 七 密閉シ注意シテ貯フヘシ

Bulbus Scillae

海葱

- 一 海葱ハ *Tyriaea Scilla Steinheil* ノ肉質樣鱗莖葉ヲ剝切シテ條片トナシ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ帶黃白色半透明角質樣ノ切片ニシテ破碎シ易ク又容易ニ濕潤ス長サ5cm・厚サ5mmニ至リ殆ト臭氣ナク味不快粘液樣ニシテ苦シ
- 三 本品ノ表皮ハ兩面共ニ氣孔ヲ具有シ葉肉組織ハ主トシテ澱粉粒ヲ含有セサル略々球圓形ノ細胞ヨリ成リ多數ノ束針晶細胞ヲ含蓄シ並行セル一側性脈管束ヲ圍繞ス
- 四 本品ノ粉末ハ束針狀ノ尿酸塩結晶ニ富ミ備微ノ澱粉粒ヲ含有スルニ止マルヘシ又厚膜細胞ヲ含有スヘカラス

- 五 密閉シ注意シテ貯フヘシ
- 一回ノ極量 0.2g
- 一日ノ極量 1.0g

Calcaria chlorata

晒粉 クロル石灰

- 一 晒粉ハ白色或ハ類白色ノ粉末ニシテ塩素様ノ臭氣ヲ放チ其一部ハ水ニ溶解ス其溶液ハ赤色リトマス紙ヲ青變シ次テ之ヲ褪色セシム
- 二 本品ニ醋酸ヲ加フレハ塩素ヲ發生シテ溶解ス之ニ水ヲ加ヘテ稀釋シ濾過シテ得タル液ハ蔞酸アンモン溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品ハ 25.0g 以上ノ有力塩素 (Cl = 35.46) ヲ含有ス
- 四 本品 5g ヲ取り水ヲ和シテ研磨シ内容 500cc ノ測容壺ニ移シ更ニ水ヲ加ヘテ全量 500cc トナシ能ク振盪シ其 50cc ヲ取り之ニ「ヨードカリ溶液 (1+20) 20cc 及塩酸 2.5cc ヲ加ヘテ遊離セシメタル「ヨード」ヲ結合スルニハ十分定規チオ硫酸ソーダ液少クモ 35.2cc ヲ費ササルヘカラス(標示薬澱粉溶液)
- 五 密閉シテ冷暗處ニ貯フヘシ

Calcaria sulfurata

硫化石灰

- 一 硫化石灰ハ
 - 燒石膏 七十分
 - 木炭末 十分
 - 澱粉 二分
- ヲ取り親密ニ混和シ坩堝内ニ容レ蓋閉シテ熱灼シ其内容物黑色ヲ失フニ至リテ放冷シ之ヲ研磨シテ粉末トナシ直チニ壺中ニ密閉スヘシ
- 二 本品ハ淡灰色ノ粉末ニシテ微ニ硫化水素ノ臭氣ヲ放チ氣中ニ於テ漸次ニ分解ス水ニ僅微ニ・熱湯ニ較ニ容易ニ溶解シ「アルコール」ニ溶解セス
- 三 本品ハ少クモ 60.0g ノ純硫化カルシウム (CaS = 72.1) ヲ含有ス
- 四 本品ニ醋酸ヲ加フレハ夥シク硫化水素ヲ發生シ溷濁シテ溶解ス之ニ水ヲ加ヘテ稀釋シ濾過シテ得タル液ハ蔞酸アンモン溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 五 硫酸銅 2.0g ヲ水 50cc ニ溶解シテ得タル液ヲ熱シテ沸騰スルニ至リ之ニ本品 1g ヲ少量宛投入シ次ニ重湯煎上ニ於テ十五分間温メ冷後濾過シテ得タル液ニ黄血塩溶液一滴

- ヲ和スルニ呈色スヘカラス
- 六 壺中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Calcaria usta

生石灰 煨製石灰



- 一 生石灰ハ類白色堅實ノ塊ニシテ半量ノ水ヲ注ケハ熱ヲ發シ漸次崩壞シテ白色ノ粉末(消石灰)ニ變ス・之ニ三四倍量ノ水ヲ加フレハ全質均等ノ稠粥トナリ又之ニ十倍量ノ水ヲ和スレハ白濁ノ乳狀液(石灰乳)ヲ得ヘシ
- 二 前項ノ消石灰ニ稀塩酸ヲ注ケハ泡沸セスシテ殆ト全ク溶解ス之ニ水ヲ加ヘテ稀釋シ過剩ノ醋酸ソーダ溶液ヲ加ヘタル後蔞酸アンモン溶液ヲ注ケハ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 密閉シテ貯フヘシ

Calcium carbonicum praecipitatum

沈降炭酸石灰



- 一 沈降炭酸石灰ハ白色細微結晶性ノ粉末ニシテ水ニ殆ト溶解セス
- 二 本品ハ醋酸ニ泡沸シテ全溶シ其溶液ニ蔞酸アンモン溶液

生石灰・沈降炭酸石灰・塩化カルシウム

ヲ和スレハ白色ノ沈澱ヲ生ス

- 三 本品 3g ニ新タニ煮沸シ冷却セル水 50cc ヲ加ヘ振盪シ濾過シテ得タル液ハ赤色リトマス紙ヲ青變セス又之ヲ蒸發スルニ 0.01g 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 四 本品 1g ニ醋酸 6cc 及水 14cc ノ混液ヲ和シ加温スルニ澄明ニ溶解スヘシ之ニ水 30cc ヲ加ヘテ稀釋セル液ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス又硝酸ヲ加ヘタル後硝酸銀溶液ニ由テ五分以内ニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス又同溶液ハ「アンモニア」水若クハ石灰水ヲ以テ過飽スルモ變化スヘカラス
- 五 本品ノ塩酸性水溶液 (1+49) ハ黄血塩溶液 0.5cc ニ由テ僅微ニ藍色ヲ呈スルニ止マルヘシ

Calcium chloratum

塩化カルシウム



- 一 塩化カルシウム「ハ無色稜柱狀ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ氣中ニ於テ潮解シ一・五分ノ水並三分ノ「アルコール」ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴ス
- 二 本品ノ水溶液ニ蔞酸アンモン溶液ヲ和スレハ醋酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス又硝酸銀溶液ヲ和スレハ「アンモ

- 一 ア水ニ溶解スヘキ白色乾酪様ノ沈澱ヲ生ス
- 二 本品1gニ塩化第一錫溶液3ccヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 三 本品ノ水溶液(1+9)5ccハ稀塩酸及ヨード亞鉛澱粉溶液ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 四 本品ノ水溶液(1+19)ニ「アンモニア水ヲ和スルニ變化スヘカラス煮沸スルモ亦然リ
- 五 前項ノ本品水溶液ニ醋酸三滴ヲ加ヘタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス又稀塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ塩化バリウム溶液並稀硫酸ニ由テ變化セス尙同水溶液ニ塩酸二滴ヲ加ヘタルモノハ黃血塩溶液0.5ccニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品0.5gヲ水10ccニ溶解シ加熱シツツ之ニ醋酸アンモン溶液10ccヲ和シ三時間放置シ後濾過シテ得タル液ヲ蒸發乾涸シ熱灼スルニ0.002g以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 七 壘中ニ容レ密栓シ貯フベシ

Calcium glycerino-phosphoricum

グリセロ燐酸石灰



- 一 グリセロ燐酸石灰ハ白色無臭ノ粉末ニシテ微ニ苦味ヲ有シ約四十五分ノ水ニ溶解シ赤色リトマス紙ヲ青變ス
- 二 本品ハ少クモ81%ノ純グリセロ燐酸石灰(C₃H₅O₆PCa = 216.1)ヲ含有ス
- 三 本品ノ水溶液(1+49)ニ半容量ノ水ヲ和シ煮沸スレハ白色ノ沈澱ヲ生シ冷後溶解ス
- 四 本品ノ水溶液(1+49)ニ醋酸アンモン溶液ヲ和スレハ醋酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス又醋酸鉛溶液ヲ和スレハ硝酸ニ溶解スル白色ノ沈澱ヲ生ス
- 五 本品ノ水溶液(1+49)ニ「モリブデン酸アンモン溶液3ccヲ和シテ加温スルモ黃色ノ沈澱ヲ生スヘカラス
- 六 本品ノ水溶液(1+49)ハ硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過キス硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 七 本品ノ水溶液(1+19)ハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス
- 八 本品ヲ灰化スルニ51~53%ノ固性物ヲ殘留セサルヘカラス
- 九 本品1gヲ水30ccニ溶解シ之ニ「メチルオレンヂ溶液五六滴ヲ加ヘ定規鹽酸ヲ滴加シテ紅色ヲ呈スルニハ該液ヲ費スコト少クモ4ccナラサルヘカラス又此混液ニ「フェノ

- 一 ルフタレイン溶液二三滴ヲ加ヘテ定規カリ液ヲ滴加シ紅色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト定規塩酸ノ量ト同一ナラサルヘカラス

Calcium hypophosphorinum

次亞燐酸石灰

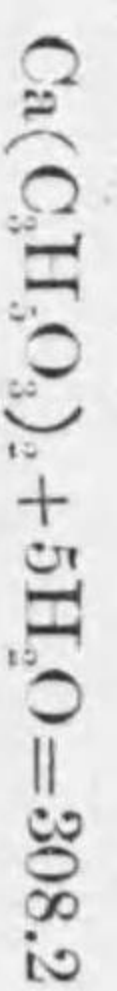


- 一 次亞燐酸石灰ハ無色透映ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ臭氣ナク氣中ニ於テ變化セス約八分ノ水ニ溶解シ「アルコール」ニ溶解セス
- 二 本品ヲ試験管中ニ熱スレハ自然性ノ「ガス」ヲ發シ冷後類赤褐色ノ物質ヲ殘留ス又本品ノ水溶液ニ醋酸アンモン溶液ヲ和スレバ白色ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ハ醋酸ニ溶解セス稀塩酸ニ容易ニ溶解ス又本品ノ水溶液ニ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノヲ過剰ニ昇汞溶液ニ和スレハ初メ白色後灰色ニ變スル沈澱ヲ生ス
- 三 本品ノ水溶液(1+19)ハ中性或ハ微ニ酸性ノ反應ヲ微シ濁濁スルコトアルモ蛋白石濁ヲ呈スルニ止マルヘシ
- 四 前項ノ本品水溶液ヲ濾過シテ得タル液ニ硫酸カルシウム溶液ヲ和スルニ變化セス又稀塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸バリウム溶液ヲ和スルニ直チニ變化スヘカラス又塩

- 一 化アンモン溶液及炭酸アンモン溶液ヲ加ヘテ温メタル後濾過シ之ニ燐酸ソーダ溶液ヲ和スルニ變化スヘカラス
- 二 前項ノ澄明液ニ醋酸十滴ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化セス又醋酸鉛溶液五滴ヲ和スルニ直チニ微蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 三 本品1gニ塩化第一錫溶液3ccヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス

Calcium lacticum

乳酸石灰

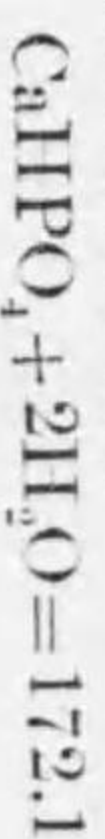


- 一 乳酸石灰ハ無色針狀ノ結晶或ハ白色ノ顆粒狀塊或ハ粉末ニシテ殆ト臭氣ナク二十分ノ水ニ徐々ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴ス
- 二 本品ハ70.5~73.0%ノ無水乳酸石灰ヲ含有ス
- 三 本品ノ水溶液ニ醋酸アンモン溶液ヲ和スレバ醋酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス又稀硫酸及過マンガン酸カリ溶液ト共ニ温ムレハ「アセトアルデヒド」ノ臭氣ヲ放ツ
- 四 本品ノ水溶液(1+19)ヲ微ニ加温セルモノハ無色澄明ニシテ其20ccニ「フェノールフタレイン溶液二滴ヲ和スルニ紅色ヲ呈スヘカラス又之ニ十分定規カリ液ヲ滴加シテ紅

- 色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト0.1ccニ過クヘカラス
- 五 本品0.5gニ硫酸1ccヲ和スルニ揮發脂肪酸ノ臭氣ヲ放ツヘカラス温ムルモ亦然リ
- 六 本品ノ水溶液(1+19)ニ醋酸三滴ヲ加ヘタル後硫化ソーダ溶液三滴ヲ和スルニ變化スヘカラス又硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過キス硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス又稀硫酸ニ由テ變化スヘカラス
- 七 前項ノ本品水溶液10ccニ稀鹽酸ヲ加ヘテ酸性トナシニ黃血塩溶液0.5gヲ和スルニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 八 本品1gニ鹽化第一錫溶液ccヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 九 本品0.5gヲ水10ccニ溶解シ加熱シツツ之ニ蓆酸アンモン溶液8ccヲ和シ三時間放置シ後濾過シテ得タル液ヲ蒸發乾涸シ熱灼スルニ0.005g以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 一〇 本品ヲ100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト27.0~29.5%ナラサルヘカラス
- 一一 本品ノ100°ニ於テ乾燥セルモノ0.5gヲ熱灼シ殘留セル固性物ヲ定規塩酸10ccニ溶解シ定規カリ液ヲ用ヒテ

剩餘ノ酸液ヲ中和スルニハ該液ヲ費スコト5.4~5.7ccナラサルヘカラス(標示藥メチルオレンジ溶液)

沈降磷酸石灰
Calcium phosphoricum precipitatum



- 一 沈降磷酸石灰ハ
 - 炭酸石灰 二十分
 - ヲ取り之ニ
 - 塩酸 五十分
 - 蒸溜水 五十分
- ノ混液ヲ攪拌シツツ徐々ニ注加シ炭酸ガスノ發生衰フルニ至リ微温ヲ與ヘ茲ニ得タル上澄液ヲ傾瀉シ之ニ
- ブロム水 〇・三分
- ヲ加ヘ更ニ熱シテ全ク「ブローム臭ノ消失スルニ至リ
- 消石灰 一分
- ヲ加ヘ35°~40°ノ温ニ於テ三十分間放置シタル後濾過シ
- 冷後其濾液ニ
- 磷酸 一分
- ヲ加ヘ別ニ
- 磷酸ソーダ 六十一分

ヲ

温蒸溜水

二百分

- ニ溶解シ濾過シ20°~25°ノ温ニ冷却シタルモノヲ攪拌シツツ徐々ニ注加シ茲ニ生シタル沈澱ヲ善ク攪拌シ其結晶性トナルヲ俟チ漉布上ニ採集シ水ヲ以テ反復洗滌シ其洗液ニ硝酸ヲ加ヘ酸性トナシ硝酸銀溶液ヲ加フルニ微蛋白濁ヲ起スニ過キサルニ至リ壓搾シテ水分ヲ去リ微温ニ於テ乾燥シ細粉トナシ製スヘシ
- 二 本品ハ白色ノ輕キ結晶性粉末ニシテ水ニ殆ト溶解セス冷醋酸ニ僅ニ溶解シ塩酸並硝酸ニ泡沸セスシテ容易ニ溶解ス
- 三 本品ハ硝酸銀溶液ヲ以テ濡ホセハ黃色ヲ呈ス又本品ニ醋酸ヲ加ヘテ煮沸シ濾過シテ得タル液ニ蓆酸アンモン溶液ヲ加フレハ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品1gハ塩化第一錫溶液3ccニ由テ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品一分ヲ硝酸性ノ水十九分ニ溶解シタル溶液ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス又硝酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 六 前項ノ本品水溶液ハ過剰ノ「アンモニア水ニ由テ純白色ノ沈澱ヲ生セサルヘカラス更ニ之ニ硫化ソーダ溶液三滴ヲ和スルニ暗色ヲ呈スヘカラス

七 本品ヲ熱灼スルニ其重量ヲ減失スルコト25~26%ナラサルヘカラス此殘留物ハ硝酸銀溶液ヲ以テ濡ホスニ微ニ黃色ヲ呈スルニ止マルヘシ

燒石膏
Calcium sulfuricum ustum (Gypsum ustum)

- 一 燒石膏ハ白色微細ノ粉末ニシテ略々 $CaSO_4 + \frac{1}{2}H_2O$ ノ組成ヲ有シ大氣中ニ放置スレハ漸次水分ヲ吸收シテ顆粒狀トナリ硬化性ヲ失フ又200°以上ニ熱シテ無水物トナセハ硬化性ヲ失フ
 - 二 本品10gニ水5ccヲ加ヘ三分間研和シ放置スルニ五分以内ニ固結スヘシ
 - 三 密閉シテ貯フヘシ
- Camphora depurata
カンフル 精製樟腦
 $C_{10}H_{16}O = 152.1$
- 一 「カンフル」ハ無色透映若クハ白色結晶性柔軟ノ塊或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ特異竄透性ノ香氣ヲ有シ味ハ微苦ニシテ灼クカ如ク後清涼ナリ175°~180°ニ於テ熔融シ201°ニ於テ沸騰シ重湯煎ノ温ニ於テ全ク揮散シ點火スレハ煤煙

- 多キ火焰ヲ放テ燃燒ス水ニ殆ト溶解セス「アルコール・エーテル又クロロホルム」ニ容易ニ溶解シ又脂肪油ニ溶解ス
- 二 本品 10gヲ純アルコールニ溶解シ常温ニ於テ 50°Cトナシタルモノハ旋光度約 +33°ナリ
- 三 本品 0.1gヲ疊折セル小濾紙上ニ取り磁皿中ニ於テ點火シ豫メ水ヲ以テ濡ホセル内容約 1ccノ硝子盃ヲ以テ覆ヒ燃燒後硝子盃ノ内面ヲ 100°Cノ水ヲ以テ洗流シ濾過シテ得タル液ニ硝酸及硝酸銀溶液各三滴ヲ和スルニ蛋白濁ヲ呈スルニ過クヘカラス
- 四 本品ヲ粉碎スルニハ豫メ「アルコール或ハ「エーテル」ヲ以テ濡ホスヘシ
- 五 密閉シ冷處ニ貯フヘシ

Camphora monobromata

ブロムカンフル ブロム樟腦
C₁₀H₁₅BrO = 231.0

- 一 ブロムカンフル」ハ無色ノ稜柱形或ハ鱗片狀ノ結晶ニシテ氣中ニ於テ變化セス香味ハ「カンフル」ニ類シ較々緩ナリ約 70°ニ於テ熔融ス水ニ殆ト溶解セス「アルコール・エーテル又クロロホルム」ニ容易ニ溶解ス
- 二 本品 0.1gヲ疊折セル小濾紙上ニ取り磁皿中ニ於テ點火

- シ豫メ水ヲ以テ濡ホセル内容約 1ccノ硝子盃ヲ以テ覆ヒ燃燒後硝子盃ノ内面ヲ 100°Cノ水ヲ以テ洗流シ濾過シテ得タル液ニ硝酸及硝酸銀溶液各三滴ヲ和スルニ蛋白濁ヲ呈スルニ過クヘカラス
- 三 本品 0.1gヲ硫酸 1ccニ溶解スルニ無色或ハ類黄色ヲ呈スルニ止マルヘシ
- 四 本品ニ水ヲ和シテ振盪シ濾過シテ得タル液ハ青色リトマス紙ヲ赤變スヘカラス
- 五 本品ノ「アルコール溶液ニ硝酸銀溶液ヲ加ヘテ煮沸スルニ沈澱ヲ生スヘカラス
- 六 本品 0.2gヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 七 注意シテ貯フヘシ

Cantharis

カンタリス

- 一回ノ極量 0.3g
- 一日ノ極量 1.0g
- 一 カンタリス」ハ Epicauta Gorhami Marseul (ヤメハンニヨウ)ヲ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ長さ 1.5~1.8cm 幅 4~5mm ナリ鞘翅ハ曇黑色

ニシテ邊縁及中央ニ於テ類黄色ノ毛ヨリ成レル線條アリ頭ハ略々心臟形ヲナシ其後部ハ代赭色ヲ有ス腹部ハ黑色ニシテ光澤ヲ有シ下腹部ハ類黄色ノ毛ヨリ成レル四乃至五條ノ輪帶ヲ具フ

- 三 本品ハ 2%以上ノ純カンタリヂン (C₁₀H₁₅O₂ = 195.1)ヲ含有ス
- 四 本品ハ不快ノ劇臭ヲ有ス
- 五 本品ノ中末 2gニ「クロロホルム 15cc及塩酸 1ccヲ加ヘ屢々振盪シツツ放置スルコト約二十四時間ノ後エーテル 60ccヲ加ヘ五分間振盪シ三十分間放置シ次テ濾過シ其濾液 50ccヲ豫メ乾燥シ秤量セル塚ニ取り蒸溜シ「クロロホルムエーテル」ヲ去リ殘渣ニ石油エーテル 19cc及純アルコール 1ccノ混液 10ccヲ注キ密栓シ時々搖動シツツ放置スルコト約十二時間ノ後脱脂綿ヲ用ヒテ濾過シ茲ニ殘留スル結晶ヲ石油エーテルアルコール混液各 5ccヲ以テ四回洗滌シ洗液無色トナルニ至リ「クロロホルム約 5ccヲ注キ結晶ヲ溶解シ前ノ塚中ニ取り微温ヲ與ヘテ「クロロホルム」ヲ揮散セシメタル後除濕器中ニ約十二時間放置シ秤量スルニ其結晶ノ重量少クモ 0.12gナラサルヘカラス
- 六 本品ヲ灰化スルニ 80%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 七 器中ニ密閉シ注意シテ貯フヘシ

Capsulae gelatinosae

カプセル 膠囊

- 一回ノ極量 0.03g
- 一日ノ極量 0.10g
- 一 カプセル」ハ「ゼラチン」ニ「グリセリン若クハ白糖ヲ加ヘ或ハ加ヘスシテ製シタルモノニシテ球形若クハ橢圓形ノ囊體ヲ成シ又ハ一端閉塞シ交互ニ重合シ得ヘキ一對ノ圓筒形囊體ヨリ成ル
- 二 本品ハ透明ニシテ臭氣ナク弾力性ヲ有シ之ヲ 39°~40°ノ温湯ニ投シ屢々振盪スルニ十分以内ニ溶解シテ中性或ハ微ニ酸性ヲ呈スル無色澄明或ハ蛋白濁ヲ帶フル無臭ノ溶液トナラサルヘカラス

Carbo medicinalis

藥用炭

- 一 藥用炭ハ黑色無味無臭ノ粉末ニシテ熱灼スレハ火焰ヲ發生セシテ燃燒ス
- 二 本品 3gニ水 60ccヲ和シテ煮沸シ濾過シテ得タル液ハ無色ニシテ「リトマス紙ヲ變化セス其濾液 10ccハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石

濁ヲ起スニ止マルヘシ又其濾液はニ硫酸はニ加ヘ冷後之ニ硫酸鉄溶液1ccヲ加ヘテ二液層トナスニ其境界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス又其濾液20ccヲ蒸發シテ乾燥スルニ0.01g以上ノ残留物ヲ遺スヘカラス

三 本品0.5gニ水20cc及塩酸5ccヲ加ヘテ煮沸スルニ其際發スル蒸氣ハ醋酸鉛溶液ヲ以テ濡ホシタル紙片ヲ褐色ニ變スヘカラス又其濾液ハ無色ニシテ其10ccニ「アンモニウム」ヲ和スルニ藍色ヲ呈スヘカラス又絮狀物ヲ析出スルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ又此アンモニウム性液ハ必要アラハ濾過シタル後醋酸アンモン溶液ヲ和スルニ直チニ變化スヘカラス

四 本品1gニ水2)cc及塩酸10ccヲ和シ五分間煮沸シ冷後水ヲ加ヘテ40ccトナシ濾過シ濾液30ccヲ蒸發シ110°ニ於テ乾燥スルニ0.02g以上ノ残留物ヲ遺スヘカラス

五 本品0.25gニ「ナトロン」滴液10ccヲ加ヘテ熱シテ沸騰スルニ至リ冷後濾過シタルモノハ無色ナラサルヘカラス

六 本品5gヲ壘中ニ取水50cc及酒石酸2gヲ加ヘ冷却器ヲ連結シ其先端ヲ豫メ定規カリ液2cc及水10ccヲ容レ氷冷セル受器ノ液中ニ導入シ約25ccヲ溜取シ溜液ニ水ヲ加ヘテ全量ヲ50ccトナシ其25ccヲ取り之ニ硫酸鉄約0.15gヲ加ヘ加熱シ塩化第二鉄溶液一滴ヲ加ヘ塩酸ヲ以テ

過飽スルニ藍色ヲ呈スヘカラス

七 本品1gヲ120°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト0.15gニ過クヘカラス

八 本品0.5gヲ「アルコール」二滴ヲ以テ濡ホシテ燃化スルニ0.02g以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

九 本品ノ120°ニ於テ乾燥シタルモノ0.1gヲ共栓硝子圓筒中ニ取り「メチレン」青溶液(0.1g+100)15cc及稀塩酸一滴ヲ加ヘテ五分間振盪シタル後乾燥濾紙ヲ用ヒテ濾過シテ得タル澄明ノ濾液ハ其色度メチレン青溶液0.1gニ水ヲ和シテ「ト」ナシ塩酸三滴ヲ加ヘタルモノヨリ強カルヘカラス

一〇 本品ノ120°ニ於テ乾燥シタルモノ0.1gヲ共栓壘中ニ取り「ヨード」0.5g及ヨードカリ1.0gヲ水1ccニ溶解シタル溶液45ccヲ加ヘ約70°ニ於テ三十分間屢々振盪シ乾燥濾紙ヲ用ヒテ濾過シテ得タル液ハ無色ナラサルヘカラス

一一 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Carboneum tetrachloratum
四塩化炭素
CCl₄ = 153.8

一 四塩化炭素ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ特異ノ臭氣ヲ有

シ70°~78°ニ於テ沸騰ス水ニ僅微ニ溶解シ純アルコール・エーテル又クロロホルム」ニ隨意ノ比例ニ於テ澄明ニ混和ス比重1.539~1.605 ナリ

二 本品ノ「アルコール」溶液ニ「カリ」滴液及少量ノ「アニリン」ヲ和シテ熱スレハ不快竄透性ノ臭氣ヲ發ス

三 本品ニ半容量ノ水ヲ和シテ振盪スルニ其水ハ青色リトマス紙ヲ赤變セス又其水ヲ等分ノ水ヲ以テ稀釋シタル硝酸銀溶液上ニ注意シテ注加スルニ變化スヘカラス

四 本品ハ之ニ約同容量ノ「ヨード」亞鉛澱粉溶液ヲ和シテ振盪スルニ染色セス又其ヨード亞鉛澱粉溶液ハ藍染スヘカラス

五 本品ヲ濾紙上ニ點滴シテ揮散セシムルニ臭氣ヲ遺スヘカラス

六 本品10cc重湯煎上ニ蒸發スルニ残留物ヲ認ムヘカラス

七 本品2ccニ「レゾルシン」少許ヲ「アルコール」5ccニ溶解シタルモノ及「ナトロン」滴液ヲ加ヘ重湯煎中ニ煮沸スルニ紅色ヲ呈スヘカラス

八 本品20ccヲ硫酸15ccト共ニ内徑3cmノ共栓硝子圓筒中ニ屢々振盪スルニ其硫酸一時間以内ニ染色スヘカラス

九 本品20ccニ苛性カリ」純アルコール溶液(1+9)10cc

ヲ混和シ五分間放置シ醋酸ヲ加ヘ酸性トナシ硫酸銅溶液少許ヲ加ヘ振盪スルニ下層ノ液黄色ヲ呈セス又黄色ノ濁濁若クハ沈澱ヲ生スヘカラス

一〇 壘中ニ容レ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 4.0g (2.5cc)

Casium
カゼイン

一 カゼイン」ハ白色又ハ淡黄白色ノ粉末ニシテ殆ト臭味ナク水ヲ以テ濡ホシタル青色リトマス紙ヲ赤變シ水・アルコール又エーテル」ニ溶解セス

二 本品ハ「ナトロン」滴液並アンモニウム水ニ溶解シ醋酸ヲ以テ過飽スレハ絮狀物ヲ析出ス又本品ノ少許ニ水銀一分ヲ強硝酸二分ニ溶解シ水二十分ヲ和シタル混液ヲ加ヘ加温スレハ赤褐色ヲ呈ス

三 本品ヲ灰化シタル後稀硝酸ヲ加ヘ温浸シテ得タル液ニ「モリブデン」酸アンモン溶液ヲ加ヘ加温スレハ黄色ノ沈澱ヲ生ス

四 本品0.1gニ水30ccヲ加ヘ振盪シテ暫時放置シ之ニ十分定規カリ液1ccヲ加ヘ40°ニ於テ溶解セシメ更ニ水ヲ和シ全量100ccトナシタルモノハ澄明ナラサルヘカラス

- 五 本品 1g = 水 20cc を加へ屢々振盪シツツ十分間放置シ濾過シテ得タル液ハ殆ど澄明ニシテ赤色リトマス紙ヲ青變セス又其濾液 20cc を重湯煎上ニ蒸發シ 100°ニ於テ乾燥スルニ 0.01g 以上ノ残留物ヲ遺スヘカラス
- 六 本品 1g = 水 5cc を和シ暫時放置シタル後アンモニウム水 5cc を加ヘテ溶解シ之ニ「アルコール 5g」ヲ混和シタル後石油エーテル 20cc を加ヘテ十分間振盪シ暫時靜置シ澄明ナル石油エーテル液 10cc を取り蒸發シ 100°ニ於テ乾燥スルニ秤定シ得ヘキ残留物ヲ遺スヘカラス
- 七 本品ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 10%ニ過クヘカラス又之ヲ灰化スルニ 10%以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

Catechu

阿仙藥

- (甲) ガムビール
 - 一 ガムビール」ハ Urearia Gambir Korbungh の葉及稚梢ヨリ製セル乾燥エキス」ニシテ類褐色破砕シ易キ塊ヲナシ内部分ハ淡色ナリ
- (乙) ペグ阿仙藥
 - 二 ペグ阿仙藥ハ Acacia Catechu Willdenow 又ハ Acacia

Suma Kurz ノ木心ヨリ製セル乾燥エキス」ニシテ内外共ニ暗褐色ヲ有スル塊ヲナシ時トシテハ孔穴ヲ有シ破砕面ハ大貝殻狀ヲ呈ス

- 三 阿仙藥ハ味收斂性ニシテ稍々苦ク後微甘ナリ
- 四 本品ノ稀薄アルコール溶液ハ塩化第二鐵溶液ニ由テ綠色ヲ呈ス
- 五 本品 1g = 水 10cc を加ヘテ煮沸スレハ帶褐色酸性ノ濁濁液ヲ生シ其不溶分ヨリ傾瀉シタル液ハ冷後夥シク褐色ノ沈澱ヲ生ス前ノ不溶分ハ熱湯ヲ以テ之ヲ洗滌シ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量 0.15g ニ過クヘカラス又本品 1g = 熱アルコール」ヲ加ヘテ充分ニ浸出シ茲ニ残留スル物質ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量 0.3g ニ過クヘカラス
- 六 本品ヲ灰化スルニ 60% 以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

Gautschuc

精製バラゴム

- 一 精製「バラゴム」ハ熱帶地方ニ産スル Tereva 屬諸種植物ノ乳液ヨリ得タル凝固物ヲ精製シタルモノナリ
- 二 本品ハ外面褐色内部類白色ノ塊片或ハ褐色半透明ノ薄片ヲナシ弾力ヲ有シ水並アルコール」ニ溶解セス「ベンゾール・クロロホルム又ニ硫化炭素ニ徐々ニ溶解シテ濁濁セ

- ル濃稠ノ液トナル本品ハ熱湯ニ浸漬スルモ軟化セス又搓捏性トナラス
- 三 本品一分ニ石油ベンジン六分ヲ加ヘ數時間放置スルニ濃稠ノ濁濁液ヲ生シ不溶物ヲ遺スヘカラス
- 四 本品 0.2g を細切シ之ヲ硝酸カリ二分及乾燥炭酸ソーダ一分ヨリ成レル熔和物 2g 中ニ注意シテ漸次投入シ燃化シテ得タル熔塊ハ冷後残渣ヲ留メスシテ水ニ溶解スヘシ又其溶液 (1+19) ハ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 五 本品ノ細切セルモノニ十倍量ノ「アセトン」ヲ加ヘテ浸出シ其浸出液ヲ蒸發スルニ 40% 以上ノ残留物ヲ遺スヘカラス

Cera alba

晒蜜蠟 白蠟

- 一 晒蜜蠟ハ蜜蠟ヲ日光ニ晒白シテ得タルモノナリ
- 二 本品ハ白色或ハ類白色ノ塊ニシテ約 65°ニ於テ熔融シ無色ノ液トナル比重 0.965~0.975・酸數 4.6~7.9・エステル數 77.6~93.5 ナリ
- 三 本品ハ敗油性ノ臭氣ヲ有スヘカラス
- 四 アルコール二分ニ水七分ヲ混和シテ氣泡ノ消失シ盡クル

- ニ至ル迄 15°ニ於テ放置シ之ニ本品ノ球粒狀ニ裝成セルモノヲ投スルニ其球粒ハ液中ニ懸留セサルヘカラス或ハ然ラサルモ更ニ水ヲ混和シテ其混液ノ比重ヲ 0.965~0.975 トナストキハ懸留スルニ至ラサルヘカラス此用ニ供スル本品ノ球粒ヲ作ルニハ本品ヲ成ルヘク低度ノ温ニ於テ熔融セシメ「アルコール」ヲ容レタル硝子器中ニ滴下セシムヘシ但此球粒ハ二十四時間氣中ニ放置セル後試験ニ供スヘシ
- 五 本品 5g = 「アルコール 65g」及水 15g を加ヘ五分間重湯煎上ニ振盪シツツ加温シタル後冷却シ「アルコール 65g」及水 15g ノ混液ヲ加ヘテ原量ニ復シ濾過シテ得タル液 50g = 「フェノールフタレイン溶液 1cc」ヲ和シ十分定規カリ液ヲ以テ中和スルニハ該液ヲ費スコト 1cc ニ過クヘカラス
- 六 本品 1g = 水 10cc 及炭酸ソーダ 3g を加ヘ熱シテ劇シク沸騰スルニ至リ放冷スルニ本品ハ液面ニ析出シ其液ハ蛋白濁ヲ呈スルニ過クヘカラス
- 七 本品 3g = 純アルコール 25cc を加ヘ還流冷却器ヲ附シテ重湯煎上ニ熱シ沸騰スルニ至リ直チニ「フェノールフタレイン溶液 1cc」ヲ添加シ之ニ「アルコール性二分定規カリ液」ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト 0.50~0.65cc ナラサルヘカラス更ニ此混液ニ「アルコール性二分定規カリ液 20cc」ヲ注加シ二時間重湯煎中ニ屢々搖動シ

ツツ熱シ直チニ二分定規塩酸ヲ用ヒテ過剩ノ「カリ液ヲ中
和スルニハ該液ヲ費スコト10.0~11.7ccナラサルヘカラス

Cera Flava

蜜 蠟 黄蠟

- 一 蜜蠟ハ蜂巢ヨリ蜂蜜ヲ採集シタル後注意シテ熔出セシメタルモノナリ
- 二 本品ハ淡黄色乃至帶褐黄色ノ塊ヲナシ 63°~67°ニ於テ熔融シテ蜂蜜ノ香氣ヲ有スル澄明ノ液トナル比重 0.962~0.972 酸數 4.5~7.9 エステル數 77.6~83.5 ナリ
- 三 アルコール二分ニ水七分ヲ混和シテ氣泡ノ消失シ盡クルニ至ル迄15°ニ於テ放置シ之ニ本品ノ球粒狀ニ裝成セルモノヲ投スルニ其球粒ハ液中ニ懸留セサルヘカラス或ハ然ラサルモ更ニ水ヲ混和シテ其混液ノ比重ヲ 0.962~0.972トナストキハ懸留スルニ至ラサルヘカラス此用ニ供スル本品ノ球粒ヲ作ルニハ本品ヲ成ルヘク低度ノ温ニ於テ熔融セシメ「アルコール」ヲ容レタル硝子器中ニ滴下セシムヘシ但此球粒ハ二十四時間氣中ニ放置セル後試験ニ供スヘシ
- 四 本品1gヲ「クロホルム」ニ溶解シ之ニ塩酸 2ccヲ加ヘテ振盪スルニ其塩酸赤色ヲ呈スヘカラス又本品 5gニ硼酸飽和溶液 10ccヲ加ヘ重湯煎上ニテ蠟ノ熔融シタル後

強ク振盪シ静置シ冷後下層ノ水液ヲ取り重湯煎上ニ蒸發シ乾燥スルニ赤褐色ヲ呈スヘカラス

五 其他ノ試験ハ晒蜜蠟ノ條ニ掲クル所ニ同シ

Cerium oxalicum

蔞酸セリウム

- 一 蔞酸セリウムハ白色或ハ殆ト白色無味無臭ノ粉末ニシテ氣中ニ於テ變化セス水並アルコールニ溶解セス
- 二 本品ノ塩酸溶液ニ「ナトロン」滴液ヲ加フレハ其過剩ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス其濾液ヲ醋酸ヲ以テ過飽シ之ニ塩化カルシウム溶液ヲ加フレハ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品 0.5gニ塩酸 10ccヲ加ヘテ熱スルニ泡沸セスシテ溶解スヘシ其溶液ニ過剩ノ「ナトロン」滴液ヲ加ヘテ生シタル沈澱ヲ濾別シ此濾液ニ過剩ノ塩化アンモン溶液ヲ和シテ熱スルニ沈澱ヲ生スヘカラス之ニ硫化アンモンヲ加フルモ亦然リ
- 四 本品1gヲ熱灼スルニ赤褐色ノ粉末約 0.48gヲ殘留スヘシ此殘留物ハ水ヲ以テ濡ホシタル「リトマス」紙ヲ變色セス之ヲ塩酸 8ccニ熱ヲ與ヘテ溶解シ水ヲ以テ稀釋シ 20ccトナシタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化セス又此溶液ヲ「アンモニア」水ヲ以テ過飽シ濾過シテ得タル液ハ蔞酸

アンモン溶液並燐酸ソーダ溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス

- 五 本品一分ニ水五十分ヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 六 本品 1gヲ「ナトロン」滴液 5ccニ和シテ熱スルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカス
- 七 注意シテ貯フヘシ
 - 一回ノ極量 0.3g
 - 一日ノ極量 1.0g

Chininum acetylicarbonicum

〇エチル炭酸キニーネ



- 一 エチル炭酸キニーネハ無色柔軟ノ針狀結晶ニシテ殆ト臭氣ナク微ニ苦味ヲ有シ約 95°ニ於テ熔融ス水ニ僅微ニ「アルコール」・エーテル又クロホルムニ溶解ス
- 二 本品 0.1gヲ稀ブロム水ニ溶解シ之ニ過剩ノ「アンモニア」水ヲ加フレハ綠色ヲ呈ス又本品ハ少量ノ稀硫酸ヲ和シタル水ニ容易ニ溶解シ其液ハ藍綠色ノ螢石彩ヲ現ハス
- 三 本品 0.1gニ硫酸 1ccヲ和シ熱ヲ與ヘテ溶解シ之ニ重クロム酸カリ溶液一滴ヲ加フレバ綠色ヲ呈シ「アセトアルデ

エチル炭酸キニーネ・クエン酸鉄キニーネ

ヒド」ノ臭氣ヲ放ツ

- 四 本品一分ヲ硝酸性ノ水四十九分ニ溶解シタルモノハ硝酸バリウム溶液並硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 五 本品 0.1gヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

Chininum ferro-citricum

クエン酸鉄キニーネ

- 一 クエン酸鉄キニーネハ
 - 鉄粉 三十分
 - クエン酸 六十分
 - 蒸溜水 五千分
- ヲ以テ製シタル溶液ヲ加ヘ屢々攪拌シツツ四十八時間セ。120°ニ温メ其溶液ヲ濾過シ同一ノ溫度ニ於テ蒸發シ「シロップ」稠トナシ之ニ
 - 硫酸キニーネ 十三分
- ヲ少量ノ稀硫酸ヲ加ヘタル水ニ溶解シ過剩ノ「アンモニア」水ヲ加ヘ茲ニ析出シタル沈澱ヲ水ヲ以テ充分ニ洗滌シテ得タル濕潤ノ「キニーネ」及
 - クエン酸末 五分

- ヲ加ヘテ溶解シ其溶液ヲ薄層トナシ 40°~50°ノ温ニ於テ乾燥シ製スヘシ
- 二 本品ハ光輝アル赤褐色透映ノ薄キ小葉片ニシテ其味苦ク鉄味ヲ帯ヒ水ニ徐々ニ「アルコール」ニ僅微ニ溶解ス
- 三 本品ノ水溶液ニ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黄血塩溶液ニ由テ藍色ヲ呈シ「アンモニア水ヲ加フレハ「エーテル」ニ全溶スヘキ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品ハ 9~10%ノ純キニーネ (C₂₀H₂₁N₃O₂ = 324.2) 及 21%ノ純鉄 (Fe = 55.84)ヲ含有ス
- 五 本品ヲ熱スレハ初メ炭化シ次テ燃燒ス其殘留物ハ「アルカリ性反應ヲ徴スヘカラス
- 六 本品ノ水溶液 (1+4)ニ「カリ滴液ノ過剩ヲ和シテ煮沸シ其鉄分悉ク沈降スルニ至ルニ「アンモニア」ノ臭氣ヲ發スヘカラス其重澱ヲ濾別シテ得タル液ニ醋酸ヲ加ヘテ酸性トナスニ久シキヲ經ルモ結晶性ノ沈澱ヲ生スヘカラス又其水溶液 (1+19)ニ硝酸バリウム溶液ヲ和スルニ直チニ變化スヘカラス
- 七 本品ノ 100°ニ於テ乾燥セルモノ「エーテル」ニ溶解シ之ニ「ナトロン滴液ヲ和シテ強アルカリ性トナシ逐次四回各 10ccノ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ「エーテル」液ヲ採集シ蒸發シ其殘留物ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量少ク

- モ 0.09gナラサルヘカラス茲ニ得タル「キニーネ」ヲ「アルコール」ニ溶解シ之ニ稀硫酸ヲ加ヘテ全ク中性トナシ蒸發シテ結晶セシメタルモノノ試験ハ硫酸キニーネノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ
 - 八 本品「エーテル」ヲ弱ク熱灼シ硝酸ヲ以テ濡ホシ微温ニ於テ蒸發シ更ニ熱灼スルニ少クモ 0.3gノ酸化鉄ヲ殘留セサルヘカラス
 - 九 光ヲ遮リ貯フヘシ
- Chininum hydrochloricum**
○塩酸キニーネ
C₂₀H₂₁N₃O₂ · HCl + 2H₂O = 396.7
- 一 鹽酸キニーネハ白色針狀ノ結晶ニシテ味甚ダ苦ク三分ノ「アルコール」竝三十四分ノ水ニ溶解ス其水溶液ハ無色中性ニシテ螢石彩ヲ現ハサス
 - 二 本品ノ水溶液 (1+19)5ccニ稀プロム水 1ccヲ和シ次テ「アンモニア水」ノ過剩ヲ加フレハ綠色ヲ呈ス又其水溶液ハ稀硫酸ニ由テ藍色ノ螢石彩ヲ現ハシ又硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ヲ和スレハ白色ノ沈澱ヲ生ス
 - 三 本品ノ水溶液 (1+49)ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス又稀硫酸ニ由テ變化スヘカラス

- 四 本品 0.05gハ之ヲ硫酸 1ccニ溶解スルニ淡類黄色ヲ呈スルニ過キス又硝酸 1ccニ染色セスシテ溶解スヘシ又本品ヲ石灰乳ニ和シテ煮沸スルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス
 - 五 本品 1gニ「クロロホルム」ニ容量及純アルコール一容量ノ混液 1ccヲ和スルニ殆ト全ク溶解スヘシ
 - 六 本品 2gニ水 20ccヲ和シ 60°ニ加温シテ溶解スルニ至リ其溶液ニ風化セサル硫酸ソーダ」ノ新タニ粉末トナセルモノ 1gヲ加ヘ均等ニ混和シ冷後屢々攪拌シツツ 15°ニ於テ一時間放置シ其混和物ヲ約 100 cm²ノ乾燥布片ニ包ミ絞搾シテ得タル液ヲ直徑 7 cmノ濾紙ヲ用ヒテ濾過シ 15°ニ於テ其濾液 5ccヲ乾燥セル試験管ニ取り 15°ニ於テ徐々ニ「アンモニア水」ヲ加ヘテ輕ク搖動スルニ初メ生シタル沈澱復タ全ク溶解シテ澄明トナルニ至ルニハ其アンモニア水ヲ費スコト 5ccニ過クヘカラス
 - 七 本品 0.2gヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 0.013gニ過クヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- Chininum sulfuricum**
硫酸キニーネ
(C₂₀H₂₁N₃O₂)₂ · H₂SO₄ + 8H₂O = 890.6

- 一 硫酸キニーネハ白色細微ノ風化シ易キ針狀結晶ニシテ味甚ダ苦ク約八百分ノ水・二十五分ノ熱湯又六分ノ熱アルコール」ニ溶解ス其水溶液ハ無色中性ニシテ螢石彩ヲ現ハサス之ニ稀硫酸一滴ヲ點加スレハ藍色ノ螢石彩ヲ現ハス
- 二 本品ノ冷飽和水溶液 5ccニ稀プロム水 1ccヲ和シ次テ「アンモニア水」ノ過剩ヲ加フレハ綠色ヲ呈ス又硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸バリウム溶液ヲ和スレハ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品 0.05gハ之ヲ硫酸 1ccニ溶解スルニ淡類黄色ヲ呈スルニ過キス又硝酸 1ccニ染色セスシテ溶解スヘシ又本品ヲ石灰乳ニ和シテ煮沸スルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス又本品ノ冷飽和水溶液ハ硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ヲ加フルニ變化スヘカラス
- 四 本品 1gニ「クロロホルム」ニ容量及純アルコール一容量ノ混液 1ccヲ和シ少時 40°~50°ニ加温スルニ全ク溶解シ冷後尙殆ト澄明ニ止マルヘシ
- 五 本品ノ 40°~50°ニ於テ充分風化シタルモノ 2gヲ試験管ニ取り水 20ccヲ和シ屢々攪拌シツツ三十分間 60°~65°ニ加温シ次テ試験管ヲ 15°ノ水中ニ容レ屢々振盪シツツ二時間放置シ其内容ヲ約 100 cm²ノ乾燥布片ニ包ミ絞搾シテ得タル液ヲ直徑 7 cmノ濾紙ヲ用ヒテ濾過シ 15°ニ於テ其

濾液 5.0g ヲ乾燥セル試験管ニ取り 1.5。ニ於テ徐々ニ「ア
ンモニア水ヲ加ヘテ輕ク搖動スルニ初メ生シタル沈澱復タ
全ク溶解シテ澄明トナルニ至ルニハ其アンモニア水ヲ費ス
コト 5.0g ニ過クヘカラス

六 本品 0.2g ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スル
コト 0.032g ニ過クヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘ
キ固性物ヲ残留スヘカラス

七 塚中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Chinum tannicum

タンニン酸キニーネ

一 タンニン酸キニーネ」ハ
硫酸キニーネ 二分
ヲ取り
蒸溜水 六十分
稀硫酸 必要量
ヨリ成レル混液ニ溶解シ之ニ
タンニン酸 四分
蒸溜水 二十五分
ノ溶液ヲ少量ツツ加ヘ更ニ
タンニン酸 一分

蒸溜水 十六分
ノ溶液ヲ追加シ次テ
アンモニア水 一分
ヲ攪拌シツツ注加シ茲ニ生シタル沈澱ヲ十二時間放置シタ
ル後採集シ

蒸溜水 二十分
ヲ以テ洗滌シ絞搾シ

蒸溜水 十分
ヲ和シ熱シテ黃褐色透映樹脂様ノ物質ヲ生スルニ至リ液分
ヲ傾瀉シ初メ 30°、後 100°ニ於テ光ヲ遮リ乾燥シ粉
碎シテ細末トナシ製スヘシ

二 本品ハ帶黃白色無臭無晶形ノ粉末ニシテ極メテ微弱ノ苦
味及澁味ヲ有シ水ニ僅微ニ溶解シ「アルコール」ニ較ミ溶
解シ易シ

三 本品ハ 30~32%ノ純キニーネ (C₂₀H₁₇N₃O₇ = 324.2) ヲ
含有ス

四 本品ノ水溶液若クハ「アルコール溶液ニ塩化第一鉄溶液
ヲ加フレハ藍黑色ヲ呈ス

五 本品 1g ニ水 50g 及硝酸 1cc ヲ和シ振盪シ濾過シテ
得タル液ハ硫化ソーダ溶液三滴並硝酸銀溶液ニ由テ變化セ
ス又硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス

六 本品ノ 100°ニ於テ乾燥シタルモノ 1g ヲ分液漏斗ニ取
リ水 5cc ヲ和シ「ナトロン滴液ヲ以テ強アルカリ性トナシ
三回各 15cc ノ「エーテル」ヲ加ヘ強ク振盪シ分取シタル
「エーテル液ヲ合シテ蒸發シ残留物ヲ 100°ニ於テ乾燥スル
ニ其重量少クモ 0.03g ナラサルヘカラス又本品ノ較ミ多量
ヲ取り同上ノ方法ニ由リ製出シタル「キニーネ」ヲ更ニ「ア
ルコール」ニ溶解シ稀硫酸ヲ加ヘテ精密ニ中和シ蒸發シテ
得タルモノハ其性質總テ硫酸キニーネ」ノ條ニ掲クル所ニ
一致セサルヘカラス

七 本品 0.2g ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スル
コト 0.032g ニ過クヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ
固性物ヲ残留スヘカラス

八 光ヲ遮リ貯フヘシ

Chloralum hydratum

〇抱水クロラール



一 抱水クロラール」ハ無色透明ノ乾燥結晶ニシテ竄透性ノ
臭氣ヲ放チ味ハ腐蝕性ニシテ稍々苦シ 53°~56°ニ於テ熔
融シ水・アルコール又エーテル」ニ容易ニ脂肪油並ニ硫化
炭素ニ僅ニ又五分ノ「クロロホルム」ニ徐々ニ溶解ス

二 本品ニ「ナトロン滴液ヲ和スレハ「クロロホルム」ヲ析
出シテ濁濁シ温ムレハ澄明ノ二液層トナル

三 本品 1g ヲ「アルコール」10cc ニ溶解シテ得タル液ハ青
色リトマス紙ヲ殆ト赤變セス之ニ硝酸銀溶液ヲ加フルニ直
チニ變化スヘカラス又本品 0.5g ヲ硫酸 5cc ト共ニ硝子栓
ヲ有スル内徑 3cm ノ硝子管ニ容レ屢々振盪シテ放置スル
ニ一時間以内ニ染色スヘカラス

四 本品 1g ヲ水 5cc ニ溶解シタルモノハ之ヲ温ムルニ「ベ
ンゾール」ノ臭氣ヲ放ツヘカラス

五 本品 1g ニ「カリ滴液 5cc ヲ加ヘテ温メ濾過シテ得タル
水液ニ「ヨード溶液ヲ加ヘテ黄色ヲ呈スルニ至リ一時間放
置スルニ黄色ノ沈澱ヲ生スヘカラス

六 本品ヲ燃化スルニ 0.1% 以上ノ固性物ヲ残留スヘカラ
ス

七 塚中容レ密栓シ注意シテ貯フヘシ

Chloraminum

クロラミン



一回ノ極量 2.0g
一日ノ極量 6.0g

- 一 クロラミン」ハ白色或ハ類白色結晶性ノ粉末ニシテ微ニ塩素様ノ臭氣ヲ有ス水・アルコール又グリセリン」ニ容易ニ溶解シ「クロロホルム・エーテル又ベンゾール」ニ溶解セス
- 二 本品ハ 25% 以上ノ有力塩素 (Cl 35.46) ヲ含有ス
- 三 本品ノ水溶液ハ赤色リトマス紙ヲ青變シ次テ之ヲ褪色ス又本品ノ水溶液 (1+99) ニ稀硫酸ヲ和シテ酸性トナシタルモノハ「ヨード亞鉛澱粉溶液」ニ由テ藍色ヲ呈ス
- 四 本品 0.2% ヲ注意シツツ瓷製坩堝中ニ灰化スルニ焰ヲ黄染スル固性物ヲ殘留ス其水溶液ニ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 五 本品ノ水溶液 (1+19) ハ殆ト全ク澄明ナルヘシ
- 六 本品 0.2% ヲ「ナトロン」滴液ト共ニ加熱スルニ「クロロホルム」ノ臭氣ヲ發スヘカラス
- 七 本品 5% ヲ水ニ溶解シテ 250 cc トナシ共 25 cc ニ「ヨードカリ」及塩酸 1 cc ヲ和シ十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ以テ滴定スルニ該液ヲ費スコト少クモ 35.2% ナラサルヘカラス (標示藥澱粉溶液)
- 八 塚中ニ容レ密栓シ冷暗處ニ貯フヘシ

Chloroformium

クロロホルム

CHCl₃ = 119.4

- 一 クロロホルム」ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ特異ノ香氣ヲ有シ味微ニ甘ク 60°~62°。ニ於テ沸騰ス水ニ僅微ニ溶解シ純アルコール・エーテル・脂肪油又揮發油ニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス本品ハ純アルコール 0.6~1.0% ヲ含有シ比重 1.485~1.489 ナリ
- 二 本品ノ「アルコール」溶液ニ「カリ」滴液及少量ノ「アニリン」ヲ和シテ熱スレハ不快竄透性ノ臭氣ヲ發ス
- 三 本品 10% ニ半容量ノ水ヲ和シテ振盪スルニ其水ハ青色リトマス紙ヲ赤變セス又其水ヲ等分ノ水ヲ以テ稀釋シタル硝酸銀溶液上ニ注意シテ注加スルニ變化スヘカラス
- 四 本品ハ之ニ約同容量ノ「ヨード亞鉛澱粉溶液」ヲ和シ振盪スルニ染色セス又其ヨード亞鉛澱粉溶液ハ藍染スヘカラス
- 五 本品ヲ濾紙上ニ点滴シテ揮散セシムルニ臭氣ヲ遺スヘカラス又本品 10% ヲ重湯煎上ニ注意シテ揮散セシムルニ殘留物ヲ遺スヘカラス
- 六 本品 20% ヲ硫酸 15 cc ト共ニ内徑 3 cm ノ共栓硝子圓筒中ニ屢々振盪スルニ其硫酸一時間以内ニ染色スヘカラス

七 塚中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

Chloroformium pro narcosi

麻醉用クロロホルム

CHCl₃ = 119.4

- 一 麻醉用クロロホルム」ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ特異ノ香氣ヲ有シ味微ニ甘ク 60°~62°。ニ於テ沸騰ス水ニ僅微ニ溶解シ純アルコール・エーテル・脂肪油又揮發油ニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス本品ハ純アルコール 0.6~1.0% ヲ含有シ比重 1.485~1.489 ナリ
- 二 本品ノ「アルコール」溶液ニ「カリ」滴液及少量ノ「アニリン」ヲ和シテ熱スレハ不快竄透性ノ臭氣ヲ發ス
- 三 本品ニ半容量ノ水ヲ和シテ振盪スルニ其水ハ青色リトマス紙ヲ赤變セス又其水ヲ等分ヲ以テ稀釋シタル硝酸銀溶液上ニ注意シテ注加スルニ變化スヘカラス
- 四 本品ハ之ニ「ヨード亞鉛澱粉溶液」ヲ和シ振盪スルニ染色セス又其ヨード亞鉛澱粉溶液ハ藍染スヘカラス
- 五 本品 10% ニ「ヂメチルアミノアゾベンゾール」0.01% ヲ純アルコール 10% ニ溶解シタモノ一滴ヲ加フルニ紫紅色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品ヲ濾紙上ニ点滴シテ揮散セシムルニ臭氣ヲ遺スヘカラス

ラス又本品 10% ヲ常溫ニ於テ揮散セシムルニ殘留物ヲ遺スヘカラス

- 七 本品 20% ヲ共栓硝子圓筒中ニ取リ「ベンジデン」0.1% ヲ加ヘテ溶解シ密閉シテ二十四時間暗處ニ放置スルニ澄明ニシテ微ニ黄色ヲ呈スルニ過クヘカラス
- 八 本品 20% ヲ硝酸 15 cc 及ホルマリン四滴ト共ニ内徑 3 cm ノ共栓硝子圓筒中ニ屢々振盪スルニ其硫酸三十分以内ニ染色スヘカラス
- 九 本品 5% ニ水同容量ヲ和シタル後ネスレル試薬三滴ヲ加フルニ十五分以内ニ微ニ黄色ヲ呈スルニ過クヘカラス
- 一〇 褐色小塚中ニ殆ト全滿シ密栓シ冷暗處ニ注意シテ貯フヘシ

Chrysarobinum Araroba depurata

クリサロビン 精製ゴア末

- 一 「クリサロビン」ハ Andira Araroba Aguiar ノ幹ノ空窩中ニ析出セル物質ヲ精製セルモノナリ
- 二 本品ハ黄色ノ輕キ結晶性粉末ニシテ二千倍ノ水ヲ加ヘテ煮沸シ濾過シテ得タル液ハ微ニ帶褐類赤色ヲ呈シ味ナク「リトマス」紙ヲ變化セス又塩化第二鉄溶液ニ由テ變色セス
- 三 本品ニ「アンモニア」水ヲ和シ振盪シテ二十四時間放置ス

- レハ徐々ニ鮮紅色ヲ呈ス又本品 0.001g ヲ時計硝子ニ取り發煙硝酸一滴ヲ加ヘ其赤色ノ溶液ニ「アンモニア水ヲ注キテ混攪スレハ紫色ヲ呈ス
- 四 本品ヲ硫酸ニ撒布スルニ帶赤黄色ノ液ヲ生セサルヘカラス又本品一分ヲ約三分ノ熱アルコロール故四十五分ノ温ク「ロホルム」ニ溶解スルニ不溶物ヲ遺スコトアルモ僅微ニ止マルヘシ
- 五 本品ヲ熱スルニ熔融シテ黄色ノ蒸氣ヲ放チ炭化シ更ニ之ヲ灰化スルニ 0.3% 以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

Cocainum hydrochloricum

○塩酸コカイン



- 一 塩酸コカイン」ハ無色ノ小莖狀或ハ稜柱狀結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ殆ト全ク臭氣ナク水並アルコロール」ニ溶解シ中性或ハ殆ト中性ノ反應ヲ徴ス此溶液ハ苦味ヲ有シ舌上鈍麻ノ感覺ヲ起ス
- 二 本品ノ水溶液(1+99)ニ塩酸ヲ和シテ酸性トナシタルモノハ昇汞溶液ニ由テ白色ノ沈澱・ヨード溶液ニ由テ褐色ノ沈澱又カリ滴液ニ由テ「アルコロール並エーテル」ニ溶解シ易キ白色ノ沈澱ヲ生ス又硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノ

- ハ硝酸銀溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品 0.1g ヲ硫酸 1cc ト共ニ五分間約 100°ニ温メ冷後之ニ注意シテ水 1cc ヲ注ケハ安息香酸メチル」ノ香氣ヲ發シ冷ユレハ夥シク結晶析出ス此析出物ハ「アルコロール」ニ由テ復タ溶解ス
- 四 本品 0.05g ヲ水 5cc ニ溶解シ之ニ「クロム酸溶液五滴ヲ滴加スルニ毎滴黄色ノ沈澱ヲ生シ此沈澱ハ混液ヲ搖動スレハ溶解シ更ニ塩酸 0.5cc ヲ加フレハ復タ析出ス
- 五 本品 0.1g ハ硫酸 1cc 並硝酸 1cc ニ無色ニ溶解スヘシ又本品 0.1g ヲ水 5cc ニ溶解シ之ニ稀硫酸三滴ヲ和シタル後過マンガン酸カリ溶液五滴ヲ和スルニ紫色ヲ呈シ三十分以内ニ殆ト變色スヘカラス
- 六 本品 0.1g ヲ水 100cc ニ溶解シ振盪スルコトナク之ニ「アンモニア水四滴ヲ和シ靜ニ放置スルニ一時間以内ニ變化スヘカラス
- 七 本品ノ水溶液(1+19)ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス又ナトロン滴液ニ由テ白色結晶性ノ沈澱ヲ生シ其際アンモニア」ヲ發生スヘカラス
- 八 本品 0.2g ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 0.001g ニ過クヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス

九 塚中ニ容レ密栓シ注意シテ貯フヘシ

- 一回ノ極量 0.05g
- 一日ノ極量 0.15g

Codinum phosphoricum

○燐酸コデイン



- 一 燐酸コデイン」ハ白色細微ノ針狀結晶或ハ結晶性粉末ニシテ苦味ヲ有シ約三・五分ノ水ニ溶解シ弱酸性ノ反應ヲ徴ス「アルコロール」ニ溶解シ難シ
- 二 本品 0.01g ヲ硫酸 10cc 中ニ投スレハ殆ト無色ニ溶解シ之ニ塩化第二鉄溶液一滴ヲ加ヘテ温ムレハ藍色次ニ紫色ヲ呈シ冷後之ニ硝酸二滴ヲ加フレハ深紅色ニ變ス又本品ノ水溶液(1+19)ハ硝酸銀溶液ニ由テ黄色ノ又カリ滴液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品ノ水溶液(1+99) 1cc ニ赤血塩一小粒ヲ水 10cc ニ溶解シ之ニ塩化第二鉄溶液一滴ヲ和シタルモノヲ注加スルニ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 四 本品ノ水溶液(1+19)ニ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ變化セス又硝酸バリウム溶液ニ由テ

燐酸コデイン・カフェイン

直チニ變化スヘカラス

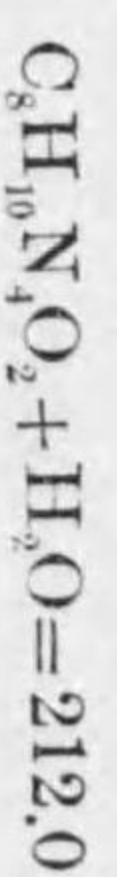
- 五 本品 0.2g ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 0.017g ニ過クヘカラス

六 注意シテ貯フヘシ

- 一回ノ極量 0.1g
- 一日ノ極量 0.3g

Coffeinum

カフェイン



- 一 カフェイン」ハ絹絲様ノ光澤アル白色柔靱ノ針狀結晶ニシテ味微ニ苦ク八十分ノ水ニ無色ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴シ二分ノ熱湯ニ溶解シ冷後凝結シテ結晶性糜粥トナル又九分ノ「クロホルム」並五十分ノ「アルコロール」ニ溶解シ「エーテル」ニ僅ニ溶解ス
- 二 本品ハ乾燥氣中ニ於テ結晶水ノ一部ヲ失ヒ 100°ニ於テ其全部ヲ失フ又本品ヲ試験管内ニ注意シテ熱スレハ約 100°ニ於テ僅ニ又 180°ニ於テ全ク昇華ス又本品ハ 232°~235°ニ於テ熔融ス
- 三 本品ノ水溶液(1+99) 1cc ニ「タンニン酸溶液 0.5cc」ヲ加フレハ沈澱ヲ生ス之ニ更ニ同試薬 10cc ヲ加フレハ再ヒ

- 溶解スヘシ又本品0.1gヲ取り過酸化水素水十滴及塩酸一滴ヲ注加シ乾燥スルニ黄赤色ノ残留物ヲ遺スヘシ之ニ「アンモニア水一滴ヲ滴加セレハ紫紅色ヲ呈ス
- 四 本品1gニ硝酸二三滴ヲ和シタル水10ccヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 五 本品ノ冷飽和水溶液ハ塩素水或ハ「ヨード溶液」ニ由テ濁セス又アンモニア水ニ由テ染色スヘカラス又本品0.01gハ硫酸並硝酸各1ccニ無色ニ溶解スヘシ
- 六 本品0.2gヲ注意シテ熱スレハ炭化セスシテ揮散シ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス
- 七 注意シテ貯フヘシ

Coffeinum-Natrium benzoicum

○安息香酸ソーダカフェイン

- アンナカ
- 一 安息香酸ソーダカフェイン」ハ100°ニ於テ乾燥セル
- カフェイン 二分
- ヲ取り
- 安息香酸ソーダ 三分

- ト共ニ
- 蒸溜水 八分
- ニ溶解シ蒸發乾燥シテ製スヘシ
- 二 本品ハ白色無晶形粉末或ハ顆粒狀塊ニシテ臭氣ナク微ニ甘キ苦味ヲ有シ二分ノ水並五十分ノ「アルコール」ニ溶解シ無色ノ液トナル
- 三 本品ハ少クモ30%ノ純カフェイン(C₈H₁₀N₂O₂=194.0)ヲ含有ス

- 四 本品ヲ「クロロホルム」ト共ニ温メ濾過シテ得タル液ハ蒸散ノ後カフェイン」ノ反應ヲ徵スル結晶性ノ残渣ヲ止ム
- 五 本品ノ水溶液(1+4)ハ中性ノ反應ヲ徵ス或ハ「アルカリ性反應」ヲ徵スルコトアルモ微弱ニ止マルヘシ又其溶液ハ無色又ハ殆ト無色ニシテ暫時放置後呈色スルコトアルモ微紅色ニ止マルヘシ
- 六 本品ノ水溶液(1+19)ハ塩酸ニ由テ白色ノ結晶ヲ析出シ之ニ「エーテル」ヲ加フレハ再ヒ溶解ス又同水溶液ハ塩化第二鉄溶液ニ由テ淡赤褐色ノ沈澱ヲ生シ之ニ塩酸及アルコール」ヲ加フレハ再ヒ溶解スヘシ
- 七 前項ノ本品水溶液ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ又醋酸三滴ヲ加ヘタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化セス又同上溶液2ccニ「アルコール」ヲ和シ硝酸ヲ以テ酸性トナシタ

- ルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 八 本品0.1gヲ硫酸1ccニ溶解スルニ泡沸セス又無色ニ止マルヘシ
- 九 本品0.5gヲ水1ccニ溶解シ「クロロホルム」2.5g並ナトリオン液2.5gヲ和シ五分間強ク振盪シ「トラガント末」0.3gヲ加ヘ更ニ二三分振盪シ靜置シタル後少許ノ脱脂綿ヲ用ヒテ濾過シ「クロロホルム溶液」20gヲ秤量シ之ヲ蒸發シ残留物ヲ100°ニ於テ乾燥スルニ其量少クモ0.15gナラサルヘカラス

一〇 注意シテ貯フヘシ

Coffeinum-Natrium salicylicum

サリチル酸ソーダカフェイン

- サリソ一カフェイン
- 一 サリチル酸ソーダカフェイン」ハ100°ニ於テ乾燥セル
- カフェイン 五分
- ヲ取り
- サリチル酸ソーダ 六・五分
- ト共ニ
- 蒸溜水 二十分

サリチル酸ソーダカフェイン

- ニ溶解シ蒸發乾燥シテ製スヘシ
- 二 本品ハ白色無晶形ノ粉末或ハ白色顆粒狀ノ塊ニシテ臭氣ナク味微ニ甘キ苦味ヲ有シ二分ノ水並約五十分ノ「アルコール」ニ溶解ス
- 三 本品ハ少クモ40%ノ純カフェイン(C₈H₁₀N₂O₂=194.0)ヲ含有ス
- 四 本品ヲ「クロロホルム」ト共ニ温メ濾過シテ得タル液ハ蒸散ノ後カフェイン」ノ反應ヲ徵スル結晶性ノ残渣ヲ止ム
- 五 本品ノ水溶液(1+4)ハ中性ノ反應ヲ徵ス或ハ酸性反應ヲ徵スルコトアルモ微弱ニ止マルヘシ其溶液ハ無色又ハ殆ト無色ニシテ暫時放置後呈色スルコトアルモ微紅色ニ止マルヘシ
- 六 本品ノ水溶液(1+19)ハ塩酸ニ由テ白色ノ結晶ヲ析出シ之ニ「エーテル」ヲ加フレハ再ヒ溶解ス又同水溶液ハ稀塩化第二鉄溶液ニ由テ紫色ヲ呈ス
- 七 前項ノ本品水溶液ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ又醋酸三滴ヲ加ヘタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化セス又同上溶液2ccニ「アルコール」ヲ和シ硝酸ヲ以テ酸性トナシタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 八 本品0.1gヲ硫酸1ccニ溶解スルニ泡沸セス又無色ニ止マルヘシ

九 本品 0.5g ヲ水 1cc ニ溶解シ「クロホルム 25g 及ナトロン液 25g」ヲ和シ五分間強ク振盪シ「トラガント末 0.3g」ヲ加ヘ更ニ二三分間振盪シ靜置シタル後少許ノ脱脂綿ヲ用ヒテ濾過シ「クロホルム溶液 20g」ヲ秤量シ之ヲ蒸發シ殘留物ヲ 100° ニ於テ乾燥スルニ其量少クモ 0.1g ナラサルヘカラス

一〇 注意シテ貯フヘシ

Cognac

コニアク

一 「コニアク」ハ葡萄酒ヲ蒸溜シテ製シタル「アルコール性飲料」ニシテ黄色澄明氣味佳快ナリ

二 本品 100cc 中ニハ 35~39g ノ純エチルアルコール (C₂H₅OH = 46.0) ヲ含有ス

三 本品ハ「メチルアルコール及アセトン」ヲ含有スヘカラス其試験ニハ本品 2)cc ヲ取り一般試験法ニ準據シ之ヲ行フヘシ

Colloidium

コロデオ

一 「コロデオ」ハ

粗製硝酸 (約 63% ノモノ) 八十分ヲ取り之ニ

粗製硫酸 (約 94% ノモノ) 二百分ヲ注意シテ徐々ニ混和シ其混液ノ溫度 20° ニ冷却スルニ至リ之ニ善ク乾燥セル

脱脂綿 十一分

ヲ浸漬シ 15~20° ノ溫ニ於テ二十四時間放置シタル後漏斗中ニ移シ更ニ二十四時間放置シテ過剩ノ酸液ヲ滴漉セシメ水ヲ以テ洗滌シ酸ノ全ク除去セラルルニ至リ壓搾シ 25° ノ溫ニ於テ乾燥シ茲ニ得タル

コロデオ 一分

ヲ壘中ニ取り之ニ

アルコール 三分

ヲ加ヘテ善ク濕潤セシメ次テ

エーテル 二十一分

ヲ和シ反復振盪シテ溶解シ靜置シ其上澄液ヲ傾取シ製スヘシ

二 本品ハ無色或ハ微ニ黄色ヲ有スル「シロップ稠ノ澄明液」ニシテ中性ノ反應ヲ微シ薄層トナシテ「エーテルアルコール」ヲ蒸散セシムレハ無色靱性ノ皮膜ヲ止ム

三 本品ヲ蒸發スルニ約 3.5% ノ殘留物ヲ遺ササルヘカラス壘中ニ容レ密栓シ冷處ニ貯フヘシ

Colloidium cantharidatum

カンタリスコロデオ

一 「カンタリスコロデオ」ハ

カンタリス中末 百分

ヲ取り

エーテル 適宜量

ヲ和シテ冷浸シ濾過シテ得タル澄明ノ液ヲ取り微溫ヲ以テ蒸發シテ十五分トナルニ至リ之ニ

コロデオ 八十五分

ヲ混和シ製スヘシ

二 本品ハ「オレフ綠色澄明シロップ稠ノ液」ニシテ微ニ酸性ノ反應ヲ微シ其エーテルアルコール」ヲ揮散セシムレハ綠色靱性ノ皮膜ヲ止ム

三 壘中ニ容レ密栓シ注意シテ冷處ニ貯フヘシ

Colloidium elasticum

弾力コロデオ

一 「弾力コロデオ」ハ

コロデオ 九十七分

ヒマシ油 三分

ヲ取り混和シ製スヘシ

二 本品ハ殆ト無色或ハ微ニ黄色ヲ有スル「シロップ稠ノ液」ナリ

三 壘中ニ容レ密栓シ冷處ニ貯フヘシ

Colloidium jodoforniatum

ヨードホルムコロデオ

一 「ヨードホルムコロデオ」ハ

ヨードホルム 一分

ヲ取り

コロデオ 九分

ニ溶解シ製スヘシ

二 本品ハ類褐色シロップ稠ノ液ナリ

三 本品ハ暗褐色ヲ呈スヘカラス

四 壘中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ冷處ニ貯フヘシ

Colophonium

コロホニウム

一 「コロホニウム」ハ Pinus 屬諸種植物ノ滲出物ヨリ揮發油ヲ除去シテ得タル樹脂ナリ

二 本品ハ類黄色或ハ淡褐色硝子様透映ノ破碎シ易キ塊ニシ

- テ表面ハ粉霜ヲ帶ヒ破砕面ハ大貝殼狀ヲ現ハシ重湯煎上ニ熱スレハ熔融シテ透明粘靱性ノ液トナリ強ク熱スレハ白色芳香性ノ重キ蒸氣ヲ發ス酸數 151.5~179.6 ナリ
- 本品一分ハ純アルコール等分並水醋酸二分ニ溶解シ又稀薄苛性カリ溶液 (1+39) 八分ニ透明ニ溶解ス
- 本品 1g ヲ常溫ニ於テ「アルコール性」二分定規カリ液 5cc ニ溶解シ「フーノール」フタレイン溶液十滴ヲ添加シタル後之ニ二分定規塩酸ヲ滴加シテ脱色スルニ至ルニハ該酸液 18.6~19.6 cc ヲ費ササルヘカラス

Cortex Chinae

〇キナ皮

- 一 キナ皮ハ *Quinchona Succiubura Pavon* ノ幹及枝ノ皮ヲ採集シ乾燥セルモノナリ
- 本品ハ管狀或ハ半管狀又ハ板狀ヲナシ外面ハ帶灰類褐色ニシテ粗糙ノ縦皺ト横徑ノ短キ龜裂ヲ現ハス内面ハ帶褐赤色ニシテ纖維性ヲ呈ス破折シ易シ顯微鏡下ニ檢スレハ本品ノ特長タル内皮纖維ヲ見ル
- 本品ハ $C_{20}O_2$ 以上ノ「アルカロイド」(キニーネ $C_{20}H_{21}N_3O_2$ 及「アンロ」 $C_{16}H_{21}N_3O_2$) ノ平均分子量 309.2 トシテ「含有」ス

- 四 本品ノ粉末ヲ試験管中ニ熱スレハ紅色ノ「タール」ヲ生ス
- 本品ノ細末 2.5g ニ塩酸 2cc 及水 8cc ヲ和シ十分間重湯煎上ニ溫メ冷後クロホルム 30cc 及エーテル 80cc ヲ加ヘ善ク振盪シ次テ「ナトロン」滴液 1cc ヲ加ヘ屢々強ク振盪シツツ十分間放置シ更ニ「トラガント」細末 3cc ヲ加ヘ復タ劇シク振盪シ五分間静置シタル後澄明ノ「クロロホルム」エーテル液ヲ脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其濾液 8cc ヲ蒸溜シテ「クロロホルム」エーテル「ヲ去リ」残渣ニ「アルコール」10cc ヲ加ヘ微溫ヲ與ヘテ溶解セシメ水 10cc 及メチルロート溶液二滴ヲ和シ輕ク搖動シツツ十分定規塩酸ヲ滴加シテ中和スルニハ少クモ其「費」ヲ費ササルヘカラス又此中和液 5cc ニ稀ブロム水 1cc ヲ和シ之ニ「アンモニア」水ヲ加フルニ美麗ナル綠色ヲ呈セサルヘカラス
- 本品ヲ灰化スルニ 5% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Cortex Cinnamomi

桂皮

- 一 桂皮ハ *Cinnamomum Cassia Blume* ノ幹及枝ノ皮ヲ剝離シ抱屑ヲ多少除去シ乾燥セルモノナリ
- 本品ハ厚サ 1~3 mm ニシテ外面ハ灰褐色或ハ褐色ヲ呈ス

- 三 本品ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ第一期皮部ノ柔組織ハ澱粉粒ニ富ミ其内側ニ位スル石核細胞環層ハ處々ニ斷歇セラレ間々外邊ニ纖維束ヲ伴フ又箇々ノ石核細胞ハ其膜壁ノ厚化不同ニシテ主トシテ内方ニ厚シ第二期ノ皮部ニハ長サ概シテ 700 μ 太サ 15~30 μ ノ厚膜纖維散在シ又油細胞及粘液細胞ヲ存ス髓線ハ概シテ二細胞列ニシテ澱粉粒並殆ト針狀ニ近キ細長菱形ヲナセル尿酸塩ノ細微結晶ヲ含有ス
- 本品ハ固有ノ強烈ナル香味ヲ有シ僅ニ粘性性ナリ
- 本品 50g ヲ取り揮發油定量法(乙)ニ據リ定量スルニ其量 0.5cc 以上ヲササルヘカラス
- 本品ヲ灰化スルニ 5% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Cortex Cinnamomi Loureirii

肉桂

- 一 肉桂ハ *Cinnamomum Loureirii Nes* (ニクケイ) ノ根及幹ノ皮ヲ剝離シ乾燥セルモノナリ
- 本品ハ厚サ 0.2~0.5 mm 外面ハ灰褐色内面ハ帶黃褐色ヲ有ス
- 本品ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ第一期皮部ノ内方ニ位スル石核細胞環層ハ處々ニ斷歇シ其外邊ニハ厚膜纖維束ヲ伴ハス又箇々ノ石核細胞ハ其膜壁ノ厚化不同ニシテ内邊

- 及兩側ニ厚ク外邊ニ薄シ第二期ノ皮部ニハ單獨ニ散在セル厚膜纖維ヲ有シ又粘液細胞及油細胞ヲ存ス髓線ハ二列ナルコト多ク其細胞中ニハ澱粉粒並多數ノ細微ナル方形又ハ長方形ノ尿酸塩結晶ヲ包有ス
- 本品ハ味芳香性辛烈ニシテ微ニ收斂性ナリ
- 本品ヲ灰化スルニ 5% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Cortex Condurango

コンヅランゴ皮

- 一 コンヅランゴ皮ハ *Marsdenia Condurango Heichenbach fil.* ノ幹皮ヲ採集シ乾燥セルモノナリ
- 本品ハ厚サ 2~7 mm ニシテ管狀或ハ槌狀ヲナシ多クハ稍々彎曲セリ外面ハ帶褐灰色ニシテ内面ハ淡灰褐色ナリ破折面ハ外側ニ於テ長纖維性ヲ帶ヒ内側ニ於テハ概シテ顆粒狀ナリ
- 本品ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ抱屑ハ數層ノ薄壁細胞ヨリ成リ外皮部ニハ顯著ナル靱皮纖維束ヲ有ス内皮部ニハ多數ノ石核細胞簇アリテ乳脈管ト交錯ス柔細胞ハ總テ澱粉粒ヲ含有シ又多クハ尿酸塩結晶ヲ包有ス
- 本品ハ微ニ特異ノ香氣ヲ有シ味微ニ苦ク稍々苛辣性ナリ
- 本品一分ニ水四分ヲ和シ冷浸シ濾過シテ得タル澄明ノ液

ハ之ヲ熱スレハ著シク溷濁シ冷ユレハ復タ澄明トナル
六 本品ヲ灰化スルニ 12% 以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

Cortex Granati

石榴皮

- 一 石榴皮ハ Punica Granatum Linné (ザクロ) ノ幹・枝及根ノ皮ヲ剥離シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ略々管状或ハ反曲セル皮片ヲナシ厚サ 1~3 mm 外面ハ帶綠黄色或ハ帶灰褐色・破折面ハ平坦ニシテ類黄色ヲ呈シ間々其外邊ニ於テ稍々褐色或ハ灰色ヲ現ハスコトアリ外皮ハ抱層ヨリ成リ其抱細胞ハ内壁著シク厚化シ明ニ層積ヲ現ハシ孔紋ヲ有ス第二期皮部ハ髓線ヲ有シ其髓線ハ通常一細胞列甚タ稀ニハ二細胞列ヨリ成ル髓線間ノ柔組織ハ横断面ニ於テハ正シキ觸線列ヲナセル平方形細胞ヨリ成リ其各細胞中ニハ一箇ノ蓚酸塩簇晶ヲ包有シ其細胞列ハ篩脈管ヲ含蓄セル横列ノ柔組織ト交互ニ排置シ殊ニ第二期皮部ノ外邊ニ直徑 20~200 μノ厚膜細胞散在ス
- 三 本品ハ 0.4% 以上ノ「アルカロイド」(「レチヒリン」 $C_8H_{11}NO$ 及「メチルレチヒリン」 $C_8H_{13}NO$ ノ平均分子量 181 トシテ)ヲ含有ス
- 四 本品ノ細切セルモノ一分ニ微ニ酸性トナセル水百分ヲ加

ヘテ一時間放置スレハ黄色ノ浸液ヲ生シ之ニ塩化第二鉄溶液二三滴ヲ和スレハ帶黒藍色ヲ呈シ又石灰水五倍容量ヲ和スレハ帶黄赤色ヲ現ハシテ溷濁シ時ヲ經ルニ從ヒ橙赤色絮狀ノ沈澱ヲ析出シテ無色トナル

- 五 本品ノ粉末ハ直徑 25~80 μノ球形單澱粉粒・稀ニハ複合澱粉粒・特異ノ抱細胞及厚膜細胞・蓚酸塩簇晶及單晶ヲ包藏セル細胞又柔細胞及篩脈管ノ外異物ヲ混有スヘカラス
- 六 本品ノ細末 5g ニ「エーテル」80gヲ加ヘ善ク振盪シ次ニ「ナトロン」滴液 10gヲ加ヘ屢々劇シク振盪シツツ三十分間放置シタル後脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ濾液ニ水 10gヲ加ヘテ劇シク振盪シ液ノ澄明トナルニ至リ燒芒硝 2gヲ加ヘ三分間劇シク振盪シタル後十分間放置シ次ニ脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其濾液 40gニ十分定規塩酸 5g 及水 10gヲ加ヘ屢々搖動シツツ「エーテル」ヲ蒸溜シ去リ冷後メチルロート溶液二滴ヲ加ヘ十分定規カリ液ヲ滴加シテ中和スルニハ該液ヲ費スコト 4.18gニ過クヘカラス
- 七 本品ヲ灰化スルニ 15% 以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

Cortex Rhamni Purshianae Casarea Saigwadi

カスカラサグラダ

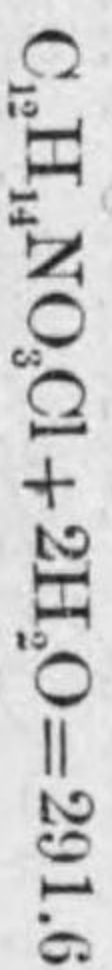
一 カスカラサグラダ」ハ Rhamnus Purshiana Des Cantholle

ノ幹及枝ノ皮ヲ採集セル後少クモ一箇年經過セシモノナリ
二 本品ハ厚サ 2~5 mmニシテ外面ハ褐色ヲ呈シ横形ノ皮孔ヲ有シ屢々灰白色ノ地衣ヲ被リ内面ハ類黄色乃至類褐色ヲ有ス横折スレハ稍々纖維性ヲ呈ス

- 三 本品ヲ石灰水ニ浸セハ其内面暗赤色ヲ呈ス
- 四 本品ハ之ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ主トシテ第一期皮部ニ又間々第二期皮部ニ石核細胞簇散在シ第二期皮部ニハ一乃至五細胞列ヨリ成レル髓線通走シ皮條中ニハ觸線性ニ排列セル多數ノ纖維束アリ其纖維束ニハ單一ノ結晶ヲ包藏セル小細胞縱列ヲナシテ隨伴ス
- 五 本品ノ粗末一分ニ水百分ヲ和シ冷浸シテ得タル澄明ノ液ニ「アンモニア」水二三滴ヲ加フレハ黄赤色ヲ呈ス
- 六 本品ハ味苦シ
- 七 本品ヲ灰化スルニ 5% 以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

Cotarninum chloratum

塩化コタルニン



一 塩化コタルニン」ハ淡黄褐色結晶性ノ粉末ニシテ潮解性ナリ之ヲ急速ニ熱スレハ約 180°ニ於テ褐色ニ變シ約 190°ニ於テ熔融セシテ分解ス一分ノ水並四分ノ純アルコー

ル」ニ溶解ス

- 二 本品ノ純アルコール溶液 (1+4)ニ過剩ノ「エーテル」ヲ注加スレハ結晶性ノ沈澱ヲ生ス又本品ノ水溶液 (1+19)ハ硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品 0.1gヲ水 5gニ溶解シ之ニ「ナトロン」滴液三滴ヲ滴加スレハ白色ノ溷濁ヲ生スルモ搖動スレハ直チニ溶解セサルヘカラス更ニ 0.3gノ「エーテル」ヲ和シテ振盪スルニ暫時ニシテ白色結晶性ノ沈澱ヲ析出シ其上液ハ澄明ニシテ微ニ黄色ヲ呈スルニ止マルヘシ又此沈澱ヲ濾別シ「エーテル」飽和水ヲ以テ洗滌シ乾燥シタルモノハ其熔融點 130°(132°)ナラサルヘカラス
- 四 本品ノ水溶液 (1+4) 10gハ「アンモニア」水ニ由テ殆ト變化スヘカラス
- 五 本品 0.2gヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 0.025gニ過クヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス
- 六 壘中ニ容レ密栓シ注意シテ貯フヘシ

Creosotum

〇クレオソート

一 クレオソートハ無色或ハ微ニ類黄色澄明油状ノ液ニシテ殆ト中性ノ反應ヲ徴シ強ク光線ヲ屈折ス味灼クカ如ク甌透性ノ煙臭ヲ有シ約百二十分ノ熱湯ニ澄明ニ溶解シ其溶液ハ冷後濁濁シテ油滴ヲ析出シ「エーテル竝アルコール」ニ澄明ニ混和シ 200°~220°ノ熱ヲ與フレハ 75%以上ヲ溜出シ零下 20°ノ寒ニ逢フモ凝固セス比重 1.08 以上ナリ

二 本品ノ飽和水溶液ニ「プロム水ヲ和スレハ赤褐色ノ沈澱ヲ生シ又塩化第二鉄溶液二三滴ヲ加フレハ藍色ヲ呈シ濁濁シテ灰綠色トナリ終ニ汚褐色ニ變ス又其アルコール溶液ニ在テハ深藍色ヲ呈シ次テ暗綠色ニ變ス

三 本品 1g ニ「ナトロン滴液 2.5ccヲ和シ振盪スルニ澄明ニ混和シ暗色ヲ呈セス之ニ水 30ccヲ加ヘテ稀釋スルニ澄明ニ止マルヘシ又本品一容量ニ純アルコール」ヲ以テ製シタル苛性カリ溶液 (1+4) 十容量ヲ混和スルニ暫時ノ後凝結シテ結晶性ノ固塊ヲ生スヘシ又本品ニ「コロデオソト」同容量ヲ和シ振盪スルニ凝膠様ノ物質ヲ生スヘカラス

四 本品一容量ニ「グリセリン三分及水」分ヨリ成レル混液三容量ヲ和スルニ殆ト全ク溶解スヘカラス又本品 1g ニ石油ベンジン 2ccヲ和シテ得タル澄明ノ液ニ新タニ製シタル飽和バリット水 2ccヲ加ヘ振盪シ靜置スルニ上層液ハ藍色或ハ汚褐色・下層液ハ赤色ヲ呈スヘカラス

五 壘中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ
一回ノ極量 0.5g
一日ノ極量 1.5g

Cresotum carbonicum

炭酸クレオソート

一 炭酸クレオソートハ無色或ハ類黄色澄明粘稠ノ液ニシテ殆ト臭氣ナク微ニ苦味ヲ有シ水ニ溶解セス「アルコール・エーテル又クロロホルム」ニ溶解ス強ク冷却スレハ結晶ヲ析出シ若クハ凝固ス

二 本品ニ 0.2g 苛性カリ 0.5gヲ純アルコール 12ccニ溶解シタル澄明ノ溶液 10ccヲ加ヘテ二日間煮沸スレハ結晶性ノ沈澱ヲ析出ス此沈澱ヲ純アルコール」ヲ以テ洗滌シ之ニ塩酸ヲ加フレハ炭酸ガス」ヲ發生ス又此沈澱ヲ濾過シタル液ニ水 5ccヲ和シテ稀釋シ重湯煎上ニ温メ「アルコール」ヲ蒸散セシメタル後稀硫酸 5cc及エーテル」ヲ注加シテ振盪シ「エーテル液ヲ分取シ蒸發スレハ其殘留物ハ「クレオソート」ノ香氣ヲ發ス

三 本品 1gヲ「アルコール 10ccニ溶解シタルモノハ濕潤セル試験紙ヲ變色セス又塩化第二鉄溶液一滴ニ由テ綠色ヲ呈スヘカラス

四 本品ヲ燃化スルニ 0.1%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

五 本品ノ結晶ヲ析出セルモノ又凝固セルモノハ用ニ臨ミテ之ヲ熔融スヘシ

Cresolum crudum

粗製クレゾール

一 粗製クレゾールハ類黄色乃至赤褐色澄明中性或ハ微ニ酸性ノ液ニシテ水ヨリ重ク焦臭ヲ有シ水ニ充分ニ溶解セス「アルコール竝エーテル」ニ容易ニ溶解ス

二 本品 50ccヲ蒸溜スルニ 195°~205°ニ於テ少クモ 40ccヲ連續シテ溜出セサルヘカラス

三 本品 10ccヲ「ナトロン滴液及水各 20ccト共ニ内容 200ccノ有栓刻度圓筒中ニ於テ振盪シ三十分間放置スルニ僅少ノ絮狀物ヲ析出スルニ過クヘカラス次テ之ニ塩酸 30cc及食塩 10gヲ和シ振盪シタル後靜置スルニ少クモ 85ccノ油様クレゾール層ヲ分離スヘシ茲ニ分離セル「クレゾール 0.5ccニ水 30ccヲ加ヘテ振盪シ之ニ鹽化第二鉄溶液二三滴ヲ和スルニ藍色ヲ呈セサルヘカラス

Crocus

サフラン

粗製クレゾール・サフラン

一 サフラン」ハ Crocus sativus Linné (サフラン)ノ雌蕊頭ヲ採集シ乾燥セルモノナリ

二 本品ハ暗橙赤色乃至褐赤色ニシテ水ニ浸シ軟化セシムレハ其各條ハ下方ニ向テ狹細トナリ一側ニ於テ關裂セル長サ 30~35mmノ管ヲナシ上端ハ鈍鋸齒ヲ有ス其基部ヨリ入り來レル細キ一條ノ脈管束ハ上部ニ到ルニ從ヒ反復又狀ニ分歧シ上端太キ部位ニ於テハ約二十條ノ脈管束トナル

三 本品ハ峻烈ノ香氣ヲ有シ味苦シ

四 本品ニ一滴ノ硫酸ヲ加フルニ濃藍色ヲ呈シ暫時ノ後紫色トナリ終ニ褐赤色ニ變ス

五 本品 0.05gニ「クロロホルム 10ccヲ加ヘテ振盪スルニ其クロロホルム」ハ黄色ヲ呈スルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ

六 本品ニ「カリ滴液ヲ加ヘテ温ムルニ茲ニ發スル蒸氣ハ水ヲ以テ濡ホシタル赤色リトマス紙ヲ直チニ青色ニ染ムヘカラス

七 本品ハ甘味ヲ有スヘカラス又之ヲ紙間ニ壓スルニ斑點ヲ留ムヘカラス

八 本品 1gニ水 20ccヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス

九 本品ノ硫酸上ニ乾燥シ粉末トナシタルモノ 0.1gニ温湯

150ccヲ加へ時々搖動シツツ 60°~70°ニ保ツコト三十分間ノ後濾過シ其濾液1ccヲ取り水5ccヲ加へタルモノハ純黄色ニシテ重クロム酸カリノ0.05%溶液ト同等以上ノ色度ヲ呈セサルヘカラス

一〇 本品ヲ100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト12%ニ過クヘカラス又之ヲ灰化スルニ6%以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス其乾燥セルモノハ脆クシテ破碎シ易ク之ヲ灰化スルニ爆噴スヘカラス
一一 密閉シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Cuprum aluminatum

銅 礬

一 銅礬ハ

硫酸銅

硝石

明礬

各十分

ヲ取り粉末トナシ混和シ磁皿ニ盛り砂鍋上ニ熱シテ熔融スルニ至リ之ニ

カンフル末 一分

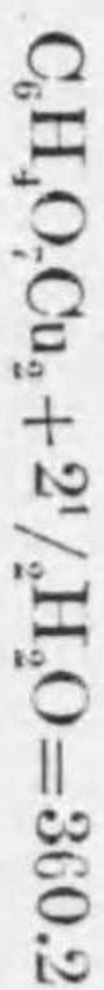
ヲ加へ挺子形ニ鑄成シ製スヘシ

二 本品ハ淡類緑藍色ノ小挺子ニシテ「カンフル」ノ香氣ヲ

有シ十六分ノ水ニ少量ノ殘滓ヲ留メテ溶解ス
三 壘中ニ容レ密栓シ注意シテ貯フヘシ

Cuprum citricum

クエン酸銅



一 クエン酸銅ハ綠色ノ結晶性粉末ニシテ水ニ溶解シ難ク「アルコール」ニ溶解セス

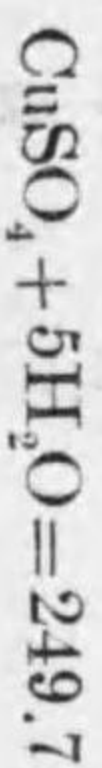
二 本品ノ塩酸ヲ以テ酸性トナシタル水溶液ハ過剰ノ「アンモニア」水ニ由テ深藍色ヲ呈シ之ニ硫化ソーダ溶液ヲ加フレハ黒褐色ノ沈澱ヲ生ス其濾液ヲ蒸發シテ得タル殘留物ヲ少許ノ水ニ溶解シ塩酸ヲ加ヘテ中和シ之ニ過剰ノ石灰水ヲ和シ煮沸スレハ冷時溶解スル白色ノ沈澱ヲ生ス

三 本品「5%」ヲ塩酸性ノ水ニ溶解シ溶液ノ酸性ヲ失ハサル程度ニ硫化ソーダ溶液ヲ加ヘテ生シタル沈澱ヲ濾別シ濾液ニ過剰ノ「アンモニア」水ヲ和スルニ微ニ暗綠色ヲ呈スルニ過クヘカラス

四 本品ニ水ヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
五 壘中ニ容レ注意シテ貯フヘシ

Cuprum sulfuricum

○ 硫酸銅



一 硫酸銅ハ藍色透映ノ結晶ニシテ乾燥氣中ニ於テ徐々ニ風化シ三・五分ノ水並一分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徴シ「アルコール」ニ殆ト溶解セス

二 本品ノ水溶液ニ硝酸バリウム溶液ヲ和スレハ稀酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生シ又過剰ノ「アンモニア」水ヲ和スレハ深藍色澄明ノ液ヲ生ス

三 本品1.2gヲ水5ccニ溶解シ之ニ稀硫酸15cc及硫化ソーダ溶液1ccヲ和シ劇シク振盪シ茲ニ生シタル黒色ノ沈澱ヲ濾過シテ得タル無色ノ液ハ過剰ノ「アンモニア」水ニ由テ染色スルコトアルモ僅微ニ止マリ澄明ナラサルヘカラス尙之ニ燐酸ソーダ溶液ヲ加フルニ直チニ變化スヘカラス

四 注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 1.0g

Decocta

煎 劑

一 煎劑ハ通例細切セル藥品ニ冷水ヲ注キ屢々攪拌シツツ三

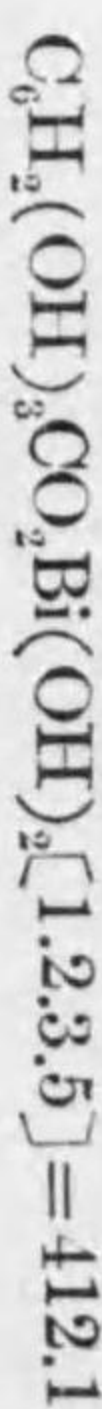
硫酸銅・煎劑・デルマトール次沒食子酸蒼鉛

十分間重湯煎上ニ熱シ温ニ乗シ壓濾シテ得タル浸出液ナリ
二 處方中藥品ノ分量ヲ記載セサルトキハ藥品一分ニ付十分ノ濾液ヲ得ヘキ液量ヲ取ルヘシ

三 劇藥ニ屬スル藥品ニ在テハ醫師必ス其分量ヲ記スヘシ又多量ノ粘液質ヲ含有スル藥品ニ在テハ藥劑師其分量ヲ定ムヘシ
四 用ニ臨ミテ製スヘシ

Dermatolum Bismutum subgallicum

デルマトール 次沒食子酸蒼鉛



一 デルマトールハ黄色無晶形ノ粉末ニシテ臭味ナク水・アルコール又エーテル」ニ溶解セス熱灼スレハ熔融セスシテ炭化シ終ニ黄色ノ物質ヲ殘留ス

二 本品0.1gニ水5ccヲ混和シタル後硫化ソーダ溶液1ccヲ和シ振盪スレハ黒褐色ヲ呈ス之ヲ濾過シタル液ニ稀塩化第二鉄溶液二滴ヲ加フレハ藍黑色ヲ呈ス

三 本品2gヲ瓷製坩堝内ニ於テ灰化シ温ヲ與ヘテ硝酸15ccニ溶解シ水25ccヲ和シテ稀釋シタルモノ各5ccハ硝酸バリウム溶液ニテ由テ三分以内ニ變化セス又二倍容量ノ稀硫酸ヲ加フルニ變化スヘカラス又硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋

白石濁ヲ起スニ過キス又過剩ノ「アンモニア水ヲ和シテ濾過シタル液ハ全ク無色ニ止ルヘシ同上溶液 2cc ハ之ニ水 5cc ヲ和シテ稀釋シ硫化ソーダ溶液 1cc ヲ加ヘテ強ク振盪シ濾過シ其濾液ニ「アンモニア水 10cc」ヲ以テ過飽シタル後稀酸アンモン溶液ヲ加フルニ直チニ變化スヘラカス又同上溶液 5cc ニ水 20cc ヲ和シテ稀釋シ之ニ炭酸アンモン 2cc ヲ水 20cc ニ溶解シタルモノヲ加ヘ暫時煮沸シ温ニ乗シテ濾過シ其濾液ヲ蒸發乾燥シ残渣ニ硫酸一滴ヲ添加シタル後熱灼スルニ固性物ヲ殘留スルコトアルモ 0.003g ニ過クヘカラス

四 本品 1g ヲ少量ノ強硝酸ニ溶解シ蒸發乾燥シ更ニ熱灼スルニ少クモ 0.52g ノ酸化蒼鉛ヲ遺ササルヘカラス此殘留物ヲ成ルヘク少量ノ塩酸ニ溶解シ之ニ二倍容量ノ塩化第一錫溶液ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス

五 本品 1g ニ 10cc ノ「アルコール」ヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液ヲ蒸發スルニ秤定シ得ヘキ殘留物ヲ遺スヘカラス

六 本品 1g ハ「ナトロン滴液 5cc」ニ證明ニ溶解セサルヘカス其溶液ヲ温ムルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス又本品 0.05g ニ稀硫酸及硫酸鉄溶液各 5cc ノ混液 5cc ヲ和シ濾過シタル後硫酸 5cc ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ直チニ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス

Dextrinum

デキストリン

一 デキストリンハ白色或ハ類黄色ノ粉末或ハ顆粒ニシテ殆ト臭味ナク熱湯ニ容易ニ・稀アルコールニ僅ニ溶解シ純アルコール並エーテルニ殆ト溶解セス

二 本品ノ水溶液ハ殆ト中性ノ反應ヲ徴シ「ヨード溶液ニ由テ紫紅色ヲ呈ス

三 本品ノ水溶液 (1+19) ニ醋酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ塩化カルシウム溶液ニ由テ又稀酸アンモン溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス

四 本品ノ水溶液 (1+19) ハ醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ變化スヘカラス更ニ「アンモニア水ヲ加ヘテ過飽スルモ亦然リ

五 本品ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 10%ニ過クヘカラス又之ヲ燃化スルニ 0.5%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Diacetylmorphinum hydrochloricum

○塩酸ジアセチルモルヒネ



一 塩酸ジアセチルモルヒネハ白色結晶性ノ粉末ニシテ三分ノ水並十一分ノ「アルコール」ニ溶解シ中性又ハ微弱酸性ノ反應ヲ徴シ「エーテル」ニ溶解セス

二 本品 0.1g ヲ稀硫酸 2cc ト共ニ二三分間煮沸シタル後更ニ「アルコール二三滴ヲ加ヘテ温ムレハ醋酸エチル」ノ香氣ヲ發ス之ニ稀薄ナトロン滴液 (1+19) ヲ加ヘテ殆ト中和シ重湯煎上ニ蒸發シテ得タル殘留物ハ硝酸ニ由テ赤色・塩化第二鉄溶液ニ由テ藍色ヲ呈ス又本品ノ水溶液ハ硝酸銀溶液ニ由テ稀硝酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス

三 本品ノ水溶液 (1+39) ハ硝酸バリウム溶液並稀硫酸ニ由テ變化スヘカラス又稀塩化第二鉄溶液ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス又此水溶液 5cc ニ赤血塩少許ヲ水 5cc ニ溶解シ之ニ塩化第二鉄溶液一滴ヲ添加セルモノ五滴ヲ加フルモ亦然リ又ナトロン滴液ヲ加ヘテ温ムルニ「アンモニア」ノ臭氣ヲ發生スヘカラス

四 本品 0.1g ヲ水 20cc ニ溶解シ之ニ「アンモニア水ヲ和スレハ白色ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ヲ濾別シ水ヲ以テ洗滌シ乾燥シタルモノハ 169°~172°ニ於テ熔融スヘシ

五 本品 0.1g ハ硫酸 1cc ニ殆ト無色ニ・硝酸ニ黄色ヲ呈シテ溶解スヘシ

六 本品 0.5g ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘ

カラス

七 光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.005g

一日ノ極量 0.015g

Diastasum

○ヂアスターゼ

一 ジアスターゼハ帯黄白色ノ粉末ニシテ水ニ殆ト全ク溶解シ「アルコール」ニ殆ト溶解セス

二 100°ニ於テ三時間乾燥シタル馬鈴薯澱粉 5g 及水 30cc ノ混和物ニ攪拌シツツ熱湯 70cc ヲ注加シ更ニ三十分間重湯煎中ニ熱シタル後 55°ニ冷却シタル糊液ニ本品 0.05g ヲ和シ同温度ニ於テ屢々搖動シツツ一時間放置シテ得タル溶液 10cc ハ 40cc ノ「フェーリング溶液ヲ脱色セサルヘカラス

三 本品 0.1g ニ水 20cc ヲ和シテ煮沸シタルモノハ冷後ヨード液ニ由テ藍色ヲ呈スヘカラス

四 本品ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 4%ニ過クヘカラス

五 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Digenea
海人草

- 一 海人草ハ *Digena simplex Agardh* (マクリ)ヲ採集シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ圓紐狀ニシテ複叉狀又ハ不規則ナル叉狀ニ分岐シ直徑約 3mm・外面灰白・暗褐色又ハ暗紅色ニシテ短小ナル鬚毛ヲ以テ被ハレ屢々他種ノ藻類ヲ著生ス
- 三 本品ハ味鹹ク特異ノ臭氣ヲ有ス
- 四 本品ノ粗末ニテ小壘ニ取り「アルコール 50cc」ヲ加ヘ還流冷却器ヲ附シ重湯煎上ニ加熱スルコト一時間ノ後冷却シ「アルコール」ヲ添加シテ全量ヲ抽出トナシ濾過シ其濾液 25gヲ蒸發シ残留物ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其量少クモ 0.1gナラサルヘカラス
- 五 本品ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 22%ニ過クヘカラス
- 六 本品 2gヲ灰化スルニ固性物ヲ残留スルコト 0.5gニ過クヘカラス又此固性物ニ稀塩酸 15ccヲ加ヘ弱ク煮沸スルコト十五分間ノ後濾過シ水ヲ以テ善ク洗滌シ乾燥シ熱灼スルニ其重量 0.14gニ過クヘカラス

Diureticum *Theobromino-natrium schleglium*

- ヂウレチン
- サリチル酸テオブロミンソーダ
- 一 ヂウレチン「ハ 九分
- テオブロミン 八分
- サルチル酸ソーダ 二分
- 苛性ソーダ 適宜量
- ヲ取り之ヲ 蒸溜水
- ニ溶解シ蒸發乾燥シ製スヘシ
- 二 本品ハ白色無臭ノ粉末ニシテ甘鹹且稍々滴汁様ノ味ヲ有シ等分ノ水ニ溶解シ「アルカリ性」ノ反應ヲ徴ス
- 三 本品ハ少クモ 40%ノ純テオブロミン ($C_7H_7N_3O_2 = 180.0$)ヲ含有ス
- 四 本品ノ水溶液 (1+4)ハ殆ト無色ニシテ醋酸ヲ以テ酸性トナシタル後鹽化第二鉄溶液ニ由テ紫色ヲ呈ス
- 五 本品ノ水溶液 (1+15)1ccニ稀塩酸一滴ヲ加フレハ先ツ「デオブロミン」ノ白色ノ沈澱ヲ更ニ之ニ稀塩酸五滴ヲ添加スレハ「サリチル酸」ノ白色ノ沈澱ヲ析出ス此沈澱ハ「ナトロン」滴液 0.5cc或ハ「アンモニア」水 10ccニ全ク溶解ス

- 一 壘中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ
 - 一回ノ極量 1.0g
 - 一日ノ極量 3.0g
- Elaeosacchara**
- 油糖劑

- 一 油糖劑ハ 一分
- 處方セル揮發油
- 白糖中末 五十分
- ヲ取り混和シ製スヘシ
- 二 用ニ臨ミテ製スヘシ

Electuaria
砥劑

- 一 砥劑ハ固體及流動體或ハ半流動體ノ藥品ヨリ成レル糜粥狀或ハ軟泥狀ノ製劑ニシテ内用ニ供スルモノナリ
- 二 本劑ノ調製ニ供スル固體ノ藥品ハ細微ノ粉末トナシ均等ニ混和シタル後流動體或ハ半流動體ノ藥品ヲ加フヘシ又貯藏スヘキ砥劑ニシテ揮發シ易キ成分ヲ含有セサルモノハ混和後蓋閉セル容器ニ於テ重湯煎上ニ一時間温ムヘシ
- 三 本劑ハ全質均等ナラサルヘカラス

- 六 本品 0.5gヲ水 5ccニ溶解シ「ナトロン」滴液 5cc及クロロホルム 10ccヲ加ヘテ振盪シ其クロロホルム液ヲ分取シ重湯煎上ニ蒸發シ残留物ニ過酸化水素水十滴及塩酸一滴ヲ添加シ再ヒ蒸發スルニ其残留物ハ黄赤色ヲ呈スヘカラス又之ニ「アンモニア」水一滴ヲ加フルニ紫紅色ヲ呈スルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ
- 七 本品 0.1gヲ硫酸 1ccニ溶解スルニ泡沸セス其溶液ハ殆ト無色ニ止マルヘシ
- 八 本品ノ水溶液 (1+9)ニ稀硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシ濾過シテ得タル澄明ノ液ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス硝酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 九 本品 0.5gヲ水 5ccニ溶解シ「メチルロート」溶液ヲ加ヘ十分定規塩酸ヲ以テ滴定スルニ該液ヲ費スコト 12.3~12.7ccナラサルヘカラス滴定後約三時間放置シ茲ニ生成スル沈澱ヲ濾別シ毎回各 5ccノ水ヲ以テ四回沈澱ヲ洗滌シ 100°ニ於テ乾燥シ秤量スルニ其重量少クモ 0.2gナラサルヘカラス此沈澱 0.01gヲ取り過酸化水素水十滴及塩酸一滴ヲ注加シ乾燥スルニ黄赤色ノ残留物ヲ生シ之ニ「アンモニア」水一滴ヲ和スレハ紫紅色ヲ呈ス
- 一〇 本品 0.2gヲ 100°ニ於テ一時間乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 0.01gニ過クヘカラス

Emetinum hydrochloricum

塩酸エメチン



- 一 塩酸エメチンハ白色或ハ殆ト白色結晶性ノ粉末ニシテ水ニ容易ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴シ又アルコールニ溶解ス臭氣ナク味苦シ光ニ觸ルレハ漸次類黄色ヲ呈ス
- 二 本品ハ「モリブデン酸アンモン 0.03g」ヲ硫酸 1ccニ新タニ溶解シタルモノニ由テ綠色ヲ呈ス
- 三 本品ノ水溶液ニ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 0.01gハ硫酸 1ccニ殆ト無色或ハ微ニ黄色ヲ呈シテ溶解シ之ニ硝酸一滴ヲ加フレハ黄赤色トナル
- 五 本品ノ水溶液 (1+99)ニ炭酸ソーダ溶液ヲ加ヘテ「アルカリ性トナシ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ其エーテル液ヲ蒸發シテ得タル残渣ヲ水ヲ以テ洗滌シ乾燥シタルモノハ約 98%ニ於テ熔融セサルヘカラス
- 六 本品 0.2gヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 0.02gニ過クヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 七 壘中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ

Emplastra 硬膏劑

- 一回ノ極量(皮下注射) 0.05g
- 一 硬膏劑ハ脂肪・脂肪油・脂肪酸ノ鉛塩・蠟・樹脂・ラノリン・テレピンチーナ・グリセリン又ハ其混和物ヲ基礎藥トシテ製シタル外用劑ナリ
- 二 本劑ヲ製スルニハ特別ニ記スルモノノ外先ツ基礎藥ヲ熔融シ若クハ熔和シ其半ハ冷却スルニ至リ之ニ藥品ヲ親密ニ混和シ全質均等トナルニ至リ適當ノ形狀ヲ與フヘシ
- 三 本劑ハ常溫ニ於テ固塊ヲナシ微溫ニ於テ軟化シ粘著スヘシ
- 四 本劑ヲ布片ニ塗布スルニ特別ノ記載ナキトキハ硬膏ノ厚サ約 1mm ナルヘシ
- 五 本劑ハ蠟又ハ蠟紙ニ包ミ揮發性ノ藥品ヲ含有スルモノハ更ニ密閉器中ニ容レ冷乾處ニ貯フヘシ

Emplastrum Gauthsch adhaesivum

ゴム絆創膏

一 ゴム絆創膏ハ精製バラゴム・バルサム類・脱水ラノリン等ヲ善ク捏合セルモノヲ布ニ展布シ製シタルモノナリ

- 二 本品ノ膏面ハ褐色柔軟ニシテ乾燥セル清潔ナル皮膚ニ對シ強キ粘著性ヲ有スヘシ
- 三 本品ノ皮膚ニ粘著シタルモノヲ剝離スルニ牽絲性ナラス著シク膏質ヲ皮膚ニ遺留スヘカラス

Emplastrum Gauthsch adhaesivum cum Zinco 亞鉛華ゴム絆創膏

- 一 亞鉛華ゴム絆創膏ハ精製バラゴム・バルサム類・脱水ラノリン・亞鉛華等ヲ善ク捏合セルモノヲ布ニ展布シ製シタルモノナリ
- 二 本品ノ膏面ハ類白色柔軟ニシテ乾燥セル清潔ナル皮膚ニ對シ強キ粘著性ヲ有スヘシ
- 三 本品ノ皮膚ニ粘著シタルモノヲ剝離スルニ牽絲性ナラス著シク膏質ヲ皮膚ニ遺留スヘカラス

Emplastrum Hydrargyri 水銀硬膏

- 一 水銀硬膏ハ 二分
- 水銀 一分
- 脱水ラノリン 一分
- ヲ取り親密ニ研和シ之ヲ

蜜蠟 一分 單鉛硬膏 六分

- ノ半ハ冷却シタル熔和物ニ混和シ全質均等トナシ製スヘシ
- 一 本品ハ 1&7~21%ノ純水銀 (Hg = 200.61)ヲ含有ス
- 二 本品ハ灰色ノ硬膏ニシテ「ルーベ」ヲ以テ水銀球ヲ認ムヘカラス
- 三 本品 3gヲ小壘ニ取り強硝酸 20ccヲ加ヘ還流冷却器ヲ附シ重湯煎上ニ約十分間熱シ水銀球ヲ認メサルニ至リ次テ水 25ccヲ冷却器ヲ洗滌シツツ注加シ更ニ熱シテ脂肪層ノ澄明ニ分離スルニ至リ冷後脱脂綿ヲ用ヒテ内容 100%ノ測容壘中ニ濾入シ脂肪及壘ヲ逐次五回各約 5ccノ水ヲ以テ洗滌シ其洗液ヲ前ノ濾液ニ合シ之ニ過マンガン酸カリ溶液 (1+99)ヲ加ヘテ持續スル紅色ヲ呈セシメ又ハ褐色ノ沈澱ヲ分離スルニ至リ次テ硫酸鉄溶液ヲ加ヘテ脱色セシメ又ハ澄明トナラシメタル後水ヲ加ヘテ全量 100ccトナシ濾過シ其濾液 25ccニ鉄明礬溶液 2ccヲ和シ十分定規ロダンアンモン液ヲ滴加シテ褐色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト 14~15ccナラサルヘカラス

Emplastrum Lithargyri 單鉛硬膏

一 單鉛硬膏ハ

- 落花生油 五分
- 豚脂 五分
- 一酸化鉛細末 五分
- 蒸溜水 一分

ヲ取り先ツ一酸化鉛ニ蒸溜水ヲ加ヘテ粥狀トナシ之ヲ落花生油及豚脂ノ混和物ニ和シ熱ヲ與ヘ絶エス攪拌シ又時々蒸溜水ヲ補充シツツ加熱ヲ繼續シ試ニ其少量ヲ取り冷水中ニ於テ指間ニ搓捏スルニ粘著セサル塊トナルニ至リテ加熱ヲ止メ其尙温キ硬膏塊ニ温湯ヲ注加シ反復捏轉シテ「グリセリン」ヲ除キ次テ重湯煎上ニ於テ水分ヲ去リ製スヘシ

二 本品ハ類黃白色ニシテ遊離ノ一酸化鉛ヲ含ムヘカラス

Emplastrum Resinae Cryptomeriae

杉脂硬膏

- 一 杉脂硬膏ハ 四十分
- 杉脂 四十分
- 單鉛硬膏 四十分
- ヲ取り低温ニ於テ熔融シ之ニ熔融セル 五分
- 精製パラゴム 五分
- ヲ研和シ半ハ冷却スルニ至リ之ヲ棒狀ニ抽延シ製スヘシ

二 本品ハ暗赤褐色ニシテ熱スレハ熔融シ強キ粘着性ヲ有ス

Emplastrum Resinae Pini

松脂硬膏

- 一 松脂硬膏ハ 四十分
 - 單鉛硬膏 四十分
 - 松脂 七分
 - 蜜蠟 三分
 - ヲ取り先ツ單鉛硬膏ト蜜蠟トヲ熔和シ之ニ松脂ヲ混和シ製スヘシ
 - 二 本品ハ類黃白色ノ硬膏ナリ
- Emplastrum saponatum
- 石鹼硬膏
- 一 石鹼硬膏ハ 七十分
 - 單鉛硬膏 七十分
 - 蜜蠟 十分
 - ヲ取り重湯煎上ニ熔和シ次テ半ハ冷却シタルモノニ先ツ 五分
 - ヲ加ヘ次ニ 五分
 - 落花生油 一分

カンフル 一分

ノ研和シタルモノヲ混和シ製スヘシ

二 本品ハ類黃白色ノ硬膏ナリ

Emplastrum saponatum salicylatum

ピツク膏 サルチル酸石鹼硬膏

- 一 ピツク膏ハ 八分
 - 石鹼硬膏 八分
 - 蜜蠟 一分
 - サリチル酸細末 一分
 - ヲ取り先ツ石鹼硬膏及蜜蠟ヲ鉄製ニアラサル鍋中ニ容レ重湯煎上ニ熔和シ次テ半ハ冷却シタルモノニ「サリチル酸」ヲ混和シ製スヘシ
 - 二 本品ハ黄色乃至類褐色ノ硬膏ナリ
- Emplastrum Scopoliae
- ロート硬膏
- 一 ロート硬膏ハ 九分
 - 杉脂硬膏又ハ松脂硬膏 九分
 - ヲ取り重湯煎上ニ熔融シ 一分
 - ロートエキス 一分

ヲ均等ニ混和シ製スヘシ

二 本品ハ褐色ノ硬膏ナリ

Emulsiones

乳劑

- 一 乳劑ハ油・脂肪・樹脂・ゴム樹脂・カンフル・鯨蠟・蠟・バルサム或ハ其他ノ物質ヲ他ノ液中ニ細微且均等ニ分散セシメタルモノナリ
 - 二 本劑ハ種子或ハ上記物質ノ外必要アルトキハ「アラビアゴム」ト「ラガント」卵黃ヲ添加シ水ヲ和シ親密ニ搗碎シ研磨シ若クハ振盪シ製スヘシ
 - 三 處方中特ニ藥品ノ分量ヲ記載セサルトキハ左記ニ據リ調製スヘシ
 - (一) 種子乳劑 種子一分ニ水少許ヲ加ヘテ研磨シ適宜ニ稀釋シ壓濾シ其濾液ヲ十分トナスヘシ
 - (二) 油乳劑 油二分・アラビアゴム細末一分・水十七分
- 油乳劑ニハ通常杏仁油又ハ落花生油ヲ用フ
- Emulsio Olei Jecoris
- 肝油乳劑
- 一 肝油乳劑ハ

肝油 五百分
 アラビアゴム細末 五分
 トラガント細末 五分
 ゼラチン 一分
 次亜磷酸石灰 五分
 桂皮水 百分
 グリセリン 七十五分
 溶性サッカリン 〇・一分
 ベンズアルデヒド 〇・一五分
 水 三百九分

ヲ取り先ツ廣潤ナル乾燥塚中ニ於テ「アラビアゴム末及トラガント末ヲ肝油ト均等ニ混和シ之ニ「ゼラチン」ヲ水250ccニ溶解セル熱溶液及グリセリン」ヲ注加シ強ク振盪シテ緊密ニ乳化セシメタル後殘餘ノ水ヲ追加シ最後ニ次亜磷酸石灰・溶性サッカリン及ベンズアルデヒド」ヲ桂皮水ニ溶解シタルモノヲ混和シ製スヘシ

二 肝油乳劑ハ類黃白色濃稠ノ液ニシテ50%ノ肝油ヲ含有ス

Ephedrinum hydrochloricum
 塩酸エフェドリン
 $C_9H_{13}CH(OH)CH(NHCH_2)CH_2.HCl = 201.6$

一 塩酸エフェドリン」ハ白色稜柱狀ノ結晶ニシテ215°ニ於テ熔融シ約四分ノ水放約十五分ノ「アルコール」ニ無色澄明ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴ス

二 本品0.1gヲ水ニ溶解シテ10ccトナシタルモノハ旋光度約-0.31°ナリ

三 本品ノ水溶液(1+99)ニ赤血塩溶液1cc及カリ濾液2ccヲ和シ加熱スレバ「ベンズアルデヒド」ノ香氣及メチルアミン」ノ臭氣ヲ發ス

四 前項ノ本品水溶液ハ硝酸銀溶液ニ由テ硝酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生シ又カリ濾液5cc及硫酸銅溶液0.5ccヲ和シテ振盪スレハ紫色ヲ呈シ次テ之ニ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪スレハ「エーテル層ハ紫紅色ヲ呈ス

五 本品0.1gヲ水0.4ccニ溶解シ「カリ濾液0.3ccヲ注加スレハ乳濁ヲ生シテ油滴ヲ析出シ之ニ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪スレハ溶解ス其エーテル層ヲ分取シ重湯煎上ニ蒸發スレハ無色油狀ノ物質ヲ殘留シ之ヲ除濕器内ニ放置スレハ暫時ニシテ結晶ニ變ス其結晶ハ約40°ニ於テ熔融ス又其アルコール溶液ハ濕潤セル赤色リトマス紙ヲ青變ス

六 本品0.1gハ硫酸1ccニ泡沸シツツ染色セスシテ溶解セサルヘカラス

七 本品0.2gヲ100°ニ於テ乾燥スルニ殆ト其重量ヲ減失

スヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

八 塚中ニ容レ密栓シ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.05g
 一日ノ極量 0.15g

Eserinum salicylicum

Physostigminum salicylicum

サリチル酸エゼリン

サリチル酸フィゾスチグミン



一 サリチル酸エゼリン」ハ無色或ハ微黃色ノ光澤アル結晶ニシテ八十五分ノ水並十二分ノ「アルコール」ニ溶解シ其水溶液(1+99)ハ青色リトマス紙ヲ直チニ變化セス其乾燥品ハ久シキヲ經ルモ變化セス光ニ觸ルルモ亦然リ其水溶液並アルコール溶液ハ暗處ニ於テモ一二時間ノ後類赤色ヲ呈ス

二 本品ノ水溶液ハ塩化第二鉄溶液ニ由テ紫色ヲ呈シ「ヨード溶液」ニ由テ濁濁ス又本品ヲ硫酸ニ溶解スレハ無色ノ液トナリ漸次黃色ヲ呈ス

サリチル酸エゼリン・硫酸エゼリン

三 本品少許ニ「アンモニア水ヲ和シテ加温スレハ帶黃赤色ヲ呈シテ溶解シ之ヲ重湯煎上ニ蒸發スレハ藍色或ハ藍灰色ノ物質ヲ殘留ス此殘留物ノ一半ニ「アルコール」ヲ點加スレハ藍色ヲ呈シテ溶解シ醋酸ヲ以テ過飽スレハ赤色ニ變シテ螢石彩ヲ現ハス又他ノ一半ニ一滴ノ硫酸ヲ點加スレハ綠色ヲ呈シテ溶解シ「アルコール」ヲ以テ漸次稀釋スレハ赤色ニ變シ其アルコール」ヲ揮散セシムレハ復タ綠色トナル

四 本品0.2gヲ100°ニ於テ乾燥スルニ殆ト其重量ヲ減失スヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

五 光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.001g
 一日ノ極量 0.003g

Eserinum Sulfuricum

Physostigminum sulfuricum

硫酸エゼリン

硫酸フィゾスチグミン



一 硫酸エゼリン」ハ白色或ハ微ニ類黃色ヲ帶フル結晶性ノ

粉末ニシテ苦味ヲ有シ濕潤氣中ニ於テ潮解シ水並アルコー
ル」ニ容易ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徵ス

- 二 本品ノ水溶液(1+99)ニ硝酸バリウム溶液ヲ和スレハ稀
酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス又本品ノ同水上水溶液ニ
塩化第二鉄溶液ヲ和スルニ紫色ヲ呈スヘカラス或ハ之アル
モ極メテ僅微ニ止マルヘシ其他ノ試験ハ「サリチル酸エゼ
リン」ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

- 三 壘中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ
 - 一回ノ極量 0.001g
 - 一日ノ極量 0.003g

Extracta

エキス劑

- 一 エキス劑ハ藥品ノ浸出液ヲ蒸發シ製シタルモノナリ
- 二 本劑ハ其稠度ニ從ヒ之ヲ左ノ三類ニ分ツ
 - (一) 稀薄エキス 新鮮ナル蜂蜜ノ稠度ヲ有スルモノ
 - (二) 稠厚エキス 傾瀉シ能ハサルモ牽絲性ヲ有スルモ
 - (三) 乾燥エキス 粉碎シ得ヘキモノ
- 三 本劑ノ調製ニ供スル藥品ハ其浸出ノ際屢々攪拌スヘシ
- 四 浸出液ハ之ヲ濾過シタル後直チニ真空裝置ニ移シ若クハ

磁皿ニ容レ重湯煎上ニ於テ適當ノ稠度ヲ得ルニ至ル迄蒸發
スヘシ此際真空裝置ヲ用ヒサルトキハ絶エス攪拌シテ蒸發
ヲ促進スルヲ要ス

- 五 水製及アルコール製浸出液ハ特ニ記載スルモノノ外 85°
又エーテル製浸出液ハ 35°ヲ超エサル温ヲ以テ蒸發スヘシ
- 六 アルコール製浸出液ハ其蒸發ノ終リニ際シ更ニ少量ノ
「アルコール」ヲ加ヘ攪拌シツツ適當ノ稠度ヲ得ルニ至ラシ
ムヘシ

- 七 乾燥エキス調製ノ際ニ在テハ其エキス質充分粘靱トナリ
冷セハ粉碎シ得ヘキ稠度トナルニ至ル迄蒸發シ温ニ乘シ扁
筒ヲ以テ取出シ抽延シテ線狀トナシ硝子板上ニ於テ 40°
50°ノ温ヲ用ヒ或ハ適當ノ方法ニ據リ更ニ乾燥セシメタル
後細碎スヘシ

- 八 エキス劑ハ之ニ使用セル生藥ノ氣味ヲ有セサルヘカラス
- 九 本劑ニ灰化シ稀塩酸 0.5%ヲ加ヘテ温メ濾過シテ得タ
ル液ニ「アンモニア水 3%」ヲ和シ次テ醋酸ヲ加ヘテ弱酸性
トナシタル後硫化ソーダ溶液三滴ヲ加フルニ變化スルコト
アルモ僅微ニ止マルヘシ
- 一〇 本劑ハ硝子器或ハ磁器中ニ容レ密閉シ冷處ニ貯フヘシ
- 一一 稠厚エキス」ハ左ノ方法ニ據リ十倍末トナシ貯フルコ
トヲ得磁皿中ニ於テ稠厚エキス一分ニ甘草細末一分ヲ混和

重湯煎上ニ於テ乾燥シ殆ト重量ノ減失ヲ見サルニ至リ温ニ
乘シテ研磨シ更ニ甘草細末ヲ加ヘテ其全量十分トナスヘシ

Extracta fluida

流動エキス劑

- 一 流動エキス劑ハ藥品ノ浸出液ニシテ其重量ヲ當初供用シ
タル藥品ノ重量ニ正ニ同一ナラシメ製シタルモノナリ
- 二 本劑ハ各條ニ於テ規定セル浸出劑ヲ用ヒ左ノ方法ニ據リ
製スヘシ

藥品末百分ニ第一浸出劑ヲ撒注シ且親密ニ混和シ其藥品ノ
復タ液ヲ吸收セサルニ至リ容器ヲ蓋閉シ十二時間放置シタ
ル後其混和物ヲ適當ノ浸出器内ニ移シ固ク壓シテ成ルヘク
空隙ナカラシメ更ニ第二浸出劑ヲ注加シ充分藥品ヲ覆フヲ
度トシ室温ニ於テ四十八時間放置シタル後下口ヲ開キ每一
分間ニ左記滴數ヲ流出スル速度ヲ以テ其液ヲ滴下セシムヘ
シ

藥品ノ重量	1kg 以下	十乃至十五滴
藥品ノ重量	3kg 以下	三十乃至三十五滴
藥品ノ重量	10kg 以下	四十乃至七十滴

最初得タル浸出液八十五分ヲ第一號トシテ別ニ貯ヘ更ニ浸

出器内ニ第二浸出劑ヲ追注シテ充分浸出シ茲ニ得タル浸出
液第二號ハ之ヲ蒸發シ或ハ先ツ蒸溜シテ「アルコール」ヲ
分取セル後蒸發シテ稀薄エキス稠トナスヘシ但蒸發ノ温度
ヲ制限シテ成ルヘク藥品ノ揮發性成分ヲ消失セサルヲ要ス
此稀薄エキス」ニ前ノ浸出液第一號ヲ混合シ尙第二浸出劑
ヲ附加シテ其全量正ニ百分ノ流動エキス」ヲ得ルニ至ルヘ
シ

- 三 第一浸出劑及第二浸出劑ノ區別ナキモノハ規定ノ浸出劑
ヲ用ヒ前法ニ準シ製スヘシ
- 四 前法ニ據リ製出シタル流動エキス」ハ一二日間靜置シタ
ル後必要アラハ濾過スヘシ
- 五 本劑ハ之ニ使用セル生藥ノ氣味ヲ有セサルヘカラス
- 六 本劑ニ灰化シ稀塩酸 0.5%ヲ加ヘテ温メ濾過シテ得タ
ル液ニ「アンモニア水 3%」ヲ和シ次テ醋酸ヲ加ヘテ弱酸性
トナシタル後硫化ソーダ溶液三滴ヲ加フルニ變化スルコト
アルモ僅微ニ止マルヘシ

Extractum Aloes

ロカイエキス

- 一 ロカイエキス」ハ 一分
- ロカイ

ヲ取り之ヲ

熱湯 五分

ニ溶解シ更ニ

常水 五分

ヲ混和シ二日間放置シ樹脂ノ析出スルヲ俟テ上澄液ヲ傾取シ蒸發シテ乾燥エキス」トナシ製スヘシ

二 本品ハ黄褐色ナリ

三 本品ハ二十分ノ熱湯ニ澄明或ハ殆ト澄明ニ溶解スヘシ

Extractum Cannabis indicae

印度大麻エキス

一 印度大麻エキス」ハ

印度大麻草粗末 一分

ヲ取り

アルコール 五分

ヲ注キ六日間冷浸シ壓漉シ其殘滓ニ

アルコール 五分

ヲ注キ三日間冷浸シ壓漉シ漉液ヲ合シ濾過シ蒸發シテ稠厚エキス」トナシ製スヘシ

二 本品ハ暗綠色ニシテ「アルコール」ニ全ク・水ニ僅ニ溶解ス

三 注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.05g

一日ノ極量 0.15g

Extractum Chinae

キナエキス

一 キナエキス」ハ

キナ皮粗末 一分

ヲ取り

稀アルコール 五分

ヲ注キ六日間冷浸シ壓漉シ其殘滓ニ

稀アルコール 五分

ヲ注キ三日間冷浸シ壓漉シ漉液ヲ合シ二日間放置シタル後濾過シ蒸發シテ乾燥エキス」トナシ製スヘシ

二 本品ハ赤褐色ニシテ味甚タ苦ク收斂性ナリ水ニ溷濁シテ溶解ス

三 本品ハ 12% 以上ノ「アルカロイド(キニーネ $C_{20}H_{21}N_2O_2$ 及シンロニーネ $C_{15}H_{21}N_2O$ 平均分子量 309.2 トシテ)ヲ含有ス

四 本品 1.5g ヲ「アルコール 20cc・水及稀塩酸各 1cc」ノ混液ニ溶解シ水 6cc・エーテル 25cc 及クロロホルム 20cc

蒸溜水 一分

ヨリ成レル第二浸出劑適宜量ヲ以テ流動エキス劑規定ノ製法ニ從ヒ製スヘシ

二 本品ハ帶赤褐色ノ液ニシテ味甚タ苦ク收斂性ナリ水ニ溷濁シテ溶解ス

三 本品ハ 35% 以上ノ「アルカロイド(キニーネ $C_{20}H_{21}N_2O_2$ 及シンロニーネ $C_{15}H_{21}N_2O$ ノ平均分子量 309.2 トシテ)ヲ含有ス

四 本品 2.5g ニ稀塩酸 2cc 及水 8cc ヲ加ヘ次テ「エーテル 80cc 及クロロホルム 20cc」ヲ和シ振盪シ次テ「ナトロン液 5cc」ヲ加ヘ屢々強ク振盪シツツ十分間放置シ更ニ「トラガント末 3g」ヲ和シ復タ劇シク振盪シ五分間靜置シタル後澄明ノ「クロロホルムエーテル液」ヲ脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其濾液 80cc ヲ蒸溜シテ「クロロホルムエーテル」ヲ去リ殘渣ニ 10cc ノ純アルコール」ヲ加ヘ微温ヲ與ヘテ溶解セシメ水 10cc 及メチルロート溶液二滴ヲ和シ輕ク搖動シツツ十分間規定塩酸ヲ滴加シテ中和スルニハ少クモ其 2.3cc ヲ費ササルヘカラス又此中和液 5cc ニ稀ブロム水 1cc ヲ和シ之ニ「アンモニア水」ヲ加フルニ綠色ヲ呈セサルヘカラス

ヲ加ヘ振盪シ次ニ「ナトロン液 5cc」ヲ和シ屢々強ク振盪シツツ十分間放置シ更ニ「トラガント末 3g」ヲ加ヘ復タ劇シク振盪シ五分間靜置シタル後澄明ノ「クロロホルムエーテル液」ヲ脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其濾液 10cc ヲ蒸溜シテ「クロロホルムエーテル」ヲ去リ殘渣ニ 10cc ノ純アルコール」ヲ加ヘ微温ヲ與ヘテ溶解セシメ水 10cc 及メチルロート溶液二滴ヲ和シ輕ク搖動シツツ十分間規定塩酸ヲ滴加シテ中和スルニハ少クモ其 3.3cc ヲ費サルヘカラス又此中和液 5cc ニ稀ブロム水 (1+4) 1cc ヲ和シ之ニ「アンモニア水」ヲ加フルニ綠色ヲ呈セサルヘカラス

Extractum Chinae fluidum

キナ流動エキス

一 キナ流動エキス」ハ

キナ皮粗末

ヲ取り

アルコール 十六分

蒸溜水 一分

グリセリン 四分

ヨリ成レル第一浸出劑適宜量及

アルコール 四分

Extractum Condurango fluidum

コンヅランゴ流動エキス

- 一 コンヅランゴ流動エキス」ハ
コンヅランゴ皮中末
ヲ取り
アルコール 三分
蒸溜水 五分
グリセリン 二分
ヨリ成レル第一浸出劑適宜量及
アルコール 一分
蒸溜水 三分
ヨリ成レル第二浸出劑適宜量ヲ以テ流動エキス劑規定ノ製
法ニ從ヒ製スヘシ
- 二 本品ハ褐色ノ液ナリ
- 三 本品 100 水 400 ヲ和スレハ濁濁シ之ヲ濾過シテ得タ
ル澄明ノ液ヲ煮沸スレハ強ク濁濁シ冷ユレハ復タ澄明若ク
ハ殆ト澄明トナル此澄明液 200 水 800 ヲ加ヘテ稀釋シ
之ニ「タンニン酸溶液ヲ加フルニ夥シク絮狀ノ沈澱ヲ生セ
サルヘカラス

Extractum Coptidis

黄連エキス

- 一 黄連エキス」ハ
黄連粗末 一分
ヲ取り
アルコール 二分
常水 二分
ヲ注キ三日間冷浸シ壓漉シ其殘滓ニ
アルコール 一分
常水 一分
ヲ注キ二日間冷浸シ壓漉シ漉液ヲ合シ濾過シ蒸發シテ乾燥
エキス」トナシ製スヘシ
- 二 本品ハ褐色ニシテ水ニ濁濁シテ溶解ス

Extractum Faecis

酵母エキス

- 一 酵母エキス」ハ新鮮ナル下醗酵ノ麥酒酵母ヲ冷水ニテ屢
々淘汰洗滌シタル後六號篩ヲ用ヒテ篩過シ次テ炭酸ソーダ
溶液 (1+99) ニテ其苦味ヲ除去シ更ニ冷水ニテ洗滌シ其洗
液全ク無色澄明ニシテ赤色リトマス紙ヲ青變セサルニ至リ

徐々ニ壓搾シテ其水分ヲ充分除去スヘシ斯クシテ得タル酵

- 母二十分ニ水十分及塩酸一分ヲ和シ 40°~50°ニ於テ十二
時間放置シタル後重湯煎上ニ加熱シテ其浸液ヲ搾取シ殘渣
ニ再ヒ水十分ヲ和シ重湯煎上ニ加熱シテ其浸液ヲ搾取シ全
浸液ヲ濾過シ乾燥炭酸ソーダ」ヲ加ヘテ微ニ酸性ヲ呈スル
ニ至リ之ヲ濾過シ減壓蒸發ニ附シテ稀薄エキス」トナシ其
百分ニ乾燥器中ニ於テ 100°ニ二時間加熱セル藥用酵母二
十五分ヲ混和シ更ニ減壓乾燥ニ附シテ製スヘシ
- 二 本品ハ褐色ノ粉末ニシテ特異ノ臭味ヲ有シ水ニ濁濁シテ
溶解ス
- 三 本品ハ黒褐色ヲ呈スヘカラス又苦味或ハ刺戟性ノ味ヲ有
スヘカラス
- 四 本品ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト
10%ニ過クヘカラス

Extractum Ferri pomati

リンゴ鉄エキス

- 一 リンゴ鉄エキス」ハ
酸味アル成熟林檎 五十分
ヲ取り搗碎シテ粥狀トナシ壓搾シテ得タル液ニ
鉄粉 一分

ヲ混和シ直チニ重湯煎上ニ温メテ「ガス」ノ發生熄ムニ至

- リ水ヲ加ヘテ其全量ヲ五十分トナシ數日間放置シテ濾過シ
漉液ヲ蒸發シテ稠厚エキス」トナシ製スヘシ
- 二 本品ハ帶緑黑色ニシテ水ニ澄明ニ溶解シ味稍々收斂性ニ
シテ甘ク刺戟性ナラス
- 三 本品ハ 50% 以上ノ純鉄 (Fe 115.84) ヲ含有ス
- 四 本品 0.5g ヲ磁皿ニ取り消石灰ト共ニ熱灼シテ全ク灰化
セシメ其殘留物ニ硝酸性ノ水ヲ和シテ浸出シ濾過シテ得タ
ル液ハ硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 五 本品 1g ヲ瓷製坩堝内ニ於テ灰化シ數回硝酸一二滴ヲ以
テ濡ホシ蒸發シ其殘渣ヲ熱灼シ之ニ塩酸 5cc ヲ加ヘ温ヲ與
ヘテ溶解シ水 20cc ヲ和シ冷後ヨードカリ 2g ヲ加ヘ密閉
シ光ヲ遮リ一時間放置シタルモノヲ脱色スルニハ十分定規
チオ硫酸ソーダ液少クモ 9cc ヲ費ササルヘカラス

Extractum Filicis

綿馬エキス

- 一 綿馬エキス」ハ
綿馬根粗末 一分
ヲ取り
エーテル 三分

ヲ注キ密閉シテ三日間冷浸シ上液ヲ傾取シ其殘滓ニ

エーテル 二分

ヲ注キ更ニ三日間冷浸シテ壓漉シ漉液ヲ合シ濾過シ「エーテル」ノ大部分ヲ溜取シタル後50°ヲ超エサル温ニ於テ「エーテル」ヲ全ク蒸散シ去リ稀薄エキス」トナシ製スヘシ

二 本品ハ類綠色ニシテ「エーテル」ニ溶解シ水ニ溶解セス

三 本品ハ25~28%ノ粗フィリチン」ヲ含有ス

四 本品ノ混攪セルモノヲ取り「グリセリン」ヲ以テ稀釋シ之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ澱粉粒ヲ認ムヘカラス

五 本品ノ均等ニ混和セルモノ5gヲ「エーテル」40ccニ溶解シ「バリット」水100ccヲ和シ五分間強ク振盪シ十分間靜置シタル後水層ヲ分取シ濾過シ濾液85ccニ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシ初メ30cc次ニ20cc終リニ15ccノ「エーテル」ヲ用ヒテ善ク振盪シ「エーテル」液ヲ豫メ乾燥シ秤量セル壘中ニ濾入シ「エーテル」ヲ以テ濾紙ヲ洗滌シ「エーテル」液ヲ蒸溜シ其殘留物ヲ100°ニ於テ乾燥シ冷後秤量スルニ其重量1.00~1.12gナラサルヘカラス

六 用ニ臨ミテ均等ニ混和スヘシ

七 注意シテ貯フヘシ

一日ノ極量 10.0g

Extractum Gentianae

ゲンチアナエキス

一 ゲンチアナエキス」ハ

粗剉切ゲンチアナ根 一分

ヲ取り

常水 五分

ヲ注キ二日間冷浸シ壓漉シ其殘滓ニ

常水 三分

ヲ注キ十二時間冷浸シ壓漉シ漉液ヲ合シ蒸發シテ其全量ヲ三分トナシ冷後之ニ

アルコール 一分

ヲ混和シ二日間冷處ニ放置シ濾過シ漉液ヲ蒸發シテ稠厚エキス」トナシ製スヘシ

二 本品ハ赤褐色ニシテ水ニ殆ト澄明ニ溶解ス

三 本品2gヲ水18ccニ溶解シ濾過シテ得タル液10ccニ

5ccノ「アルコール」ヲ和スルニ澄明ノ混液ヲ生セサルヘカラス

四 本品ハ龍膽エキス」ニ代用スルコトヲ得

Extractum Gentianae scabrae

龍膽エキス

一 龍膽エキス」ハ粗剉切龍膽ヲ以テ「ゲンチアナエキス」ノ如ク製スヘシ

二 本品ハ赤褐色ニシテ水ニ殆ト澄明ニ溶解ス

三 本品2gヲ水18ccニ溶解シ濾過シテ得タル液10ccニ5ccノ「アルコール」ヲ和スルニ澄明ノ混液ヲ生セサルヘカラス

四 本品ハ「ゲンチアナエキス」ニ代用スルコトヲ得

Extractum Hydrastidis fluidum

ヒドラスチス流動エキス

一 ヒドラスチス流動エキス」ハ

ヒドラスチス根中末

ヲ取り

アルコール 七分

蒸溜水 三分

ヨリ成レル浸出劑適宜量ヲ以テ流動エキス劑規定ノ製法ニ從ヒ製スヘシ

二 本品ハ暗褐色ノ液ニシテ其一滴ニ水200ccヲ和スルモ其水著シク黄色ヲ呈ス

三 本品ハ2%以上ノ純ヒドラスチン(C₂₁H₂₁NO₂=383.2)ヲ含有ス

四 本品三滴ニ水10ccヲ和シテ稀釋シタルモノハ塩素水2ccニ由テ直チニ赤色ヲ呈ス

五 本品一分ニ水十分ヲ和シテ稀釋シ濾過シテ得タル液ノ液5ccニ稀硝酸1ccヲ加フレハ微ニ濁濁シ暫時ノ後黄色ノ結晶ヲ析出ス

六 本品1gヲ蒸發シ100°ニ於テ乾燥スルニ0.2g以上ノ殘留物ヲ遺ササルヘカラス

七 本品15gヲ豫メ秤量セル磁皿ニ取り重湯煎上ニ蒸發シテ約5gトナシ之ヲ壘ニ移シ水約10ccヲ用ヒテ磁皿ヲ洗滌シ壘中ノ液ニ合シ之ニ石油ベンジン15cc「エーテル」75cc及アンモニア水5ccヲ加ヘ屢々振盪シツツ一時間放置シタル後澄明ニ分離シタル「エーテル」液ヲ脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其濾液75ccヲ分液漏斗中ニ移シ塩酸一分及水四分ノ混液10ccヲ加ヘテ二三分間強ク振盪スヘシ次テ酸性液ノ澄明ニ分離スルニ至リ之ヲ壘ニ取り更ニ「エーテル」液ニ逐次二回各5ccノ水ニ塩酸數滴ヲ和シタルモノヲ加ヘテ振盪シ其酸性液ヲ壘中ニ合シ「アンモニア」水ヲ以テ過飽シ「エーテル」50ccヲ加ヘ屢々強ク振盪シツツ一時間放置シタル後澄明ニ分離シタル「エーテル」液ヲ脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其濾液40ccヲ壘ニ取り蒸溜シテ2~3ccトナルニ至リ殘液ニ十分定規塩酸及水各10ccヲ和シ更ニ加温シテ全

ク「エーテル」ヲ去リタル後メチルオレンジ溶液三滴ヲ加ヘ十分定規カリ液ヲ滴加シテ過剰ノ酸ヲ中和スルニハ其48%以上ヲ費スヘカラス又此中和液ニ稀硫酸1%及過マンガン酸カリ溶液5%ヲ加ヘ振盪シテ脱色スルニ至リ濾過シテ得タル液ハ藍色ノ螢石彩ヲ呈セサルヘカラス

八 注意シテ貯フヘシ

Extractum Hyoscyami

ヒヨスエキス

一 ヒヨスエキス」ハ

ヒヨス葉粗末 一分

ヲ取り

稀アルコール 五分

ヲ注キ屢々振盪シツツ常温ニ於テ六日間浸漬シ次テ濾過シ其殘滓ニ

稀アルコール 三分

ヲ加ヘ前法ノ如ク浸漬スルコト三日間ニシテ復タ壓漉シ前後ノ漉液ヲ合シ二日間放置シタル後濾過シ蒸發シテ「アルコール」ヲ去リ其殘留物ニ等分ノ常水ヲ和シテ稀釋シ二十四時間放置シタル後濾過シ漉液ヲ50%以下ノ温ニ於テ蒸發シテ稠厚エキス」トナシ下ニ掲クル方法ニ據リ「アルカロ

イド含量ヲ檢定シ其含量超過スルモノハ適量ノ甘草エキス」ヲ均等ニ混和シ規定ノ含量トナシ製スヘシ

二 本品ハ暗褐色ニシテ水ニ濁濁シテ溶解ス

三 本品ハ0.29~0.33%ノ「アルカロイド」(ヒヨスチアミン $C_{17}H_{23}NO_2 = 283.2$ トシテ)ヲ含有ス

四 本品5gヲ80%ノ水ニ溶解シ「エーテル」50%ヲ加ヘ善ク振盪シ次ニ「アンモニア水」5%ヲ和シ屢々強ク振盪シツツ十五分間放置シ「トラガント末」1.5gヲ加ヘ復タ善ク振盪シタル後靜置シ澄明ニ分離シタル「エーテル液」ヲ脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其漉液40%ヲ蒸溜シテ「エーテル」ヲ去リ殘渣ヲ「アルコール」10%ニ溶解シ十分定規塩酸5%・水5%及メチルロート溶液一滴ヲ加ヘタル後十分定規カリ液ヲ滴加シテ過剰ノ酸ヲ中和スルニハ其45%~46%ヲ費ササルヘカラス又前ノ「エーテル液」10%ヲ取り蒸散シ其殘渣ニ發煙硝酸二三滴ヲ加ヘ重湯煎上ニ蒸發シ冷後アルコール性カリ滴液二三滴ヲ加フルニ紫色ヲ呈セルヘカラス

五 本品0.1gニ水2%ヲ攪和シ濾過シテ得タル液ニ「エーテル」10%ヲ加ヘテ振盪シタル後エーテル液ヲ分取シ之ニ「アンモニア水」二滴ヲ和シタル水10%ヲ加ヘテ振盪スルニ下層ノ水液藍色ノ螢石彩ヲ現ハスヘカラス

六 注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.1g
一日ノ極量 0.3g

Extractum Liquiritiae

甘草エキス

一 甘草エキス」ハ剉切セル甘草ヲ以テ「ゲンチアエキス」ノ如ク製スヘシ

二 本品ハ褐色ニシテ水ニ殆ト澄明ニ溶解ス

Extractum Opii

阿片エキス

一 阿片エキス」ハ

阿片末 一分

ヲ取り

蒸溜水 四分

ヲ注キ冷浸シ二十四時間ノ後壓漉シ其殘滓ニ

蒸溜水 三分

ヲ注キ更ニ二十四時間冷浸シテ壓漉シ漉液ヲ合シ殆ト澄明トナルヲ俟テ濾過シ蒸發シテ乾燥エキス」トナシ下ニ掲クル方法ニ據リ「モルヒネ含量ヲ檢定シ其含量超過スルモノハ適量ノ乳糖ヲ均等ニ混和シ規定ノ含量トナシ製スヘシ

二 本品ハ褐色ニシテ水ニ濁濁シテ溶解ス

三 本品ハ17~18%ノ純モルヒネ ($C_{17}H_{19}NO_2 = 283.2$)ヲ含有ス

四 本品3gニ消石灰1gヲ和シ「ドーフル散」ノ條ニ掲クル方法ニ據テ試験スルニ十分定規カリ液ヲ費スコト7.1~7.8%ナラサルヘカラス又此中和液ノ試験ハ阿片末ノ條ニ掲クル所ニ同シ

五 壘中ニ容レ密栓シ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.1g
一日ノ極量 0.3g

一日ノ極量 0.3g

Extractum Picrasmae

苦木エキス カシアエキス

一 苦木エキス」ハ

粗剉切苦木 一分

ヲ取り

常水 十二分

ヲ注キ一日間冷浸シ次テ一時間煮沸シ壓漉シ其殘滓ニ

常水 十二分

ヲ注キ煮沸シ壓漉シ漉液ヲ合シ靜置シ濾過シ蒸發シテ乾燥エキス」トナシ製スヘシ

二 本品ハ褐色ニシテ水ニ溷濁シテ溶解ス

Extractum Rhamni Purshianae fluidum

Extractum Cassiae sagradae fluidum

カスカラサグラダ流動エキス

一 カスカラサグラダ流動エキス」ハ

カスカラサグラダ中末

ヲ取り

アルコール

蒸溜水

各等分

ヨリ成レル浸出劑ヲ以テ流動エキス劑規定ノ製法ニ從ヒ製スヘシ

二 本品ハ暗赤褐色澄明ノ液ナリ

三 本品 1g = 水 10cc ヲ和スレハ黄褐色ノ沈澱ヲ生シシヲ

濾過シテ得タル液ノ一半ニ一滴ノ氷醋酸ヲ和スレハ溷濁シ又他ノ一半ニ水 5cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ熱昇末溶液 (1+4) 二滴ニ由テ黄色絮狀ノ沈澱ヲ生ス

Extractum Rhei

大黃エキス

一 大黃エキス」ハ

粗剉切大黃 二分

ヲ取り

アルコール 四分

常水 六分

ヲ注キ二十四時間冷浸シ壓漉シ其殘滓ニ

アルコール 二分

常水 三分

ヲ注キ更ニ二十四時間冷浸シ壓漉シ漉液ヲ合シ二日間靜置シ濾過シ蒸發シテ乾燥エキス」トナシ製スヘシ

二 本品ハ褐色ニシテ水ニ溷濁シテ溶解ス

三 本品ノ水溶液ニ「アンモニア水ヲ和スレハ血赤色ヲ呈シ之ニ塩酸ヲ加フレハ黄色絮狀ノ沈澱ヲ析出ス

Extractum Scopoliae

○ロートエキス

一 ロートエキス」ハ

ロート根粗末 一分

ヲ取り

稀アルコール 二分

常水 二分

ヲ注キ三日間冷浸シ壓漉シ其殘滓ニ

稀アルコール 一分

常水 一分

ヲ注キ二日間冷浸シ壓漉シ漉液ヲ合シ二日間靜置シ濾過シ蒸發シテ稠厚エキス」トナシ下ニ掲クル方法ニ據リ「アルコールイド含量ヲ檢定シ其含量超過スルモノハ適量ノ甘エキス」ヲ均等ニ混和シ規定ノ含量トナシ製スヘシ

二 本品ハ褐色ニシテ水ニ稍々溷濁シテ溶解ス

三 本品 1.01~1.08% ノ「アルコールイト」(ヒヨスチアミン $C_{17}H_{23}NO_2 = 289.2$ トシテ) ヲ含有ス

四 本品 3g ヲ 5cc ノ水ニ溶液シ「エーテル 60cc ヲ加ヘ善ク振盪シ次ニ「アンモニア水 4cc ヲ和シ屢々振盪シツツ十五分間放置シ「トラガント末 1.5g ヲ加ヘ復タ善ク振盪シタル後靜置シ澄明ニ分離シタル「エーテル液ヲ脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ逐過シ其濾液 40cc ヲ蒸溜シテ「エーテル」ヲ去リ殘渣ヲ「アルコール 1cc ニ溶解シ十分定規塩酸 0.5cc 水 5cc 及メチルロート溶液一滴ヲ加ヘタル後十分定規カリ液ヲ滴加シテ過剰ノ酸ヲ中和スルニハ其 4.25~4.50cc ヲ費ササルヘカラス又此中和液ニ稀塩酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ分液漏斗ニ移シ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ下層ノ酸性液ヲ分取シ必要アラハ更ニ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ酸性液ノ殆ト無色トナルニ至リ之ニ「アンモニア水ヲ加ヘテ弱アル

カリ性トナシ分液漏斗ニ移シ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ「エーテル」層ヲ磁皿ニ分取シ「エーテル」ヲ揮散セシメタル後殘渣ニ發煙硝酸五滴ヲ加ヘ重湯煎上ニ蒸發シ冷後殘渣ニ「アルコール」性カリ滴液ヲ滴加スルニ紫色ヲ呈セサルヘカラス

五 注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.05g

一日ノ極量 0.15g

Extractum Secalis cornuti aquosum

○麥角エキス

一 麥角エキス」ハ

麥角粗末 二分

ヲ取り

クロロホルム水 (1+199) 四分

ヲ注キ六時間冷浸シテ後壓漉シ其殘滓ニ

クロロホルム水 (1+199) 四分

ヲ注キ六時間冷浸シ壓漉シ漉液ヲ合シ蒸發シテ一分トナシ之ニ

アルコール 二分

ヲ混和シ三日間放置シ濾過シ蒸發シテ稠厚エキス」トナシ

製スヘシ

- 二 本品ハ赤褐色ニシテ水並水・アルコール等分ノ混液ニ澄明ニ液解ス
- 三 本品 0.2g ヲ水 5cc ニ溶解シ「アンモニア水ヲ以テ」アルカリ性トナシ之ニ「エーテル 10cc」ヲ和シテ振盪シ澄明ノ「エーテル液ヲ分取シ蒸發シテ得タル残留物ヲ稀塩化第二鉄溶液一滴ヲ和シタル氷醋酸 2cc ニ溶解シ之ニ硫酸ヲ加ヘテ二液層トナスニ其境界ニ於テ藍紫色ノ輪帶ヲ生セサルヘカラス
- 四 注意シテ貯フヘシ
 - 一回ノ極量 0.3g
 - 一日ノ極量 1.0g

Extractum Secalis cornuti fluidum

麥角流動エキス

- 一 麥角流動エキス」ハ
麥角粗末
ヲ取リ
アルコール
蒸溜水
各等分
ヨリ成レル浸出劑適宜量ヲ以テ流動エキス劑規定ノ製法ニ

從ヒ製スヘシ

- 二 本品ハ赤褐色澄明ノ液ナリ
- 三 本品 0.5g ヲ以テ麥角エキス」ノ條ニ從ヒ試験スルニ同一ノ反應ヲ呈セサルヘカラス
- 四 注意シテ貯フヘシ
 - 一回ノ極量 1.0g
 - 一日ノ極量 5.0g

Extractum Strychni

ホミカエキス

- 一 ホミカエキス」ハ
ホミカ粗末 二分
ヲ取リ
稀アルコール 四分
ヲ注キ二十四時間温浸シ壓漉シ其殘滓ニ
稀アルコール 二分
ヲ注キ前法ヲ反復シ漉液ヲ合シテ濾過シ蒸發シテ乾燥エキ
ス」トナシ下ニ掲クル方法ニ據リ「アルコールイド含量ヲ檢
定シ其含量超過スルモノハ適量ノ乳糖ヲ均等ニ混和シ規定
ノ含量トナシ製スヘシ
- 二 本品ハ褐色ニシテ水ニ溷濁シテ溶解シ強キ苦味ヲ有ス

三 本品ハ 15.7~16.4% ノ「アルカロイド (ストリキニーネ

$C_{21}H_{22}N_2O_2$ 及「ノルチン $C_{21}H_{22}N_2O_1$ 」ノ平均分子量 361.2 ト

シテ)ヲ含有ス

四 本品ノ少量ヲ「アルコール」ニ溶解シ稀硫酸二三滴ヲ和シ重湯煎上ニ蒸發スレハ其残留物ハ紫紅色ヲ呈シ之ニ水二

三滴ヲ注ケハ褪色シ乾燥スレハ復タ現出ス

五 本品 1.25g ヲ「アルコール 4cc・水 8cc 及稀塩酸 2cc」ノ混液ニ溶解シ重湯煎上ニ蒸發シテ約「 cc 」トナシ冷後水 10cc ヲ加ヘ濾過シ洗滌シ其濾液及洗液ヲ合シ之ニ「クロロホルム 35cc 及エーテル 80cc」ヲ加ヘ善ク振盪シ次ニ「ナトリウム液 5cc」ヲ和シ五分間屢々強ク振盪シ十五分間靜置シタル後澄明ノ「クロロホルムエーテル液ヲ脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其濾液 100cc」ヲ蒸溜シテ「クロロホルムエーテル」ヲ去リ残渣ニ 5cc ノ「アルコール」ヲ加ヘ微温ヲ與ヘテ溶解セシメ水 10cc 及メチルロート溶液二滴ヲ和シ輕ク搖動シツツ十分定規塩酸ヲ滴加シテ中和スルニ至ルニハ其 4.3~1.5cc ヲ費ササルヘカラス

六 注意シテ貯フヘシ

- 一回ノ極量 0.05g
- 一日ノ極量 0.10g

藥用酵母

Faec medicinalis

藥用酵母

- 一 藥用酵母ハ下酸酵ノ麥酒酵母ヲ洗滌シテ其苦味ヲ去リ 40° ヲ超エサル温ニ於テ乾燥シ中未トナシ製シタルモノナリ
- 二 本品ハ淡褐色ノ粉末ニシテ特異ノ臭味ヲ有シ水ヲ以テ濡ホセル青色リトマス紙ヲ赤變ス之ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ直徑 2~10 μ ヲ有スル球形或ハ卵形ノ單細胞ヨリ成ル
- 三 本品ハ不快ナル或ハ變敗セル臭味ヲ有スヘカラス
- 四 本品ハ「ヨード溶液ニ由テ藍黑色ヲ呈スル顆粒ヲ認ムルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ又アルコール」ニテ處理スルニ結晶ヲ認ムヘカラス
- 五 葡萄糖 0.5g ヲ水 10cc ニ溶解シ之ニ重炭酸ソーダ溶液 (2+93) 一滴ヲ添加シタルモノニ本品 1g ヲ和シ 30° ノ温ニ於テ放置スルニ二乃至三時間以内ニ活潑ナル酸酵ヲ起ササルヘカラス
- 六 本品ヲ 100° ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 10% ニ過クヘカラス又之ヲ灰化スルニ 10% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 七 本品ヲ賦形藥ニ使用スル場合ニ於テハ乾燥器中ニ於テ

100°ニ二時間加熱シタル後用フヘシ
八 塚中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Ferri-Ammonium citricum

クエン酸鉄アンモン

- 一 クエン酸アンモンハ
クエン酸鉄液 三分
アンモニア水 一分
ヲ取り混和シ 60°ヲ超エサル温ニ於テ蒸發シ「シロップ稠
トナルニ至リ薄ク硝子板上ニ塗布シ小葉片トナシテ剝離シ
得ルニ至ル迄微温ニ於テ乾燥シ製スヘシ
- 二 本品ハ赤褐色透映ノ小葉片ニシテ濕氣ヲ引キ易ク水ニ容
易ニ溶解シ弱酸性ノ反應ヲ微シ「アルコール」ニ殆ト溶解
セス
- 三 本品ノ水溶液ハ塩酸ヲ加ヘテ後始メテ黃血塩溶液ニ由テ
藍色ヲ呈ス又ナトロン滴液ヲ和シテ熱スルニ「アンモニア」
ヲ發生シテ赤褐色ノ沈澱ヲ生シ其濾液ニ醋酸ヲ加ヘテ微ニ
酸性トナシ塩化カルシウム溶液ヲ和シテ得タル澄明ノ液ヲ
熱スレハ漸次白色結晶性ノ沈澱ヲ析出ス
- 四 本品ノ水溶液(1+1)ニ過剩ノ「カリ滴液ヲ和シテ煮沸
シ其鉄分悉ク沈降スルニ至リ濾過シテ得タル液ニ醋酸ヲ加

- ヘテ酸性トナシ放置スルニ結晶性ノ沈澱ヲ生スヘカラス
- 五 本品ノ水溶液(1+49)ニ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル
モノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス又硝酸銀溶
液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 六 本品ノ水溶液(1+19)ハ赤血塩溶液ニ由テ變化セス或
ハ帶藍綠色ヲ呈スルニ止マルヘシ
- 七 本品ヲ灰化スルニ 25~30%ノ酸化第二鉄ヲ殘留スヘシ
此殘留物ハ「アルカリ性」ノ反應ヲ微スヘカラス
- 八 塚中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Ferri-Kalium tartaricum

酒石酸鉄カリ



- 一 酒石酸鉄カリハ
硫酸第二鉄液 六分
ヲ取り
蒸溜水 六十分
ヲ以テ稀釋シ之ヲ
アンモニア水 六分
蒸溜水 十分
ノ混液中ニ攪拌シツツ注加シ茲ニ得タル沈澱ノ沈著スルニ

至リ上清液ヲ去リ其沈澱ニ

蒸溜水 六十分

ヲ混和シタル後靜置シ上清液ヲ去リ斯ノ如クシテ數回反復
洗滌シ其洗液ニ硝酸バリウム溶液ヲ加フルニ濁濁セサルニ
至リ此濕潤セル沈澱ニ

蒸溜水 十五分

重酒石酸カリ 二分

ヲ加ヘ重湯煎上ニ於テ 60°ヲ超エサル温ヲ與ヘ攪拌シテ
溶解セシメ濾過シ其濾液ヲ冷暗處ニ於テ二十四時間放置シ
タル後更ニ濾過シ蒸發シテ「シロップ稠トナシ薄ク硝子板
上ニ塗布シ小葉片トナシテ剝離シ得ルニ至ル迄微温ニ於テ
乾燥シ製スヘシ

二 本品ハ光澤アル赤褐色透映ノ小葉片ニシテ僅微ノ引濕性
ヲ有シ水ニ極メテ容易ニ溶解シ中性ノ反應ヲ微シ「アルコ
ール」ニ殆ト溶解セス

三 本品ノ水溶液ハ塩酸ヲ加ヘテ後始メテ黃血塩溶液ニ由テ
藍色ヲ呈ス又本品ノ濃厚水溶液ニ「カリ滴液」ノ過剩ヲ和シ
テ煮沸シ其鉄分悉ク沈降スルニ至リ濾過シテ得タル液ニ醋
酸ヲ和シテ酸性トナセハ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス

四 本品ノ水溶液(1+4)ニ「アンモニア水」ヲ和スルニ沈澱
ヲ生スヘカラス又過剩ノ「ナトロン滴液」ヲ加ヘテ熱スルニ

「アンモニア」ヲ發生スヘカラス

- 五 本品「」ヲ熱灼スルニ砂糖ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ放チ強ア
ルカリ性ノ反應ヲ微スル褐色ノ物質約 0.5%ヲ殘留シ其殘
留物ハ酸化第二鉄約 0.3%ヲ含有スヘシ
- 六 塚中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Ferrum carbonicum saccharatum

含糖炭酸鉄

- 一 含糖炭酸鉄ハ
硫酸鉄 五分
ヲ取り
熱蒸溜水 二十分
ニ溶解シ別ニ
重炭酸ソーダ 三・五分
ヲ潤大ナル塚中ニ取り
微温蒸溜水 五十分
ニ溶解シタルモノニ濾入シ煮沸蒸溜水ヲ注キ緩ク搖動シ混
和シタル後直チニ煮沸蒸溜水ヲ全滿シ寬ク栓塞シテ放置シ
炭酸鉄ノ沈著シタル後吸液管ヲ以テ上清液ヲ除去シ再ヒ煮
沸蒸溜水ヲ注キテ全滿シ沈定セシメ更ニ上清液ヲ除去シ此
操作ヲ反復シ上清液ニ硝酸バリウム溶液ヲ加フルニ復タ殆

ト濁濁ヲ見サルニ至リ充分ニ炭酸鉄ヲ沈著セシメ成ルヘク水分ヲ除去シタル後沈澱ヲ豫メ

乳糖末 一分
白糖末 三分
ヲ容レタル磁皿ニ移シ善ク混和シ重湯煎上ニ於テ速ニ蒸發乾燥セシメ研磨シテ粉末トナシ尙乾燥白糖末ヲ加ヘ混和物ノ全量ヲ 十分トナシ製スヘシ

- 二 本品ハ帶綠灰色ノ粉末ニシテ味甘ク微ニ鉄味ヲ帶ヒ 3.5 ~ 10.0% ノ純鉄 (Fe = 55.84) ヲ含有ス
- 三 本品ニ塩酸ヲ和スレハ炭酸ガスヲ發生シテ溶解シ帶綠黄色ノ溶液ヲ生シ之ヲ水ニテ稀釋シタルモノハ黃血塩溶液並赤血塩溶液ニ由テ藍色ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 0.5g ヲ塩酸 2cc ニ溶解シ水ヲ和シテ 2% トナシタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス
- 五 本品 1g ヲ共栓壘ニ取り常溫ニ於テ稀硫酸 10cc ニ溶解シ過マンガン酸カリ溶液 (1+190) ヲ加ヘ暫時消失セザル微紅色ヲ呈スルニ至リ放置シ其紅色全ク脱色スルヲ俟テ「ヨードカリ」ヲ加ヘ密栓シテ常溫ニ於テ一時間放置シタルモノヲ脱色スルニハ十分定規チオ硫酸ソーダ液 17.0cc (17.9cc ヲ費ササルヘカラス (標示藥澱粉溶液))

Ferrum citricum oxydatum

クエン酸鉄

- 一 クエン酸鉄ハ「クエン酸鉄液ヲ取り 30°ヲ超エサル温ヲ與ヘテ蒸發シ「シロップ稠トナルヲ度トシ薄ク硝子板上ニ塗布シ小葉片トナシテ剝離シ得ルニ至ル迄微温ニ於テ乾燥シ製スヘシ
- 二 本品ハ赤褐色透映ノ小葉片ニシテ氣中ニ於テ變化セス水ニ徐々ニ熱湯ニ容易ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微シ「アルコール」ニ溶解セス
- 三 本品ヲ等分ノ水ニ加温シテ溶解シタルモノノ試験ハ「クエン酸鉄液ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ
- 四 本品ヲ灰化スルニ約 25% ノ酸化第二鉄ヲ殘留スヘシ此殘留物ハ「アルカリ性」ノ反應ヲ微スヘカラス
- 五 壘中ニ容レ光ヲ遮リ貯フヘシ

Ferrum iodatum saccharatum
含糖ヨード鉄

- 一 含糖ヨード鉄ハ 六分
- 二 鐵線 十七分
- 三 ヨード

蒸溜水 二十分

ヲ取り壘ニ容レ屢々振盪シツツ温處ニ放置シ其液ノ類綠色トナルヲ度トシ豫メ

乳糖末 四十分

ヲ盛リタル磁皿中ニ濾入シ少量ノ蒸溜水ヲ以テ壘及濾器ヲ洗シ重湯煎上ニ於テ攪拌シツツ蒸發シテ乾涸スルニ至リ豫メ

乳糖末 三十九分

還元鉄 一分

ヲ盛リタル温鉄臼中ニ其乾燥塊ヲ速ニ搗碎シテ乾燥粉末トナシ直チニ小壘中ニ密閉スヘシ

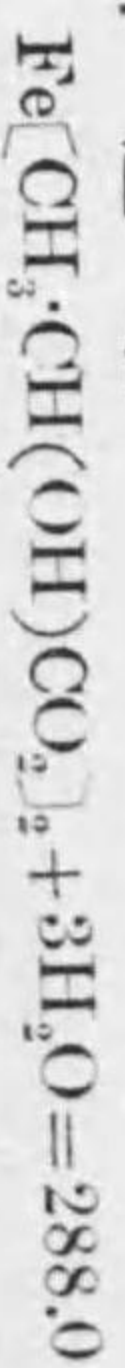
二 本品ハ帶黃白色或ハ類灰色ノ粉末ニシテ甚タ濕氣ヲ引キ易ク緩和ノ鉄味ヲ有シ水ヲ以テ濡シタル青色リトマス紙ヲ微ニ赤變シ七分ノ水ニ還元鉄ヲ遺シテ殆ト全溶ス

三 本品ハ約 20% ノ純「ヨード鉄」(FeI₂ = 309.7) ヲ含有ス
四 本品ヲ熱灼スレハ紫色ノ蒸氣ヲ發生シテ燃化シ砂糖ヲ燒タカ如キ臭氣ヲ放チ終ニ「アルカリ性」反應ヲ微セサル固性物ヲ殘留ス又本品ノ水溶液ハ少量ノ塩素水ヲ加ヘタル後始メテ澱粉溶液ニ由テ暗藍色ヲ呈ス
五 本品 0.5g ヲ水 50cc ニ溶解シタルモノハ之ニ十分定規硝酸銀液 20cc、硝酸及鉄明礬溶液各 1cc ヲ注加シタル後

十分定規ロダンアンモン液ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スロト 13.6cc ニ過クヘカラス
六 小壘中ニ容レ密栓冷暗處ニ貯フヘシ

Ferrum lacticum

乳酸鉄



- 一 乳酸鉄ハ小針狀ノ結晶ヨリ成レル帶綠白色ノ塊片或ハ結晶性ノ粉末ニシテ微ニ特異ノ臭氣ヲ有シ新タニ煮沸シ冷却セル水約四十分並熱湯十二分ニ溶解シテ帶綠黄色澄明若クハ殆ト澄明ノ液トナリ酸性ノ反應ヲ微シ「アルコール」ニ甚タ溶解シ難シ
- 二 本品ノ水溶液ハ赤血塩溶液ニ由テ直チニ深藍色ノ沈澱又黃血塩溶液ニ由テ漸次深藍色ニ變スル淡藍色ノ沈澱ヲ生ス又本品ヲ熱灼スレハ砂糖ヲ燒タカ如キ臭氣ヲ放チ炭化ス
- 三 本品ノ水溶液 (1+49) ハ醋酸鉛溶液ヲ和スルニ蛋白石濁ヲ起スニ過キス又塩酸二三滴ヲ加ヘタル後硫化ソーダ溶液二三滴ヲ加フルニ暗色ヲ呈セス又硝酸二三滴ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 四 前項ノ本品水溶液 30cc ニ稀硫酸 3cc ヲ加ヘ少時煮沸シ

- 苛性ソーダ溶液 5ccヲ加ヘ濾過シテ得タル液ニ「フェーリ」
ング溶液 10ccヲ加ヘテ熱スルニ赤色ノ沈澱ヲ生スヘカ
ス
- 五 本品ノ粉末 0.5gニ硫酸 1ccヲ混和スルニ直チニ染色セ
ス又揮發性脂肪酸ノ臭氣ヲ放ツヘカラス
- 六 本品ノ粉末 1gヲ瓷製坩堝ニ取り熱灼スルニ少クモ 0.2
gノ酸化第二鉄ヲ殘留セサルヘカラス此殘留物ハ水ニ溶
解セス又アルカリ性ノ反應ヲ微スヘカラス
- 七 塚中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Ferrum pulveratum

鉄粉

Fe=55.84

- 一 鉄粉ハ微ニ光輝アル重キ灰色ノ粉末ニシテ磁石ニ引攝セ
ラレ稀硫酸或ハ稀塩酸ニ水素ガスヲ發生シテ溶解ス
- 二 本品ハ 97.7% 以上ノ純鉄ヲ含有ス
- 三 本品ヲ塩酸ニ溶解シ水ヲ和シテ稀釋シタルモノハ赤血塩
溶液ニ由テ深藍色ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 1gヲ水及塩酸各同容量ノ混液 20ccニ溶解スルニ
殘留物アルモ 0.01gヲ超ユヘカラス又其際發生スル「ガス」
ハ殆ト臭氣ナク醋酸鉛溶液ヲ以テ濡ホシタル紙片ヲ五秒以

- 内ニ類褐色ニ染ムヘカラス又此塩酸性溶液ニ硝酸 5ccヲ加
ヘテ加熱シタル後過剩ノ「アンモニア」水ヲ和シ濾過シテ得
タル液ハ藍色ヲ呈セス又之ニ硫化ソーダ溶液三滴ヲ和スル
ニ變化スヘカラス
- 五 本品及塩素酸カリ各 0.4gヲ太キ試験管ニ容レ塩酸 4cc
ヲ徐々ニ注加シ「ガス」ノ發生熄ムニ至リ熱シテ遊離塩素
ヲ去リ濾過シテ得タル澄明ノ液 1ccニ塩化第一錫溶液 3cc
ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品 0.5gヲ共栓塚ニ取り稀硫酸 40ccニ加温シテ溶解シ
タル後水ヲ加ヘテ全量 100ccトナシ其 20ccヲ取り過マン
ガン酸カリ溶液 (1+199)ヲ注加シ微ニ紅色ヲ呈スルニ至
リ更ニ「アルコール」二滴ヲ加ヘ全ク脱色セシメタル後ヨ
ードカリ 2gヲ加ヘテ密栓シ常温ニ於テ一時間放置シタル
モノヲ脱色スルニ八十分定規チオ硫酸ソーダ液少クモ
17.5ccヲ費ササルヘカラス (標示藥澱粉溶液)

Ferrum reductum

還元鉄

- 一 還元鉄ハ灰色或ハ灰黑色細微ノ粉末ニシテ光輝ナク磁石
ニ引攝セラレ熱スレハ自カラ紅燾シテ黑色ニ變ス
- 二 本品ハ 96.5% 以上ノ純鉄 (Fe=55.84)ヲ含有ス

- 三 本品ヲ塩酸ニ溶解シ水ヲ和シテ稀釋シタルモノハ赤血塩
溶液ニ由テ深藍色ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 1gヲ水及塩酸各同容量ノ混液 20ccニ溶解スルニ
殘留物アルモ 0.01gニ過クヘカラス又其際發生スル「ガス」
ハ殆ト臭氣ナク醋酸鉛溶液ヲ以テ濡ホシタル紙片ヲ直チニ
類褐色ニ染ムヘカラス

- 五 前項塩酸性水溶液ヲ濾過シテ得タル液 10ccニ硝酸 5cc
ヲ加ヘ注意シテ熱シタル後其液少許ヲ取り水ヲ以テ稀釋シ
赤血塩溶液ヲ和スルニ復タ藍色ヲ呈セサルニ至リ冷却シ過
剩ノ「アンモニア」水ヲ和シ濾過シテ得タル液ハ藍色ヲ呈セ
ス又硫化ソーダ溶液ニ由テ殆ト變化スヘカラス

- 六 本品 2gニ水 10ccヲ加ヘ振盪シ濾過シテ得タル液ハ中性
ニシテ之ヲ蒸發スルニ殘留物アルモ 0.003gニ過クヘカラス
- 七 本品及塩素酸カリ各 0.4gヲ太キ試験管ニ容レ塩酸 4cc
ヲ注加シ「ガス」ノ發生熄ムニ至リ熱シテ遊離塩素ヲ去リ
濾過シテ得タル澄明ノ液 1ccニ塩化第一錫溶液 3ccヲ和
スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス

- 八 本品 0.5gヲ内容 100ccノ測容塚ニ取り稀硫酸 40ccニ
加温シテ溶解シタル後水ヲ加ヘテ 100ccトナシ其 20ccヲ
取り過マンガン酸カリ溶液 (1+199)ヲ注加シ微ニ紅色ヲ
呈スルニ至リ更ニ「アルコール」二滴ヲ加ヘ全ク脱色セシ

メタル後ヨードカリ 10gヲ加ヘテ密栓シ常温ニ於テ一時間
放置シタルモノヲ脱色スルニ八十分定規チオ硫酸ソーダ液
少クモ 17.5ccヲ費ササルヘカラス (標示藥澱粉溶液)

Ferrum sesquichloratum

塩化第二鉄 過クロル鉄

- 一 塩化第二鉄ハ橙色結晶性ノ塊ニシテ氣中ニ於テ潮解シ水
ニ容易ニ又アルコール並エテ「エーテル」ニ溶解ス
- 二 本品ヲ等分ノ水ニ溶解シタルモノノ試験ハ塩化第二鉄液
ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ
- 三 塚中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Ferrum sulfuricum

硫酸鉄 硫酸亞酸化鐵



- 一 硫酸鉄ハ
鉄 二分
- ヲ取り之ヲ
硫酸 三分
- 蒸溜水 十分
- ノ混液中ニ投シ熱ヲ與ヘテ溶解シ殆ト「ガス」ノ發生熄ム

ニ至リ温ニ乗シテ濾過シ其濾液ヲ

アルコール 六分

中ニ攪拌シツツ注加シ茲ニ生スル結晶粉ヲ直チニ濾器上ニ集メ少量ノ「アルコール」ヲ以テ洗滌シ壓搾シ濾紙上ニ撒布シ常温ニ於テ速ニ乾燥シ製スヘシ

二 本品ハ帶緑白色結晶性ノ粉末ニシテ乾燥氣中ニ於テ風化シ一・八分ノ水ニ溶解シテ帶藍綠色ノ液トナル

三 本品ノ稀薄ナル水溶液ニ赤血塩溶液ヲ加フレハ深藍色ノ沈澱ヲ生ス又硝酸バリウム溶液ヲ加フレハ稀硝酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス

四 本品ヲ新タニ煮沸シ冷却シタル水ニ溶解シテ得タル液(1+19)ハ澄明若クハ殆ト澄明ニシテ青色リトマス紙ヲ微ニ赤變スルニ止マルヘシ

五 本品0.2gヲ水5ccニ溶液シ硝酸0.5gヲ加ヘ熱シテ全ク酸化セシメタル後冷却シ過剰ノ「アンモニア」水ヲ加ヘ濾過シテ得タル液ハ無色ニシテ其一半ニ硫化ソーダ溶液三滴ヲ和スルニ變化セス又他ノ一半ヲ蒸發シテ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

六 本品1.0gニ塩化第一錫溶液0.5gヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス

七 塚中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Ferrum sulfuricum siccum

乾燥硫酸鉄 乾燥硫酸亞酸化鐵



一 乾燥硫酸鉄ハ硫酸鉄ヲ取り濾紙間ニ挿ミ約30°ニ加温シテ善ク風化セシメタル後蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ於テ乾燥シ其重量0.5~0.6gヲ失フヲ度トシテ粉末トナシ製スヘシ

二 本品ハ白色或ハ殆ト白色ノ粉末ニシテ水ニ溷濁シテ徐徐ニ溶解ス

三 本品ハ30%以上ノ純鉄(Fe=55.81)ヲ含有ス

四 本品ノ稀薄ナル水溶液ニ赤血塩溶液ヲ加フレハ深藍色ノ沈澱ヲ生ス又硝酸バリウム溶液ヲ加フレハ稀硝酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス

五 本品ヲ新タニ煮沸シ冷却シタル水ニ溶解シテ得タル液(1+19)ハ青色リトマス紙ヲ微ニ赤變スルニ止マルヘシ

六 本品1.0gヲ水5ccニ溶液シ硝酸0.5gヲ加ヘテ全ク酸化セシメタル後過剰ノ「アンモニア」水ヲ加ヘ濾過シテ得タル液ハ無色ニシテ其一半ニ硫化ソーダ溶液三滴ヲ和スルニ變化セス又他ノ一半ヲ蒸發シテ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

七 本品0.2gヲ稀硫酸10ccニ溶解シ温ヲ與ヘ之ニ過マンガン

ン酸カリ溶液(1+199)ヲ滴加シ微ニ赤色ヲ帶フルニ至リ二三滴ノ「アルコール」ヲ添加シ脱色セシメタル後ヨードカリ0.5gヲ加ヘ密閉シ光遮リ常温ニ於テ一時間放置シタルモノヲ脱色スルニハ十分定規ヲオ硫酸ソーダ液少クモ10.8ccヲ費ササルヘカラス(標示藥澱粉溶液)

五 本品10gヲ取り揮發油定量法(乙)ニ據リ定量スルニ其量1.5cc以上ナラサルヘカラス

六 本品ヲ灰化スルニ7%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

七 密閉シ貯フヘシ

Flos Chamomillae カミツレ花 カミルレ花

一 カミツレ花ハ Matricaria Chamomilla Linné (カミツレ)

ノ小花頭ヲ採集シ乾燥セルモノナリ

二 本品ノ總苞ハ邊緣乾燥シタル綠色ノ高葉ト概ネ三列ニ排置セル白色ノ高葉トヨリ成ル花床ハ裸出空洞ニシテ幼稚ノ小花頭ニ在テハ半球形・老小花頭ニ在テハ圓錐體形ヲナシ十二乃至十八箇ノ白色舌狀花ト多數ナル黃色管狀花ヲ有ス舌狀花ハ四狀ノ脈理ヲ現ハシ上端ニ三齒ヲ有スル花冠ヲ帶フ

三 本品ハ氣味峻烈芳香性ニシテ微ニ苦シ

四 本品ヲ灰化スルニ9%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Flos Cinae

シナ花

一 シナ花ハ Artemisia Cina Berg ノ未開ノ小花頭ヲ採集シ

Flos Caryophylli

丁子 丁香

一 丁子ハ Eugenia caryophyllata Thunberg ノ蕾ヲ採集シ乾燥セルモノナリ

二 本品ハ長サ 12~17mm ニ至リ褐色ヲ呈シ其子房ハ長ク鈍四稜柱狀ヲナシ上部ニ二箇ノ小房ヲ有ス上端ニハ四裂セル萼ヲ戴キ内側ニハ殆ト圓形淡褐色ノ花瓣ヲ附著シ花瓣ハ多數ノ雄蕊ヲ擁シ球狀ヲナス

三 本品ノ子房ノ中央部ヲ横斷シ顯微鏡下ニ檢スレハ周邊ニ近ク多數ノ巨大卵形ヲナセル分泌物油室ヲ認メ内方ニハ内外二層ノ脈管束輪層存在シ各脈管束ニ少數ノ纖維及碳酸塩ノ結晶簇ヲ包有スル細胞列隨伴ス其外輪層ノ内部ニ於ケル柔組織ハ甚タ空隙ニ富ム

四 本品ハ氣味特異芳香性ニシテ峻烈ナリ

丁子・カミツレ花・シナ花

乾燥セルモノナリ

二 本品ハ長サ約 4 mm. 苞ハ十二乃至二十片ノ小葉ヨリ成リ其各葉片ハ類綠色ニシテ廣楕圓形乃至長形ヲナシ上端鈍ク邊緣ハ無色皮膜様ニシテ主脈上ニハ隆起セル稜線ヲ有シ兩側ニハ類黃色ノ腺ヲ散在シ概シテ少數ノ單細胞性ノ毛茸ヲ帶フ其苞ハ中ニ三乃至五箇ノ兩性管狀花ヲ包ム

三 本品ハ氣味芳香性ニシテ苦ク清涼ナリ

四 本品ノ中末 15g ヲ取り「ソキシレット」浸出器ニ裝入シ「エーテル」ヲ以テ浸出スルコト二時間ノ後其浸出液ヲ蒸溜シ残渣ニ 30% ノ水酸化バリウム及 100% ノ水ヲ加ヘ二十分間煮沸シ次テ炭酸ガスヲ通シテ飽和シ煮沸シタル後濾過シ其濾液ヲ蒸發シテ約 10cc トナシ之ニ稀塩酸 10cc ヲ加ヘ暫時 70°~80° ノ温ヲ與ヘテ濁濁液ノ殆ト澄明トナルニ至リ放冷シ初メ 20cc 後二回各 10cc ノ「クロロホルム」ヲ以テ振盪シ「クロロホルム」ヲ合シテ蒸溜シ残渣ニ「アルコール」一分及水八分ノ混液 50cc ヲ加ヘ還流冷却器ヲ附シ十分間煮沸シ豫メ乾燥シ秤量セル小壘中ニ温ニ乗シ小濾紙ヲ用ヒテ濾入シ更ニ「アルコール」一分及水八分ノ熱混液 10cc ヲ以テ濾紙ヲ洗滌シ二十四時間放置シ結晶ヲ析出セシメ其上清液ヲ豫メ 100° ニ於テ乾燥シ秤量セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シタル後其濾紙ヲ前ノ壘中ニ容レ更ニ 100° ニ於テ乾燥

スルニ結晶ノ重量少クモ 0.10g ナラサルヘカラス

五 本品ヲ灰化スルニ 90% 以上ノ個性物ヲ殘留スヘカラス

Folium Digitalis

○デギタリス葉

一 デギタリス葉ハ Digitalis purpurea Linné (デギタリス) ノ葉ヲ 60° ノ超エサル温ニ於テ乾燥シ細切シタルモノナリ
二 本品ハ綠色又ハ淡綠色ニシテ菲薄ナル葉體ノ到切片ヨリ成リ葉脈ノ破片及毛茸ヲ混ス葉體ノ上面ハ暗綠色ヲ呈シ毛茸少ク葉脈ニ沿ヒテ陷没シ下面ハ綠白色ニシテ毛茸ヲ密生シ葉脈ハ凸出ス顯微鏡下ニ檢スルニ葉ノ上面ノ表皮細胞ハ殆ト直線狀又ハ稍々波狀ニ彎曲セル膜壁ヲ有シ氣孔ハ殆ト無ク或ハ極メテ稀ナリ葉ノ下面ニ於テ細胞ノ膜壁ハ著シク波狀ニ彎曲シ氣孔ハ多數ニシテ各三乃至四箇ノ副細胞ヲ伴フ一乃至四箇ノ細胞ヨリ成レル尖銳ナル毛茸ト有頭性腺毛ハ葉ノ兩面ニ存シ特ニ下面ノ脈上ニ多シ尿酸塩ノ結晶ハ葉體ノ組織中ニ缺如ス

三 本品ハ不快ノ苦味ヲ有ス

四 本品一分ニ熱湯二十分ヲ加ヘ浸出シ濾過シテ得タル液 10cc ヲ分液漏斗ニ取り 10cc ノ「クロロホルム」ヲ加ヘ數分間振盪シ更ニ「エーテル」及「アルコール」各 5cc ヲ和シ輕ク

搖動シタル後クロロホルムエーテル液ヲ分取シ豫メ「クロロホルム」ヲ以テ濡ホシタル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ蒸發シテ得タル殘留物ヲ 30% ノ水醋酸ニ溶解シ之ニ一滴ノ稀塩化第二鉄溶液ヲ添加シ硫酸ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ褐色ノ輪帶ヲ生シ其上部ニ藍綠色ノ層ヲ現ハササルヘカラス

五 本品ノ粗末 1g ニ純アルコール 25cc ヲ加ヘ密栓シ時々振盪シツツ約二十四時間放置シタル後還流冷却器ヲ附シ重湯煎上ニ三十分間沸騰セシメ熱時小濾紙ヲ用ヒテ濾過シ残渣ヲ毎回 5cc ノ純アルコールヲ以テ三回洗滌シ同一ノ濾紙ヲ用ヒテ濾過シ前後ノ濾液ヲ合シ 60° ノ超エサル温ニ於テ蒸發シ「アルコール」ヲ去リ残渣ヲ温湯ニ溶解シ脱脂綿ヲ用ヒテ濾過シ水ヲ以テ洗滌シ全量 10cc トナシタル濁濁液ニ就キ「トノサマガヘル」ヲ用ヒ「フオック」法ニ從ヒ檢定スルニ效價四乃至六單位ヲ有セサルヘカラス

六 本品ヲ 100° ニ於テ乾燥スルニ其重要ヲ減失スルコト 30% ニ過クヘカラス又之ヲ灰化スルニ固性物ヲ殘留スルコト 12% ニ過クヘカラス

七 密栓シ「パラフィン」ヲ塗布シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ
一回ノ極量 0.2g
一日ノ極量 1.0g

Folium Eucalypti

ユーカリ葉

一 ユーカリ葉ハ Eucalyptus Globulus Labillardiere (ユーカリ) ノ葉ヲ採集シ乾燥セルモノナリ

二 本品ハ長サ 15~30 cm. 其最モ廣キ基部ニ於テハ幅 2.5~3 cm. 狹鉞針形ヲナシ鎌狀ニ彎曲シ上端ハ長狹尖銳ニ走り基部ハ少シク葉柄ニ移リ葉柄ハ長サ 2~3 cm. シテ捻轉ス

三 本品ハ邊緣平坦ニシテ暗灰綠色ヲ有シ毛茸ヲ帶ヒス剛強ニシテ韌革ニ類シ油腺ニ由テ斑點ヲ現ハシ其枝脈ハ邊緣ヨリ 1~2 mm 隔リタル部位ニ於テ癒合シ邊緣ニ沿ウテ通走ス

四 本品ノ氣味ハ「カンフル」様ニシテ強芳香性ナリ

五 本品ヲ灰化スルニ 1% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Folium Hyoscyami

ヒヨス葉

一 ヒヨス葉ハ Hyoscyamus niger Linné ノ葉ヲ花時ニ採集シ乾燥セルモノナリ

二 本品ノ基立葉ハ長卵圓形ニシテ長サ 30 cm. ニ至リ葉柄ニ沿ウテ狹細トナル邊緣ハ疎大ノ鋸齒ヲ有ス莖立葉ハ基立葉

- ヨリモ小ニシテ葉柄ヲ缺キ上端尖銳ニシテ兩緣各一乃至四箇ノ廣キ鈍鋸齒ヲ有ス
- 三 本品ノ上皮下ハ概シテ二乃至四箇多クモ十箇ヲ超エサル細胞ヨリ成レル圓錐體形ノ毛茸ト數箇ノ細胞ヨリ成レル腺性頭毛ヲ帶フ葉肉細胞中ニ存スルニ萜酸塩ハ概シテ單晶或ハ雙晶ヲナシ稀ニハ稍々單純ノ簇晶ヲナス
- 四 本品ハ 0.07% 以上ノ「アルカロイド」(ヒオスチアミン $C_{17}H_{23}NO_2 = 289.2$ トシテ)ヲ含有ス
- 五 本品ノ中末 20g ニ「エーテル」150ccヲ加ヘ善ク振盪シ次ニアンモニア水 10ccヲ加ヘ屢々劇シク振盪シツツ一時間放置シタル後脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ脱脂綿上ノ葉末ハ壓シテ充分ニ「エーテル」液ヲ滴下セシメ濾液ニ「タルク」ヲ加ヘ三分間振盪シ次ニ水 50ccヲ加ヘテ復タ三分間振盪シ「エーテル」液ノ澄明トナリタル後小乾燥濾紙ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其濾液 75ccヲ蒸溜シテ約其三分ノ二ヲ去リ冷後分液漏斗ニ移シ容器ヲ逐次三回各 50ccノ「エーテル」ヲ用ヒテ洗滌シ洗液ヲ分液漏斗中ノ液ニ合シ次ニ十分定規塩酸 5cc及水 5ccヲ加ヘ三分間劇シク振盪シ靜置シ次テ下層ノ澄明酸性液ヲ分取シ更ニ「エーテル」液ニ逐次三回各 50ccノ水ヲ加ヘテ振盪シ前ノ酸性液ニ合シ「メチルロート」溶液二滴ヲ加ヘ十分定規カリ液ヲ滴加シテ中和スルニハ該液ヲ費

スコト 476ccニ過クヘカラス

六 本品ヲ灰化スルニ 20% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

七 注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量	0.3g
一日ノ極量	1.0g

Folium Menthae

薄荷葉

- 一 薄荷葉ハ *Mentha arvensis* Linké var. *piperascens* Holmes (ハクカ)ノ葉ヲ採集シ乾燥セルモノナリ
 - 二 本品ハ卵圓形乃至鉞針形ヲナシ長サ 3~7cm ナリ上端ハ尖銳ニシテ邊緣ハ不同ノ銳鋸齒ヲ帶フ葉面ニハ毛茸散在シ多數ノ腺鱗ヲ附著ス
 - 三 本品ハ氣味特異峻烈芳香性ニシテ後清涼ナリ
 - 四 本品ヲ灰化スルニ 11% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- Folium Pruni macrophyllae
- バクチ葉
- 一 バクチ葉ハ *Prunus macrophylla* Siebold et Zuccarini (クチノキ)ヨリ採集セル新鮮ナル葉ナリ
 - 二 本品ハ鉞針形又ハ長橢圓形ヲナシ長サ約 15cm・幅 5cm

- ニ至リ上端尖銳ニシテ邊緣ハ銳鋸齒ヲ帶フ葉體ハ鞣革様ヲ呈シ上面ハ綠色ニシテ光澤ヲ有シ下面ハ其色較々淡明ナリ主脈ハ葉ノ下面ニ著シク隆出シ其上面ニハ之ニ應スル溝渠ヲ現ハス主脈ヨリ分出スル枝脈ハ葉ノ邊緣ニ達セス上方ニ向テ弧曲シ互ニ連絡ス葉柄ハ短ク上側ニ溝渠ヲ現ハシ葉體ノ基部ニ近接シテ左右ニ腺體ヲ具有ス柵狀細胞ハ上面ノミニ存在シ處々ニ萜酸塩結晶簇ヲ包藏ス
- 三 本品ヲ搗碎スレハ「ベンズアルデヒド」ノ香氣ヲ發ス

Folium Scopoliae

ロート葉

- 一 ロート葉ハ *Scopolia japonica* Maximowicz (ハシリドコロ)ノ葉ヲ花時ニ採集シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ卵圓形或ハ鉞針形ヲナシ長サ 18cm・幅 7cmニ至リ葉基ハ楔狀ヲナシ葉柄ニ沿ウテ絞細トナリ邊緣ハ平坦ニシテ少シク波狀ヲナス
- 三 本品ハ 0.15% 以上ノ「アルカロイド」(ヒオスチアミン $C_{17}H_{23}NO_2 = 289.2$ トシテ)ヲ含有ス
- 四 本品ハ葉脈上ニ少數ノ腺毛ヲ生シ葉肉組織中ニハ甚タ稀ニ萜酸塩ノ砂狀結晶ヲ含有ス
- 五 本品ハ太キ莖ヲ夾雜スヘカラス

- 六 本品ノ中末 20g ニ「エーテル」150ccヲ加ヘ善ク振盪シ次ニ「アンモニア水」10ccヲ加ヘ屢々劇シク振盪シツツ一時間放置シタル後脱脂綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ脱脂綿上ノ葉末ハ壓シテ充分ニ「エーテル」液ヲ滴下セシメ濾液ニ「タルク」ヲ加ヘ三分間振盪シ次ニ水 50ccヲ加ヘテ復タ三分間振盪シ「エーテル」液ノ澄明トナリタル後小乾燥濾紙ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其濾液 75ccヲ小壺ニ取り蒸溜シテ約其三分ノ二ヲ去リ冷後分液漏斗ニ移シ逐次三回各 50ccノ「エーテル」次ニ塩酸ヲ加ヘタル水 (1+10) 10ccヲ用ヒテ壺ヲ洗滌シ洗液ヲ分液漏斗中ノ液ニ合シ十分間強ク振盪スヘシ次テ酸性ノ澄明ニ分離スルニ至リ之ヲ第二ノ分液漏斗ニ取り更ニ「エーテル」液ニ逐次二回塩酸ヲ加ヘタル水 (1+10) 各 5ccヲ加ヘテ振盪シ前後ノ酸性液ヲ合シ之ニ「クロロホルム」5ccヲ和シ炭酸ソーダ溶液ヲ以テ「アルカリ性」トナシ十分間強ク振盪シタル後放置シ澄明ノ「クロロホルム」液ヲ第三ノ分液漏斗ニ移シ更ニ「アルカリ性」液ニ三回各 50ccノ「クロロホルム」ヲ加ヘテ振盪シ前後ノ「クロロホルム」液ヲ合シ之ニ十分定規塩酸 5cc・水 5cc及適宜量ノ「エーテル」ヲ注キ「クロロホルム」エーテル液ノ酸液上ニ浮游スルニ至リ復タ三分間劇シク振盪シ下層ノ酸性澄明液ヲ豫メ水ヲ以テ濡ホセル小濾紙ヲ用ヒテ濾過シ更ニ「クロロホルム」エーテル液

ニ逐次三回各50%ノ水ヲ加ヘテ振盪シ前ノ酸性液ニ合シ之ニ「メチルロート」溶液二滴ヲ加ヘ十分定規カリ液ヲ滴加シテ中和スルニハ該液ヲ費スコト4.430gニ過クヘカラス又此中和液ニ稀塩酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ分液漏斗ニ取り「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ下層ノ酸性液ヲ分取シ必要アラハ更ニ「エーテル」ヲ加ヘテ同様ニ處理シ酸性液ノ殆ト無色トナルニ至リ之ニ「アンモニア」水ヲ加ヘテ弱アルカリ性トナシ分液漏斗ニ取り「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ「エーテル」層ヲ磁皿ニ分取シ「エーテル」ヲ揮散セシメタル後残渣ニ發煙硝酸五滴ヲ加ヘ重湯煎上ニ蒸發シ冷後残渣ニ「アルコール」性カリ滴液ヲ滴加スルニ紫色ヲ呈セサルヘカラス

- 七 本品ヲ灰化スルニ13%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 八 注意シテ貯フヘシ
- 一回ノ極量 0.15g
- 一日ノ極量 0.50g

Folium Sennae

○センナ葉

- 一 センナ葉ハ *Cassia angustifolia Vahl* 又ハ *Cassia acutifolia Delile* ノ葉ヲ採集シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ類黃綠色ニシテ鉞針形ヲナシ其基部稍々不同ナリ

長サ1~2cmニ至リ短キ葉柄ヲ有シ上端ハ尖銳ナリ微ニ毛茸ヲ帶フ

三 本品ノ兩面ニ露出スル第一級枝脈ハ邊緣ニ近接シテ上方ニ蜿蜒シ兩面ノ上皮ハ多角形平壁性細胞ヨリ成リ單細胞性厚壁性ノ毛茸ヲ帶フ兩面ノ上皮下ニハ各一層ノ柵狀細胞ヲ存ス葉肉組織ハ圓形ノ細胞ヨリ成ル

- 四 本品ハ殆ト無臭ニシテ味ハ微ニ苦シ
- 五 本品ヲ灰化スルニ10%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Folium Stramonii

マンダラ葉

- 一 マンダラ葉ハ *Datura Tatula Linne* ヤウシユテウセンアサガホ) 又ハ *Datura Stramonium Linne* (シロバナヤウシユテウセンアサガホ) ノ葉ヲ花時ニ採集シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ノ葉柄ハ長クシテ圓ク上面ニ細溝アリ葉體ハ暗綠色ニシテ長サ20cmヲ超エス廣卵圓形又ハ長卵圓形乃至鉞針形ヲナシ上端ハ尖銳ニシテ基部ハ楔狀ヲナス邊緣ニハ不同ナル彎鋸齒或ハ重彎鋸齒アリ殆ト毛茸ヲ帶ヒス主脈ノ兩側ニハ三乃至五條ノ太キ枝脈アリ萜酸塩細胞ハ結晶簇ヲ包藏ス
- 三 本品ハ味微ニ苦鹹ナリ
- 四 本品ヲ灰化スルニ20%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

五 注意シテ貯フヘシ

- 一回ノ極量 0.2g
- 一日ノ極量 0.6g

Folium Uvae Ursi

○ウワウルシ葉

- 一 ウワウルシ葉ハ *Arctostaphylos Uva Ursi Sprengel* ノ葉ヲ採集シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ筵狀稀ニハ倒卵圓形ヲナシ長サ1.2~3cm・葉柄ノ長サ3~5mmナリ邊緣ハ平坦・葉體ハ厚クシテ破碎シ易ク上面ハ暗綠色ヲ有シ上下ノ上皮ハ上面ヨリ檢視スレハ多角形平壁性ノ細胞ヨリ成リ裂孔ハ廣楕圓形ヲナシ主脈ハ殆ト裏面ニ露出セス其橫斷面ニ於テハ脈管束ノ上下兩側ニ隨伴セル細胞中ニ萜酸塩ノ單結晶或ハ砂狀結晶ヲ包藏ス葉肉組織中ニハ萜酸塩結晶ヲ缺如ス味收斂性ナリ
- 三 本品1gニ水50ccヲ和シ二三分間煮沸シ濾過シテ得タル液ニ硫酸鉄ノ小片ヲ投スレハ紫色ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品ヲ灰化スルニ4%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Formalinum Formidoliquidum solutum

○ホルマリソ ホルムアルデヒド液

ウワウルシ葉・ホルマリソ

- 一 ホルマリソハ無色或ハ殆ト無色澄明ノ液ニシテ竝透性ノ臭氣ヲ有シ寒冷ニ遇ヘハ濁濁スルコトアリ中性或ハ弱酸性ノ反應ヲ微シ水竝アルコールニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ「エーテル」ニ混和セス
- 二 本品ハ約35%ノ純ホルムアルデヒド(HCOH=30.0)ヲ含有ス
- 三 本品ヲ重湯煎上ニ蒸發スレハ水ニ溶解シ難キ白色無晶形ノ物質ヲ殘留ス又本品ニ「アンモニア」水ヲ加ヘテ強アルカリ性トナシタル後重湯煎上ニ蒸發スレハ水ニ溶解シ易キ白色結晶性ノ物質ヲ殘留ス
- 四 本品ニ「アンモニア」水ヲ和シタルモノニ硝酸銀溶液ヲ加フレハ徐々ニ金屬銀ヲ析出ス又フェーリング溶液ト共ニ熱スレハ赤色ノ沈澱ヲ析出ス
- 五 本品ニ四倍容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過ギス硝酸バリウム溶液ニ由テ又醋酸三滴ヲ加ヘタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス
- 六 本品1gニ「フェノール」フタレイソ溶液一滴ヲ加ヘタルモノハ之ヲ中和スルニ定規カリ液一滴ヲ費スニ過クヘカラス
- 七 本品1gヲ蒸發シテ得タル白色ノ塊ヲ燃化スルニ固性物

- ヲ遺スコトアルモ0.003gニ過クヘカラス
- 八 本品1gニ十分定規ヨード液10ccヲ和シタルモノハ之ニ「ナトロン」滴液ヲ加ヘテ殆ト脱色スルニ至リ温ヲ與フルニ黄色結晶性ノ沈澱ヲ生スヘカラス
- 九 本品ノ澄明液1gヲ豫メ水2.5cc及定規カリ液2.5ccヲ容レタル内容100ccノ測容壺ニ秤取シ振盪シ水ヲ加ヘテ100ccトナシ其10ccヲ取り之ニ十分定規ヨード液50cc次ニ定規カリ液20ccヲ加ヘ十五分間常温ニ静置シタル後稀硫酸10ccヲ和シ十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ滴加シテ過剩ノ「ヨード」ヲ結合スルニハ該液ヲ費スコト26.7ccニ過クヘカラス(標示薬澱粉溶液)
- 一〇 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

Fructus Anisi

アニス實

- 一 アニス實ハ Pimpinella Anisum Linné ノ果實ヲ採集セルモノナリ
- 二 本品ハ長サ約5mmニ至リ廣卵形ヲナシ類褐色ヲ有シ單細胞性ノ短キ毛茸ヲ帶フ僅ニ隆起セル十條ノ肋脈間ニ存スル油槽ハ外部ヨリハ認視シ難ク各分果ノ符合面ニハ二箇ノ大油槽著シク隆起ス分果ノ横断面ニ於テハ各二條ノ肋脈

間ニ四乃至六箇ノ小油槽ヲ認ム

- 三 本品ハ「アネトール」ニ類スル峻烈ノ氣味ヲ有ス
- 四 本品ヲ灰化スルニ10%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Fructus Capsici

蕃椒

- 一 蕃椒ハ Capsicum annum Linné (タウガラシ) 及其變種ノ成熟セル果實ヲ採集シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ赤色或ハ赤褐色ニシテ長圓錐形又ハ紡錘形ヲナシ滑澤ニシテ光澤ヲ帶ヒ往々弧曲シ太サ1cm長サ10cmニ至リ萼並果梗ヲ附著スルモノアリ果皮ノ内部ハ空洞ニシテ通常二室ニ分レ黄色扁平ニシテ太サ5mmニ至ル多數ノ種子ヲ包藏ス果實ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ外側ノ上皮ハ厚キ表皮膜ヲ有シ厚角組織之ニ次キ内層ハ薄壁性ノ柔組織ヨリ成ル内側ノ上皮ハ薄壁性並石核性ノ上皮細胞ヨリ成リ柔組織トノ間ニ大ナル空房ヲ構成ス果實ノ外側ニ近キ細胞ハ多數ノ黄赤色ノ有色澱ヲ含有ス種被ノ上皮細胞ハ外側ニ薄ク左右兩側並内側ニ不整ニ厚化セル皮壁ヲ有ス
- 三 本品ハ味辛辣灼クカ如シ
- 四 本品ヲ灰化スルニ8%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Fructus Cardamomi

小豆蔻

- 一 小豆蔻ハ Eleitaria Cardamomum Wight et Maton ノ殆ト稔熟セル滿果ヲ採集シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ淡類黄色ヲ有シ長サ1~2cm太サ約1cmニシテ三條ノ鈍稜ヲ有シ縦脈アリ頂端ニハ1~2mmノ小嘴ヲ有シ内部ハ三房ニ分レ各房中ニハ縦ニ排列セル種子約七箇ヲ包藏ス其種子ハ褐色不整有角性ニシテ皺紋ヲ帶ヒ無色菲薄ノ子衣ヲ被ル
- 三 本品ノ果被ハ氣味ナク種被ハ強芳香性ノ氣味ヲ有スル分泌液ヲ含有ス
- 四 本品30gヲ取り揮發油定量法(甲)ニ據リ揮發油ヲ定量スルニ其量1.0cc以上ナラサルヘカラス
- 五 本品ヲ灰化スルニ10%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Fructus Catalpae

キササゲ實

- 一 キササゲ實ハ Catalpa Ovata G. Don (キササゲ) ノ殆ト稔熟セル果實ヲ採集シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ線狀ヲナシ長サ30~40cm太サ0.5cmニ至リ果

小豆蔻・キササゲ實・クベバ實

- 被ハ暗褐色菲薄ニシテ破碎シ易ク多數ノ種子ヲ包藏ス種子ハ翼ヲ有シ扁平淡褐色ニシテ兩端ニ長キ白毛ヲ有ス
- 三 本品ハ殆ト無味ニシテ微ニ收斂性ナリ
- 四 本品ヲ100%ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト10%ニ過クヘカラス又本品ヲ灰化スルニ5%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Fructus Cubebae

クベバ實 葦澄茄

- 一 クベバ實ハ Piper Cubeba Linné ノ充分成長セル未熟ノ果實ヲ採集シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ略々球形ヲナシ直徑5mmヲ超エス外面暗褐色ニシテ皺紋ヲ現ハス頂端ニハ三乃至五箇ノ柱頭ヲ存シ基底ハ長サ4~10mmニシテ太サ1mmニ過キササル小梗ニ移ル
- 三 本品ノ果被ノ破砕面ニハ較々淡明ナル堅キ内層層ヲ見ル其内層層ハ少シク半徑ノ方向ニ延長セル稍々厚壁ノ厚膜細胞ニ乃至三列ヨリ成ル果被ノ中層組織中ニハ分泌細胞ヲ包藏シ厚膜細胞ヲ存セス上皮ノ直下ニハ一列又ハ二列ヨリ成レル厚膜細胞層ヲ見ル果被ノ心底ニハ稍々發育セル一箇ノ種子ヲ附著ス
- 四 本品ハ氣味芳香性ニシテ苦シ

- 五 本品ノ碎片ニ硫酸一滴ヲ點スレハ其硫酸著シク赤色ヲ呈ス
- 六 本品 10gヲ取り揮發油定量法(甲)ニ據リ揮發油ヲ定量スルニ其量 1.3cc以上ナラサルヘカラス
- 七 本品ヲ灰化スルニ 8%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Fructus Foeniculi

茴香

- 一 茴香ハ *Foeniculum Vulgare Miller* (ウイキヤウ)ノ果實ヲ採集セルモノナリ
- 二 本品ハ長圓柱形ヲナシ帶綠黄色ヲ呈シ毛茸ナク長サ 10mm・直径 3~4mmナリ其十條ノ肋線中ニ於テ互ニ密接セル邊緣ノ肋線ハ他ノ肋線ヨリモ著シク隆起ス其肋線間ニ各一箇ノ巨大ナル油室ヲ有シ分果ノ符合面ニ各二箇ノ油室ヲ有ス
- 三 本品ハ特異芳香性峻烈ノ氣味ヲ有セサルヘカラス
- 四 本品 50gヲ取り揮發油定量法(甲)ニ據リ揮發油ヲ定量スルニ其量 1.5cc以上ナラサルヘカラス
- 五 本品ヲ灰化スルニ 10%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Fructus Piperis nigri

胡椒

- 一 胡椒ハ *Piper nigrum Linné*ノ果實ヲ稔熟前ニ採集シ乾燥セルモノナリ
- 二 本品ハ球形ヲナシ果梗ヲ缺如シ直徑約 5mmナリ果被ハ菲薄ニシテ黑褐色ヲ有シ粗ニ皺縮シ中ニ果層ト癒著セル一箇ノ種子ヲ包藏ス種子ハ主トシテ外胚乳ヨリ成リ其外胚乳ハ中心ニ空洞ヲ存シ角質様ニシテ帶褐黄色ヲ有シ内部ハ白色ニシテ粉性ヲ呈ス
- 三 本品ハ氣味峻烈芳香性ニシテ灼クカ如シ
- 四 本品ヲ灰化スルニ 5%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Galla

五倍子

- 一 五倍子ハ *Schlechtendalia mimitsushi Matsunura* 又ハ *Schlechtendalia chinensis Lichtenstein*ナル呀蟲ノ刺傷ニ由リ *Rhus semialata Murray* (ヌルデ)ノ葉ニ生シタル囊狀ノ蟲癭ヲ採集シ乾燥シタルモノナリ
- 二 本品ハ不整ノ形狀ヲナシ分岐破裂シ太サ 1~3cmナリ皮壁ハ堅脆角質様ニシテ帶灰褐色ヲ有シ絹絲様ノ毛ヨリ成レ

- 一 ゼラチンハ無色或ハ殆ト無色透明硝子様ノ光澤ヲ帶フル菲薄ノ板片或ハ線狀ヲナシ臭味ヲ有セス
- 二 本品ハ冷水ニ溶解セスシテ著シク膨脹シ加温スレハ容易ニ溶解シテ澄明或ハ蛋白石濁ヲ帶フル粘著性ノ液トナリ中性或ハ微ニ酸性反應ヲ徴シ其溶液 (1+99)ハ冷後尙能ク凝固ス又本品ハ「アルコール竝エーテル」ニ溶解セス
- 三 本品ハ極メテ稀薄ノ水溶液ニ於テモ「タンニン酸溶液」ニ於テ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 5gヲ内容約 120ccノ塚ニ取り之ニ水 30ccヲ加ヘ重湯煎上ニ微温ヲ與ヘテ溶解セシメ燐酸 5gヲ注加シ水ヲ以テ濡ホシタル「ヨード酸カリ澱粉紙」ヲ挿入セル栓栓ヲ以テ覆ヒ屢々搖動シツツ重湯煎上ニ熱スルニ十五分以内ニ該紙級片ヲ藍變スヘカラス
- 五 本品 5gヲ灰化スルニ 0.1g以上ノ固性物ヲ殘留スヘカ

Gelatina alba

ゼラチン

- 一 ゼラチンハ無色或ハ殆ト無色透明硝子様ノ光澤ヲ帶フル菲薄ノ板片或ハ線狀ヲナシ臭味ヲ有セス
- 二 本品ハ冷水ニ溶解セスシテ著シク膨脹シ加温スレハ容易ニ溶解シテ澄明或ハ蛋白石濁ヲ帶フル粘著性ノ液トナリ中性或ハ微ニ酸性反應ヲ徴シ其溶液 (1+99)ハ冷後尙能ク凝固ス又本品ハ「アルコール竝エーテル」ニ溶解セス
- 三 本品ハ極メテ稀薄ノ水溶液ニ於テモ「タンニン酸溶液」ニ於テ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 5gヲ内容約 120ccノ塚ニ取り之ニ水 30ccヲ加ヘ重湯煎上ニ微温ヲ與ヘテ溶解セシメ燐酸 5gヲ注加シ水ヲ以テ濡ホシタル「ヨード酸カリ澱粉紙」ヲ挿入セル栓栓ヲ以テ覆ヒ屢々搖動シツツ重湯煎上ニ熱スルニ十五分以内ニ該紙級片ヲ藍變スヘカラス
- 五 本品 5gヲ灰化スルニ 0.1g以上ノ固性物ヲ殘留スヘカ

ラス此殘留物ヲ稀硝酸 2ccニ溶解シ「アンモニア水」ヲ以テ過飽スルニ藍色ヲ呈スヘカラス

Glandula Thyroidea siccata

乾燥甲状腺

- 一 乾燥甲状腺ハ牛或ハ豚ノ甲状腺ヲ取り細切シ 40°~50°ノ温ヲ與ヘテ速ニ乾燥シタル後中末トナシ製シタルモノナリ
- 二 本品ハ甲状腺ニ特有ナル有機性化合物トシテノ純ヨード (J=126.93)少クモ 0.3%ヲ含有ス
- 三 本品ハ類黄色ノ粉末ニシテ微ニ特異ノ臭氣ヲ有シ其一分ハ新鮮甲状腺ノ四乃至五分ニ相當ス
- 四 本品ノ少量ヲ「ヘマトキシリン」溶液ニテ五分間染色シ水洗シタル後塩酸一分・アルコール九十九分ノ混液中ニ約十分間放置シ更ニ水洗シ顯微鏡下ニ檢スルニ甲状腺ニ特有ナル濾胞及之ヲ構成スル上皮性細胞ノ核ヲ認ム
- 五 本品ノ少許ニ約 5ccノ「ヨードベンジン」溶液ヲ加ヘ一分間搖動シタル後殘渣ヲ數回石油ベンジンニテ洗滌シ流動パラフィン」ニ封シテ顯微鏡下ニ檢スルニ無色ノ部分ヲ認ムヘカラス
- 六 本品 1gヲ内容約 50ccノ硝子盃ニ取り水 10ccヲ加ヘ

屢々搖動シツツ一時間放置シタル後水ヲ以テ濡ホセル直徑約 8cmノ濾紙ニテ濾過シ水 50ccヲ以テ硝子盃ヲ洗滌シ其洗液ヲ濾紙上ニ注キ濾液及洗液ヲ合シテ熱シ沸騰スルニ至リ之ニ醋酸一滴ヲ加フルニ輕鬆ノ沈澱ヲ析出セサルヘカラス又其沈澱ヲ冷後濾別シテ後タル液ハ淡黃色澄明ナラサルヘカラス

七 第六項ノ濾紙上ニ殘留セル甲狀腺末ヲ前ノ硝子盃ニ移シ「アルコール 100cc」ヲ加ヘテ屢々搖動シツツ一時間放置シタル後直徑約 8cmノ濾紙ニテ濾過シ「アルコール 50cc」ニテ硝子盃ヲ洗滌シ其洗液ヲ濾紙上ニ注クニ兩濾液ヲ合シタルモノハ微黃色澄明ナラサルヘカラス

八 第七項ノ濾紙上ノ殘渣ヲ再ヒ前ノ硝子盃ニ移シ「エーテル 100cc」ヲ加ヘテ計硝子ニテ覆ヒ屢々搖動シツツ一時間放置シタル後直徑約 8cmノ濾紙ニテ濾過シ「エーテル 50cc」ニテ硝子盃ヲ洗滌シ其洗液ヲ濾紙上ニ注クニ兩濾液ヲ合シタルモノハ無色又ハ微黃色澄明ナラサルヘカラス

九 第八項ノ「エーテル」浸出液ヲ内容 25ccノ瓷製坩堝中ニ蒸發シ次テ同一坩堝ニテ第七項ノ「アルコール」浸出液ヲ・最後ニ第六項ノ水浸液ヲ蒸發シ全量ヲ約 0.5ccトナシ之ニ炭酸カリ五分・乾燥炭酸ソーダ五分及硝石三分ノ混合物 5gヲ加ヘ徐々ニ熱シテ乾燥セシメタル後漸次ニ強熱シテ遂ニ熔

融セシメ冷後融塊ヲ約 20ccノ湯場ニ溶解シテ内容約 200ccノ硝子盃ニ移シ之ニ過マンガン酸カリ末 0.2gヲ加ヘテ二日間煮沸シタル後搖動シツツ稀硫酸ヲ加ヘ青色リトマス紙ヲ赤變スルニ至リ蒸發スル水ヲ補ヒツツ三十分間煮沸シタル後炭酸ソーダ」ヲ加ヘテ微ニ「アルカリ性トナシ一分間煮沸シ「アルコール」約 0.5ccヲ加ヘテ脱色セシメ次ニ蒸發スル水ヲ補ヒツツ十分間煮沸シテ過剩ノ「アルコール」ヲ去リ熱溶液ヲ直徑約 10cmノ濾紙ニテ濾過シ三回各 200ccノ硫酸ソーダ熱溶液 (1+19)ヲ以テ硝子盃ヲ洗滌シ其洗液ヲ濾紙上ニ注キ其濾液及洗液ヲ合シ冷後此澄明液ニ注意シテ稀硫酸 20cc・ヨードカリ 0.1g及澱粉溶液 1ccヲ加ヘ十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ適加シテ脱色スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト 0.1ccニ過クヘカラス

一〇 本品 1gヲ内容約 125ccノ「ニッケル製坩堝」ニ取り前項ト同一ノ熔融酸化劑 15gト善ク混合シ更ニ其 5gヲ表面ニ撒布シ直火ニテ注意シテ加熱シ全ク灰化シタル後冷却シ 150ccノ水ニ溶解シテ内容 500ccノ壺ニ移シ次亞塩素酸ソーダ溶液 50cc及磷酸(比重 1.36)適量ヲ加ヘ明ニ遊離塩素ノ色ヲ認ムルニ至リ更ニ同上ノ磷酸 30ccヲ追加シ一時間半煮沸シテ容量約 150ccトナルニ至ル迄蒸發シ冷後之ニ水 50cc及ヨードカリ溶液 1ccヲ加ヘ十分定規チオ硫酸

ソーダ液ヲ滴加シテ脱色スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト少クモ 1.4ccナラサルヘカラス(標示藥澱粉溶液)

一 本品ヲ 100ccニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 6%ニ過クヘカラス又之ヲ灰化スルニ 5%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

一二 壺中ニ容レ密栓シ注意シテ貯フヘシ
一回ノ極量 0.3g
一日ノ極量 0.6g

葡萄糖



一 葡萄糖ハ白色ノ結晶或ハ結晶性粉末ニシテ臭氣ナク甘味ヲ有シ一・五分ノ水並約十分ノ熱アルコール」ニ溶解ス

二 本品ノ水溶液 (1+19)ハ「フェーリング」溶液ト共ニ煮沸スレハ赤色ノ沈澱ヲ生ス

三 本品ノ 105°ニ於テ乾燥セルモノ 10gヲ水ニ溶解シ「アンモニ」ハ水一滴ヲ添加シ常溫ニ於テ 100ccトナシタルモノハ旋光度約 +5.3°ナリ

四 本品ノ水溶液 (1+19)ハ無色澄明ニシテ中性ノ反應ヲ微シ硫化ソーダ溶液ニ由テ變化セス又硝酸ヲ以テ酸性トナシ

葡萄糖・グリセリン

タル後硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス又アンモニア水ヲ和シタル後舊酸アンモン溶液ニ由テ變化スヘカラス

五 本品 1gヲ水 10cc溶解シタルモノハ「レゾルシン」0.1g及塩酸 1ccヲ加ヘ三十分間重湯煎中ニ熱スルニ著色スルコトアルモ紅色ヲ呈スヘカラス

六 本品ノ水溶液 (1+9)ハ「ヨード」溶液一滴ニ由テ黃色ヲ呈スヘシ

七 本品 1gハ塩酸 2ccニ染色セスシテ溶解シ之ニ三倍容量ノ塩化第一錫溶液ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス

八 本品ハ 105°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 1%ニ過クヘカラス又其乾燥セルモノハ著色スヘカラス

九 本品ヲ燃化スルニ 0.1%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
一〇 壺中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Glycerinum

グリセリン

一 「グリセリン」ハ無色澄明シロツブ稠ノ液ニシテ臭氣ナク味甘シ水・アルコール又エーテルアルコール」ニ隨意ノ比例ニ於テ溶解シ「エーテル・クロロホルム」又脂肪油ニ溶解

セス比重 1.233~1.233 ナリ

- 本品ハ 84~87%ノ純グリセリン $[\text{C}_2\text{H}_5(\text{OH}), \text{CH}(\text{OH}), \text{CH}_2(\text{OH})]$ $\text{CH}_2(\text{OH}) = 92.1\%$ ヲ含有ス
- 本品 1ccニ塩化第一錫溶液 3ccヲ和シタルモノハ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 本品ノ水溶液 (1+5)ハ中性反應ヲ徴シ硝酸バリウム溶液・醋酸アンモン溶液又塩化カルシウム溶液ニ由テ又醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ變化セス又硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ止マリ又塩酸二三滴ヲ加ヘタル後黃血塩溶液ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 本品 5ccヲ熱シ點火スルニ全ク燃燒シテ黒斑ヲ遺スニ止マルヘシ更ニ強ク熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 本品 1ccニ同容量ノ「アンモニア水ヲ混和シ重湯煎中ニ於テ 60°ニ温ムルニ黃色ヲ呈セス又此温混液ニ直チニ硝酸銀溶液三滴ヲ滴加シ放置スルニ五分以内ニ染色セス又帶褐色ノ沈澱ヲ生スヘカラス
- 本品 1ccヲ「ナトロン滴液」1ccト共ニ加温スルニ染色セス其際アンモニア又ハ膠様ノ臭氣ヲ發スヘカラス
- 本品 5ccヲ稀硫酸 5ccト共ニ微ニ加温スルニ不快敗油性ノ臭氣ヲ發スヘカラス又之ヲ煮沸スルニ黃色ヲ呈スヘカラス

ラス

- 本品四滴ハ硫酸 2ccニ染色セスシテ溶解スヘシ
- 本品 50ccニ新タニ煮沸シ冷却シタル水 50cc及十分定規カリ液 10ccヲ和シ十五分間重湯煎上ニ温メ冷後之ニフェノールフタレイン溶液 1ccヲ添加シ十分定規 塩酸ヲ滴加シテ紅色ノ消失スルニ至ルニハ少クモ其 4ccヲ費ササルヘカラス

Gossypium Acidi borici

硼酸綿

一 硼酸綿ハ 十二分
ヲ取り
微温蒸溜水 二百分
ニ溶解シ之ニ
脱脂綿 百分
ヲ浸漬シ均等ニ吸收セシメ二時間ヲ經テ壓搾シ其全量二百七十分トナルニ至リ塵埃ヲ避ケ乾燥シテ全量ヲ約百十分トナシ製スヘシ

二 本品ハ約 10%ノ硼酸ヲ含有ス

三 強靱ナル紙ニテ被包シ容器ニ密閉シ貯フヘシ

Gossypium depuratum

脱脂綿 精製綿

- 脱脂綿ハ Gossypium 屬諸種植物ノ種子ノ白色毛茸ヲ採集シ脂肪ヲ除去セルモノナリ
- 本品ハ團塊及種子ノ他ノ部分ヲ混有スヘカラス
- 本品ニ水ヲ加ヘテ濡ホセルモノハ「リトマス紙」ヲ變色スヘカラス
- 本品一分ニ十分ノ熱湯ヲ加ヘテ得タル浸液ハ硝酸銀溶液ニ由テ微蛋白石濁ヲ起スニ過キス硝酸バリウム溶液又醋酸アンモン溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス其浸液 10ccニ硫酸二三滴及過マンガン酸カリ溶液三滴ヲ加フルニ其紅色五分以内ニ消失スヘカラス
- 本品ヲ水面ニ投スレハ浸潤シ直チニ沈下セサルヘカラス
- 本品ヲ灰化スルニ 0.3%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Gossypium Hydrargyri bichlorati

昇汞綿

一 昇汞綿ハ 一一分
昇汞 一一分
塩化カリ 一一分

ヲ取り

蒸溜水 九百分

ニ溶解シ「スカレット」又ハ「フロキシ」ヲ以テ微ニ著色シ之ニ

脱脂綿 五百分

ヲ浸漬シ均等ニ吸收セシメタル後壓搾シテ其全量千三百五十分トナルニ至リ塵埃ヲ避ケ暗處ニ乾燥シ製スヘシ

二 本品ハ約 0.2%ノ昇汞ヲ含有ス

三 強靱ナル紙ニハ被包シ容器ニ密閉シ光リ遮リ貯フヘシ

Gossypium iodoforniatum

ヨードホルム綿

一 ヨードホルム綿ハ

ヨードホルム 一分

ヲ取り

流動パラフィン 一分

エーテル 六十分

ニ溶解シ之ニ

脱脂綿 二十分

ヲ浸漬シ輕ク壓搾シテ均等ニ黃色ヲ呈スルニ至リ塵埃ヲ避ケ光ヲ遮リ乾燥シ製スヘシ

二 本品ハ約5%ノ「ヨードホルム」ヲ含有ス
三 強靱ナル紙ニテ被包シ容器ニ密閉シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Gossypium salicylatum

サリチル酸綿

一 サリチル酸綿ハ

サリチル酸 十一分

ヲ取り

グリセリン 二十分

アルコール 百八十分

蒸溜水 百八十分

ニ溶解シ之ニ

脱脂綿 二百分

ヲ浸漬シ壓搾シテ均等ニ吸收セシメタル後微温ヲ以テ塵埃ヲ避ケ乾燥シ製スヘシ

二 本品ハ約5%ノ「サリチル酸」ヲ含有ス

三 強靱ナル紙ニテ被包シ容器ニ密閉シ貯フヘシ

Gossypium stypticum

止血綿

一 止血綿ハ

塩化第二鉄液 七十五分

ヲ取り

アルコール 四十分

ニ溶解シタル後少許ノ脱脂綿ヲ用ヒテ濾過シ

アルコール 五分

ニテ洗滌シ濾液ニ

グリセリン 三分

ヲ混和シ之ニ

脱脂綿 五十分

ヲ浸漬シ壓搾シテ均等ニ黄色ヲ呈スルニ至リ光ヲ遮リ塵埃ヲ避ケ乾燥シ製スヘシ

二 強靱ナル紙ニテ被包シ容器ニ密閉シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Guajacolum

グアヤコール



一 グアヤコールハ無色或ハ微ニ類黄色澄明強ク光線ヲ屈折スル油状ノ液或ハ約2%ニ於テ熔融スル無色ノ結晶ニシテ特異ノ芳香ヲ有シ約20%ニ於テ沸騰ス約八十分ノ水ニ溶解シ「アルコール竝エーテル」ニ澄明ニ混和ス比重1.120~1.143ナリ

二 本品ノ飽和水溶液ニ塩化第二鉄溶液二三滴ヲ加フレハ藍色ヲ呈シ濁濁シテ直チニ帯赤褐色ニ變シ其アルコール溶液ニ在テハ深藍色ヲ呈シ次テ暗綠色ニ變ス

三 本品1ccハ「ナトロン」滴液2ccニ澄明ニ混和シ之ニ水30ccヲ和シテ稀釋スルモ澄明ニ止マリ殆ト無色ナルヘシ

四 本品一容量ニ二容量ノ「カリ」滴液ヲ和シタルモノハ暫時ノ後凝結シテ白色ノ結晶塊ヲ生セサルヘカラス

五 壘中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.3g

一日ノ極量 1.0g

Guajacolum carbonicum

○炭酸グアヤコール



一 炭酸グアヤコールハ白色結晶性ノ粉末ニシテ殆ト臭味ナク水ニ溶解セス「アルコール竝エーテル」ニ僅ニ・熱アルコール・クロロホルム又ベンゾール」ニ容易ニ溶解シ約80%ニ於テ熔融ス

二 本品0.2gニ苛性カリ0.5gヲ純アルコール12ccニ溶解シタル澄明ノ溶液10ccヲ加ヘテ二分間煮沸スレハ結晶性ノ沈澱ヲ析出ス此沈澱ヲ純アルコール」ヲ以テ洗滌シ之ニ

塩酸ヲ加フレハ炭酸ガス」ヲ發生ス又此沈澱ヲ濾別シタル液ニ水5ccヲ和シテ稀釋シ重湯煎上ニ温メ「アルコール」ヲ蒸散セシメタル後稀硫酸5cc及エーテル」ヲ注加シテ振盪シ「エーテル」液ヲ分取シ蒸發スレハ其殘留物ハ「グアヤコール」ノ香氣ヲ發ス

三 本品0.5gヲ熱アルコール10ccニ溶解シタルモノハ濕潤セル「リトマス」紙ヲ變色セス之ニ塩化第二鉄溶液一滴ヲ和スルニ藍色或ハ綠色ヲ呈スヘカラス

四 本品1gニ水10ccヲ和シテ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス

五 本品0.1gハ硫酸1ccニ殆ト染色セスシテ溶解スヘシ

六 本品ヲ燃化スルニ0.1%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Gummi arabicum

○アラビアゴム

一 アラビアゴムハ Acacia Senegal Willdenow 及其他アリカ」ニ産スル Acacia 屬諸種植物ノ幹及枝ヨリ滲出シ氣中ニ於テ固結セル「ゴム」ヲ採集セルモノナリ

二 本品ハ無色或ハ微ニ黄色ヲ帶フル塊ニシテ多少球形ヲナシ大サ一定ナラス龜裂ヲ現ハシ破碎シ易ク其碎片ハ小貝殼

狀有角性ニシテ硝子様ノ光澤ヲ帶ヒ間々微ニ光彩ヲ放ツモノアリ

三 本品一分ハ水二分ニ徐々ニ全ク溶解シテ無色或ハ淡類黄色ノ粘漿トナル其粘漿ハ臭氣ナク味淡泊ニシテ粘滑ナリ弱酸性ノ反應ヲ微シ醋酸鉛溶液ニハ澄明ニ混和シ次醋酸鉛溶液ニ由テハ沈澱ヲ生ス本品一分ヲ水五万分ニ溶解セルモノニ在テモ亦然リ又其粘漿ハ「アルコール」並塩化第二鉄溶液ニ由テ凝膠狀ニ固結ス

四 本品ノ水溶液(1+9)ハ塩化第二鉄溶液ニ由テ暗綠色ヲ呈スヘカラス

五 本品ノ水溶液(1+9)10ccヲ煮沸シ冷却シタル後ヨード溶液一滴ヲ和スルニ藍色又ハ紫赤色ヲ呈スヘカラス

六 本品ヲ灰化スルニ4%以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

Guttapercha depurata

精製グッタペルカ

一 精製グッタペルカ」ハ *Palatium* 屬・*Pavona* 屬其他アカテツ科 (*Sapotaceae*) 諸種植物ノ乳汁ヲ採集シ精製セルモノナリ

二 本品ハ白色或ハ帶黄白色ノ圓柱又ハ薄板ニシテ(55°-70°ニ於テ可塑性トナリ 100°ニ於テ熔融ス

三 本品ハ「クロロホルム」ニ全溶セサルヘカラス

Herba cannabis indicae

印度大麻草

一 印度大麻草ハ印度ニ於テ栽培セル *Cannabis sativa* *Linne* var. *indica* *Tamurk* ノ花又ハ未熟ノ果實ヲ帶ヒタル雌草ノ枝梢ヲ採集シ乾燥セルモノナリ

二 本品ノ葉ハ三裂シ或ハ瓣裂セス分葉ハ狭鉞針形ヲナシ粗キ鋸齒ヲ有シ或ハ破傷シ或ハ落花セル穂本ト相粘著シテ團塊ヲナス

三 本品ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ夥シキ毛茸ノ外囊石及油腺ヲ認メ又葉肉組織中ニハ萜酸塩ノ簇晶ヲ包有セル細胞ヲ認ム

四 本品ハ臭氣特異峻烈麻醉性ニシテ味顯著ナラス

五 本品ハ木化セル莖並長サ5mmニ至ル卵形有稜性果實ヲ混有スルコトアルモ僅少ニ止マルヘシ

六 注意シテ貯フヘシ

Herba Swertiae

當藥センブリ

一 當藥ハ *Swertia japonica* *Makino* (ヤンブリ) 又ハ *Swertia chinensis* *Hemsley* (ムラサキセンブリ) ノ全草ヲ花時ニ採集

シ乾燥セルモノナリ

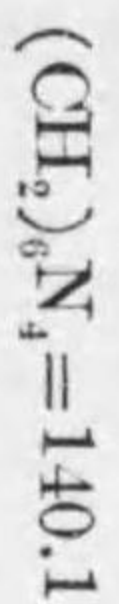
二 本品ハ四稜莖ヲ有シ直徑1~2mm・長サ約20cmナリ葉ハ對生シ線形又ハ狭鉞針形ニシテ柄ヲ缺キ邊緣ハ平滑ニシテ幅1~3mm・長サ2~4cmヲ有ス花ハ長柄ヲ有シ花冠ハ白色又ハ漸次褪消スル紫色ヲ有シ深ク五裂シ内側ノ基部ニ睫毛狀ノ蜜腺ヲ具有ス

三 本品ハ微弱ナル臭氣ヲ有シ味甚ク苦シ

四 本品ヲ灰化スルニ6%以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

Hexamethylenetetraminum

〇くキサメチレンテトラミン



一 ヘキサメチレンテトラミン」ハ無色ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ臭氣ナク味ハ初メ甘ク後微ニ苦シ一・五分ノ水ニ溶解シ弱アルカリ性ノ反應ヲ微シ約九分ノ「アルコール」ニ溶解シ「エーテル」ニ殆ト溶解セス熱スレハ熔融セスシテ昇華ス

二 本品ノ水溶液(1+9)ニ稀硫酸ヲ加ヘテ熱スレハ「ホルムアルデヒド」ノ臭氣ヲ放チ次テ過剰ノ「ナトロン」滴液ヲ加フレハ「アンモニア」ヲ發生ス

三 本品ノ水溶液(1+4)ハ昇汞溶液並タンニン酸溶液ニ由

テ白色ノ沈澱ヲ生ス又本品0.1gニ等分ノ「サリチル酸」和シ硫酸5ccヲ添加シ熱ヲ與フレハ猩紅色ヲ呈ス

四 本品ノ水溶液(1+19)ハ硫化ソーダ溶液三滴並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス又硝酸2ccヲ和シタル後硝酸銀溶液一二滴ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス其溶液ニ「ネスレル」試薬五滴ヲ加ヘテ煮沸スルニ變化スヘカラス

五 本品ヲ燃化スルニ0.1%以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

Homatropinum hydrobromicum

ブロム水素酸ホマトロピン



一 ブロム水素酸ホマトロピン」ハ白色無臭結晶性ノ粉末ニシテ水ニ容易ニ溶解シ「アルコール」ニ較々溶解シ難ク「クロホルム」ニ殆ト溶解セス約21%ニ於テ熔融ス

二 本品ノ水溶液(1+19)各1ccハ昇汞溶液並カリ滴液ニ由テ白色ノ沈澱・ヨード溶液ニ由テ褐色ノ沈澱又硝酸銀溶液ニ由テ淡黄色ノ沈澱ヲ生シ「カリ滴液」ニ由テ生シタル白色ノ沈澱ハ其過剰ニ溶解ス

三 本品0.01gヲ小磁皿ニ取り發煙硝酸五滴ヲ加ヘ重湯煎上ニ乾燥スルニ殆ト著色セサル残留物ヲ遺シ冷後之ニ「アルコール」性カリ滴液ヲ滴加スルニ赤黄色ニ變スルモ紫色ヲ呈

- スヘカラス
- 四 本品ノ水溶液 (1+19) ハ「リトマス紙ヲ變色スヘカラス又其水溶液 1cc ニ「タンニン酸溶液ヲ加フルニ沈澱ヲ生スヘカラス
- 五 本品 0.1g ヲ硫酸 2cc ニ溶解スルニ淡橙黄色ヲ呈スルニ止マルヘシ
- 六 本品 0.2g ヲ 100° ニ於テ乾燥スルニ殆ト其重量ヲ減失スヘカラス又之ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 七 最モ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.001g
一日ノ極量 0.003g

Hydrargyrum

水 銀

Hg = 200.61

- 一 水銀ハ銀白色ノ液狀金屬ニシテ比重 13.56 ナリ
- 二 本品ハ 99.6% 以上ノ純水銀ヲ含有ス
- 三 本品ノ表面ハ光澤ヲ有シ又之ヲ大氣ト共ニ振盪スヘカラス
- 四 本品ハ硝酸ニ全ク溶解スヘシ

- 五 本品ヲ硝子管中ニ熱スルニ全ク揮散スヘシ
- 六 本品ハ濕氣ヲ帶フヘカラス
- 七 本品 0.3g ヲ壘ニ取り硝酸 10cc ヲ加ヘ硝子漏斗ヲ以テ蓋ヒ重湯煎上ニ約十分間加熱シ水銀球ヲ認メサルニ至リ冷後約 20cc ノ水ヲ用ヒテ漏斗ヲ洗滌シ之ニ過マンガン酸カリ溶液 (1+19) ヲ加ヘテ紅色ヲ呈スルニ至リ硫酸鉄少許ヲ加ヘテ脱色セシメ鉄明礬溶液 5cc ヲ和シ十分定規ロダンアンモン液ヲ滴加シテ類赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スロト少クモ 20.8cc ナラサルヘカラス

Hydrargyrum bichloratum

○昇 汞

HgCl₂ = 271.5

- 一 昇汞ハ白色透映重キ放線狀ノ結晶塊片或ハ針狀結晶或ハ結晶性ノ粉末ニシテ十六分ノ水・三分ノ熱湯ニ溶解シテ酸性ノ反應ヲ徴シ三分ノ「アルコール放約十七分ノ「エーテル」ニ溶解ス熱スレハ初メ熔融シ次テ揮散ス
- 二 本品ノ水溶液ニ石灰水ヲ和スレハ類赤色ノ沈澱ヲ生シ硝酸銀溶液ヲ和スレハ稀硝酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品 0.5g ニ「ナトロン滴液 5cc」ヲ加ヘテ温ムルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス

- 四 本品ノ水溶液 (1+19) ニ食塩溶液 5cc ヲ加ヘタルモノハ青色リトマス紙ヲ赤變スヘカラス
- 五 本品ノ水溶液ヲ温メ硫化水素ヲ以テ飽和シ充分ニ沈降セシメ濾過シテ得タル液ハ之ヲ蒸發シ熱灼スルニ殘留物アルモ 0.3% ニ過クヘカラス又其沈澱ニ「アンモニア水ヲ和シテ振盪シ濾過シテ得タル液ハ稀塩酸ヲ以テ酸性トナスニ黄色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品ノ水溶液 (1+19) ハ塩化バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス
- 七 本品 0.2g ヲ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 八 最モ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.02g
一日ノ極量 0.06g

Hydrargyrum bifodatum

赤色ヨード汞

Hg₂I₂ = 454.5

- 一 赤色ヨード汞ハ猩紅色ノ粉末ニシテ熱スレハ黄色ニ變シ次テ熔融シ尙強熱ヲ與フレハ揮酸シテ黄色ノ結晶ヲ昇華シ冷ユレハ復タ赤色トナル水ニ殆ト溶解セス約二百五十分ノ

- 「アルコール並約四十分ノ熱アルコール」ニ又ヨードカリ溶液ニ容易ニ溶解ス
- 二 本品ニ「ナトロン滴液及少量ノ乳糖ヲ和シテ熱スレハ水銀ヲ析出ス又之ヲ二酸化マンガン」ト共ニ熱スレハ紫色ノ蒸氣ヲ發ス
- 三 本品ノ冷アルコール溶液ハ無色ニシテ青色リトマス紙ヲ赤變スヘカラス
- 四 本品一分ニ水二十分ヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ染色スルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ又硝酸銀溶液ニ由テ微蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 五 本品 0.2g ヲ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 六 光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ

一回極量 0.02g
一日極量 0.06g

Hydrargyrum chloratum Calomelas

○甘 汞

Hg₂Cl₂ = 472.1

- 一 甘汞ハ昇華製甘汞ヲ搗碎シ淘汰シテ得タル帶黄白色極メテ細緻ノ重キ粉末ニシテ百倍ノ顯微鏡下ニ檢スレハ明カニ

結晶性ヲ現ハシ光ニ觸ルレハ分解シ熱スレハ熔融セスシテ揮散ス水竝アルコールニ溶解セス

二 本品ニ「アンモニア水ヲ注ケハ黑色ニ變ス之ヲ濾過シテ得タル液ハ硝酸ヲ以テ過飽シタル後硝酸銀溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス

三 本品 1g ニ「ナトロン滴液 10cc」ヲ加ヘテ熱スルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス又本品 1g ニ稀アルコール 10cc」ヲ加ヘ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硫化ソーダ溶液ニ滴

竝硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス

四 本品 1g」ヲ塩酸 5cc」ト共ニ振盪スルニ暗色ヲ呈スヘカラス

五 本品 0.2g」ヲ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

六 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ
一回ノ極量(皮下注射) 0.1g

Hydrargyrum chloratum vapore paratum

蒸氣製甘汞



一 蒸氣製甘汞ハ甘汞蒸氣ヲ急劇ニ冷却シテ得タル白色ノ粉末ニシテ百倍ノ顯微鏡下ニ檢スレハ筒々分離セル小結晶ヲ

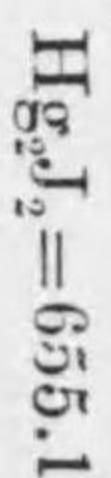
現ハス光ニ觸ルレハ分解シ熱スレハ熔融セスシテ揮散ス又強ク研磨セルモノハ類黄色ヲ呈シ水竝アルコールニ溶解セス

二 本品ノ實性反應・試験及貯藏法ハ甘汞ノ條ニ掲クル所ニ同シ

一回ノ極量(皮下注射) 0.1g

Hydrargyrum iodatum

黄色ヨード汞



一 黄色ヨード汞ハ黄色或ハ帶綠黄色無晶形ノ重キ粉末ニシテ「アルコール竝エーテル」ニ全ク・水ニ殆ト溶解セス

二 本品ニ過剩ノ「ヨードカリ溶液ヲ注キテ振盪スレハ水銀ヲ析出シテ灰色ニ變ス又本品ヲ二酸化マンガン及硫酸ト共ニ熱スレハ紫色ノ蒸氣ヲ發ス

三 本品一分ニ「アルコール二十分ヲ加ヘ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硫化ソーダ溶液ニ滴ニ由テ染色スルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ

四 本品 0.2g」ヲ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

五 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.02g
一日ノ極量 0.06g

Hydrargyrum oleicum

オレイン酸水銀 油酸汞

一 オレイン酸水銀ハ

昇汞 三十二分

ヲ取リ

熱蒸溜水 三百二十分

ニ溶解シ別ニ

藥用石鹼 六十四分

オレイン酸 三・六分

ヲ取リテ混和シタル後之ヲ

蒸溜水 三百五十二分

ニ溶解シ此兩液ヲ混和シ十分間煮沸シタル後靜置シテ「オレイン酸水銀ヲ沈降セシメ上澄液ヲ傾瀉シ熱蒸溜水ヲ以テ數回沈澱ヲ洗滌シ其洗液ニ硝酸銀溶液ヲ加フルニ復タ殆ト滴濁ヲ見サルニ至リ重湯煎上ニ乾燥シ製スヘシ

二 本品ハ軟膏様ノ稠度ヲ有スル黄色ノ物質ニシテ微ニ灰色ヲ帶ヒ僅微ノ石鹼臭ヲ有ス

三 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

Hydrargyrum oxycyanatum

オキシシアン水銀

一 オキシシアン水銀ハ白色或ハ類白色ノ粉末ニシテ十九分ノ水ニ徐々ニ溶解シテ「アルカリ性ノ反應ヲ徵ス

二 本品 15.38~16.14%」ノ「純酸化水銀($HgO = 216.6$)」及 83.86~84.62%」ノ「シアン水銀 [$Hg(CN)_2 = 252.6$]」ヲ含有ス

三 本品ノ水溶液ニ「ヨードカリ溶液ヲ滴加シテ黄色ヲ呈スルニ至リ之ニ「アンモニア水ヲ加フレハ暗黄色トナリ次テ赤褐色ノ沈澱ヲ生ス更ニ過剩ノ「ヨードカリ溶液ヲ加フレバ其沈澱溶解シテ無色ノ液トナル

四 本品ノ水溶液 (1+10) ニ硝酸 1cc」ヲ加ヘタルモノハ硝酸銀溶液ニ滴ニ由テ沈澱ヲ生スヘカラス

五 本品 1g」ヲ食塩 1g」ト共ニ溫湯 10cc」ニ溶解シ冷後メチルオレンジ溶液三滴ヲ加ヘ定規塩酸ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト 1.42~1.19cc」ナラサルヘカ

ラス又此赤色液ニ「ヨードカリ 4g」ヲ加ヘテ得タル淡黄色ノ液ニ定規塩酸ヲ滴加シテ復タ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト 0.64~0.70cc」ナラサルヘカラス

六 光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.01g
一日ノ極量 0.03g

Hydrargyrum oxydatum flavum

黄降汞 黄色酸化汞

HgO=216.6

一 黄降汞ハ

昇汞 二分

ヲ取り

温蒸溜水 四十分

ニ溶解シテ約 30°ニ冷却シタルモノヲ

ナトロン滴液 六分

蒸溜水 十分

ノ混液ニ攪拌シツツ徐々ニ注加シ約 30°ノ温ニ於テ屢々攪拌シツツ光ヲ遮リ約一時間放置シ茲ニ得タル沈澱ヲ約 30°ノ蒸溜水ヲ以テ洗滌シ其洗液ニ硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ過キサルニ至リ光ヲ遮リ約 30°ニ於テ乾燥シ製スヘシ

二 本品ハ黄色無晶形ノ重キ粉末ニシテ水ニ殆ト溶解セス稀硝酸ニ澄明或ハ殆ト澄明ニ溶解シ又稀塩酸ニ澄明或ハ微ニ濁濁シテ溶解ス

三 本品ハ之ヲ硝子管中ニ熱スレハ水銀ヲ析出シテ揮散ス

四 本品 0.5gヲ蓆酸溶液 (1+9) 10ccニ和シ屢々振盪シツツ重湯煎中ニ二時間温ムルニ白色結晶性ニ變セサルヘカラス又本品ヲ水ニ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ變化スヘカラス

五 本品ノ硝酸性水溶液 (1+49)ハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス

六 本品 0.2gヲ熱灼スルニ秤定シ得ヘテ固性物ヲ残留スヘカラス

七 光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ

Hydrargyrum oxydatum rubrum

赤降汞 赤色酸化汞

HgO=216.6

一 赤降汞ハ類黄赤色細晶性ノ粉末ニシテ水ニ殆ト溶解セス稀硝酸ニ澄明或ハ殆ト澄明ニ溶解シ又稀塩酸ニ澄明或ハ微ニ濁濁シテ溶解ス

二 本品ハ之ヲ硝子管中ニ熱スレハ水銀ヲ析出シテ揮散ス

三 本品 0.5gヲ蓆酸溶液 (1+9) 10ccニ和シ屢々振盪シツツ重湯煎中ニ温ムルニ二時間ヲ經ルモ變化スヘカラス又本品 1gニ水 2ccヲ和シテ振盪シ硫酸 2ccヲ加ヘ冷後之ニ硫

酸鉄溶液 1ccヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス

四 本品 0.5gヲ稀塩酸 10ccニ溶解スルニ濁濁スルコトアルモ僅微ニ止マルヘシ

五 本品ノ硝酸性水溶液 (1+49)ハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス

六 本品 0.2gヲ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス

七 光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ

Hydrargyrum praecipitatum album

白降汞

一 白降汞ハ

昇汞 二分

ヲ取り

温蒸溜水 四十分

ニ溶解シ冷後濾過シテ得タル液ニ攪拌シツツ「アンモニア水約三分ヲ徐々ニ注加シテ稍々過剰トナルニ至リ茲ニ生シタル沈澱ヲ濾器上ニ集メ液分ヲ充分滴去セシメタル後

蒸溜水 十八分

ヲ以テ洗滌シ濾紙間ニ挿ミ 30°ヲ超エサル温ニ於テ光ヲ

遮リ乾燥シ製スヘシ

二 本品ハ白色ノ塊片或ハ白色無晶形ノ粉末ニシテ水並アルコールニ殆ト溶解セス稀塩酸並温稀硝酸ニ溶解シ又チオ硫酸ソーダ溶液ニ溶解ス

三 本品ヲ「ナトロン滴液ニ和シテ温ムレハ「アンモニア」ヲ發生シテ黄色ニ變ス

四 本品ノ粉末 0.2gニ醋酸 10ccヲ注キ屢々振盪シツツ約十分間放置シタル後徐々ニ約 30°ニ温ムルニ澄明ノ溶液ヲ生セサルヘカラス

五 本品 0.2gヲ熱灼スルニ熔融セスシテ揮散シ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス

六 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

Hydrargyrum salicylicum

サリチル酸水銀

一 サリチル酸水銀ハ白色或ハ殆ト白色無晶形ノ粉末ニシテ臭味ナク水並アルコールニ殆ト溶解セス「ナトロン滴液・炭酸ソーダ溶液又温食塩溶液ニ溶液ス

二 本品ハ小クモ 92%ノ純サリチル酸水銀 (HgC₇H₅O₂ = 336.6)ヲ含有ス

三 本品 0.1gヲ水 5ccト共ニ振盪シ之ニ塩化第二鉄溶液ヲ

加フレハ紫色ヲ呈ス又本品 0.1g ニ「ヨード」ノ小片ヲ加ヘテ試験管中ニ熱スレハ管ノ内壁ニ赤色ノ結晶ヲ昇華ス

四 本品 0.2g ハ「ナトロン」濾液 2cc ニ殆ト無色澄明ニ溶解セサルヘカラス

Hydrargyrum sulfuratum rubrum
朱 赤色硫化汞
HgS = 232.7

五 本品 0.5g ニ「アルコール」20ccヲ加ヘ善ク振盪シ濾過シテ得タル澄明液 10cc ニ「フェノールフタレイン」溶液二滴ヲ和シ十分定規カリ液ヲ以テ中和スルニハ該液ヲ費スコト 0.2cc ニ過クヘカラス

六 本品 0.3g ヲ定規カリ液 15cc ニ溶解シ之ニ醋酸 5cc ヲ和シ次ニ十分定規ヨード液 25cc ヲ加ヘテ密栓シ時々振盪シツツ常温ニ於テ三時間放置シタルモノヲ脱色スルニハ十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ費スコト 8cc ニ過クヘカラス (標示薬澱粉溶液)

七 本品 0.2g ヲ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス

八 最モ注意シテ貯フヘシ
一回ノ極量 0.02g
一日ノ極量 0.06g

一 朱ハ猩紅色細微ノ重キ粉末ニシテ臭氣ナク氣中ニ於テ變化セス熱スレハ暗色トナリ終ニ全ク揮散ス水・アルコール・稀塩酸又稀硝酸ニ溶解セス熱水ニ溶解ス

二 本品ヲ王水ニ溶解シ之ニ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ白色ノ沈澱又塩化第一錫溶液ニ由テ灰色ノ沈澱ヲ生ス

三 本品 0.5g ニ「ナトロン」濾液及水各 5cc ノ混液ヲ和シ温ヲ與ヘ振盪シ濾過シテ得タル無色ノ液ハ之ニ少量ノ醋酸鉛溶液ヲ和スルモ又塩酸ヲ以テ過飽スルモ有色ノ濁濁ヲ生スヘカラス

四 本品 0.5g ニ稀硝酸 5cc ヲ和シ一二分間温浸スルニ其色ヲ變スヘカラス之ヲ濾過シテ得タル無色ノ液ニ「アンモニア」水ヲ加ヘテ過飽シ更ニ醋酸ヲ以テ酸性トナシタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス

五 本品 0.2g ヲ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス

Infusa
浸劑

一 浸劑ハ通例細切セル生薬ニ熱湯ヲ注キ屢々攪拌シツツ五分間重湯煎上ニ熱シ冷後壓漉シテ得タル浸出液ナリ

二 處方中生薬ノ分量ヲ記載セサルトキハ生薬一分ニ付キ十分ノ漉液ヲ得ヘキ液量ヲ取ルヘシ

三 劇薬ニ屬スル生薬ニ在テハ醫師必ス其分量ヲ記スヘシ

Jodoformium

ヨードホルム
CHI₃ = 393.8

一 「ヨードホルム」ハ黄色光澤アル細小ノ葉狀結晶或ハ結晶性粉末ニシテ特異ノ竄透性臭氣ヲ有シ之ニ觸ルレハ脂肪様ノ感覺アリ約 130°ニ於テ熔融シ水ニ殆ト溶解セス約八十分ノ「アルコール」十分ノ熱アルコイル又約八分ノ「エーテル」ニ溶解ス

二 本品ハ之ヲ硝子管中ニ熱スレハ紫色ノ蒸氣ヲ發生ス

三 本品一分ヲ水十分ニ和シテ一分間振盪シ濾過シテ得タル液ハ無色ニシテ中性ノ反應ヲ徴シ硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ過キス又硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘ

カラス

四 本品 1g ハ二硫化炭素 10cc ニ澄明ニ溶解セサルヘカラス

五 本品ヲ燃化スルニ 0.1% 以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス

六 注意シテ貯フヘシ
一回ノ極量 0.2g
一日ノ極量 0.6g

Jodum

I
J = 126.93

一 「ヨード」ハ灰黑色菱角形板狀或ハ葉狀ノ乾燥結晶ニシテ金屬様ノ光澤ヲ有シ特異ノ臭氣ヲ放チ約五千分ノ水ニ溶解シ十分ノアルコール「ニ褐色ヲ呈シテ溶解ス」「エーテル」並ヨードカリ溶液ニ褐色ヲ呈シテ多量ニ溶解シ又クロロホルム並ニ二硫化炭素ニ紫色ヲ呈シテ溶解ス

二 本品ハ 99% 以上ノ純ヨード」ヲ含有ス

三 本品ヲ硝子管中ニ熱スレハ紫色ノ蒸氣ヲ發ス又本品ノ水溶液ハ澱粉溶液ヲ藍色ニ染ム

四 本品ヲ熱スルニ全ク揮散スヘシ又本品ノ粗末 0.5g ニ水 20cc ヲ加ヘ振盪シ濾過シテ得タル液ハ其一部分ニ亞硫酸

溶液ヲ和シテ脱色セシメタル後硫酸鉄一小粒・塩化第二鉄溶液一滴及ナトロン滴液10ccヲ和シ微温ヲ與ヘ冷後塩酸ヲ以テ過飽スルニ藍色ヲ呈スヘカラス又他ノ一部分ニ過剩ノ「アンモニア水ヲ和シタル後硝酸銀溶液ノ過剩ヲ加ヘ充分ニ沈降セシメ濾過シテ得タル液ニ硝酸ヲ加ヘテ過飽スルニ濁濁スルモ沈歪ヲ生スヘカラス又他ノ一部分ニ硝酸バリウム溶液ヲ注クニ變化スヘカラス

五 本品 0.2g 及ヨードカリ 1gヲ水 20ccニ溶解シタルモノヲ脱色スルニハ十分定規チオ硫酸ソーダ液少クモ 15.0ccヲ費ササルヘカラス(標示藥澱粉溶液)

六 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

Kali causticum

苛性カリ

一 苛性カリハ白色乾燥ノ塊片或ハ小挺子ニシテ破碎面ハ結晶性ヲ現ハシ強キ腐蝕性ヲ有シ氣中ニ於テ炭酸ガスヲ吸收シ濕氣中ニ於テ潮解シ等分ノ水並アルコールニ容易ニ溶解ス

二 本品ハ 85% 以上ノ純水酸化カリウム (KOH=56.1)ヲ含有ス

三 本品ノ水溶液ハ酒石酸溶液ノ過剩ヲ和スレハ暫時ノ後白

色結晶性ノ沈歪ヲ生ス

四 本品 1gヲ水 20ccニ溶解シ之ニ「アルコール 10ccヲ混和スルニ一時間ノ後極メテ僅微ノ沈歪ヲ析出スルニ止マルヘシ又本品 1gヲ水 10ccニ溶解シ之ニ石灰水 15ccヲ注キ煮沸シタル後濾過シテ得タル液ヲ過剩ノ硝酸中ニ注クニ泡沸スヘカラス又本品ノ稀硫酸性溶液 (1+19) 2ccニ硫酸 20ccヲ和シ冷後硫酸鉄溶液 1ccヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ヲ生スヘカラス

五 本品ノ水溶液 (1+19)ニ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス又硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス

六 本品 5.61gヲ水ニ溶解シ 100ccトナシタル液 10ccヲ中和スルニハ定規塩酸少クモ 8.5ccヲ費ササルヘカラス(標示藥メチキレンジ溶液)

七 壘中ニ容レ密栓シ注意シテ貯フヘシ

Kalium bicarbonicum

重炭酸カリ



一 重炭酸カリハ無色透映ノ乾燥結晶ニシテ四分ノ水ニ徐々ニ溶解シ弱アルカリ性ノ反應ヲ徴シ純アルコールニ溶

解セス

二 本品ハ 99.5% 以上ノ純炭酸カリヲ含有ス

三 本品ノ水溶液ニ酒石酸溶液ノ過剩ヲ和スレハ泡沸シ暫時ノ後白色結晶性ノ沈歪ヲ生ス

四 本品ノ水溶液 (1+19)ハ醋酸ヲ以テ酸性トナシタル後硫化ソーダ溶液三滴並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス

又稀硝酸ヲ以テ過飽シタル後硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス又其水溶液ニ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黃血塩溶液 0.5ccニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス

五 本品ノ硫酸上ニ乾燥セルモノヲ 2gヲ水ニ溶解シ 50ccナシタル液 25ccヲ中和スルニハ定規塩酸ヲ費スコト 10ccニ過クヘカラス(標示藥メチキレンジ溶液)

六 本品ヲ熱灼スルニ 66.15% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘシ其際黑色ヲ呈スヘカラス

Kalium bitartaricum Tartarus depuratus

○重酒石酸カリ 精製酒石



一 重酒石酸カリハ白色ノ結晶或ハ結晶性粉末ニシテ二百

二十分ノ水並二十分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徴ス「アルコール」ニ溶解セス

二 本品ハ 97.8% 以上ノ純重酒石酸カリヲ含有ス

三 本品ヲ熱スレバ炭化シ砂糖ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ放チ終ニ「アルカリ性」物質ヲ殘留ス之ニ水ヲ和シ濾過シテ得タル液ハ酒石酸ノ過剩ニ由テ「ナトロン滴液」ニ容易ニ溶解スヘキ白色結晶性ノ沈歪ヲ生ス

四 本品 1gハ炭酸カリ溶液並ナトロン滴液各 10ccニ無色澄明ニ溶解セサルヘカラス

五 本品ノ粉末 0.5gニ硝酸 1cc及水 10ccヲ加ヘテ溶解シタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス又硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス

六 本品 1gヲ「アンモニア水 3cc及水 15cc」ニ溶解シタルモノハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化セス之ニ醋酸ヲ注加シテ酸性トナスモ亦然リ

七 本品 1gニ醋酸 5ccヲ加ヘ時々振盪シ三十分間ノ後水 25ccヲ注キ靜置シテ其上澄液ヲ取り之ニ醋酸アンモン溶液八滴ヲ和スルニ一分以内ニ變化スヘカラス

八 本品 1gハ「ナトロン滴液 5ccト共ニ温ムルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス

九 本品ノ 100。於テ乾燥セル粉末 1gヲ熱湯 25ccニ溶解

シタルモノヲ中和スルニハ少クモ 3.2g ノ定規カリ液ヲ費ササルヘカラス(標示薬フェノールフタレイン溶液)

Kalium bromatum

〇ブロムカリ

KBr=119.0

- 一 ブロムカリハ光澤アル無色或ハ白色骰子形ノ結晶或ハ結晶性或ハ結晶性ノ粉末ニシテ乾燥氣中ニ於テ變化セス二分ノ水並約二百分ノ「アルコール」ニ溶解ス
- 二 本品ヲ 100°ニ於テ乾燥セルモノハ 98.5% 以上ノ純ブロムカリヲ含有ス
- 三 本品ノ水溶液(1+19)ニ少量ノ塩素水ヲ和シタル後エーテル或ハ「クロロホルム」ヲ加ヘテ振盪スレハ之ヲ赤褐色ニ染ム又酒石酸溶液ノ過剰ヲ和スレハ暫時ノ後白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品ヲ無色焰中ニ熱スルニ紫色ヲ現ハスヘシ若シ黄色ヲ呈スルコトアルモ臙時ニシテ消失セサルヘカラス
- 五 本品ノ水溶液(1+9)ハ稀硫酸ニ由テ著色セス又此混液ニ「クロロホルム」ヲ加ヘ振盪スルニ之ヲ黄色ニ染ムヘカラス
- 六 本品ノ水溶液(1+19) 10cc ハ塩化第二鉄溶液三滴及澱

- 粉溶液少量ヲ加フルニ十分以内ニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 七 本品粉末ニ濕潤セル赤色リトマス紙ヲ直チニ青色ニ變スヘカラス
- 八 本品ノ水溶液(1+19)ハ硝酸バリウム溶液並稀硫酸ニ由テ又醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ變化セス又此水溶液ニ塩酸一二滴ヲ加ヘタルモノハ黄血塩溶液 0.5cc ニ由テ藍色ヲ呈スヘカラス
- 九 本品ノ 100°ニ於テ乾燥セルモノ 3.2g ヲ水ニ溶解シ 100cc トナシタル液 10cc ニ「クロム酸カリ溶液」一二滴ヲ加ヘ十分定規硝酸銀液ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニハ該液ヲ費スコト 25.4cc ニ過クヘカラス

Kalium carbonicum

炭酸カリ

- 一 炭酸カリハ白色顆粒狀ノ乾燥粉末ニシテ好テ濕氣ヲ引キ等分ノ水ニ溶解シ強アルカリ性ノ反應ヲ徴シ純アルコールニ溶解セス
- 二 本品ハ 94.6% 以上ノ純炭酸カリ (K₂CO₃=138.2) ヲ含有ス
- 三 本品ノ水溶液ニ酒石酸溶液ノ過剰ヲ和スレハ泡沸シテ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス

四 本品ヲ無色焰中ニ熱スルニ永ク黄色ヲ現ハスヘカラス

五 本品ノ水溶液(1+19) 1cc ヲ十分定規硝酸銀液 10cc 中ニ注クニ類黄白色ノ沈澱ヲ生スヘス此沈澱ハ微温ヲ與フルモ暗色ヲ呈スヘカラス又本品ノ水溶液(1+19)ニ少量ノ硫酸鉄溶液及塩化第二鉄溶液ヲ和シ微温ヲ與ヘテ後塩酸ヲ以テ過飽スルニ藍色ヲ呈ヘカラス又本品ノ稀硫酸溶液(1+19) 2cc ニ硫酸 2cc ヲ混和シ冷後之ニ硫酸鉄溶液 1cc ヲ加ヘ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス

六 本品ノ水溶液(1+19)ハ醋酸ヲ以テ酸性トナシタル後硫化ソーダ溶液三滴並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス又稀硝酸ヲ以テ過飽シタル後硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過キス又モリブデン酸アンモン溶液ニ由テ變化スヘカラス

七 本品ノ水溶液(1+19)ニ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黄血塩溶液 0.5cc ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス

八 本品ノ水溶液(1+19) 10cc ハ稀硫酸ヲ加ヘテ過飽シタル後過マンガン酸カリ溶液五滴以上ヲ脱色スヘカラス

九 本品 1g ヲ水 50cc ニ溶解シタルモノヲ中和スルニハ少クモ 13.7cc ノ定規塩酸ヲ費ササルヘカラス(標示薬メチールオレンヂ溶液)

一〇 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Kalium chloratum

塩化カリ

KCl=74.6

- 一 塩化カリハ白色ノ骰子形結晶或ハ結晶性粉末ニシテ苦鹹味ヲ有シ氣中ニ於テ變化セス三分ノ水ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴シ純アルコールニ溶解セス
- 二 本品ノ水溶液ニ酒石酸溶液ノ過剰ヲ和スレハ暫時ノ後白色結晶性ノ沈澱ヲ生シ又硝酸銀溶液ヲ和スレハ「アンモン」水ニ溶解スヘキ白色乾酪樣ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品ヲ無色焰中ニ熱スルニ永ク黄色ヲ現ハスヘカラス
- 四 本品ノ水溶液(1+19)ハ醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴・硝酸バリウム溶液又炭酸ソーダ溶液ニ由テ變化セス又塩酸二滴ヲ加ヘタルモノハ黄血塩溶液 0.5cc ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス

Kalium chloricum

〇塩素酸カリ

KClO₃=122.6

一 塩素酸カリハ光澤アル無色ノ葉狀或ハ小板狀結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ氣中ニ於テ變化セス十六分ノ水並

- 二分ノ熱湯ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徵ス又百三十分ノ「アルコール」ニ溶解ス
- 本品ノ水溶液ニ塩酸ヲ和シテ熱スレハ帶綠黄色ノ「ガス」ヲ發生ス又酒石酸溶液ノ過剰ヲ和スレハ暫時ノ後白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス
- 本品ノ水溶液(1+19)ニ硫化ソーダ溶液三滴・蓆酸アンモン溶液・硝酸バリウム溶液又硝酸銀溶液ヲ和スルニ變化セス又塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黃血塩溶液0.5ccニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 本品1gニ「ナトロン」滴液5cc・亞鉛及鉄粉各0.5gヲ加ヘテ熱スルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス
- 注意シテ貯フヘシ

Kalium iodatum

○ヨードカリ

KJ = 166.0

- 一 ヨードカリ「ハ乾燥セル白色骰子形ノ結晶ニシテ〇・七五分ノ水竝十二分ノ「アルコール」ニ溶解ス
- 本品ノ100%ニ於テ乾燥セルモノハ99.7%以上ノ純ヨードカリ」ヲ含有ス
- 本品ノ水溶液ニ少量ノ塩素水ヲ和シタル後クロロホルム

- ム」ヲ加ヘテ振盪スレハ之ヲ紫色ニ染ム又酒石酸溶液ノ過剰ヲ和スレハ漸次ニ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス
- 本品ヲ無色焰中ニ熱スルニ之ヲ紫色ニ染ムヘシ若シ黄色ヲ呈スルコトアルモ曝露ニ消失セサルヘカラス
- 本品ノ粉末ハ濕潤セル赤色リトマス紙ヲ直チニ青色ニ變化スヘカラス
- 本品ノ水溶液(1+19)ハ硝酸バリウム溶液並醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ變化セス又硫酸鉄一小粒・塩化第二液溶液一滴及ナトロン滴液2ccヲ和シ微温ヲ與ヘ冷後塩酸ヲ以テ過飽スルニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 本品一分ヲ新タニ煮沸シ冷却シタル水十九分ニ溶解シタルモノニ澱粉溶液及稀硫酸ヲ和スルニ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 本品ノ水溶液(1+19)ニ塩酸二三滴ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黃血塩溶液0.5ccニ由テ藍色ヲ呈スヘカラス
- 本品1gニ「ナトロン」滴液5cc・亞鉛及粉各0.5gヲ加ヘテ熱スルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス
- 本品ノ10%ニ於テ乾燥セルモノ0.2gヲ「アンモニア」水8ccニ溶解シ振盪シツツ之ニ十分定規硝酸銀液13ccヲ加ヘテ約一分間強ク振盪シタル後濾過シ其澄明ナル濾液ニ硝酸ヲ加ヘテ過飽スルニ暗色ヲ呈スヘカラス尙五分間ヲ

經タル後生スル溷濁ハ百分定規塩酸0.6cc・水8cc及硝酸

1ccノ混液ニ十分定規硝酸銀液1ccヲ加ヘテ同一時間ヲ經タル後生スル溷濁ヨリ強カルヘカラス

一 塚中ニ容レ密栓シ注意シテ貯フヘシ

Kalium Natrium tartaricum Sol Seignetti

酒石酸カリソーダ セニハット塩

$C_4H_4(OH)_2(CO_2K)(CO_2Na) = 282.2$

- 一 酒石酸カリソーダ「ハ無色透映ノ柱狀結晶或ハ白色ノ粉末ニシテ緩和ノ鹹味ヲ有シ一・四分ノ水ニ溶解シ「フェノール」フタレイン溶液ニ對シテ中性ノ反應ヲ徵シ「アルコール」ニ殆ト溶解セス
- 本品ハ99%以上ノ純酒石酸カリソーダ」ヲ含有ス
- 本品ヲ熱灼スレハ熔融シ砂糖ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ放テ炭化ス此殘留物ハ「アルカリ性」ノ反應ヲ徵シ無色ノ火焰ヲ黃色ニ染ム又本品ノ水溶液ニ醋酸ヲ和スレハ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス
- 本品ノ水溶液(1+9)10ccニ醋酸5ccヲ加ヘテ振盪シ沈澱ノ沈定スルヲ俟テ其澄明液ヲ取り之ニ等分ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ蓆酸アンモン溶液八滴ニ由テ一分以内ニ變化スヘカラス

酒石酸カリソーダ・硝石

- 五 本品ノ水溶液(1+19)ハ醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ變化スヘカラス又硝酸1ccヲ和シタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス又硝酸銀溶液ヲ加フルモノ蛋白質濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 本品1gニ「ナトロン」滴液5ccヲ和シテ温ムルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス
- 本品1.41gヲ熱灼シテ全ク炭化セシメ其殘留物ニ水ヲ和シテ煮沸シ濾過シテ得タル液ハ之ヲ中和スルニ定規塩酸少クモ9.3ccヲ費ササルヘカラス(標示藥メチルオレンジ溶液)
- 塚中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Kalium nitricum

硝石 硝酸カリ

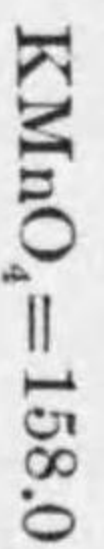
$KNO_3 = 101.1$

- 一 硝石ハ無色透映稜柱狀結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ氣中ニ於テ變化セス味ハ清涼ニシテ稍々苦シ四分ノ水竝〇・五分ノ熱湯ニ溶解シ「アルコール」ニ殆ト溶解セス
- 本品ノ水溶液ニ硫酸鉄溶液ヲ和シタル後硫酸ヲ加フレハ黑褐色ヲ呈ス又酒石酸液ノ過剰ヲ和スレハ暫時ノ後白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス

- 三 本品ヲ無色焰中ニ熱スルニ紫色ヲ呈シ黄色ヲ現ハスコトアルモ瞬時ニ止マルヘシ
- 四 本品ノ水溶液(1+19)ハ中性ノ反應ヲ微シ硝酸銀溶液・硝酸バリウム溶液又醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ又アンモニア水ヲ和シタル後燐酸ソーダ溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 五 本品ノ水溶液(1+19)ハ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後黄血塩溶液 0.5g ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品 0.1g ヲ硫酸 1cc ニ溶解スルニ染色スヘカラス

Kalium permanganicum

過マンガン酸カリ



- 一 過マンガン酸カリハ紫色乾燥稜柱狀結晶ニシテ金屬様ノ光澤ヲ有シ十六分ノ水竝三分ノ熱湯ニ紫紅色ヲ呈シテ溶解ス燃焼シ易キ物質ニ研和スレハ發火シ爆發ス
- 二 本品ノ水溶液ハ亞酸化鉄塩・亞硫酸塩・蓑酸・アルコール其他還元藥ニ由リ脱色シテ褐色ノ沈澱ヲ析出ス
- 三 本品 0.5g ニ「アルコール 2cc 及水 30cc」ヲ加ヘ煮沸シ濾過シテ得タル液ハ無色ニシテ硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過キス又硝酸バリウム

- 溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス
- 四 本品 0.5g ヲ熱湯 5cc ニ溶解シ之ニ蓑酸溶液ヲ徐々ニ加ヘテ脱色スルニ至リ濾過シ其澄明ノ濾液 2cc ニ硫酸 2cc ヲ和シ冷後之ニ硫酸鉄溶液 1cc ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス
- 五 密閉シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Kalium sulfoguaiajolicum

グアヤコールスルホン酸カリ



- 一 グアヤコールスルホン酸カリハ無色稜柱狀或ハ板狀ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ臭氣ナク微ニ苦味ヲ有シ水ニ容易ニ溶解シ弱アルカリ性ノ反應ヲ微シ「アルコール」ニ殆ト溶解セス
- 二 本品ノ水溶液ハ過剰ノ酒石酸溶液ニ由テ暫時ノ後白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス又塩化第二鉄溶液ニ由テ紫色ヲ呈シ之ニ「アンモニア水ヲ和スレハ褐色」シテ褐色ノ沈澱ヲ析出ス
- 三 本品ノ水溶液(1+9) 10cc ニ過マンガン酸カリ末 0.1g ヲ和シ温ヲ與ヘ「ガス」ノ發生スルニ至リ濾過シテ得タル液ノ一半ニ硝酸バリウム溶液ヲ和スレハ白色ノ沈澱ヲ生ス又他ノ一半ニ「アンモニア水ヲ加ヘタル後塩化カルシウム

溶液ヲ和スレハ濁濁ス

- 四 本品 1g ヲ水 20cc ニ溶解シタルモノハ之ヲ中和スルニ十分定規塩酸 3cc ヲ費スニ過クヘカラス(標示藥メチルオレンジ溶液)
- 五 本品ノ水溶液(1+19)ハ稀硫酸・硫化ソーダ溶液三滴又硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 六 本品 0.1g ハ硫酸 1cc ニ染色セスシテ溶解スヘシ
- 七 本品ヲ 100°ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト 2%ニ過クヘカラス
- 八 本品ヲ灰化スルニ約 35%ノ固性物ヲ殘留スヘシ

Kalium sulfuratum

硫化カリ 硫肝

硫化カリ

昇華硫黃

- 粗製炭酸カリ(90%以上ノモノ) 二分
- ヲ取り混和シ潤大ナル坩堝中ニ熱シ時々攪拌シ終ニ熔塊ノ洶沸熄ムノ後其一小部分ヲ水ニ投スルニ善ク溶解スルニ至リ板上ニ傾瀉シ冷後破碎シテ小塊片トナシ製スヘシ
- 二 本品ハ帶褐黄色ノ塊片ニシテ漸次帶綠黄色ニ變シ微ニ硫

- 化水素ノ臭氣ヲ放チ濕潤氣中ニ於テ潮解シ水約二分ニ溶解シテ微ニ濁濁セル黄綠色ノ溶液トナリ「アルカリ性」ノ反應ヲ徴ス
- 三 本品ノ水溶液(1+19)ヲ醋酸ヲ以テ過飽シ熱ヲ與フレハ夥シク硫化水素ヲ發生シ硫黃ヲ析出ス之ヲ濾過シテ得タル液ニ酒石酸溶液ヲ和スレハ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 5g ヲ水 50cc ニ溶解シ之ニ硫酸銅 4.5g ヲ水 50cc ニ溶解シタルモノヲ和シ暫時温處ニ放置シ濾過シテ得タル液ニ硫化ソーダ溶液ヲ加フルニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 五 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Kalium sulfuricum

硫酸カリ



- 一 硫酸カリハ無色堅硬ノ結晶或ハ結晶塊片ニシテ味苦鹹ナリ十分ノ水竝四分ノ熱湯ニ溶液シ「アルコール」ニ溶解セス
- 二 本品ノ水溶液ハ酒石酸溶液ニ由テ暫時ノ後白色結晶性ノ沈澱又硝酸バリウム溶液ニ由テ稀酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品ヲ無色焰中ニ熱スルニ黄色ヲ現ハスコトアルモ瞬時

ニ止マルヘシ

四 本品ノ水溶液(1+19)ハ中性ニシテ醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ又アンモニア水ヲ和シタル後燐酸ソーダ溶液ニ由テ變化セス又其水溶液ハ硝酸銀溶液ヲ加フルニ變化スヘカラス

五 本品ノ水溶液(1+19)ニ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黃血塩溶液0.5ccニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス又其2ccニ硫酸2ccヲ和シ冷後之ニ硫酸鉄溶液1ccヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス

Potassium tartaricum

酒石酸カリ



一 酒石酸カリハ無色透映ノ結晶或ハ結晶性粉末ニシテ氣中ニ於テ變化セス〇・七分ノ水ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徵シアルコールニ殆ト溶解セス

二 本品ハ98%以上ノ純酒石酸カリヲ含有ス

三 本品ヲ熱灼スレハ炭化シテ砂糖ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ放チ終ニ「アルカリ性ノ物質ヲ殘留ス此殘留物ハ無色ノ火焰ヲ紫色ニ染ム又本品ノ水溶液ハ醋酸ニ由テ白色結晶性ノ沈澱

ヲ生ス

四 本品ノ水溶液(1+9)10ccニ醋酸5ccヲ加ヘテ振盪シ沈澱ノ沈定スルヲ俟テ其澄明液ヲ取り之ニ等分ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ萘酸アンモン溶液八滴ニ由テ一分以内ニ變化スヘカラス

五 本品ノ水溶液(1+19)ハ醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ變化スヘカラス又硝酸ヲ和シ茲ニ析出セル沈澱ヲ濾過シテ得タル液ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス又硝酸銀溶液ニ由テ蛋白質濁ヲ起スニ過クヘカラス又其水溶液ニ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黃血塩溶液0.5ccニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス

六 本品1gニ「ナトロン」滴液5ccヲ和シテ温ムルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス

七 本品2.35gヲ熱灼シテ全ク炭化セシメ其殘留物ニ水ヲ和シテ煮沸シ濾過シテ得タル液ヲ中和スルニハ定規塩酸少クモ19.600ヲ費ササルヘカラス(標示藥メチルオレンジ溶液)

Kamala

カマラ

一 カメラハ *Nalotus philippinensis* *Mutler* *Argyriensis*ノ

果實ノ上皮ニ發生セル腺及毛茸ヲ採集セルモノナリ

二 本品ハ褐色ノ粉末ニシテ臭味ナク之ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ腺體ハ直徑40~100 μ ニシテ不整形ヲナシ中ニ放射線狀ニ集簇セル短棒形ノ細胞約六十箇ヲ包藏シ其各細胞ノ皮壁間竝細胞ト之ヲ圍繞セル表皮膜間ニ赤色ノ分泌物ヲ含有ス毛茸ハ星狀ニ列置シ無色厚壁性ナリ

三 本品ハ本植物ノ果實ノ組織ヲ夾雜スルモ痕跡ニ止マルヘシ

四 本品ヲ灰化スルニ90%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカス

Lactiphenetidinum

ラクチルフェネチジン



[1.4] = 209.1

一 ラクチルフェネチジンハ無色無臭ノ結晶ニシテ微ニ苦味ヲ有シ約五百分ノ水竝五十分ノ熱湯ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徵シ又十分ノ「アルコール」ニ溶解ス熔融點約118°ナリ

二 本品0.1gニ塩酸1ccヲ和シテ一分間煮沸シ水10ccヲ以テ稀釋シ冷後濾過シテ得タル溶液ニ「クロム酸溶液」三滴ヲ加フレ初メハ紫色後暗赤色ヲ呈ス

ラクチルフェネチジン・癒瘡木

三 本品0.5gヲ水5ccト共ニ約一分間振盪シ濾液ニ濾過シ10~15ccノ「プロム」水ヲ注加スルニ一分以内ニ濁濁ヲ生セス暫時放置スルニ白色結晶性ノ沈澱ヲ析出スヘシ

四 本品1gニ水20ccヲ和シ煮沸シ濾過シテ得タル液ハ硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス

五 本品0.1gハ硫酸1ccニ染色セシテ溶解スヘシ

六 本品0.2gヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

七 注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.7g
一日ノ極量 2.0g

Lignum Guajaci

癒瘡木 グアヤク木

一 癒瘡木ハ *Guajacum officinale* *Linne* 又ハ *Guajacum sanctum* *Linne*ノ木心ナリ

二 本品ノ外面ハ褐色或ハ類綠色内部ハ類褐色ヲ呈シ其質堅硬ニシテ重ク水中ニ沈下ス

三 本品ノ横斷面ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ髓線ヲ現ハス其髓線ハ廣サ一細胞列ニシテ高サ三乃至六多クハ四細胞層ヨリ成

リ髓線間ノ組織中ニハ處々ニ褐色ノ樹脂ヲ含蓄スル脈管ヲ
現ハシ其脈管ハ殆ト常ニ單獨ニ散在シ甚タ太ク概シテ兩髓
線間ノ全積ヲ占ク又此組織中ニ存スル木部ノ柔細胞ハ一乃
至二列ヲナシ不整形觸線列ニ排置シ其胞中ニハ蓚酸塩結晶
ヲ包有セルモノアリ自餘ノ木部組織ハ主トシテ著シク厚化
セル厚腺纖維ヨリ成ル

- 四 本品ハ氣味芳香性ニシテ少シク苛辣ナリ
- 五 本品ノ細末 0.5g ニ「アルコール 10cc」ヲ加ヘ振盪シテ濾過シテ得タル液ニ塩化第二鉄溶液一滴ヲ和スレハ暫時ニシテ褪消スル深藍色ヲ呈ス

Lignum Picrasmae

苦木 カシア木

- 一 苦木ハ *Picrasma alianthoides Planchon* (ニガキ)ノ幹及枝ノ木部ナリ
- 二 本品ハ黄白色ノ切片又ハ屑片ヲナシ其質緻密ナリ
- 三 本品ノ横断面ハ顯著ナル年輪ヲ現ハシ肉眼ヲ以テ細キ淡明ナル髓線ト稍々不整ノ同心性圈線ヲ認ム
- 四 本品ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ髓線ハ廣サ一乃至五細胞列高サ五乃至數十細胞層ヨリ成リ春木中ノ脈管ハ口径 150 μ ニ至リ單獨或ハ數箇連接シテ木細胞組織中ニ存シ秋木中ノ脈

管ハ其口径春木中ノモノニ比シ五分ノ一ニ過キスシテ狭キ
木細胞帶中ニ嵌在ス木纖維ハ甚タ厚化セリ又蓚酸塩ノ結晶
ハ存在セス髓線及木細胞組織中ニハ澱粉粒ヲ含有ス

Lignum Santali album

白檀

- 一 白檀ハ *Santalum album Vainé* ノ緻密堅牢ナル木部ナリ
- 二 本品ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ髓線ハ一乃至二細胞列ヨリ成リ其細胞ハ半徑性ニ延長シ木纖維ハ強ク厚化セル壁ヲ有シ脈管ハ單獨或ハ二三箇連合シ内部ニ黄色ノ油滴ヲ含有ス木細胞中ニハ菱形ノ蓚酸塩單晶ヲ含有スルモノアリ
- 三 本品ヲ熱スレハ固有ノ芳香ヲ放ツ

Limnada citrica

クエン酸リモナーデ

- 一 クエン酸リモナーデ「ハ
クエン酸 一分
水 百七十分
シロップ 三十分

- ヲ取り混和シ製スヘシ
- 二 本品ハ無色澄明ノ液ナリ
- 三 用ニ臨ミテ製スヘシ

Limnada hydrochlorica

塩酸リモナーデ

- 一 塩酸リモナーデ「ハ
稀塩酸 一分
水 百八十分
シロップ 二十分

- ヲ取り混和シ製スヘシ
- 二 本品ハ無色澄明ノ液ナリ
- 三 用ニ臨ミテ製スヘシ

Linimenta

擦劑

- 一 擦劑ハ石鹼・石鹼及脂肪・油類或ハ類似ノ物質ヲ基礎質トスル全質均等ノ混和物ニシテ外用ニ供スルモノナリ

Linimentum ammoniatum

アンモニア擦劑

塩酸リモナーデ・擦劑・アンモニア擦劑・石灰擦劑・クロロホルム擦劑

- 一 アンモニア擦劑ハ

アンモニア水 一分

胡麻油 四分

- ヲ取り強ク振盪混和シテ製スヘシ

- 二 本品ハ類白均等ノ濃稠液ナリ

- 三 用ニ臨ミテ製スヘシ

Linimentum Calcariae

石灰擦劑

- 一 石灰擦劑ハ

石灰 水 各等分

胡麻油 各等分

- ヲ取り強ク振盪混和シテ製スヘシ

- 二 本品ハ類白色均等ノ濃稠液ナリ

- 三 用ニ臨ミテ製スヘシ

Linimentum Chloroformii

クロロホルム擦劑

- 一 クロロホルム擦劑ハ

クロロホルム 各等分

カンフルオレフ油 各等分

ヲ取り混和シ製スヘシ

Linimentum saponato-camphoratum Opodeldoo

石鹼カンフル擦劑 オポデルドック

一 石鹼カンフル擦劑ハ

カリ石鹼 四十分

カンフル 十分

ヲ取り

アルコール 四百二十分

ニ溶解シ濾過シ其濾液ニ

チミアン油 二分

ロスマリン油 三分

アンモニア水 二十五分

ヲ混和シ製スヘシ

二 本品ハ殆ト無色或ハ類黄色ノ液ナリ

三 罍中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Liquor Aluminii acetic

醋酸アルミニウム液

一 醋發アルミニウム液ハ

硫酸アルミニウム 五十分

ヲ

蒸溜水 百三十五分

ニ温ヲ用ヒスシテ溶解シ濾過シ濾液ニ蒸溜水ヲ加ヘテ其比重ヲ 1.152 トナシ攪拌シツツ之ニ

沈降炭酸石灰 二十三分

及

蒸溜水 三十分

ノ研和セルモノヲ徐々ニ加ヘテ次ニ

醋酸 六十分

ヲ漸次ニ追加シ屢々攪拌シツツ二十四時間放置シ「ガス」ノ發生ヲ認メサルニ至リ上澄液ヲ濾過シ濾液ニ蒸溜水ヲ加ヘテ其比重 1.044~1.046 トナシ製スヘシ

二 本品ハ無色澄明ノ液ニテ酸性ノ反應ヲ微シク醋酸ノ臭氣ヲ放チ收斂性ノ甘味ヲ有ス

三 本品ハ「3~6.3%」ノ塩基性醋酸アルミニウムヲ含有ス

四 本品 10cc ハ硫酸カリ 0.2g ヲ加ヘ重湯煎上ニ熱スレハ凝固シ之ヲ放冷スレハ暫時ノ後復タ澄明液トナル

五 本品 1cc ニ塩化第一錫溶液 3cc ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス

六 本品 6cc ニ水 1cc ヲ加ヘタルモノハ黄血塩溶液 0.5cc ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス

七 本品 5cc ニ醋酸 1cc ヲ和シタル後硫化ソーダ溶液三滴

ヲ加フルニ暗色ヲ呈スヘカラス

八 本品ニ「アルコール」二倍容量ヲ加フルニ溷濁スルコトアルモ沈澱ヲ生スヘカラス

九 本品 5g ニ塩化アンモン 1g ヲ加ヘ溶解セシメタル後振盪シツツ之ニ「アンモニア水 25cc」ヲ和シ更ニ熱湯 250cc

ヲ加ヘテ一分間煮沸シ靜置シテ上澄液ヲ去リ沈澱ヲ熱湯ニテ數回洗滌シ乾燥シ強ク熱灼スルニ 0.11~0.13g ノ固性物ヲ遺ササルヘカラス

一〇 罍中ニ容レ密栓シ冷處ニ貯フヘシ

Liquor Ammonii acetic Spiritus Mindereri

醋酸アンモン液 ミンデル精

一 醋酸アンモン液ハ

アンモニア水 五分

ヲ取り之ニ

醋酸 六分

ヲ混和シ熱シテ煮沸スルニ冷後更ニ「アンモニア水」ヲ以テ中性トナシ濾過シテ得タル液ニ蒸溜水ヲ加ヘテ稀釋シ其比重 1.032~1.034 トナシ製スヘシ

二 本品ハ無色澄明ノ液ニシテ中性或ハ弱酸性ノ反應ヲ微シ

15~15.0% ノ純醋酸アンモン ($\text{CH}_3\text{CO}_2\text{NH}_2$ 77.1) ヲ含有ス

三 本品ニ硫酸ヲ加ヘテ熱スレハ醋酸臭ヲ又カリ滴液ヲ加ヘテ熱スレハ「アンモニア臭」ヲ發ス

四 本品ヲ重湯煎上ニ蒸發スルニ全ク或ハ殆ト全ク揮散スヘシ

五 本品ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ又醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ變化セス又硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス

Liquor Calcii chlorati

塩化カルシウム液

一 塩化カルシウム液ハ

塩化カルシウム 一分

蒸溜水 一分

ヲ取り溶解シ尙之ニ蒸溜水ヲ加ヘテ 25% ノ純塩化カルシウム ($\text{CaCl}_2 = 111.0$) ヲ含有スル液トナシ製スヘシ

二 本品ハ無色澄明ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ微ス比重 1.229~1.236 ナリ

三 本品ニ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ蓐酸アンモン溶液ニ由テ醋酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生シ又硝酸銀溶液ニ由

- テ「アンモニア水」ニ溶解スヘキ白色乾酪様ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 100ccニ塩化第一錫溶液 5ccヲ加フルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品一分ニ水四分ヲ加ヘタルモノ 0.5ccハ稀塩酸及ヨード亞鉛澱粉溶液ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品一分ニ水九分ヲ加ヘタルモノニ「アンモニア水」ヲ和スルニ變化スヘカラス煮沸スルモ亦然リ
- 七 本品一分ニ水九分ヲ加ヘタルモノハ醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ變化スヘカラス又稀塩酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後塩化バリウム溶液並稀硫酸ニ由テ變化セス又黃血塩溶液 0.5ccニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス
- 八 本品 1ccニ水 2.5ccヲ和シ加熱シツツ之ニ蓆酸アンモン溶液 10ccヲ和シ三時間放置シ次テ濾過シテ得タル液ヲ蒸發乾涸シ熱スルニ 0.1002g以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 九 本品 5ccニ水ヲ加ヘテ 50ccトナシ其 10ccヲ取り加熱シツツ之ニ蓆酸アンモン溶液 20ccヲ和シ三時間放置シ茲ニ生シタル沈澱ヲ小濾紙上ニ濾集シ洗滌シ乾燥シ濾紙ト共ニ灰化シ之ヲ二分定規塩酸 20ccニ溶解シ二分定規カリ液ヲ用ヒテ剩餘ノ塩酸ヲ中和スルニハ該液ヲ費スコト 10.8~11.0ccナラサルヘカラス(標示藥メチルオレンジ溶液)
- 一〇 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Liquor Cresoli saponatum
クレゾール石鹼液

- 一 クレゾール石鹼液ハ
 - 大豆油 百二十分
 - 苛性カリ 二十七分
 - アルコール 十二分
 - 水 四十一分
- ヨリ成レル溶液ヲ混和シ屢々攪拌シツツ常溫ニ於テ放置シ全ク鹼化シタル後
- 粗製クレゾール 二百分
- ヲ溶解シ製スヘシ
- 二 本品ハ「クレゾール」ノ臭氣ヲ有スル黃褐色或ハ赤褐色澄明濃稠ノ液ニシテ「アルカリ性」ノ反應ヲ徴シ水・アルコール・グリセリン又石油エーテル」ニ澄明或ハ殆ト澄明ニ溶解ス
- 三 本品一容量ハ少クモ五容量ノ水ニ殆ト澄明ニ混和セサルヘカラス
- 四 本品 1ccヲ「アルコール 24cc」ニ溶解シ「フェニールフタレイン溶液 1cc」ヲ加フルニ紅色ヲ呈スルコトアルモ定規

塩酸二滴ニ由テ其紅色ヲ脱色セサルヘカラス

- 五 本品 50ccヲ内容約 500ccノ蒸溜壘ニ取り水 200cc・食塩 40g及メチルオレンジ溶液二滴ヲ加ヘ之ニ稀硫酸ヲ滴加シテ微ニ紅色ヲ呈スルニ至リ加熱シテ蒸溜シ溜液ヲ「カシア壘」ニ受ケ其約 20ccニ達スルニ至リ冷却器ノ水ヲ排除シ其先端ヨリ水蒸氣ノ逃散スルニ至リテ蒸溜ヲ止メ溜液ニ食塩 30gヲ加ヘテ溶解シタル後十五分間溫湯ニ浸シテ放置シ其間屢々輕ク搖動シテ油滴ヲ浮上セシムヘシ然ル後之ヲ 15°ニ冷却シ食塩飽和水ヲ加ヘ油層ヲ浮上セシムルニ其容量 2.1cc以上ナラサルヘカラス
- 六 本品 150ccヲ内容約 250ccノ圓底壘ニ取り水 250ccヲ加ヘテ稀釋シ稀硫酸 80ccヲ和シ水蒸氣ヲ通シテ蒸溜シ溜液澄明トナルニ至リ冷却器ノ水ヲ排除シテ蒸溜ヲ續ケ其先端ヨリ水蒸氣ノ逃散スルニ至リ再ヒ冷却水ヲ通シ五分間蒸溜シ其溜液 100ccニ付キ食塩 20gヲ加ヘ溶解シタル後靜置シ茲ニ析出セル澄明ノ「クレゾール」ヲ分取シ水液ニ始メ 100cc次ニ一回各 50ccノ石油エーテル」ヲ加ヘ毎回強ク振盪シタル後靜置シ澄明ノ石油エーテル液ヲ集メ蒸溜シテ石油エーテル」ヲ去リ殘液ヲ四十分間 100°ノ溫ニ於テ乾燥シテ前ニ得タル「クレゾール」ト合シ茲ニ得タル「クレゾール 50cc」ヲ蒸溜スルニ 195°~205°ニ於テ少クモ 40ccヲ連續

シテ溜出セサルヘカラス其他ノ試験ハ粗製クレゾール」ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

- 七 壘中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Liquor Epirenaminii hydrochlorici
Liquor Orthotoxiphenylmethanodimethylaminii hydrochlorici

塩酸エピレナミン液

塩酸オルトデオキシフェニルエタノールメチルアミン液

- 一 塩酸エピレナミン液ハ副腎ヨリ或ハ合成法ニ由テ製シタル左旋性塩酸オルトデオキシフェニルエタノールメチルアミン $(\text{HO})_2\text{C}_6\text{H}_3\text{CH}(\text{OH})\text{CH}_2\text{N}(\text{H}_2\text{C}_2\text{H}_5)_2\text{HCl}$ 1.2gヲ生理食塩水 1000ccニ溶解シ少量ノ安定劑ヲ添加シタルモノナリ
- 二 本品ハ無色或ハ微ニ著色セル澄明液ニシテ分極光線ヲ僅ニ左旋シ弱酸性ノ反應ヲ徴ス
- 三 本品 0.1ccニ水 20ccヲ加ヘテ稀釋シタル液 5ccニ稀塩化第二鉄溶液一滴ニ由テ微ニ青綠色ヲ呈シ之ニ「アンモニア水」一滴ヲ和スレハ帶褐赤色ニ變ス又同稀釋液 5ccニ醋酸第二水銀溶液 (1+24) 一滴ヲ和スレハ暫時ニシテ紅色ヲ呈ス

四 塚中ニ容レ密栓シ注意シテ冷暗處ニ貯フヘシ
一回ノ極量(皮下注射) 1.0g

Liquor Ferri citrici oxydati

クエン酸鉄液

一 クエン酸鉄酸ハ

硫酸第二鉄液 四十二分

ヲ取り

蒸溜水 五百分

ヲ以テ稀釋シ之ヲ

アンモニア水 四十二分

蒸溜水 百分

ノ混液中ニ攪拌シツツ注加シ茲ニ得タル沈澱ヲ漉布上ニ集
メ液分ヲ去リ更ニ
其沈澱ニ

蒸溜水 五百分

ヲ混和シ復タ前ノ漉布上ニ移シ液分ヲ去リ斯ノ如ク數回此
操作ヲ反復シ其洗液ニ硝酸バリウム溶液ヲ加フルモ直チニ
濁濁セサルニ至リ其濕潤セル沈澱ヲ磁皿ニ取り之ニ

クエン酸 十五分

ヲ加ヘ重湯煎上ニ於テ攪拌シツツ50°ヲ超エサル温ヲ與

ヘ其沈澱ノ殆ト溶解スルニ至リ濾過シ濾液ヲ全量五十分
ナルニ至ル迄蒸發シ製スヘシ

二 本品ハ暗褐色澄明ノ液ニシテ酸性ノ反應ヲ微シ比重1.05
ナリ

三 本品ニ水ヲ和シテ稀釋シタルモノハ少量ノ塩酸ヲ加ヘタ
ル後黃血塩溶液ニ由テ深藍色ノ沈澱ヲ生ス

四 本品ニ過剩ノ「ナトロン」滴液ヲ和シテ熱スレハ赤褐色ノ
沈澱ヲ生ス又之ヲ濾別シテ得タル液ニ醋酸ヲ加ヘテ微ニ酸
性トナシ塩化カルシウム溶液ヲ和シテ煮沸スレハ漸次結晶
性ノ沈澱ヲ析出ス

五 本品ニ過剩ノ「アンモニア」水ヲ和スルニ沈澱ヲ生スヘカ
ラス又二倍容量ノ「カリ」滴液ヲ加ヘ其鉄分悉ク沈降スルニ
至ル迄煮沸スルニ著シク「アンモニア」臭ヲ發スヘカラス此
沈澱ヲ濾過シテ得タル液ノ一部ヲ取り醋酸ヲ和シテ酸性ト
ナシ放置スルニ結晶性ノ沈澱ヲ生スヘカラス

六 本品一分ニ水二十四分ヲ和シタルモノハ硝酸少量ヲ加ヘ
タル後硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス又硝
酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス

七 本品「 Fe 」ヲ重湯煎上ニ蒸發スルニ約0.1gノ殘留物ヲ得
ヘシ又之ヲ熱灼スルニ約0.1gノ酸化第二鉄ヲ殘留スヘシ
此殘留物ハ「アルカリ」性反應ヲ微スヘカラス

八 塚中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Liquor Ferri sesquichlorati

〇塩化第二鉄液 過クロル鉄液

一 塩化第二鉄液ハ塩化第二鉄ヲ取り約等分ノ蒸溜水ニ溶解
シ比重 1.280~1.285 トナシ製スヘシ

二 本品ハ黃褐色澄明ノ液ニシテ強キ收斂性ノ味ヲ有ス

三 本品ハ約 10% ノ純鉄 ($\text{Fe} = 55.84$) ヲ含有ス

四 本品ニ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ稀
硝酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生シ又稀塩酸ヲ加ヘタル後
黃血塩溶液ニ由テ深藍色ノ沈澱ヲ生ス

五 本品ニ「アンモニア」水ヲ以テ濡ホシタル硝子棒ヲ接近ス
ルニ白霧ヲ生スヘカラス又濕潤セル「ヨード」亞鉛澱粉紙ヲ
近クルニ之ヲ藍色ニ染ムヘカラス

六 本品一容量ニ塩化第一錫溶液三容量ヲ加フルニ一時間以
内ニ暗色ヲ呈スヘカラス

七 本品三滴ニ十分定規チオ硫酸ソーダ液 10cc ヲ和シ徐々
ニ加温シテ約 50° トナルニ至リ冷却スルニ僅微ノ水酸化
鉄ヲ析出セサルヘカラス

八 本品「 Fe 」ニ水 10cc ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ塩酸五滴
ヲ加ヘタル後赤血塩溶液十滴ニ由テ綠色又ハ藍色ヲ呈スヘ

カラス

九 本品 5cc ニ水 20cc 及過剩ノ「アンモニア」水ヲ和シ加熱
シテ濾過スルニ無色ノ液ヲ得ヘシ此濾液ニ醋酸ヲ加ヘテ酸
性トナシタルモノハ硝酸バリウム溶液並黃血塩溶液ニ由テ
變化スヘカラス又此濾液「 Fe 」ニ冷却シツツ徐々ニ同容量ノ
硫酸ヲ混和シタル後硫酸鉄溶液ヲ加ヘテ二液層トナスニ其
接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス又此濾液「 Fe 」ヲ蒸
發シ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

Liquor Ferri sulfurici oxydati

硫酸第二鉄液 硫酸酸化鉄液

一 硫酸第二鉄液ハ

硫酸鉄 八十分

蒸溜水 四十分

硫酸 十五分

硝酸 二十四分

ヲ取り塚中ニ容レ重湯煎上ニ熱シテ溶解シ褐色澄明ノ液ト
ナルニ至リ其一滴ヲ取り水ヲ以テ稀釋シ赤血塩溶液ヲ加フ
ルニ復タ藍色ヲ呈セサルヲ度トシ豫メ秤量シタル磁皿中ニ
移シ蒸發シテ百分トナルニ至リ其殘留物ニ少量ノ蒸溜水ヲ

- 和シテ更ニ蒸發シ數回此操作ヲ反復シテ復タ硝酸ノ反應ヲ呈セサルニ至リ蒸溜水ヲ加ヘテ百六十分トナシ製スヘシ
- 二 本品ハ帶褐黃色澄明稍々濃稠ノ液ニシテ比重 1.428~1.430 ナリ
- 三 本品ハ約 10% ノ純鉄 (Fe=55.84) ヲ含有ス
- 四 本品ニ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生シ黄血塩溶液ニ由テ深藍色ノ沈澱ヲ生ス
- 五 本品一容量ニ塩化第一錫溶液三容量ヲ加フルニ一時間以內ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品 1ccニ水 10ccヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ塩酸五滴ヲ加ヘタル後赤血塩溶液十滴ニ由テ綠色又ハ藍色ヲ呈スヘカラス又硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ
- 七 本品 5ccニ水 30cc 及過剩ノ「アンモニア水」ヲ加ヘ加熱シテ濾過スルニ無色ノ液ヲ得ヘシ此濾液ニ醋酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黄血塩溶液ニ由テ變化スヘカラス又此濾液 5ccニ冷却シツツ徐々ニ同容量ノ硫酸ヲ混和シタル後硫酸鉄溶液ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス又此濾液 5ccヲ蒸發シ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

八 塚中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Liquor Gelatinae sterilisatus
滅菌ゼラチン液

- 一 滅菌ゼラチン液ハ
ゼラチン 十分
食塩 〇・五分
蒸溜水 八十分
- ヲ取り温ヲ與ヘテ溶解シ炭酸ソーダ溶液ヲ以テ中和シ蒸溜水ヲ加ヘテ全量百分トナシタル後濾過シ其濾液 10~40ccヲ硬質硝子管ニ容レ熔閉シ 100°ノ蒸氣浴中ニ於テ毎回十五分間ツツ約二十四時間ヲ隔テテ三回滅菌シ製造所名・一箇中ノ容量・試験番號及試験年月日ヲ表記シ封緘ヲ施シ包裝シタルモノナリ
- 二 本品ハ無色或ハ微ニ黄色ヲ帶フル澄明濃稠ノ液ニシテ異物ヲ夾雜セス臭氣ナク中性反應ヲ微シ約 12°ニ於テ凝固シ約 55°ニ於テ熔融ス
- 三 本品ハ澄明ニシテ 30°ノ温處ニ七日間放置スルニ毫毛異常ヲ認ムヘカラス
- 四 本品ハ好氣性及嫌氣性培養法ヲ行フニ無菌ナラサルヘカラス但一箇ノ培養ニ本品 5cc 以上ヲ用ヒサルヘカラス

- 五 本品 10ccヲ「モルモット」ノ皮下ニ注射スルニ全ク無害ナラサルヘカラス
- 六 冷處ニ貯フヘシ

Liquor Guttaperchae Truandicinum

グッタペルカ液
トラウマチチン

- 一 グッタペルカ液ハ
薄キ切片トナセル精製グッタペルカ 一分
クロロホルム 九分
- ヲ取り塚中ニ容レ密栓シ振盪シテ溶解スルニ至リ靜置シテ其上清液ヲ傾取シ製スヘシ
- 二 本品ハ黃色乃至褐色澄明ノ液ニシテ之ヲ薄層トナシ「クロロホルム」ヲ揮散セシムレハ透映弾力性ノ皮膜ヲ留ム
- 三 塚中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Liquor Hydrogenii peroxydati
〇過酸化水素水

- 一 過酸化水素水ハ無色澄明無臭ノ液ニシテ微ニ苦味ヲ有シ弱酸性ノ反應ヲ徵ス常温ニ於テハ極メテ徐々ニ・之ヲ煮沸スレハ急劇ニ分解シテ酸素ヲ發生ス

グッタペルカ液・過酸化水素水

- 二 本品ハ 30~33% ノ純過酸化水素 (H₂O₂=34.0) ヲ含有ス
- 三 本品ニ稀硫酸及過マンガン酸カリ溶液ヲ注加スレハ泡沸シテ脱色ス
- 四 本品 1ccニ稀硫酸數滴・エーテル約 2ccヲ和シ重クロム酸カリ溶液數滴ヲ注加シテ振盪スレハ「エーテル液」ハ深藍色ヲ呈ス又本品一滴ヲ稀硫酸ヲ以テ弱酸性トナシタル「ヨード」亞鉛澱粉溶液ニ注加スレハ藍色乃至紫色ヲ呈ス
- 五 本品ニ稀硫酸ヲ和スルニ十分以內ニ變化スヘカラス
- 六 本品ニ醋酸ソーダ溶液數滴ヲ和シタルモノハ塩化カルシウム溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 七 本品 50ccニ十分定規カリ液ヲ滴加シテ之ヲ中和スルニハ該液ヲ費スコト 3ccニ過クヘカラス (標示藥フェノールフタレイン溶液)
- 八 本品 20ccヲ重湯煎上ニ蒸發スルニ殘留物 0.02ccヲ遺スニ過クヘカラス
- 九 本品 10gニ水ヲ加ヘテ 100ccトナシ其 10ccヲ取り之ニ稀硫酸 5cc及ヨードカリ溶液 10ccヲ和シ密閉シテ半時間靜置シタル後十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ滴加シテ遊離ヨード」ヲ結合スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト 17.7~19.4ccナラサルヘカラス (標示藥澱粉溶液)
- 一〇 塚中ニ容レ密栓シ冷暗處ニ貯フヘシ

Liquor Kali caustici

カリ鹼液

- 一 カリ鹼液ハ無色澄明ノ液ニシテ強アルカリ性ノ反應ヲ徴シ比重 1.138~1.140 ナリ
- 二 本品ハ約 15%ノ純水酸化カリウム (KOH=56.1)ヲ含有ス
- 三 本品ニ等分ノ水ヲ和シタルモノハ酒石酸溶液ヲ以テ過飽スレハ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 10ccニ石灰水 45ccヲ加ヘテ煮沸シタル後濾過シテ得タル液ヲ過剰ノ硝酸中ニ加フルニ泡沸スヘカラス
- 五 本品ニ五倍容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ醋酸ヲ以テ酸性トナシタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス又硝酸ヲ以テ過飽シタル後硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 六 本品ニ稀硫酸ヲ加ヘテ過飽シタルモノ 2ccニ硫酸 2ccヲ和シ冷後硫酸鉄溶液 1ccヲ加ヘテ二液層トナスニ其境界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス
- 七 本品ハ塩酸ヲ以テ過飽シタル後過剰ノ「アンモニア水ニ由テ二時間以内ニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス

- 八 本品 5ccニ水 20ccヲ加ヘ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規塩酸 15.1~15.3ccヲ費ササルヘカラス(標示藥メチルオレンジ溶液)
- 九 注意シテ貯フヘシ

Liquor Kali glycerinatus

グリセリンカリ液

- 一 グリセリンカリ液ハ苛性カリ 一分ヲ取り 蒸溜水 十分ニ溶解シ之ニ グリセリン 四十分 アルコール 五十分 蒸溜水 九十九分 ベルガモツト油 適宜量ヲ混和シ製スヘシ

Liquor Kali acetic

醋酸カリ液

- 一 醋酸カリ液ハ

醋酸

二十五分

ヲ取り之ニ

重碳酸カリ

十二分

ヲ漸次ニ加ヘ煮沸シ更ニ重碳酸カリヲ以テ中和シ冷後蒸溜水ヲ加ヘテ稀釋シ其比重 1.176~1.180トナシ製スヘシ

- 二 本品ハ無色澄明ノ液ニシテ焦臭ナク中性若クハ弱アルカリ性ノ反應ヲ徴ス

- 三 本品ハ約 31%ノ純醋酸カリ (CH₃CO₂K=98.1)ヲ含有ス

- 四 本品ハ酒石酸溶液ニ由テ白色結晶性ノ沈澱ヲ生シ又塩化第二鉄溶液ニ由テ深赤色ヲ呈ス

- 五 本品一容量ニ水九容量ヲ加ヘテ稀釋セルモノハ硫化ソーダ溶液三滴又同上稀釋液ニ硝酸 1ccヲ加ヘタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス又硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ

Liquor Kali arsenicosi

Liquor arsenicilis Fowleri

○亞砒酸カリ液 ホーレル水

- 一 亞砒酸カリ液ハ

亞砒酸

一分

重碳酸カリ

一分

蒸溜水

二分

ヲ取り煮沸シテ溶解スルニ至リ

蒸溜水

五十分

アルコール

十四分

ラベンデル精

一分

ヲ混和シ蒸溜水ヲ加ヘテ稀釋シ其全量ヲ百分トナシ製スヘシ

- 二 本品ハ 1%ノ純亞砒酸 (As₂O₃=197.9)ヲ含有ス

- 三 本品ハ無色澄明ノ液ニシテ芳香ヲ有シ「アルカリ性ノ反應ヲ徴ス・過剰ノ塩酸ヲ和シタル後之ニ硫化ソーダ溶液ヲ加フレハ黄色ノ沈澱ヲ生ス

- 四 本品ニ塩酸ヲ加ヘテ酸性トナスニ變化スヘカラス又硝酸ヲ以テ中性トナシタル後硝酸銀溶液ヲ加ヘテ生スル沈澱ハ淡黄色ニ止マリ赤褐色ヲ呈スヘカス

- 五 本品 5ccニ重碳酸ソーダ 1g・水 20cc及少許ノ澱粉溶液ヲ和シタル後十分定規ヨード液ヲ滴加シテ持續スル藍色ヲ呈スルニ至ルニハ其 10.1ccヲ費ササルヘカス

- 六 最モ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 0.5g

一日ノ極量 1.5g

Liquor Lockei

ロック液

- 一 ロック液ハ
 - 食塩 9g
 - 塩化カリ 0.25g
 - 塩化カルシウム液 0.46g
 - 葡萄糖 1g
- ヲ
- 蒸溜水 500cc
- ニ溶解シ之ニ
- 重炭酸ソーダ 0.2g
- ヲ
- 蒸溜水 500cc
- ニ溶解シタルモノヲ混和シ 100°ノ蒸氣浴中ニ於テ三十分間滅菌ヲ行ヒ製スヘシ
- ニ本品ハ無色澄明ノ液ニシテ異物ヲ夾雜セス無菌ナラサルヘカラス
- 三 用ニ臨ミテ調製シ若クハ硬質硝子器中ニ熔閉シ滅菌シテ貯フヘシ

Liquor Lugoli Liquor Jodi compositis

ルゴール液 複方ヨード液

- 一 ルゴール液ハ
 - ヨード 一分
 - ヨードカリ 二分
- ヲ取り
- 蒸溜水 二十七分
- ニ溶解シ製スヘシ
- ニ本品ハ暗褐色澄明ノ液ニシテ「ヨード」ノ臭氣ヲ有ス
- 三 本品ハ 3.2g ~ 3.33g ノ純ヨード (J = 124.53) ヲ含有ス
- 四 本品ノ稀釋セルモノ一滴ヲ澱粉溶液ニ和スレハ深藍色ヲ呈ス
- 五 本品 3.2g ヲ小磁皿ニ取り重湯煎上ニ蒸發シ其殘留物ニ水ヲ加ヘテ沸ホシ蒸發シ數回此操作ヲ反復シ全ク白色トナルニ至ルニ其重量約 0.2g ナラサルヘカラス
- 六 本品 5g ニ水 25g ヲ混和セルモノヲ脱色スルニハ十分定規チオ硫酸ソーダ液 12g ~ 13.1g ヲ費ササルヘカラス (標示藥澱粉溶液)
- 七 壘中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密栓シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

Liquor Natrii chlorati physiologicus

生理食塩水

- 一 生理食塩水 8.5g
- ヲ
- 食塩 8.5g
- ヲ
- 蒸溜水 1000cc
- ニ溶解シ濾過シ 100°ノ蒸氣浴中ニ於テ三十分間滅菌ヲ行ヒ製スヘシ
- ニ本品ハ全ク無色澄明ノ液ニシテ異物ヲ夾雜セス無菌ナラサルヘカラス
- 三 用ニ臨ミテ調製シ若クハ硬質硝子器中ニ熔閉シ滅菌シテ貯フヘシ

Liquor Plumbi subacetici

次醋酸鉛液 鉛 醋

- 一 次醋酸鉛液ハ
 - 醋酸鉛 三分
 - 一酸化鉛 一分
- ヲ取り
- 蒸溜水 〇・五分

Liquor Plumbi subacetici dilutus

稀次醋酸鉛液

- 一 稀次醋酸鉛液ハ
 - 次醋酸鉛液 二分
 - 蒸溜水 九十八分

- ヲ取り混和シ製スヘシ
- 二 用ニ臨ミテ製スヘシ

Liquor Ringeri

○リンゲル液

- 一 リンゲル液ハ
 - 食塩 8g
 - 塩化カリ 0.075g
 - 塩化カルシウム 0.2g
- ヲ
 - 蒸溜水 500cc
- ニ溶解シ之ニ
 - 重炭酸ソーダ 0.1g
- ヲ
 - 蒸溜水 500cc
- ニ溶解シタルモノヲ混和シ 100°ノ蒸氣浴中ニ於テ三十分間滅菌ヲ行ヒ製スヘシ
- 二 本品ハ無色澄明ノ液ニシテ異物ヲ夾雜セス無菌ナラサルヘカラス
- 三 用ニ臨ミテ調製シ若クハ硬質硝子器中ニ熔閉シ滅菌シテ貯フヘシ

Lithium carbonicum

炭酸リチウム



- 一 炭酸リチウムハ白色ノ輕キ粉末ニシテ氣中ニ於テ變化セス熱ニ逢ヘハ熔融シ約八十分ノ水ニ溶解シ「アルカリ性」ノ反應ヲ微シ熱湯ニ溶解シ難ク「アルコール」ニ殆ト溶解セス
- 二 本品ノ 100°ニ於テ乾燥シタルモノハ 99%以上ノ純炭酸リチウムヲ含有ス
- 三 本品ハ塩酸ニ洶沸シテ溶解シ此溶液ヲ白金線環ニ抄取シテ無色焰中ニ熱スレハ之ヲ鮮紅色ニ染ム
- 四 本品ノ硝酸性水溶液(1+99)ハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過キス又硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス又アンモニア水ヲ以テ過飽シタル後硫化ソーダ溶液三滴並蓆酸アンモン溶液ニ由テ變化スヘカラス
- 五 本品ニ「 H_2O 」ヲ稀塩酸 10%ニ溶解シ煮沸シテ其炭酸ガスを驅除シ冷却セルモノハ「ナトロン」滴液 5%ニ由テ變化スヘカラス
- 六 本品 0.2gヲ塩酸 1%ニ溶解シ蒸發乾燥シ冷後之ニ「アルコール」ヲ和スルニ澄明ニ溶解スヘシ或ハ殘留物アル

- モ極メテ僅微ニ止マルヘシ
- 七 本品ノ 100°ニ於テ乾燥セルモノ 0.5gヲ中和スルニハ定規塩酸少クモ 13.4ccヲ費ササルヘカラス(標示メチルオレンジ溶液)

Lobelinum hydrochloricum

塩酸ロベリン



- 一 塩酸ロベリンハ白色顆粒狀ヲナセル粉末ニシテ四十分ノ水並十分ノ「アルコール」ニ溶解ス其水溶液ハ殆ト中性ノ反應ヲ微シ之ヲ舌上ニ致セハ苦味ヲ呈シ輕キ鈍麻ノ感覺ヲ與フ
- 二 本品ノ 0.1gヲ水ニ溶解シテ 10ccトナシタルモノハ旋光度約 -10.5°ナリ
- 三 本品ノ水溶液(1+99)ハ「ナトロン」滴液一滴ヲ和シタル後之ヲ煮沸スレハ著シク「アセトフェノン」ノ臭氣ヲ發ス又硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品 0.01gヲ硫酸 1ccニ和スレハ塩酸ヲ發生シテ無色ニ溶解シ更ニ之ニ「ホルマリン」硫酸一滴ヲ加フレハ帶紫紅色ヲ呈ス

- 五 本品ノ水溶液(1+99) 1ccハ「アンモニア」水一滴ニ由テ乳濁シ暫時ノ後變シテ結晶粥トナル此結晶ヲ濾別水洗シ硫酸上ニ乾燥シタルモノハ其熔融點 118°以下ナルヘカラス
- 六 壘中ニ容レ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ
 - 一回ノ極量 0.02g
 - 一日ノ極量 0.10g

Lycopodium

石松子

- 一 石松子ハ Lycopodium clavatum Linné(ヒカゲノカヅラ)及其他 Lycopodium 屬諸種植物ノ胞子ヲ採集セルモノナリ
- 二 本品ハ淡黄色極メテ動搖シ易キ粉末ニシテ臭味ナク水又ハ「クロロホルム」ト共ニ振盪スルニ液面ニ浮遊シテ其成分ヲ溶出セス水ト共ニ煮沸スレハ沈下ス
- 三 本品ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ其大サ略々同一ニシテ直徑 30~40μナリ網眼狀ノ隆起線ヲ有スル四面ノ細胞ヨリ成リ其三面ハ殆ト扁平ニシテ他ノ一面ハ穹窿狀ヲナス
- 四 本品ハ莖及葉ノ碎片ヲ混有スルコトアルモ痕跡ニ止マルヘシ又花粉・澱粉・硫黃其他ノ異物ヲ混有スヘカラス
- 五 本品ヲ灰化スルニ 3%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Magnesia usta

○マグネシア 煨製マグネシア



- 一 マグネシアハ白色細微ノ輕キ粉末ニシテ水ニ殆ト溶解セス
- 二 本品ノ稀硫酸溶液ニ塩化アンモン溶液及過剰ノ「アンモニア水ヲ和シタル後燐酸ソーダ溶液ヲ加フレハ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品 0.3g ニ新タニ煮沸シタル熱湯 50ccヲ和シテ煮沸シ熱ニ乗シ濾過シテ得タル液ハ微ニ「アルカリ性」ノ反應ヲ徵スルニ止マリ又之ヲ蒸發スルニ 0.01g 以上ノ殘留物ヲ遺スヘカラス又濾紙上ノ不溶物ニ醋酸 5ccヲ注加スルニ著シク「ガス」ヲ發生スヘカラス
- 四 本品 0.2g ニ水 20ccヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液ニ蔭酸アンモン溶液ヲ和スルニ五分以内ニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 五 本品 0.1g ニ水 5ccヲ加ヘテ煮沸シ冷後之ニ醋酸 5ccヲ加ヘテ善ク振盪スルニ無色ニ溶解スヘシ之ニ硫化ソーダ溶液三滴ヲ加フルニ變化セス又硝酸バリウム溶液ヲ加フルニ直チニ變化セス硝酸ヲ加ヘタル後硝酸銀溶液ヲ和スルニ五

- 分間ヲ經ルモ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス
- 六 前項ノ本品醋酸水溶液ニ塩化アンモンヲ加ヘタルモノハ黃血塩溶液 0.5cc ニ由テ微ニ藍色ヲ呈スルニ止マルヘシ
- 七 密閉シテ貯フヘシ

Magnesium carbonicum

炭酸マグネシア

- 一 炭酸マグネシアハ白色ノ粉碎シ易キ輕キ塊片或ハ輕鬆ノ粉末ニシテ水ニ僅微ニ溶解シ弱アルカリ性ノ反應ヲ徵ス
- 二 本品ハ少クモ 21.96ノ純マグネシウム (Mg = 24.32)ヲ含有ス
- 三 本品ハ稀硫酸ニ泡沸シテ溶解シ此溶液ニ塩化アンモン溶液及過剰ノ「アンモニア水ヲ和シタル後燐酸ソーダ溶液ヲ加フレハ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス
- 四 本品ハ稀塩酸ニ無色ニ溶解スヘシ又本品 0.2g ニ新タニ煮沸セル水 50ccヲ和シテ煮沸シ濾過シテ得タル液ハ之ヲ蒸發スルニ 0.01g 以上ノ殘留物ヲ遺スヘカラス又本品ノ醋酸性水溶液 (1+19)ハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化セス又硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化スヘカラス硝酸ヲ和シタル後硝酸銀溶液ヲ加フルニ五分間ヲ經ルモ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス又本品ノ稀塩酸溶液 (1+19)ハ黃血塩溶

- 液 0.5cc ニ由テ微ニ藍色ヲ呈スルニ止マルヘシ
- 五 本品 0.5gヲ熱灼スルニ少クモ固性物 0.2gヲ殘留セサルヘカラス此固性物ニ水 50ccヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ蔭酸アンモン溶液ニ由テ五分間ヲ經ルモ微ニ濁濁スルニ止マルヘシ

Magnesium citricum effervescens

沸騰クエン酸マグネシア

- 一 沸騰クエン酸マグネシアハ
 - 炭酸マグネシア 五分
 - クエン酸 十五分
 - 蒸溜水 二分
- ヲ取り善ク混和シ約 300ccニ於テ乾燥シ中末トナシ之ニ
 - 重炭酸ソーダ中末 十七分
 - クエン酸中末 八分
 - 白糖中末 八分
- ヲ混和シ「アルコール」ヲ滴加シツツ輕ク研磨シ脆塊トナルニ至リ第四號篩ヲ用ヒテ均等ノ顆粒トナシ 300ccヲ超エサル温ヲ與ヘテ乾燥シ製スヘシ
- 二 本品ハ白色ノ顆粒ニシテ氣中ニ於テ潮解シ水ニ炭酸ガスヲ發生シテ徐々ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徵ス

- 三 本品ノ水溶液 (1+49)ハ硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス又過剰ノ塩化アンモン溶液ヲ和シ次テ「アンモニア水ヲ以テ過飽セル後蔭酸アンモン溶液ニ由テ又硝酸ヲ和シタル後硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス又本品ノ飽和水溶液ニ醋酸カリ溶液及少量ノ醋酸ヲ和スルニ結晶性ノ沈澱ヲ生スヘカラス
- 四 壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

Magnesium sulfuricum

○硫酸マグネシア 瀉利塩



- 一 硫酸マグネシアハ無色ノ稜柱狀小結晶ニシテ氣中ニ於テ殆ト變化セス味ハ清涼苦鹹ナリ等分ノ水並〇・三分ノ熱湯ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徵シ「アルコール」ニ溶解セス
- 二 本品ノ水溶液ハ塩化アンモン溶液及アンモニア水ヲ和シタル後燐酸ソーダ溶液ニ由テ白色結晶性ノ沈澱又硝酸バリウム溶液ニ由テ稀硫酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス
- 三 本品 0.5gヲ豫メ少量ノ水ヲ以テ崩壊セシメタル燒大理石 20gニ研和シ之ニ「アルコール」及水各 50ccヲ注キ約二分間加温シ次テ純アルコール 100ccヲ加ヘテ濾過シタル液ニ

- 「クルクマチンキ 10.5g 注加スルニ赤色ヲ呈スヘカラス
- 四 本品ノ粉末 1g ニ塩化第一錫溶液 3ccヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品ノ水溶液 (1+19) ハ「リトマス紙ヲ變色セス硝酸銀溶液ニ由テ五分間ノ後蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ又醋酸及硫化ソーダ溶液各三滴ニ由テ變化スヘカラス
- 六 前項ノ本品水溶液ニ塩酸二滴ヲ加ヘタルモノハ黄血塩溶液 0.5ccヲ和スルニ藍色ヲ呈スヘカラス

Medicamenta pulverata

粉末薬

- 一 粉末薬ハ藥品ヲ細末中末又ハ粗末トナシタルモノナリ
- 二 本薬ヲ製スルニハ通例藥品ヲ充分乾燥シ粉末トナスヘシ揮發性或ハ變化シ易キ物質ヲ含有スル場合ニハ成ルヘク低温ニ於テ乾燥スヘシ
- 三 生薬ノ粉末ハ之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ原生薬中ニ存セサル組織ノ破片・細胞・細胞内容物其他異物ヲ認ムヘカラス

Mel

蜂蜜

- 一 蜂蜜ハ殆ト無色或ハ淡類黄色或ハ帶褐黄色ニシテ特異ノ

香氣ト爽快ノ甘味ト有スル粘稠ノ液ナリ新鮮ナルモノハ透映ナレトモ時ヲ經ルニ從ヒ漸次顆粒ヲ析出ス

- 二 本品ノ水溶液 (1+2) ハ微ニ酸性ノ反應ヲ徴シ之ヲ遠心分離シテ得タル沈澱ハ之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ花粉ノ存在ヲ認ム
- 三 前項ノ本品水溶液ハ其比重少クモ「一二」ナラサルヘカラス又此溶液ヲ濾過シタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過キス又硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス又アンモニア水同容量ヲ加フルニ直チニ變色スヘカラス
- 四 本品 5gヲ「エーテル約 15cc」ト共ニ研和シ濾過シテ得タル「エーテル溶液ヲ常溫ニ於テ蒸散セシメ其残渣ニ「レゾルシン塩酸溶液一二滴ヲ和スルニ紅色ヲ呈スヘカラス
- 五 本品ノ水溶液 (1+2) 15ccヲ重湯煎上ニ熱シ之ニ「タンニン酸溶液 0.5cc」ヲ加ヘ冷後濾過シ其澄明液 1ccニ發煙塩酸二滴ヲ添加セル純アルコール 10ccヲ加フルニ乳濁ヲ生スヘカラス
- 六 本品 10gニ水五倍容量ヲ加ヘ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液ヲ費スコト 0.5ccニ過クヘカラス(標示薬フェノールフタレイン溶液)
- 七 本品ヲ灰化スルニ 0.4% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

Mel depuratum

精製蜂蜜

- 一 精製蜂蜜ハ
 - 蜂蜜 四十分
 - 蒸溜水 六十分
 ヲ和シ之ニ豫メ塩酸ヲ以テ鉄分ヲ除去セル
 白陶土 三分
 ヲ混和シ重湯煎上ニ三十分間溫メ沈定セシメタル後溫ニ乗シテ濾過シ速ニ重湯煎上ニ蒸發シテ比重 1.33トナシ製スヘシ
- 二 本品ハ佳快ノ香氣ヲ有シ黄色或ハ類褐色澄明ノ濃液ナリ
- 三 本品一分ニ「アンモニア水一分ヲ和スルニ變色セス又アルコール二分ヲ和スルニ濁濁スヘカラス
- 四 本品一分ニ水二分ヲ和スレハ澄明ノ液ヲ生シ此液ハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過キス又硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變色スヘカラス
- 五 本品 5gヲ「エーテル約 15cc」ト共ニ研和シ濾過シテ得タル「エーテル溶液ヲ常溫ニ於テ蒸散セシメ其残渣ニ「レゾルシン塩酸溶液一二滴ヲ和スルニ紅色ヲ呈スヘカラス
- 六 本品 10gニ水五倍容量ヲ加ヘ稀釋シタルモノヲ中和ス

ルニハ定規カリ液ヲ費スコト 0.4ccニ過クヘカラス(標示薬フェノールフタレイン溶液)

- 七 本品ヲ灰化スルニ 0.4% 以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス
- 八 壘中ニ容レ密栓シ冷處ニ貯フヘシ

Mentholum

薄荷腦



- 一 薄荷腦ハ無色針狀ノ結晶ニシテ特異臭透性ノ香氣ヲ有シ味ハ初メ灼クカ如ク後冷涼ナリ水ニ僅微ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴シ「アルコール・エーテル又クロロホルム」ニ容易ニ溶解シ約 1%ニ於テ熔融シ 212°ニ於テ沸騰ス
- 二 本品 0.1gヲ水醋酸 1cc・硫酸六滴及硝酸一滴ノ混液ニ和スルニ染色スヘカラス
- 三 本品一分ニ硫酸四十分ヲ注加スルニ濁濁シテ褐赤色ヲ呈スルモ二十四時間ノ後薄荷腦ノ香氣ヲ有セサル無色澄明ノ油層ヲ析出スヘシ
- 四 本品 1gヲ「アルコール」ニ溶解シ 10ccトナシタルモノハ旋光度 -4.7° ~ -5.1° ナリ
- 五 本品 0.2gヲ重湯煎上ニ熱スルニ秤定シ得ヘキ殘留物ヲ遺スヘカラス